

松阪市 市民意識調査

【結果報告書】

令和2年6月

松阪市

目次

I	調査の概要	1
	1. 調査目的	2
	2. 調査概要	2
	3. 報告書における図表の見方	2
	4. 標本誤差	3
II	調査結果	5
	ご自身のこと及び松阪市のまちづくりについて	
	ご自身のことについて	6
	市政全般等について	23
	松阪市の個々の課題	
	1. 人口減少対策について	51
	2. 若者定住について	70
	3. 松阪駅西地区複合施設基本構想について	74
	4. 地域包括ケアシステムとそれを支える医療提供体制について	81
	5. COPD(慢性閉塞性肺疾患)に係る認知度について	84
	6. 交通政策について	86
	7. 認知症の取組について	92
	8. 企業誘致の推進について	97
	9. マイナンバーカードの認知度について	98
	松阪市男女共同参画プラン策定にかかる意識調査	
	1. 男女共同参画の意識について	102
	2. 就労やワーク・ライフ・バランスについて	120
	3. ドメスティック・バイオレンスについて	126
	4. セクシュアル・ハラスメントについて	132
	5. 政策・方針の場への男女共同参画について	135
	6. 行政の取組について	141
III	自由記述	145
IV	調査票	161

I 調査の概要

1. 調査目的

本市のまちづくりの指針となる「松阪市総合計画」の次期計画の策定及び松阪市男女共同参画プラン策定に向け、市の政策や行政サービスに対する市民の皆様のご意見やご要望を調査、把握するために実施しました。

2. 調査概要

(1) 調査の名称

松阪市市民意識調査

(2) 調査対象

市内にお住まいの15歳以上の方

(3) 調査時期

令和2年2月4日～令和2年2月21日

(4) 調査方法

無作為に抽出した3,000人の市民への郵送による調査

(5) 回収結果

調査年度	標本数	回収数	回収率(%)	有効回収数	有効回収率(%)
令和元年度(今回)	3,000	1,558	51.9	1,554	51.8
平成29年度(前回)	3,000	1,330	44.3	1,330	44.3
平成27年度	5,000	2,376	47.5	2,371	47.4
平成24年度	3,000	1,305	43.5	1,301	43.4
平成21年度	3,000	1,506	50.2	1,505	50.2

※有効回収数:回収した調査票より全て記入のない白票等を無効票とし除いた数

3. 報告書における図表の見方

- ①図表内の「n」は、設問に対する回答の合計数である。
- ②単数回答の設問は帯グラフ、複数回答の設問は棒グラフとする。
- ③集計は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しているため、比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- ④複数回答を求めた設問では、設問に対する回答者数を基数として算出しているため、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ⑤クロス集計表では性別や年齢について無回答の人を除いているため、回答者総数と数が合わないことがある。
- ⑥本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。

4. 標本誤差

標本誤差は、以下の式で得られ、比率算出の基数（n、回答者数）、回答の比率（p）によって誤差範囲が異なる。回答比率は、ある設問の1つの選択肢に対して得られた回答者の割合である。定数 1.96 は、信頼率 95%と設定した場合の定数である。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

N：母集団数（調査の対象となる集団の総数）

n：サンプル数（有効回答数）

P：回答比率（ある選択肢の回答割合）

この計算式に従って算出される各調査の標本誤差は以下のとおりとなる。

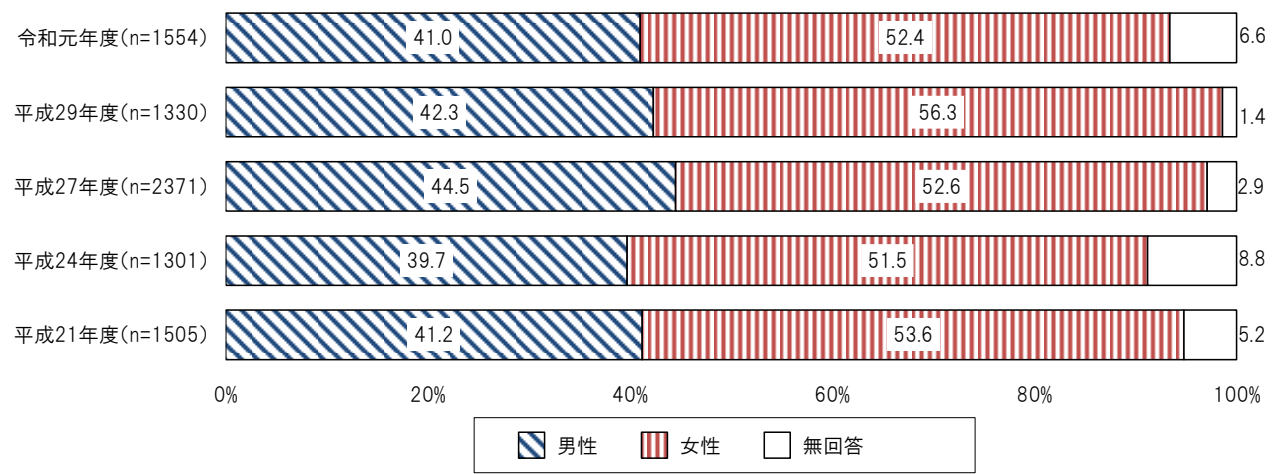
(1) 松阪市市民意識調査（N=163,477）令和2年1月1日現在の住民基本台帳人口

回答比率 n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,554(全数)	±1.48%	±1.98%	±2.27%	±2.42%	±2.47%
637(男性)	±2.32%	±3.09%	±3.54%	±3.79%	±3.87%
815(女性)	±2.05%	±2.73%	±3.13%	±3.35%	±3.42%

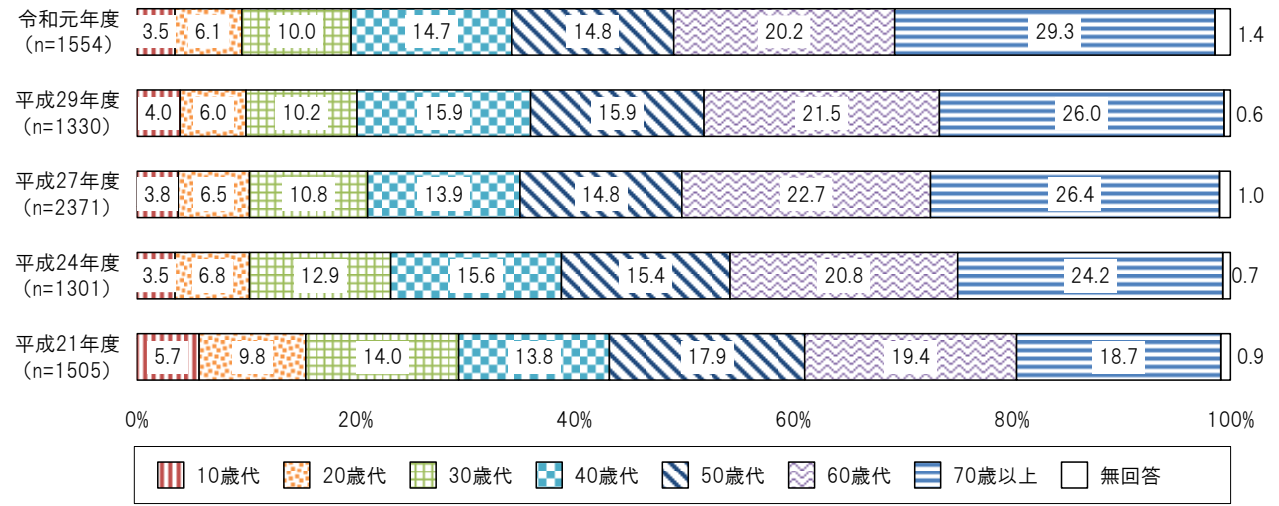
Ⅱ 調査結果

問1 あなたご自身についておうかがいします。

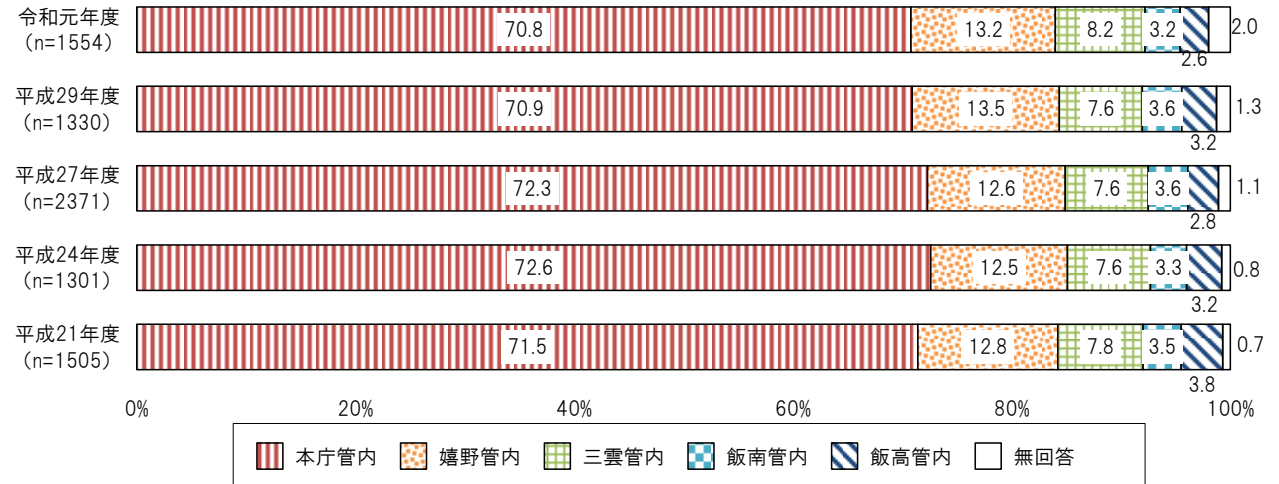
(1) 性別



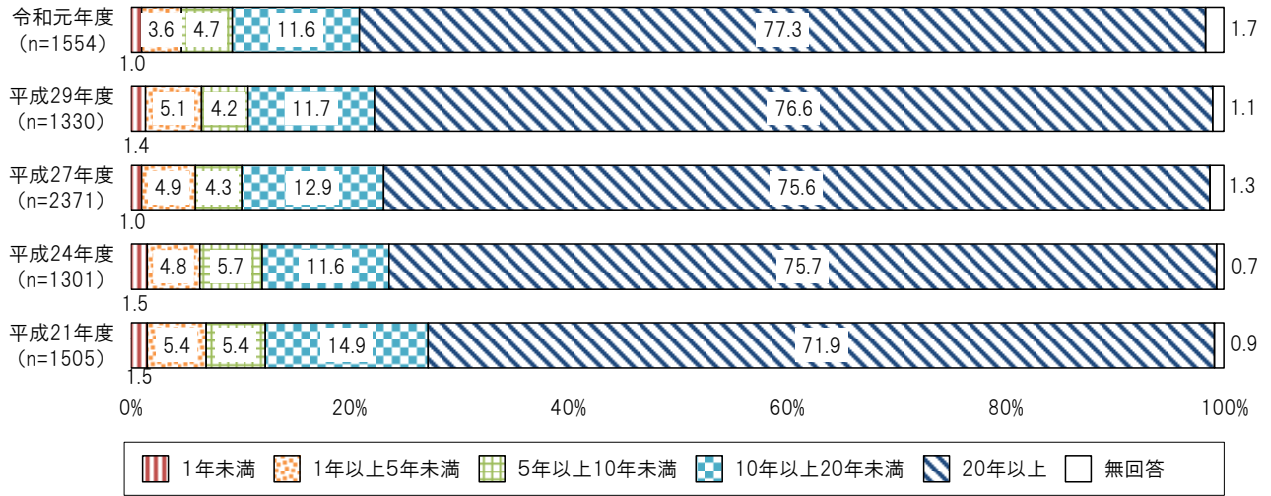
(2) 年齢



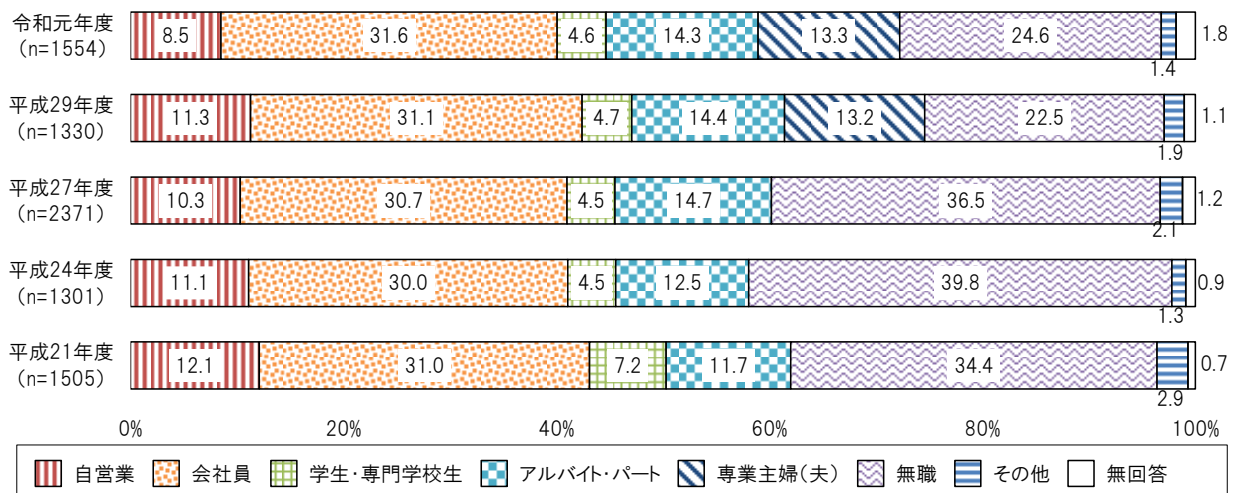
(3) 居住地



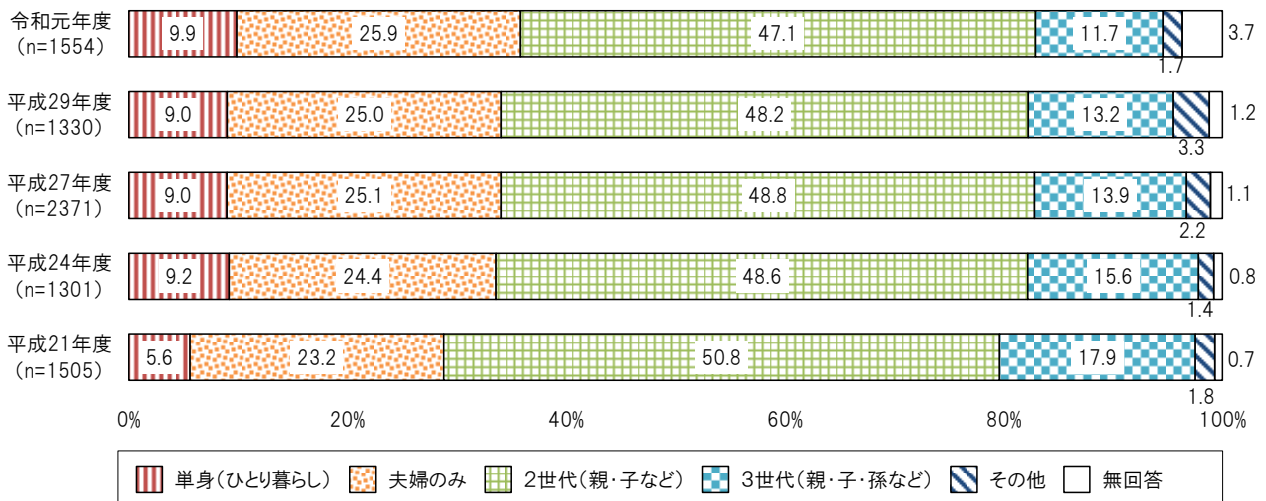
(4) 居住年数



(5) 職業



(6) 家族構成



問2 あなたの現在の状況についておうかがいします。

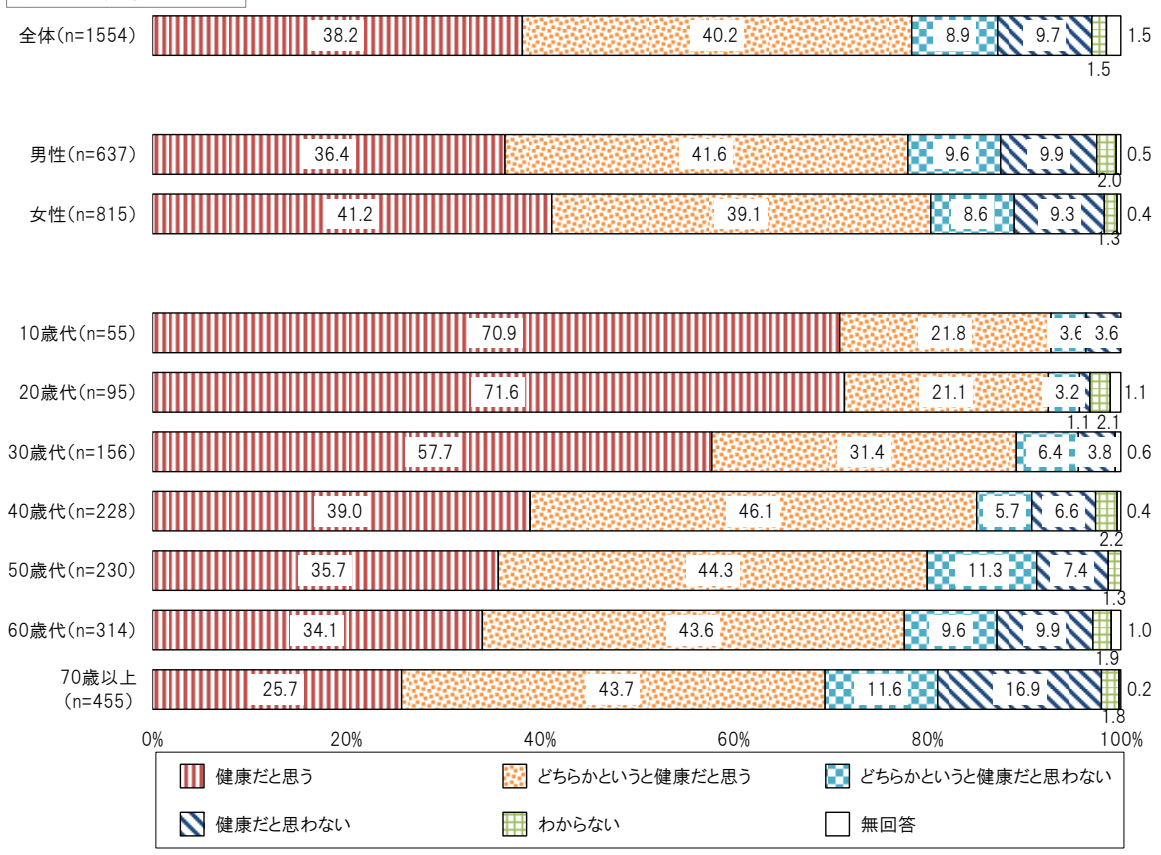
(1) 健康だと思いますか。(〇は1つだけ)

「どちらかという健康だと思う」が40.2%と最も高く、ついで「健康だと思う」が38.2%、「健康だと思わない」が9.7%となっている。

性別にみると、男性では「どちらかという健康だと思う」が最も高く、女性では「健康だと思う」が最も高くなっている。

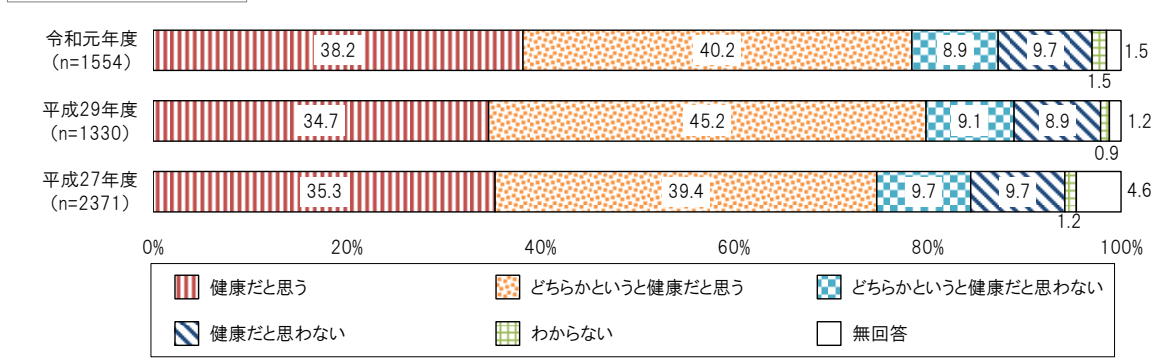
年代別にみると、「健康だと思う」が年代が上がるにつれて減少している一方で、「どちらかという健康だと思わない」「健康だと思わない」が増加している。

問2(1) 健康だと思うか



前回と比較すると、「健康だと思う」「どちらかという健康だと思う」を合計した割合は、前回は79.9%であったのに対し今回は78.4%と若干減少している。

問2(1) 健康だと思うか



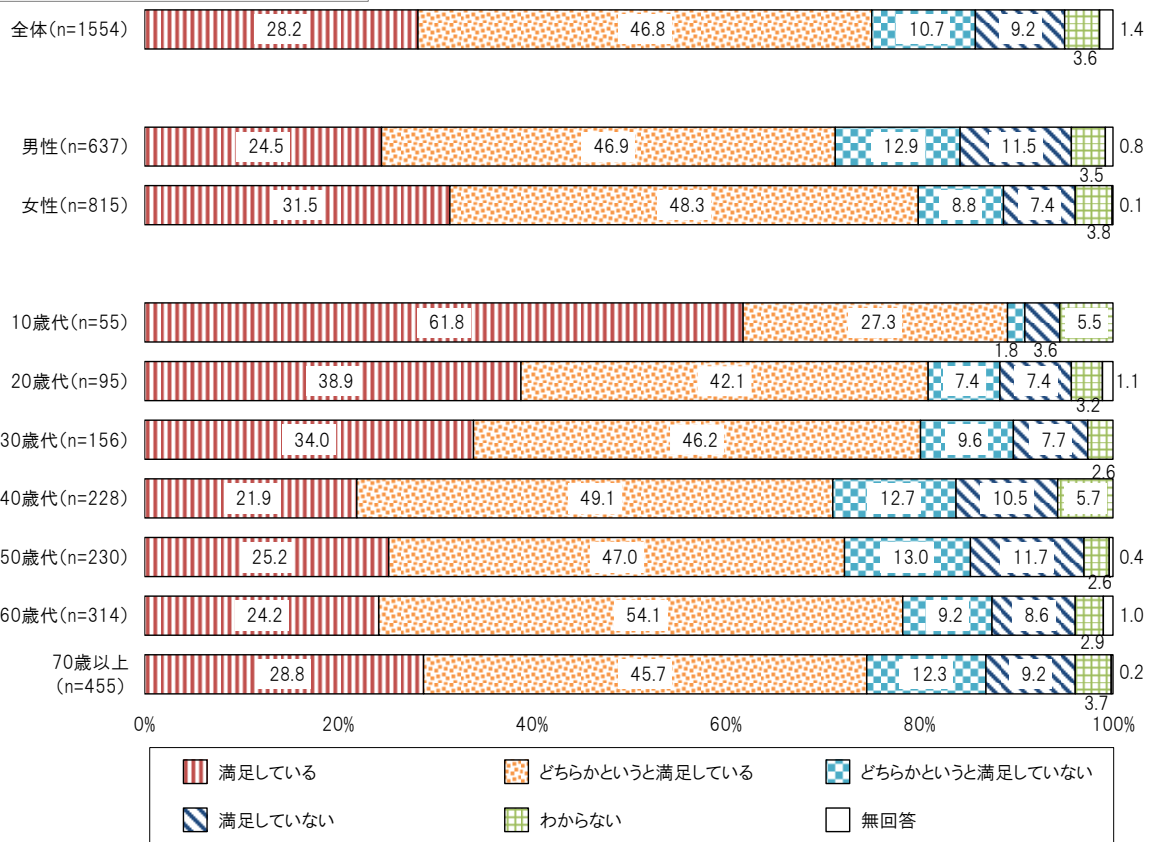
(2) 現在の生活に満足していますか。(〇は1つだけ)

「どちらかという満足している」が46.8%と最も高く、ついで「満足している」が28.2%、「どちらかという満足していない」が10.7%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「満足している」「どちらかという満足している」の割合が高くなっている。

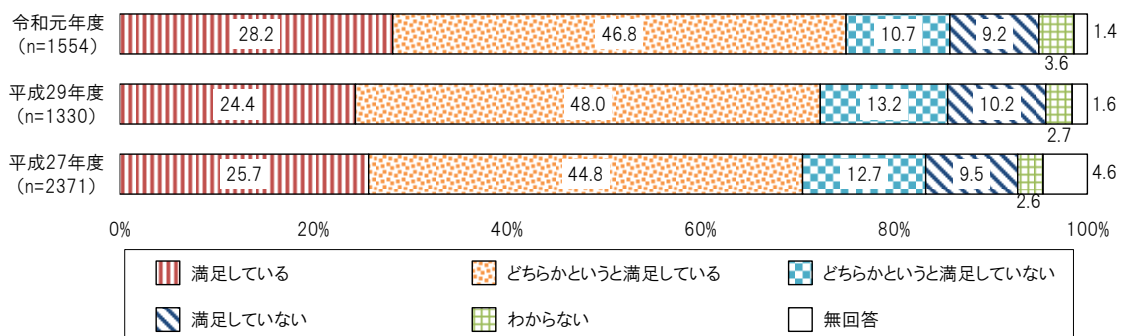
年代別では、10歳代の「満足している」の割合が高く、他の年代よりも20ポイント以上高くなっている。「満足している」と「どちらかという満足している」を合計した割合は30歳代までが高く、40歳代で低下しており、30歳代と40歳代では9.2ポイントの差がある。

問2(2) 現在の生活に満足しているか



前回と比較すると、「満足している」と「どちらかという満足している」を合計した割合は前回は72.4%であったのに対し今回は75.0%と若干増加している。

問2(2) 現在の生活に満足しているか

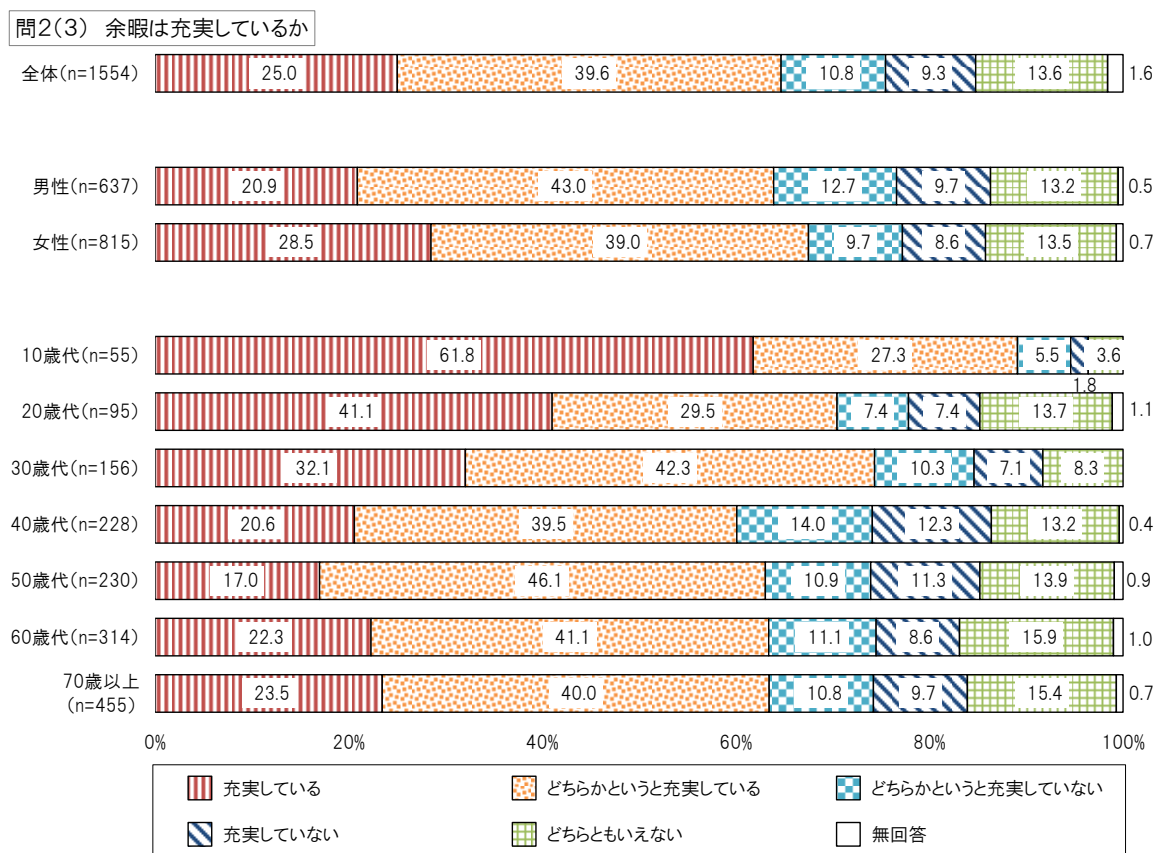


(3) 余暇は充実していますか。(〇は1つだけ)

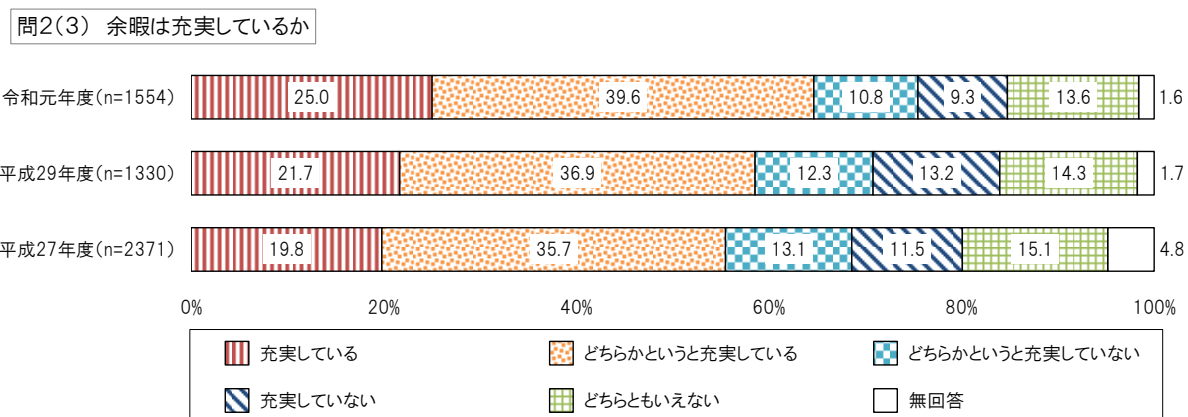
「どちらかという充実している」が39.6%と最も高く、ついで「充実している」が25.0%、「どちらともいえない」が13.6%となっている。

性別では、「充実している」「どちらかという充実している」の合計の割合が、女性の方が男性よりも3.6ポイント高くなっている。

年代別では、10歳代で「充実している」「どちらかという充実している」の合計の割合が最も高く、89.1%となっている。その後年代が上がるにつれて、その割合は減少している。最も高い10歳代と最も低い40歳代では29ポイントの差がある。



前回と比較すると、「充実している」「どちらかという充実している」の合計の割合は増加しており、前回は58.6%であったのに対し今回は64.6%となっている。

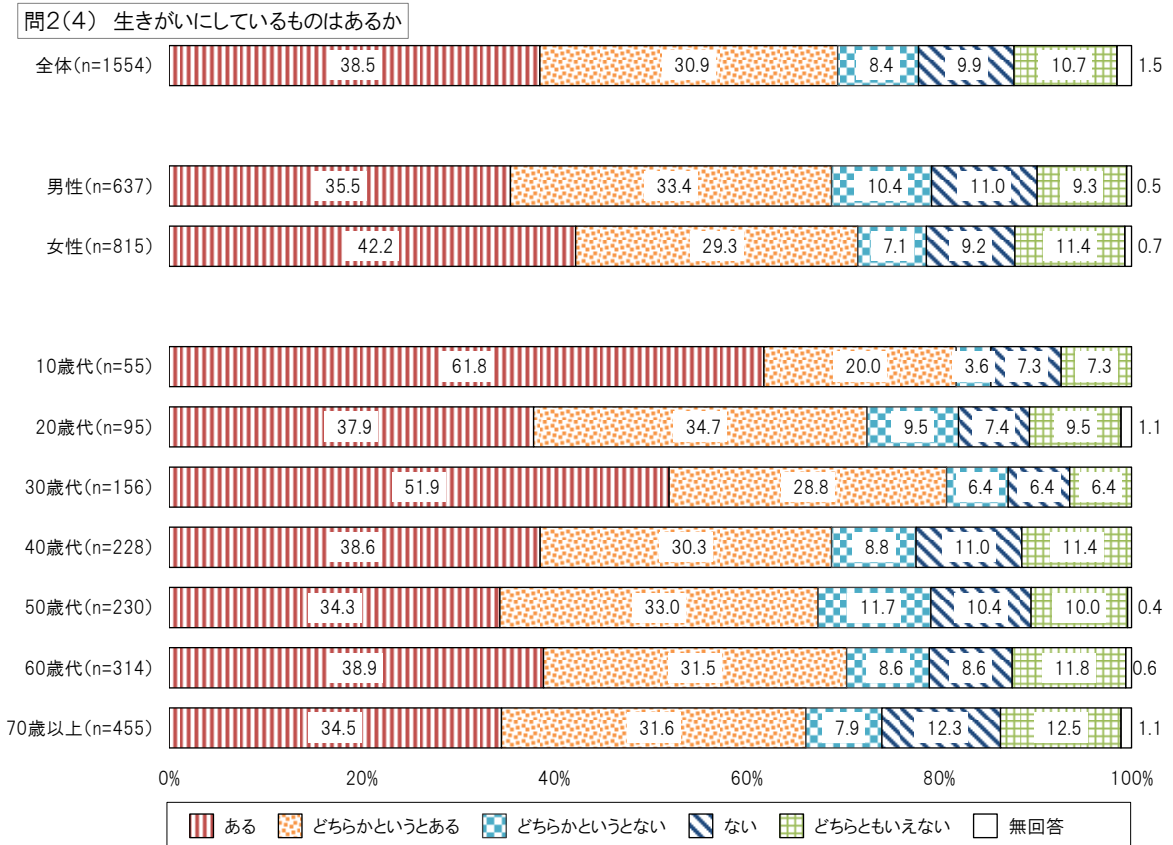


(4) 生きがいになっているものはありますか。(〇は1つだけ)

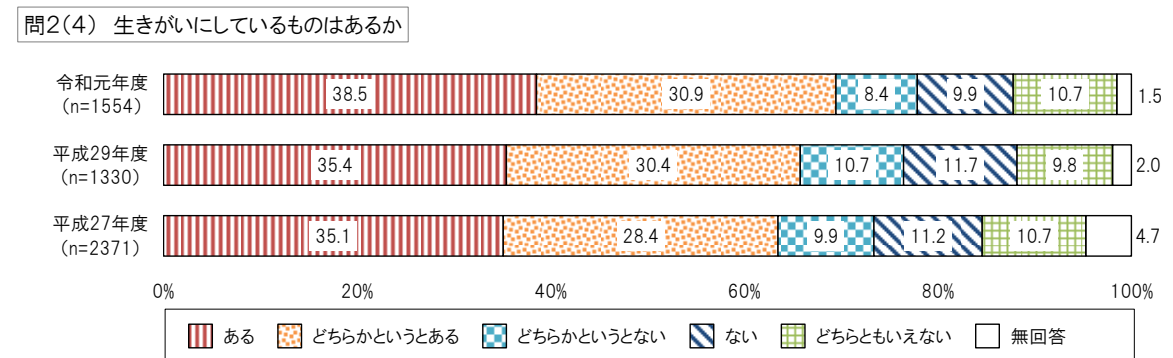
「ある」が38.5%で最も高く、ついで「どちらかというところある」が30.9%、「どちらともいえない」が10.7%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「ある」の割合が6.7ポイント高く、42.2%となっている。

年代別にみると、10歳代で「ある」の割合が最も高く、61.8%となっており、「どちらかというところある」も含めると81.8%に上る。同様に30歳代でも80.7%と高くなっているが、40歳代以降になると比較的低くなっている。



前回と比較すると、「ある」「どちらかというところある」を合計した割合は、前回は65.8%であったのに対し今回は69.4%と増加している。

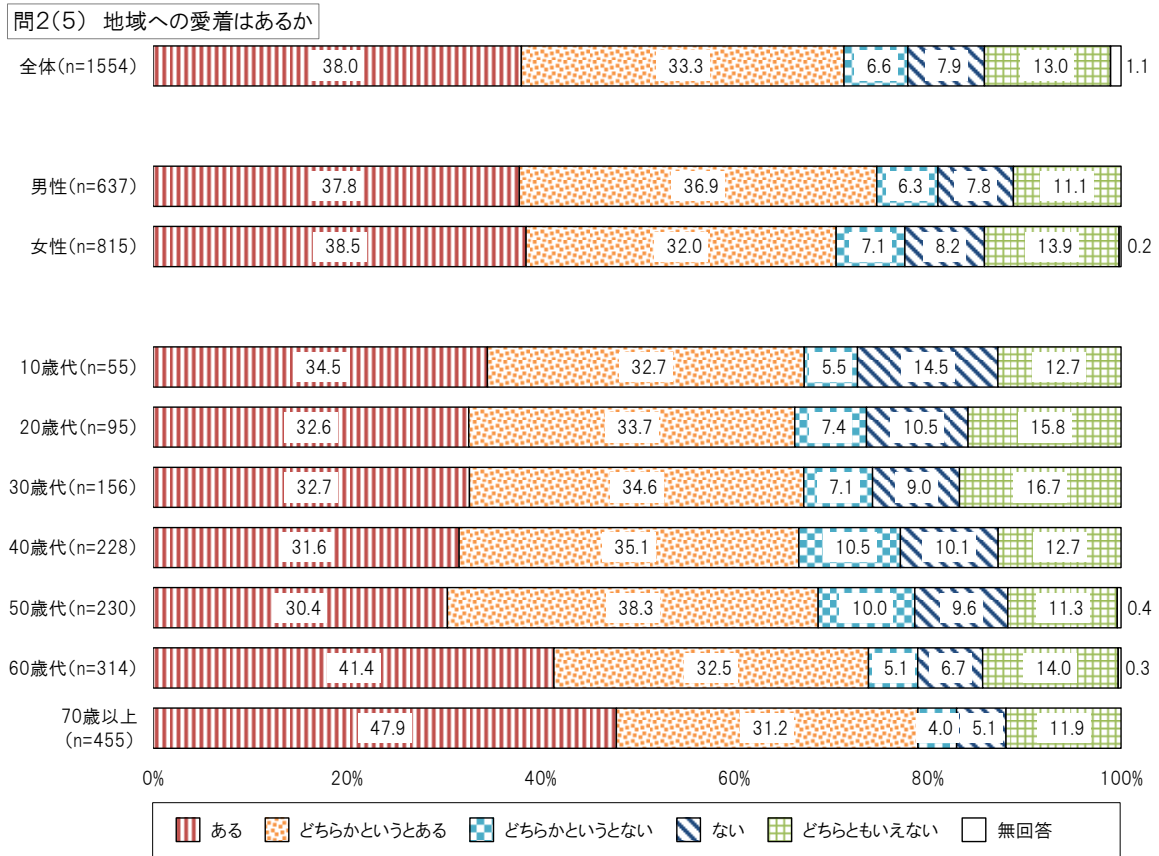


(5) 地域への愛着はありますか。(〇は1つだけ)

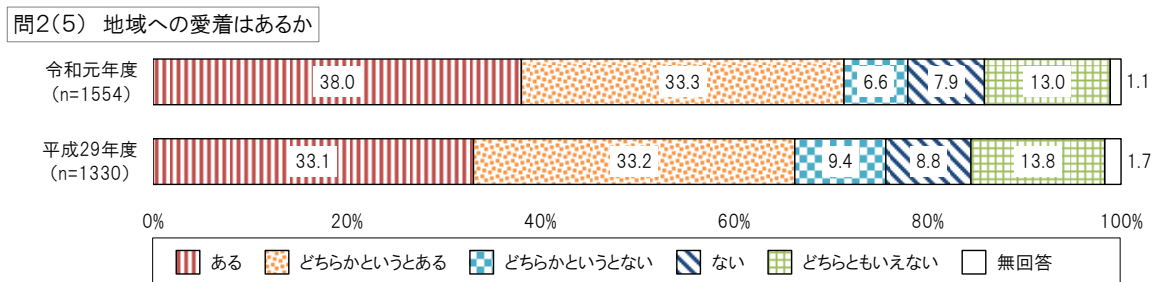
「ある」が38.0%と最も高く、ついで「どちらかというところ」が33.3%、「どちらともいえない」が13.0%となっている。

性別にみると、「ある」「どちらかというところ」の合計の割合は男性の方が女性よりも4.2ポイント高くなっている。

年代別にみると、70歳以上で「ある」の割合が最も高く47.9%となっている。「どちらかというところ」も含めると、70歳以上で79.1%と最も高くなっており、高齢の方のほうが地域への愛着を持つ割合が高くなっている。



前回と比較すると、「ある」「どちらかというところ」を合計した割合は、前回は66.3%であったのに対し今回は71.3%と5ポイント増加している。



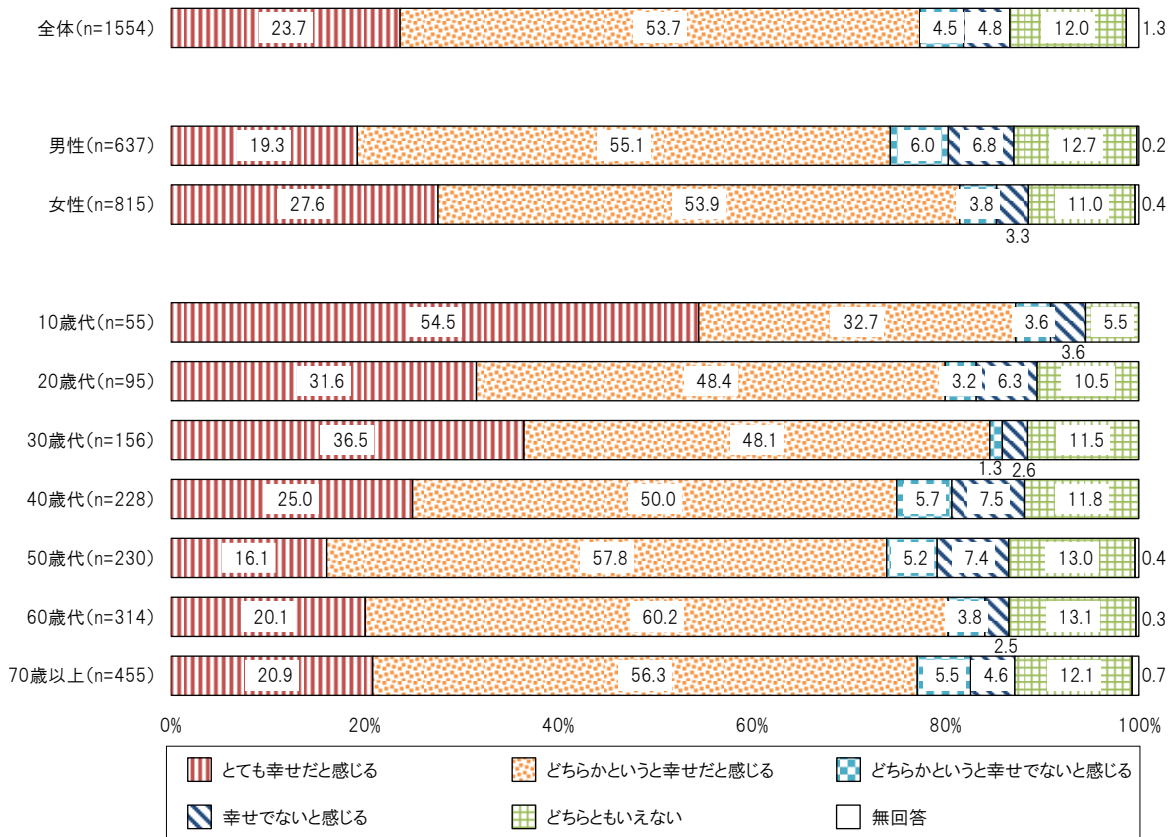
(6) あなたは今、幸せだと感じますか。(〇は1つだけ)

「どちらかという幸せだと感じる」が53.7%と最も高く、ついで「とても幸せだと感じる」が23.7%、「どちらともいえない」が12.0%となっている。

性別にみると、男性よりも女性の方が「とても幸せだと感じる」「どちらかという幸せだと感じる」の合計の割合が高く、81.5%となっている。

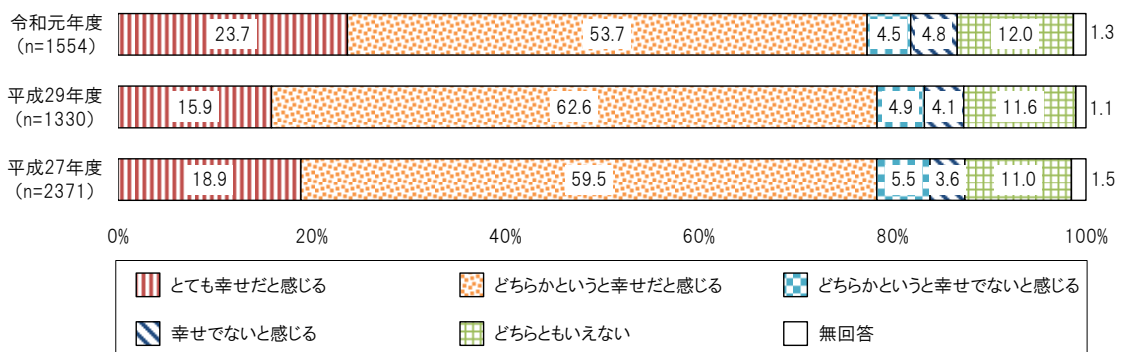
年代別にみると、いずれの年代でも「とても幸せだと感じる」「どちらかという幸せだと感じる」の合計の割合が7割を超えている。

問2(6) 今、幸せだと感じるか



前回と比較すると、「とても幸せだと感じる」が7.8ポイント増加している。なお、「どちらかという幸せだと感じる」も含めた割合をみると、概ね同様の割合となっている。

問2(6) 今、幸せだと感じるか



(7) 幸福な生活のために必要なことはどんなことだと思いますか。(〇は3つまで)

「健康であること」が84.9%で最も高く、ついで「生活に経済的な余裕があること」が39.8%、「家族との関係が良好なこと」が38.5%となっている。

性別にみると、「頼れる人がいること」「家族との関係が良好なこと」については、男性に比べ女性の方が5ポイント以上高くなっている。

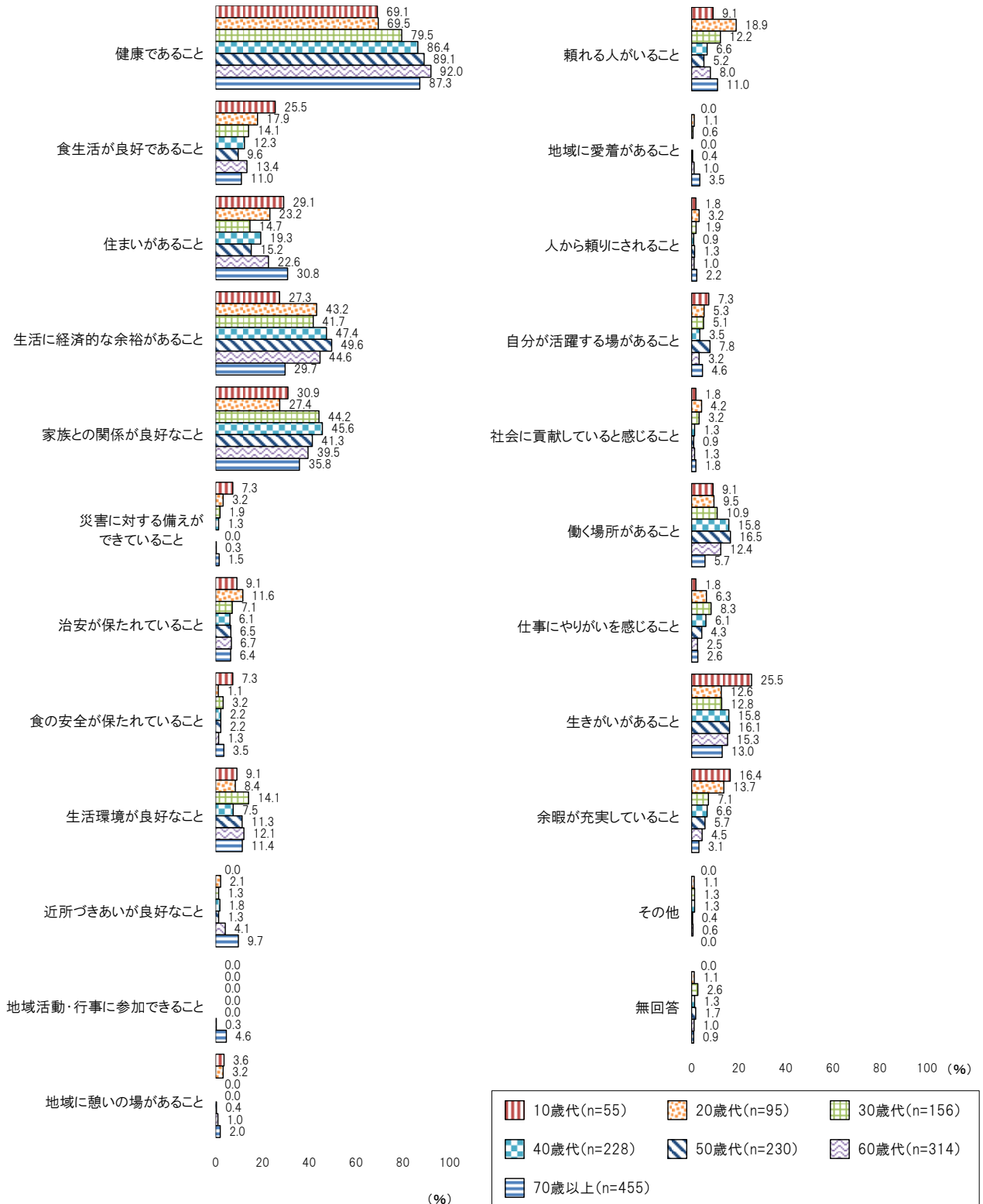
前回調査と比べると、「住まいがあること」「頼れる人がいること」が5ポイント程度高くなっており、一方で「健康であること」「近所づきあいが良好なこと」が5ポイント程度低くなっている。

問2(7) 幸福な生活のために必要なこと



年代別にみると、年代が上がるごとに「健康であること」の割合が増加している。また、20歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「生活に経済的な余裕があること」が2番目に高くなっている。

問2(7) 幸福な生活のために必要なこと



問3 あなたのふだんの暮らしで心がけていることについておうかがいします。

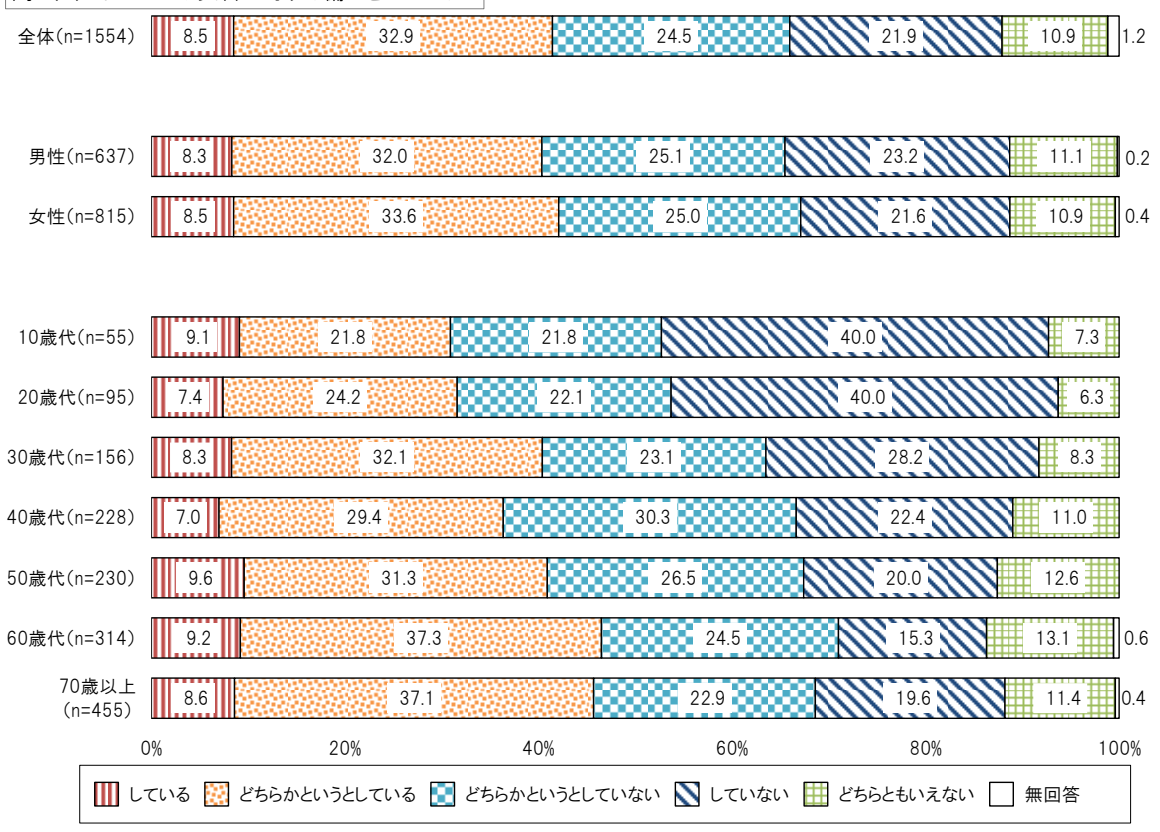
(1) 日ごろから災害に対する備えをしていますか。(〇は1つだけ)

「どちらかというとしている」が32.9%で最も高く、ついで「どちらかというとしていない」が24.5%、「していない」が21.9%となっている。

性別にみると、「している」「どちらかというとしている」の合計の割合は、女性の方が男性よりもやや高くなっている。

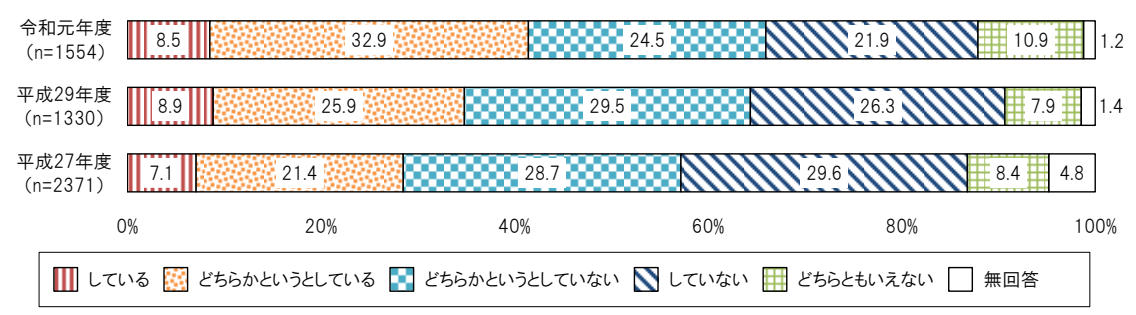
年代別にみると、「している」「どちらかというとしている」の合計の割合は年齢が高くなるにつれ割合も高くなっており、最も高い60歳代の46.5%と、最も低い10歳代の30.9%では15.6ポイントの差があった。

問3(1) 日ごろから災害に対する備えをしているか



前回および前々回と比較すると、「している」「どちらかというとしている」の合計の割合が、前回から6.6ポイント、前々回からは12.9ポイント増加している。

問3(1) 日ごろから災害に対する備えをしているか



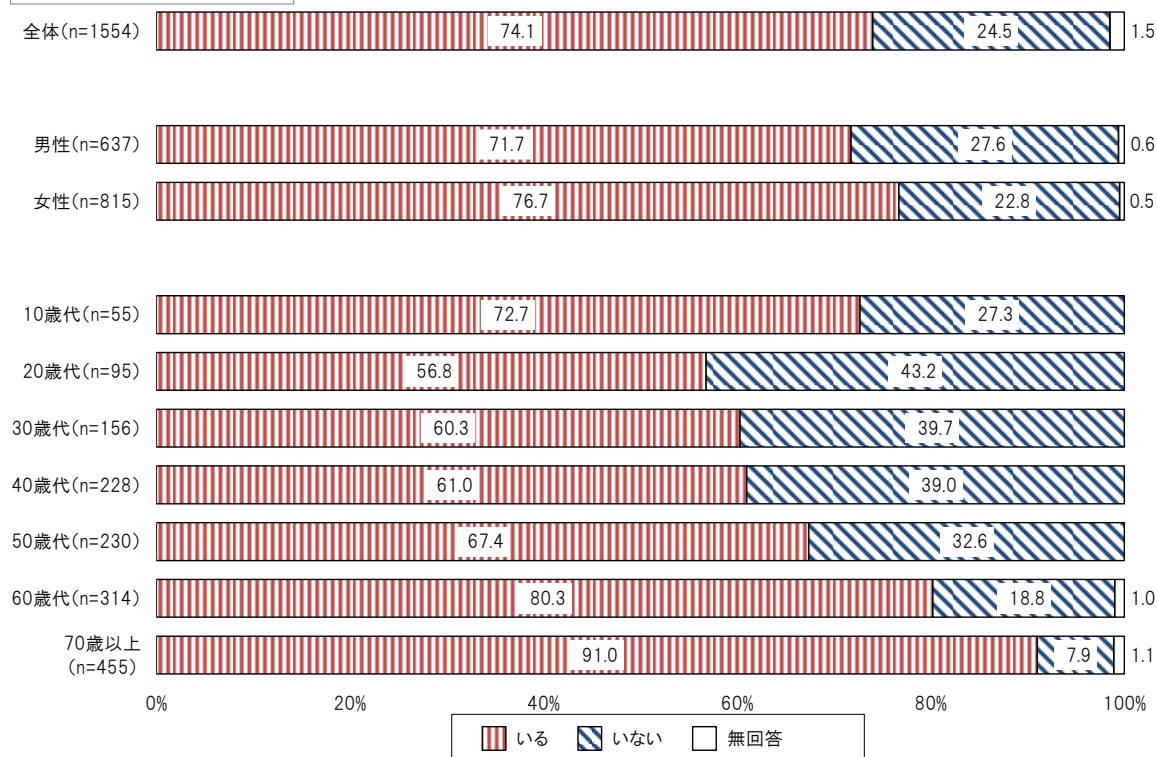
(2) かかりつけ医がいますか。(〇は1つだけ)

「いる」が74.1%と最も高く、ついで「いない」が24.5%となっている。

性別にみると、女性の方が男性よりも「いる」の割合が5ポイント高くなっている。

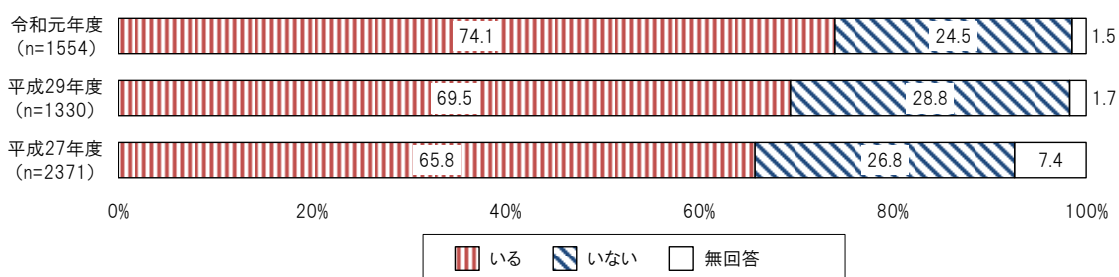
年代別にみると、10歳代では「いる」が高いものの、20歳代で56.8%と低下し、それ以降は年齢が高くなるほど「いる」の割合が高くなっている。

問3(2) かかりつけ医の有無



前回および前々回と比較すると、「いる」の割合が年々増加している。

問3(2) かかりつけ医の有無

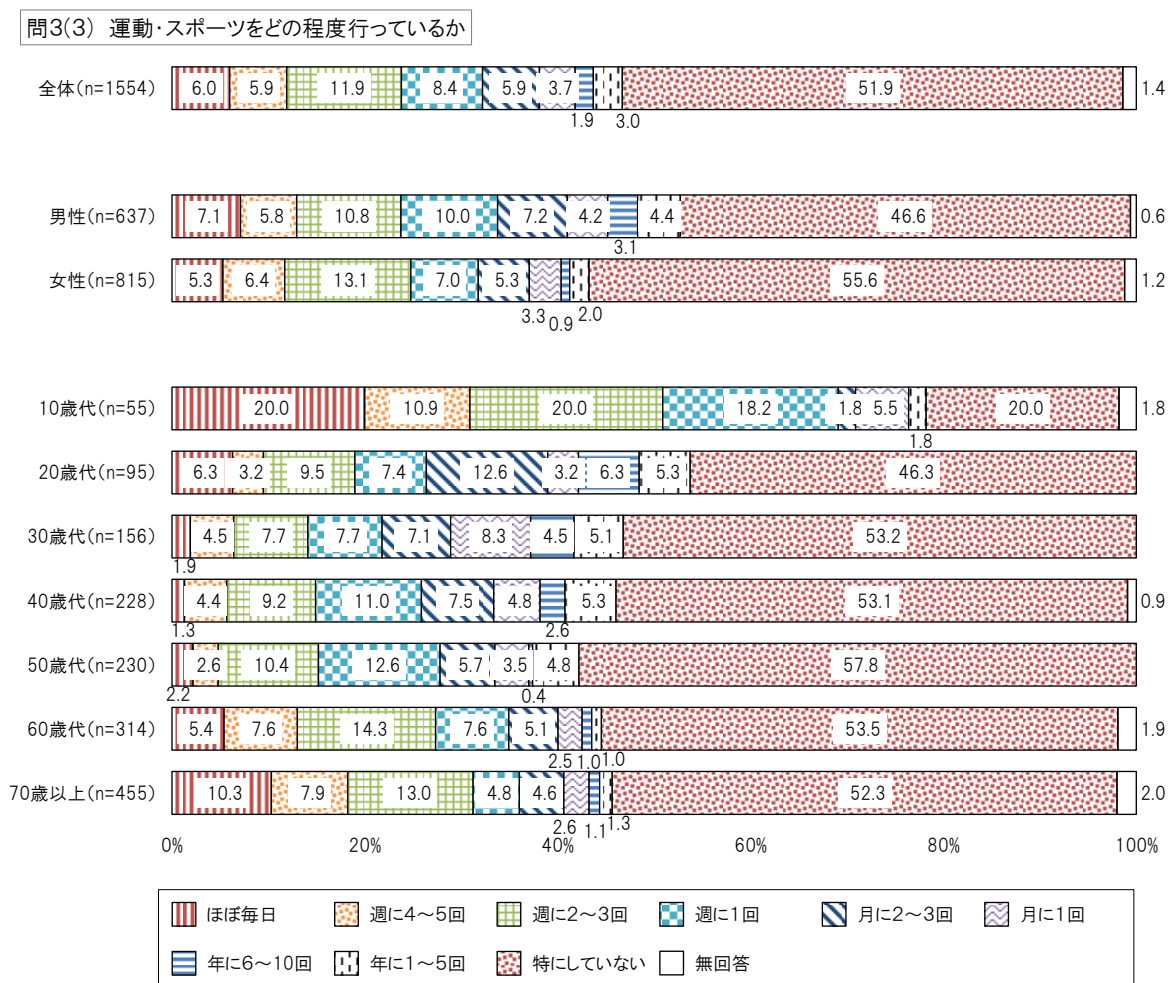


(3) あなたはこの1年間で運動・スポーツをどの程度行っていますか。(○は1つだけ)

「特にしていない」が51.9%と最も高く、ついで「週に2~3回」が11.9%、「週に1回」が8.4%となっている。

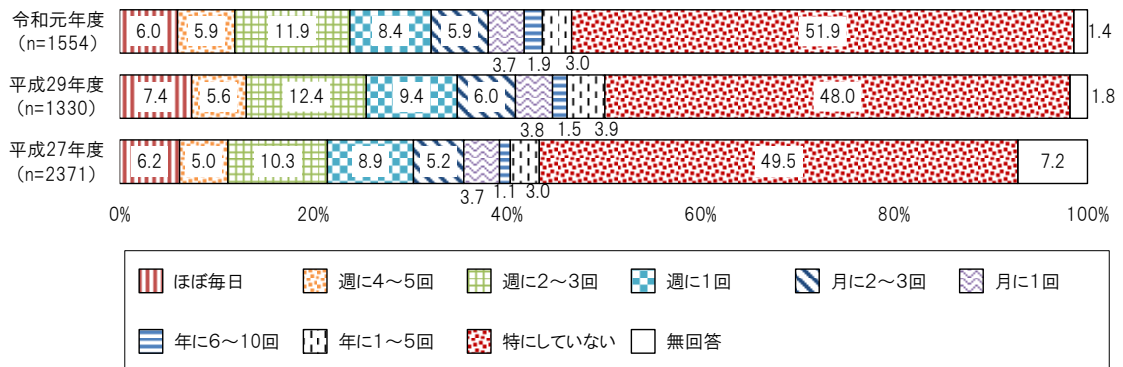
性別にみると、女性では「特にしていない」が55.6%と半数を超えており、男性に比べて9ポイント高くなっている。

年代別にみると、30歳代以上では「特にしていない」の割合が半数を超えている。また、10歳代では「ほぼ毎日」が20.0%と他の世代と比べ非常に高くなっている。



前回と比較すると、「特にしていない」がやや増加し、運動・スポーツを行っている人が全体的に減少している。

問3(3) 運動・スポーツをどの程度行っているか



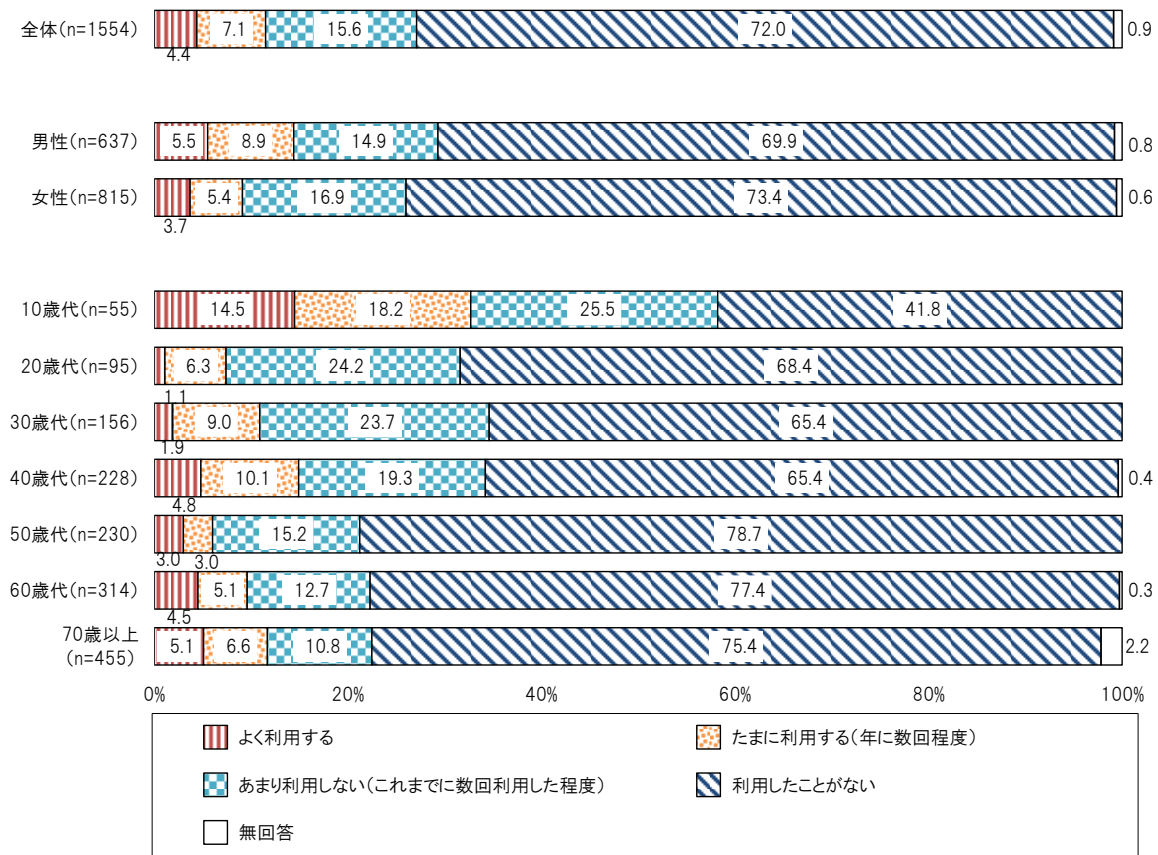
(4) 最近（この2～3年間で）、松阪市の公共スポーツ施設を利用していますか。（〇は1つだけ）

「利用したことがない」が72.0%と最も高く、ついで「あまり利用しない（これまでに数回利用した程度）」が15.6%、「たまに利用する（年に数回程度）」が7.1%となっている。

性別にみると、男性・女性ともに「利用したことがない」が高くなっており、いずれも7割程度となっている。

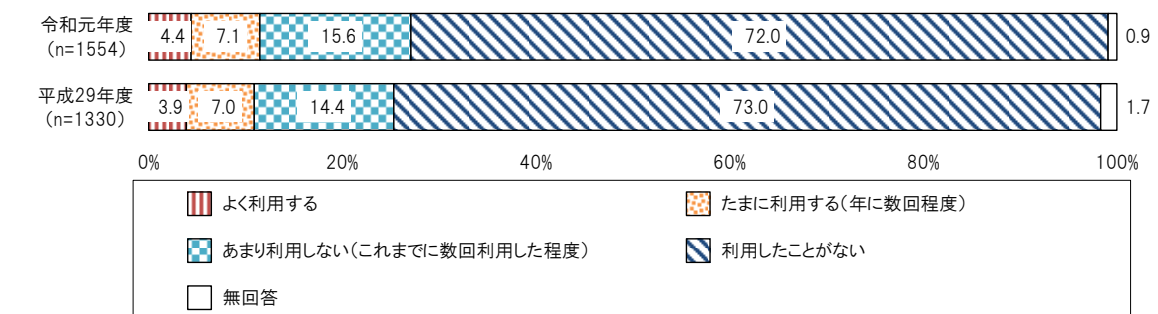
年代別にみると、10歳代で利用したことがある人の割合が高くなっているが、50歳代以上では「利用したことがない」が高くなっている。

問3(4)公共スポーツ施設をどの程度利用しているか



前回と比較すると、若干利用したことがある人の割合が増加しているが、傾向は概ね同様であった。

問3(4)公共スポーツ施設をどの程度利用しているか



問4 あなたのお住まいの地域づくりについておうかがいします。

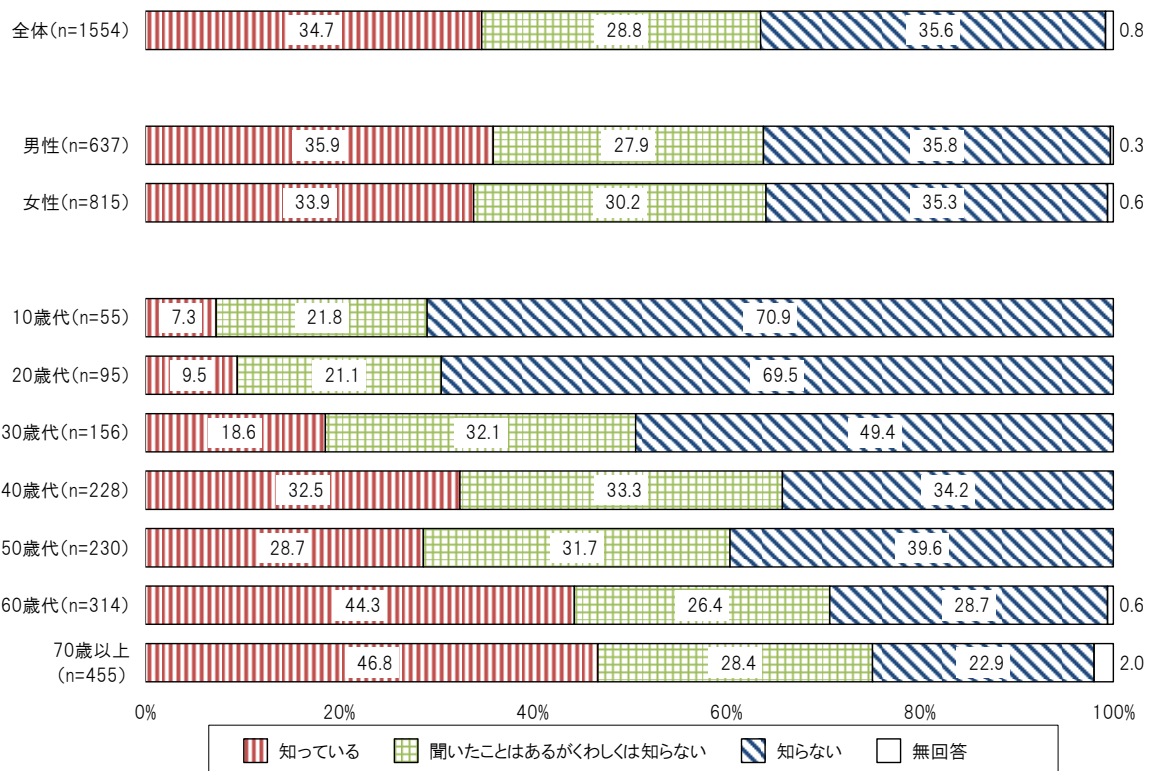
(1) あなたのお住まいの地域の住民協議会（まちづくり協議会）を知っていますか。（〇は1つだけ）

「知らない」が35.6%で最も高く、ついで「知っている」が34.7%、「聞いたことはあるがくわしくは知らない」が28.8%となっている。

性別にみると、男女で大きな差はなかった。

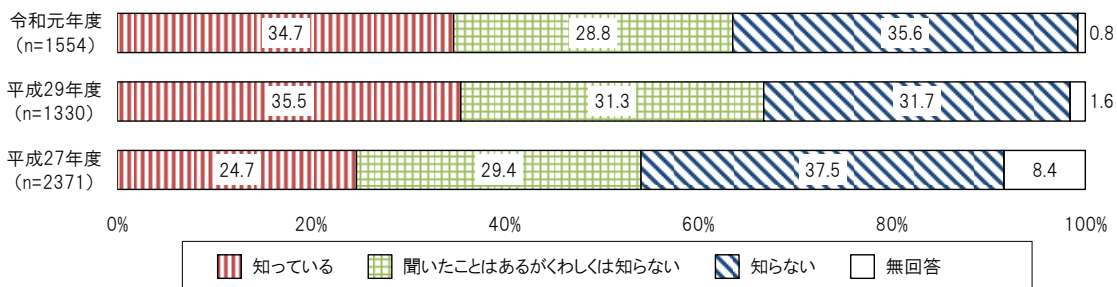
年代別にみると、年齢が高くなるにつれ「知っている」の割合は高くなっている。

問4(1) 住民協議会を知っているか



前回と比較すると、「知っている」は0.8ポイント減少しており、一方で「知らない」が3.9ポイント増加している。

問4(1) 住民協議会を知っているか



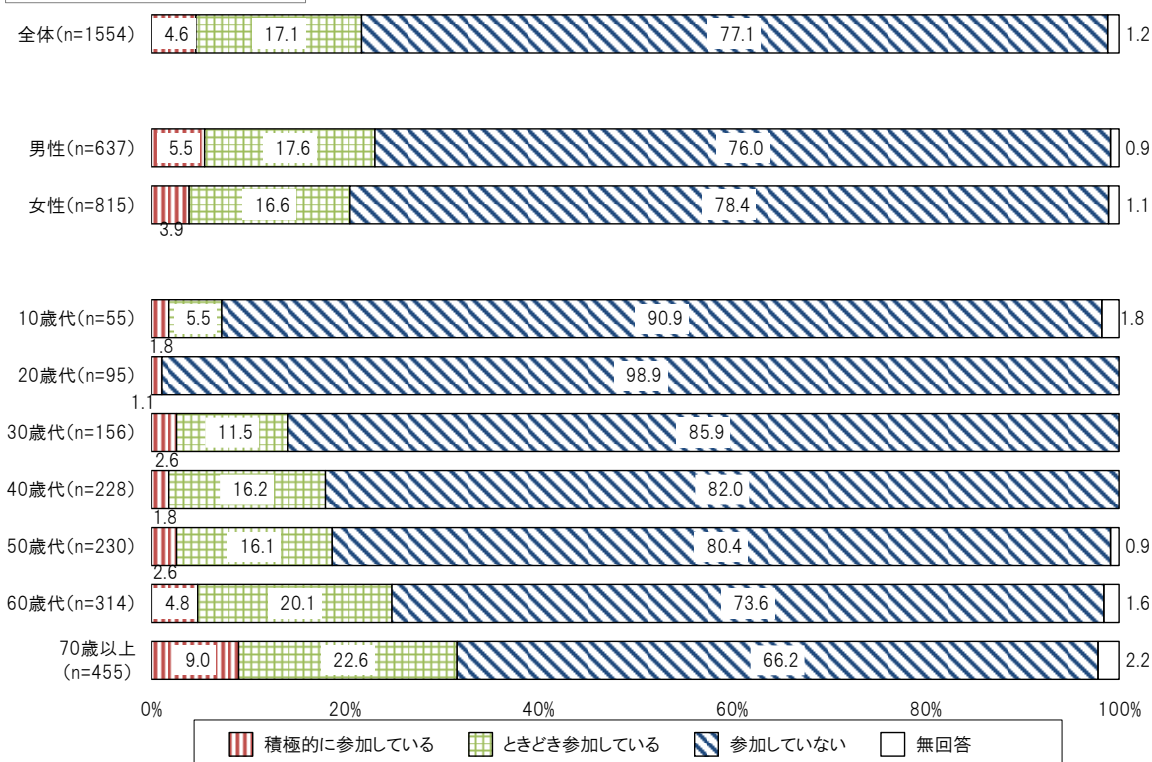
(2) あなたはお住まいの地域の住民協議会（まちづくり協議会）のまちづくり活動に参加していますか。（○は1つだけ）

「参加していない」が77.1%と最も高く、ついで「ときどき参加している」が17.1%、「積極的に参加している」が4.6%となっている。

性別にみると、男性は「積極的に参加している」「ときどき参加している」の合計の割合が23.1%と、女性と比べ2.6ポイント高くなっている。

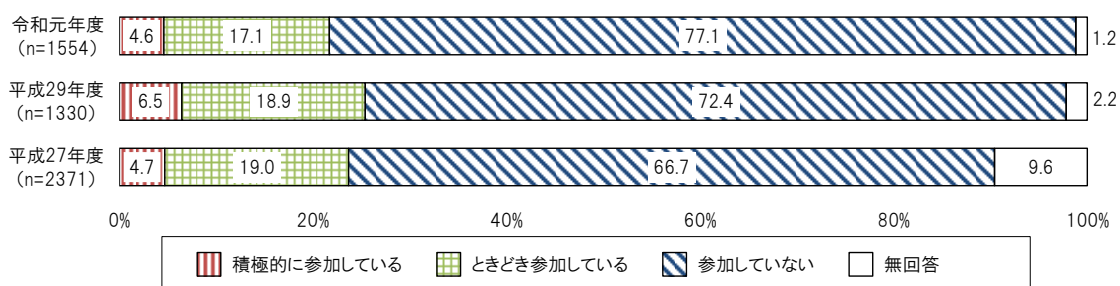
年代別にみると、年齢が高くなるにつれ参加している割合が高くなっている。20歳代では「参加していない」の割合が98.9%とほとんどの人が参加していない。

問4(2) 住民協議会への参加



前回と比較すると、「積極的に参加している」「ときどき参加している」の合計の割合が減少している。

問4(2) 住民協議会への参加



問5 市全般に関することについておうかがいします。

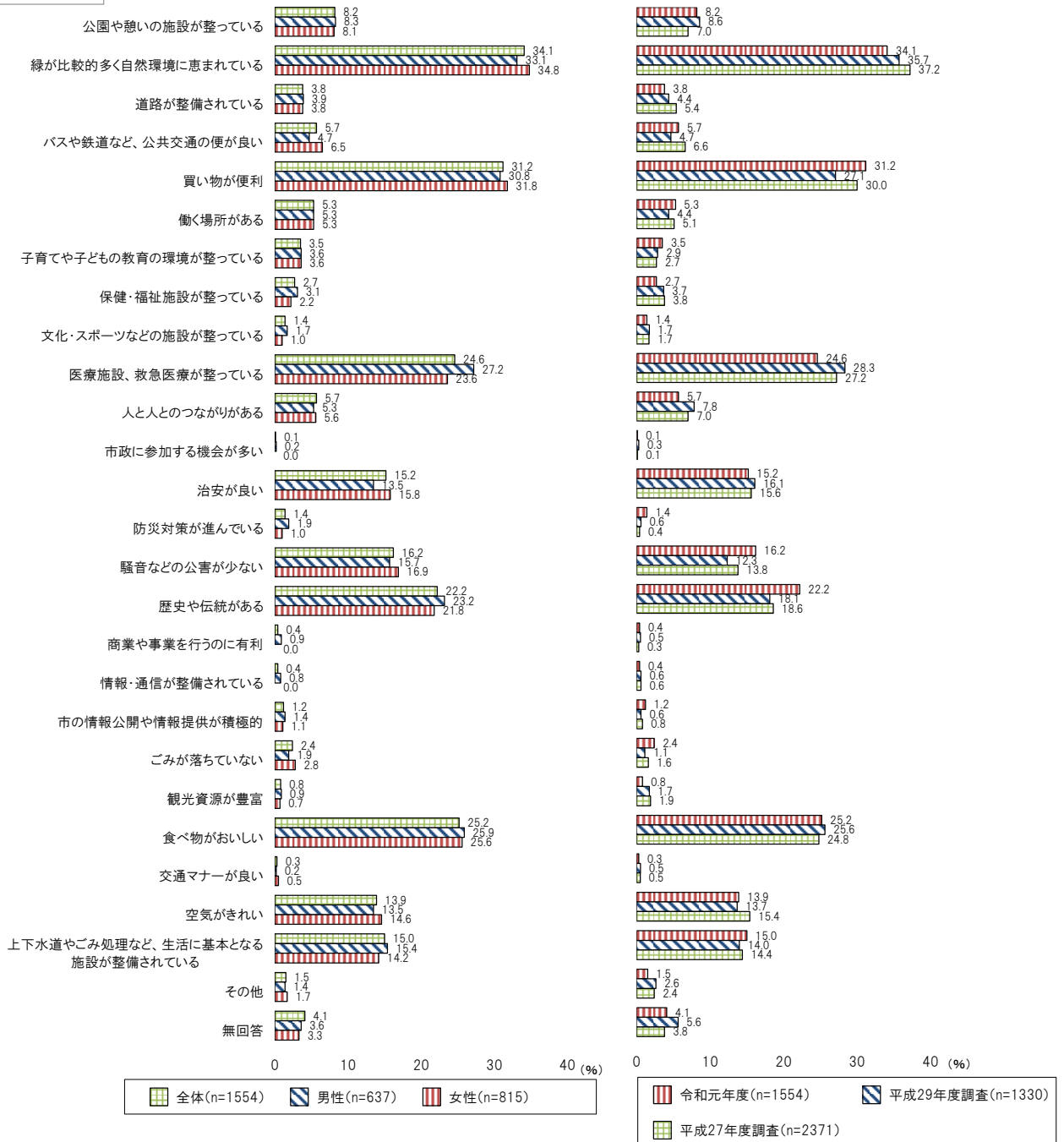
(1) あなたが思う松阪市の良いところはどんなことですか。(〇は3つまで)

「緑が比較的多く自然環境に恵まれている」が34.1%と最も高く、ついで「買い物が便利」が31.2%、「食べ物がおいしい」が25.2%となっている。

性別にみると、1番目、2番目に高い項目は同じだが、3番目に高い項目は、男性では「医療施設、救急医療が整っている」、女性では「食べ物がおいしい」となっている。

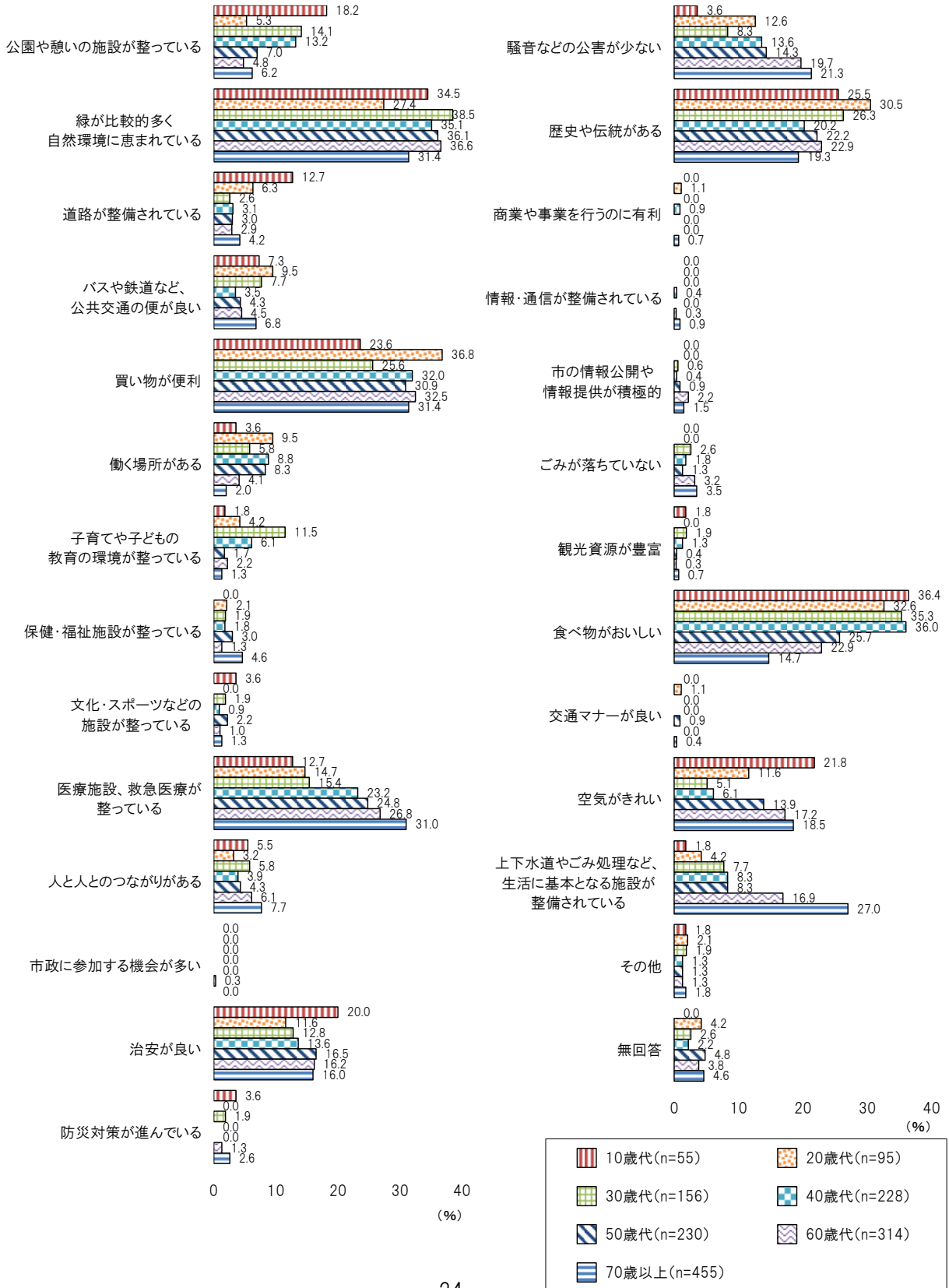
前回調査と比較すると、「歴史や伝統がある」「買い物が便利」等が増加し、「医療施設、救急医療が整っている」等が減少している。

問5(1) 松阪市の良いところ



年代別にみると、1番目に多い項目は、30歳代および50歳以上では「緑が比較的多く自然環境に恵まれている」、20歳代および70歳以上では「買い物が便利」、10歳代および40歳代では「食べ物がおいしい」となっている。なお、70歳以上の1番目に多い項目は2つの項目が同率であった。

問5(1) 松阪市の良いところ



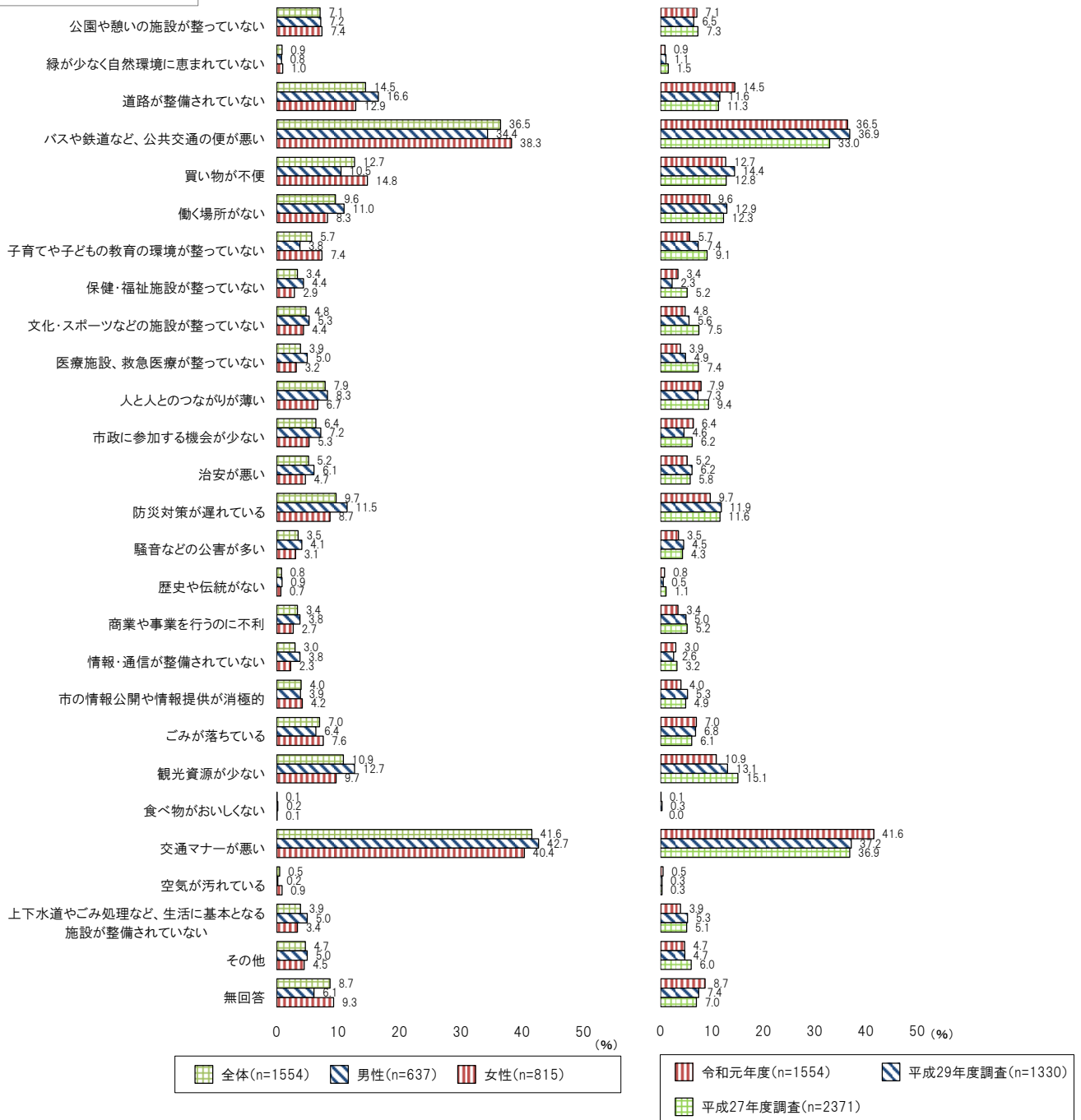
(2) あなたが思う松阪市の良くないところはどんなことですか。(〇は3つまで)

「交通マナーが悪い」が41.6%で最も高く、ついで「バスや鉄道など、公共交通の便が悪い」が36.5%、「道路が整備されていない」が14.5%となっている。

性別にみると、1番目、2番目に高い項目は同じだが、3番目に高い項目は、男性では「道路が整備されていない」、女性では「買い物が不便」となっている。

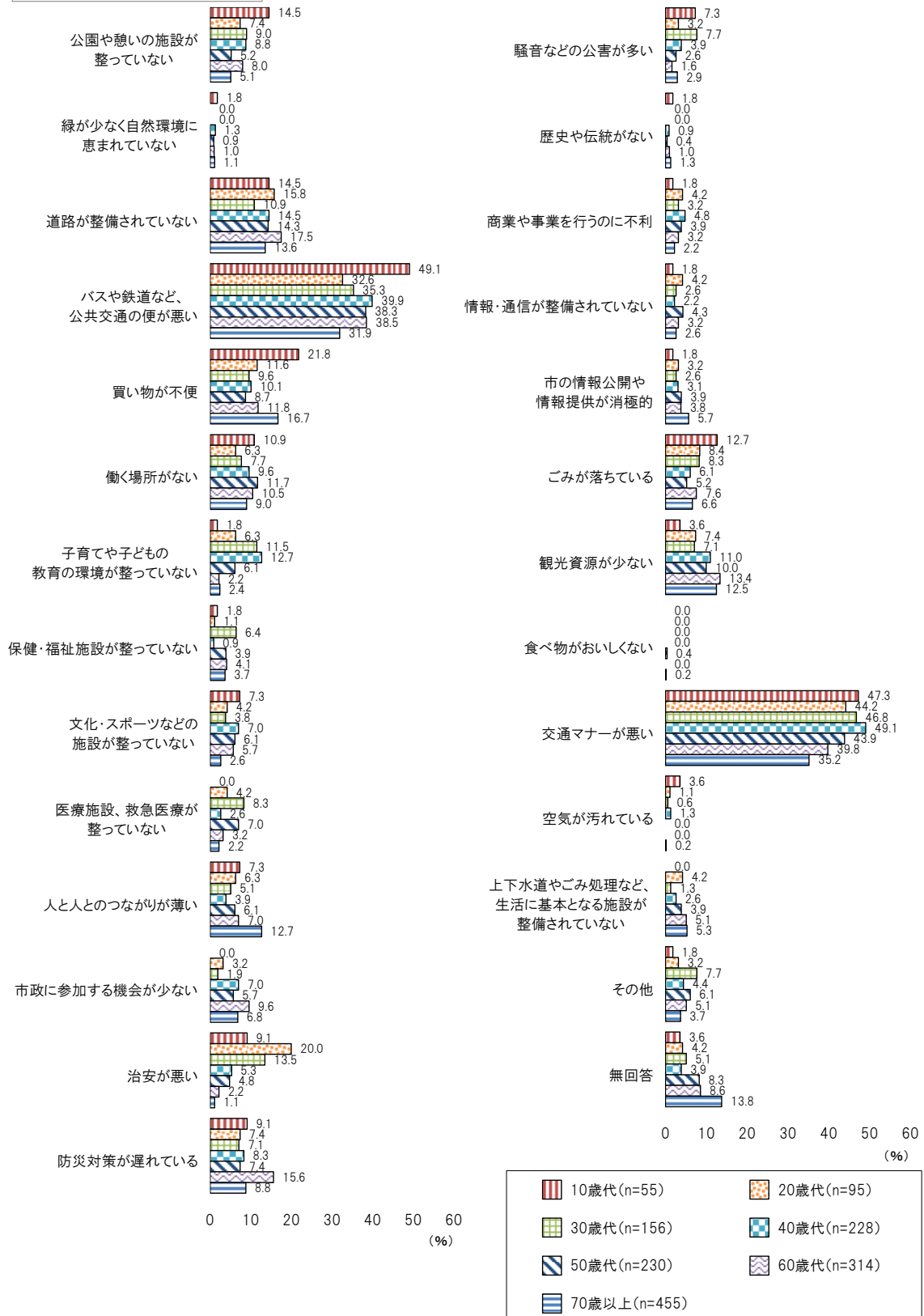
前回調査と比較すると、「交通マナーが悪い」「道路が整備されていない」等で増加しており、一方で「働く場所がない」は3.3ポイント減少している。

問5(2) 松阪市の良くないところ



年代別にみると、1番目、2番目に高い項目はいずれの年代も「交通マナーが悪い」もしくは「バスや鉄道など、公共交通の便が悪い」であるが、3番目に高い項目は、40歳代～60歳代は「道路が整備されていない」、10歳代および70歳以上は「買い物が不便」、20歳代および30歳代は「治安が悪い」であった。

問5(2) 松阪市の良くないところ



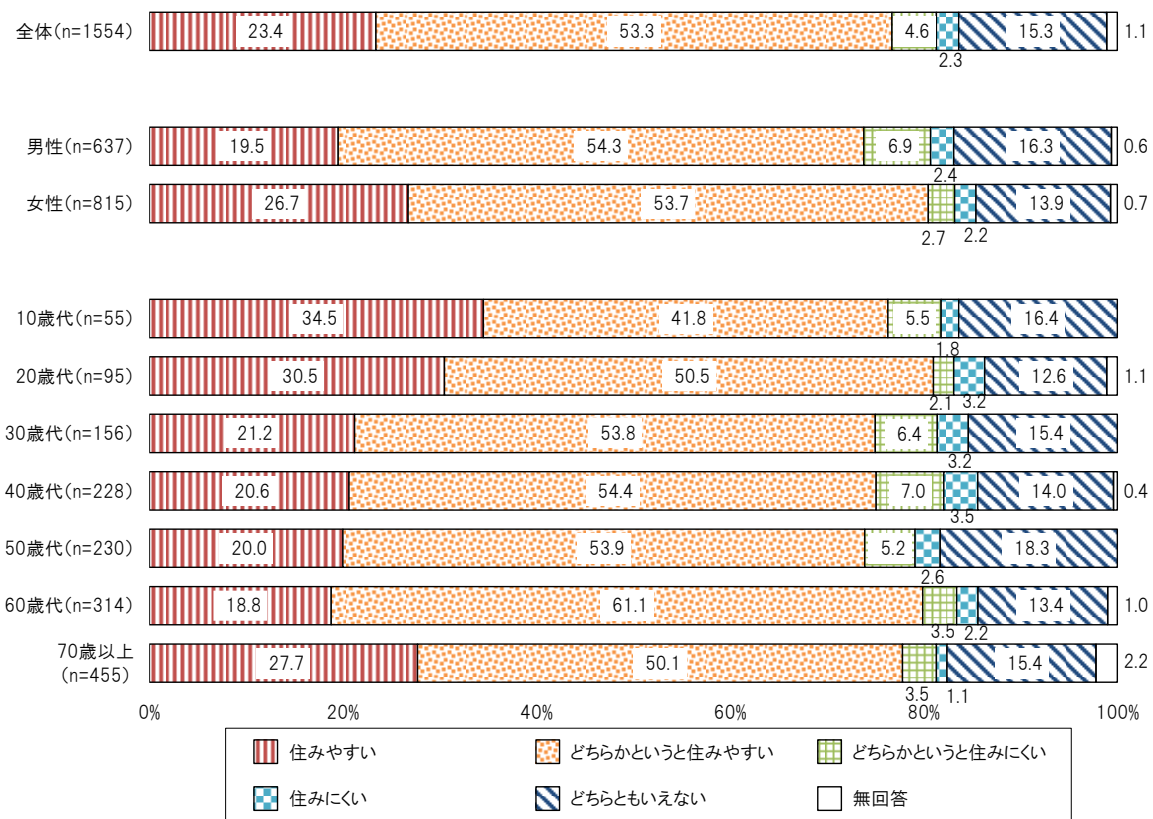
(3) あなたは総合的にみて松阪市は住みやすいところだと感じますか。(〇は1つだけ)

「どちらかというに住みやすい」が53.3%と最も高く、ついで「住みやすい」が23.4%、「どちらともいえない」が15.3%となっている。

性別にみると、男性・女性ともに「住みやすい」「どちらかというに住みやすい」が高くなっているが、女性の方が男性よりも6.6ポイント高くなっている。

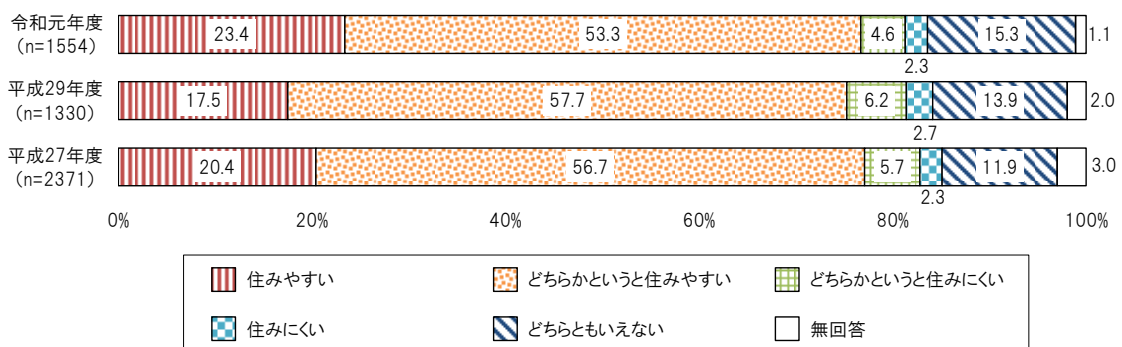
年代別にみると、いずれの年代も「住みやすい」「どちらかというに住みやすい」の合計の割合が半数以上となっているが、20歳代が81.0%で最も高くなっている。

問5(3) 松阪市は住みやすいか



前回と比較すると、「住みやすい」「どちらかというに住みやすい」の合計の割合は1.5ポイント増加しており、特に「住みやすい」の割合は5.9ポイント増加している。

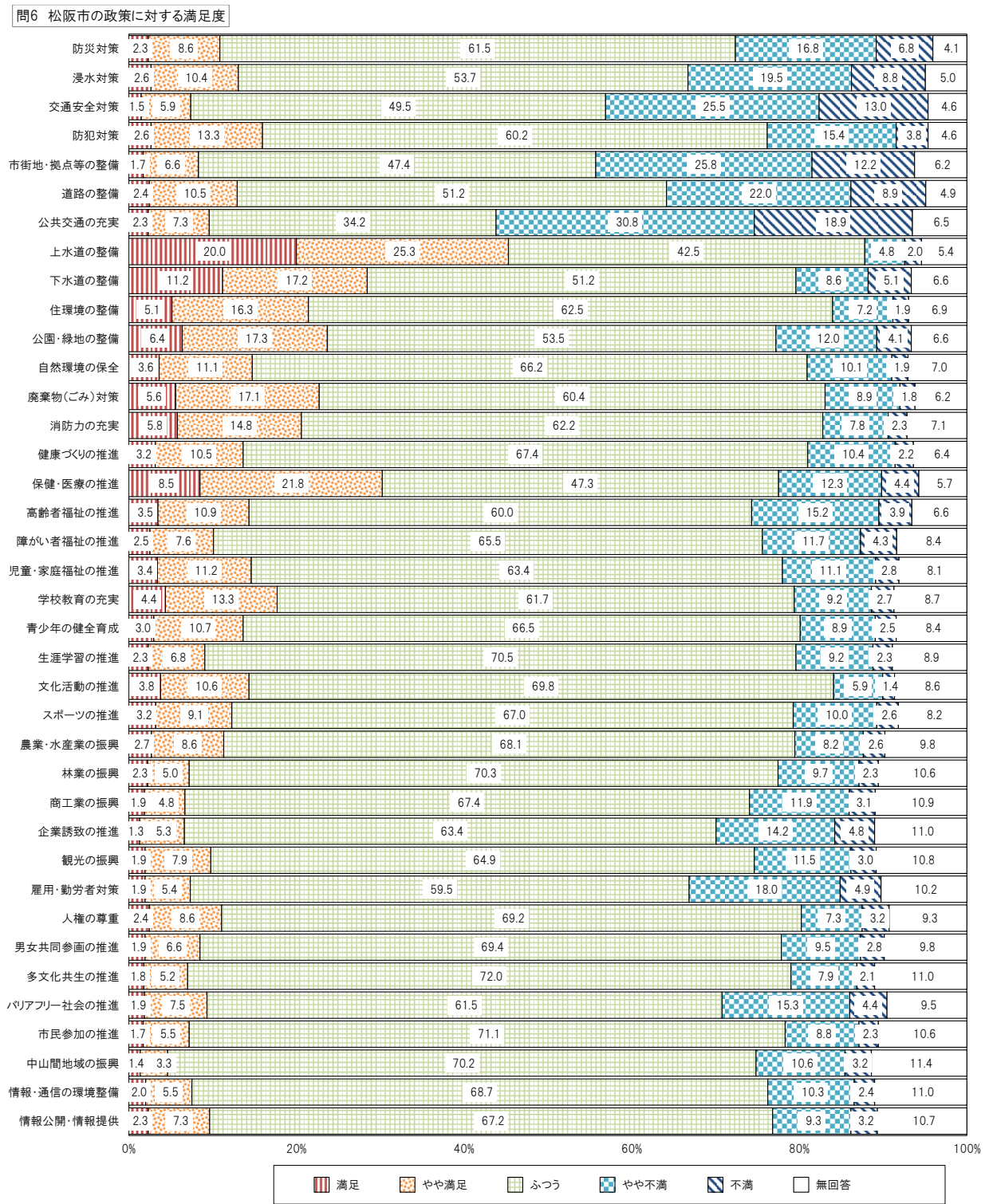
問5(3) 松阪市は住みやすいか



問6 松阪市の政策に対し、あなたの気持ちに最も近いものを(1)～(38)の項目について、満足度、重要度でそれぞれ1つずつ選んで、○をつけてください。

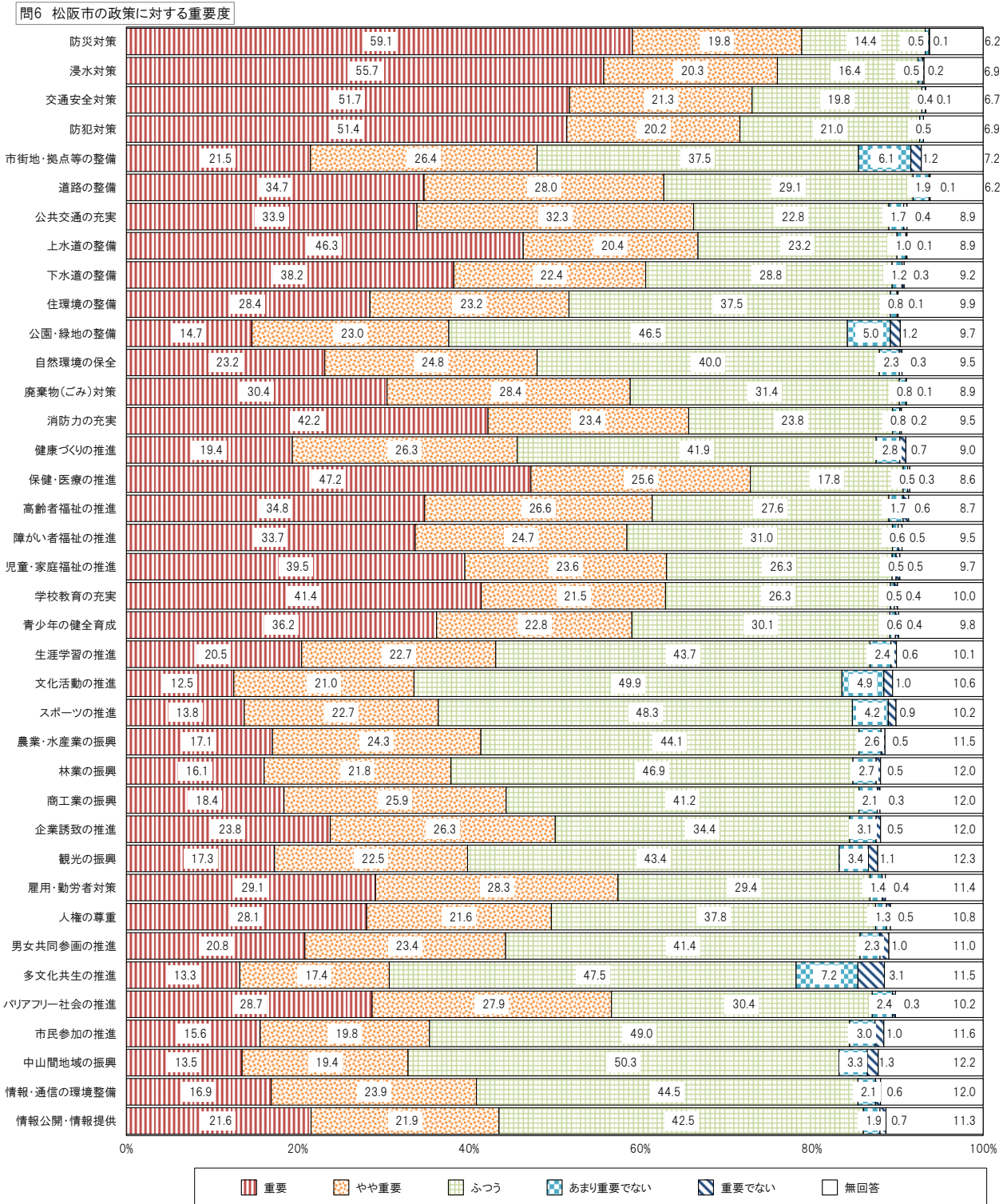
(1) 満足度

満足度(「満足」「やや満足」の合計)が高いものとして、「上水道の整備」が最も高く45.3%となっており、ついで「保健・医療の推進」が30.3%、「下水道の整備」が28.4%となっている。一方で不満度(「やや不満」「不満」)が高いものは、「公共交通の充実」が49.7%で最も高く、ついで「交通安全対策」が38.5%、「市街地・拠点等の整備」が38.0%となっている。



(2) 重要度

重要度（「重要」「やや重要」の合計）が高いものとして、「防災対策」が78.9%で最も高く、
ついで「浸水対策」が76.0%、「交通安全対策」が73.0%となっている。



施策項目ごとに、満足度と重要度のそれぞれに評価得点をつけて評価する。評価得点は、満足度及び重要度の選択肢に対して、次に示す点数をつけて算出する。算出にあたっては、以下の式を用いる。

《満足度と重要度の各選択肢に対する得点（ウエイト得点）》

選択肢	満足度	重要度	得点
1	満足	重要	5
2	やや満足	やや重要	4
3	ふつう	ふつう	3
4	やや不満	あまり重要でない	2
5	不満	重要でない	1

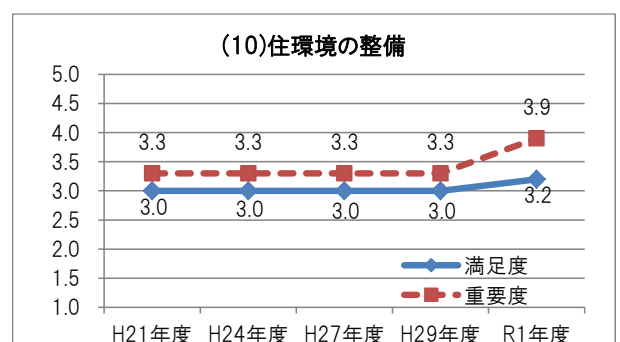
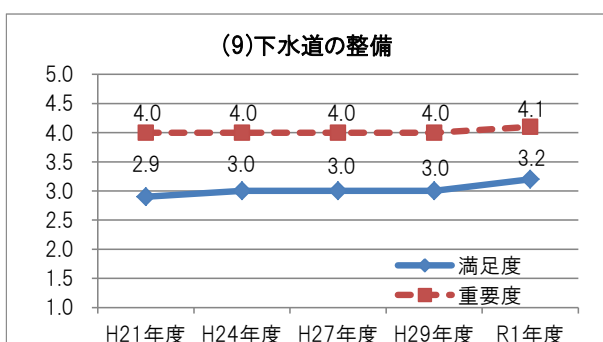
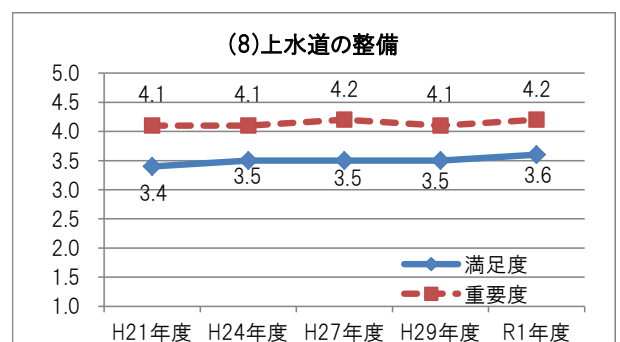
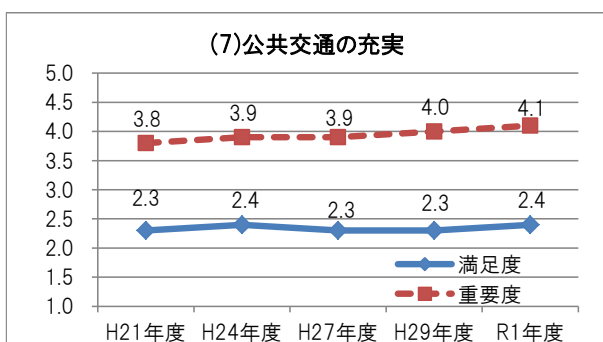
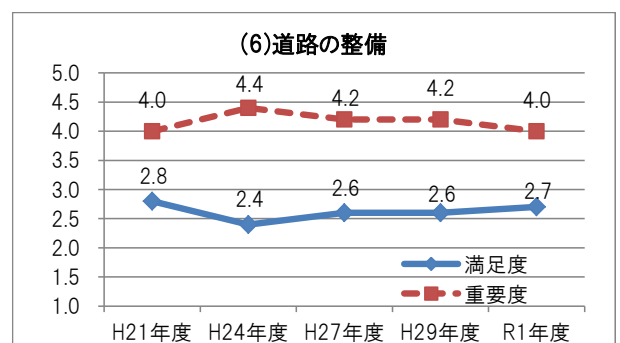
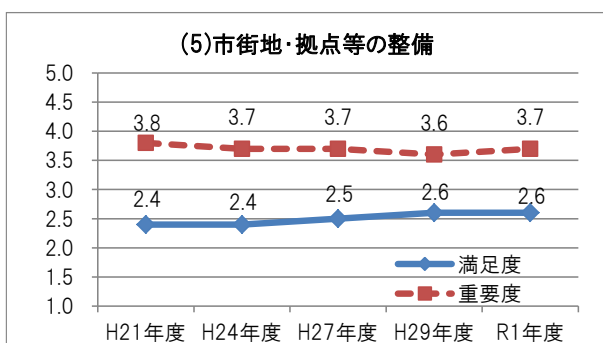
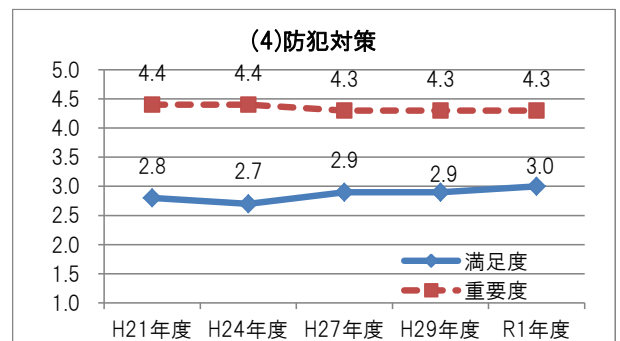
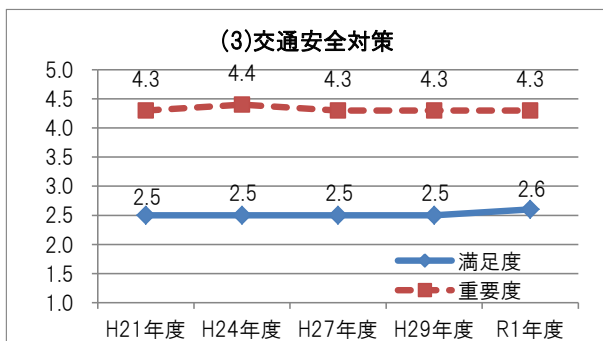
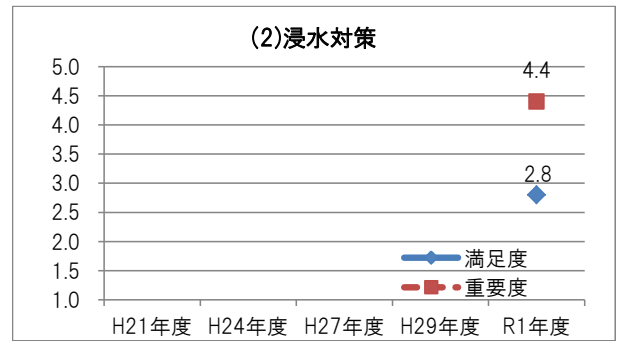
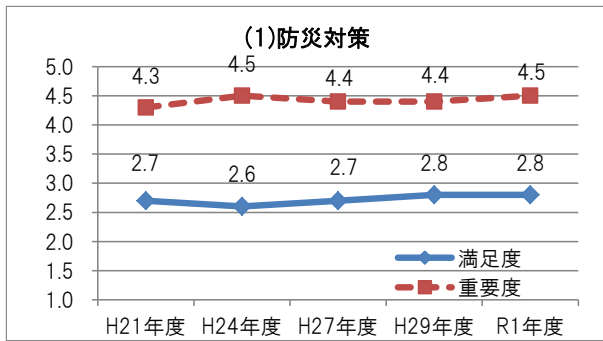
《評価得点の算出式》

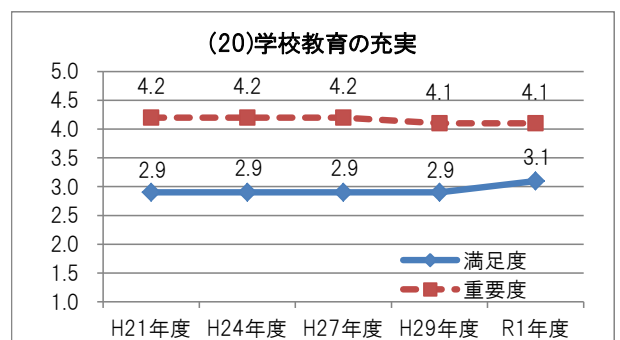
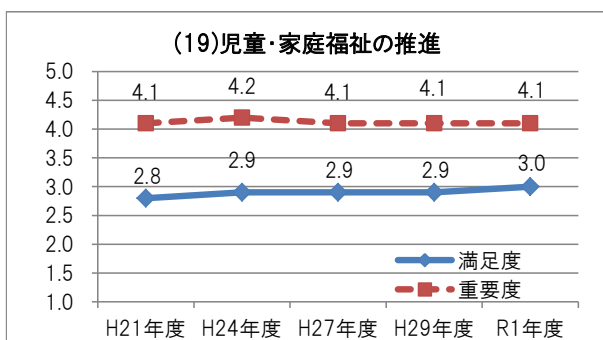
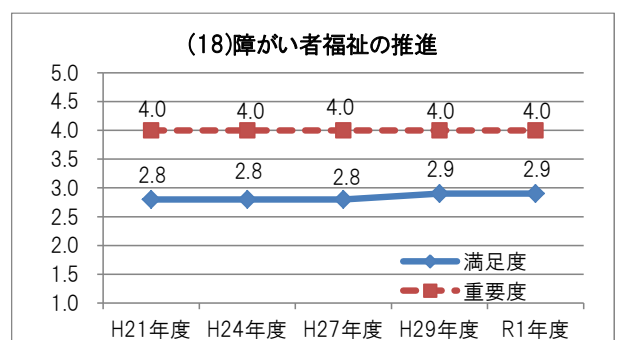
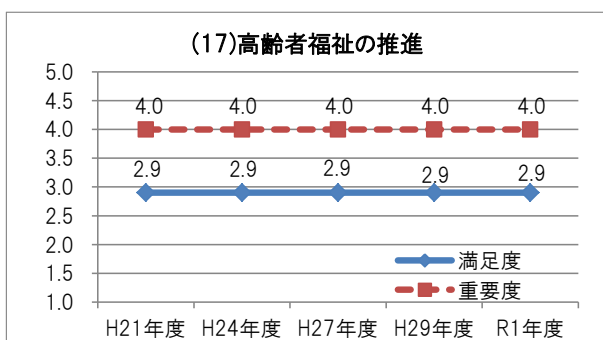
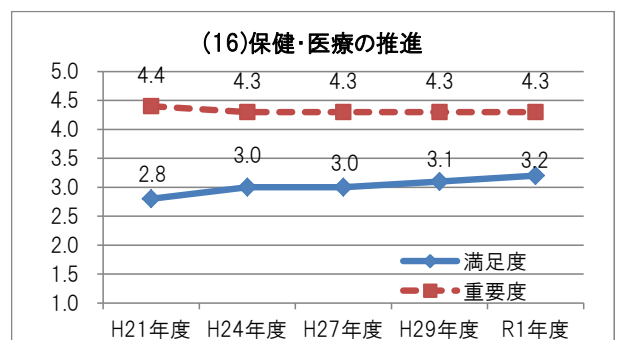
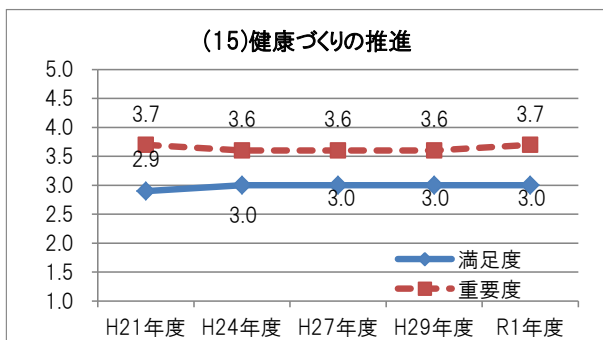
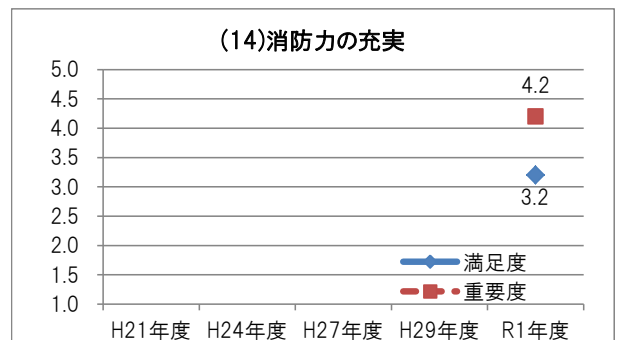
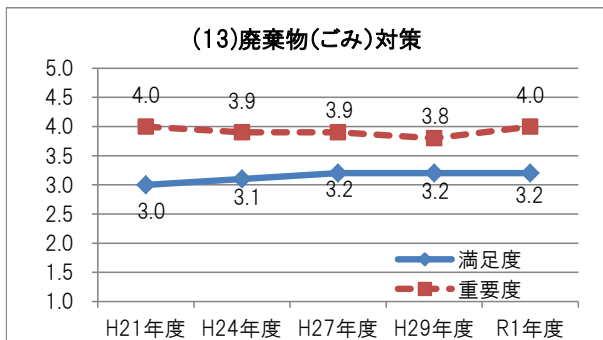
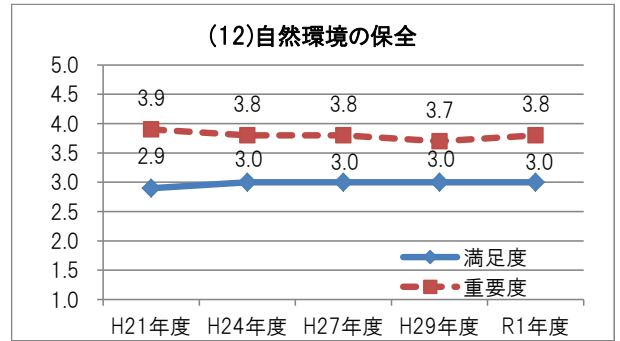
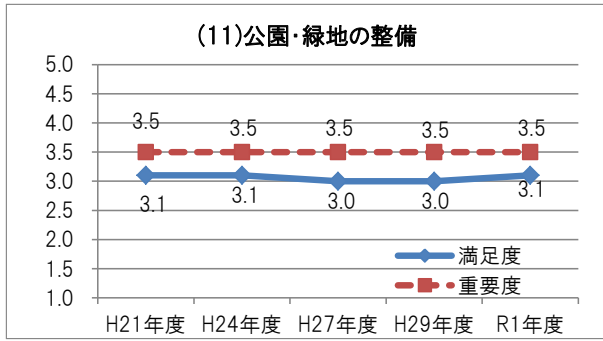
満足度 =	$\frac{[\text{満足}] \times 5 \text{点} + [\text{やや満足}] \times 4 \text{点} + [\text{ふつう}] \times 3 \text{点} + [\text{やや不満}] \times 2 \text{点} + [\text{不満}] \times 1 \text{点}}{\text{全回答数}(n) - \text{無回答数}}$
重要度 =	$\frac{[\text{重要}] \times 5 \text{点} + [\text{やや重要}] \times 4 \text{点} + [\text{ふつう}] \times 3 \text{点} + [\text{あまり重要でない}] \times 2 \text{点} + [\text{重要でない}] \times 1 \text{点}}{\text{全回答数}(n) - \text{無回答数}}$

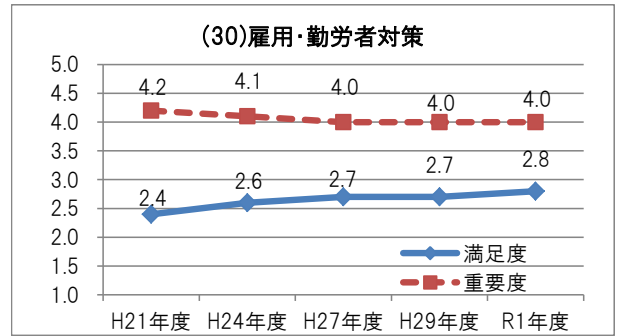
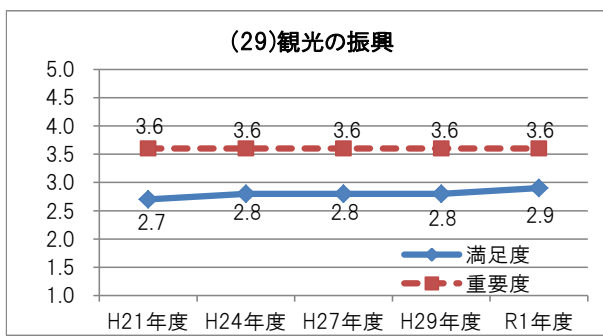
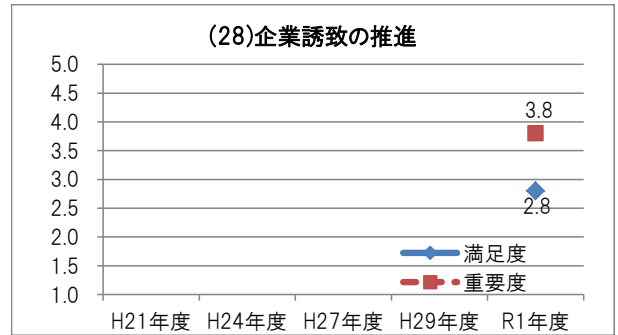
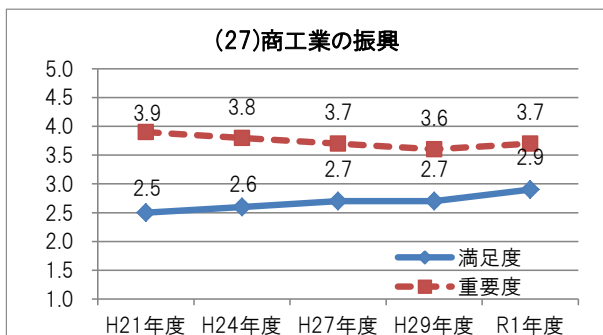
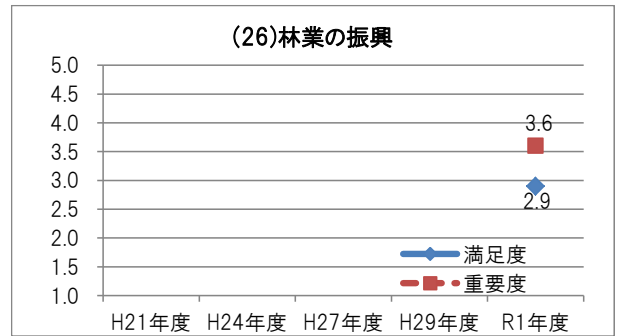
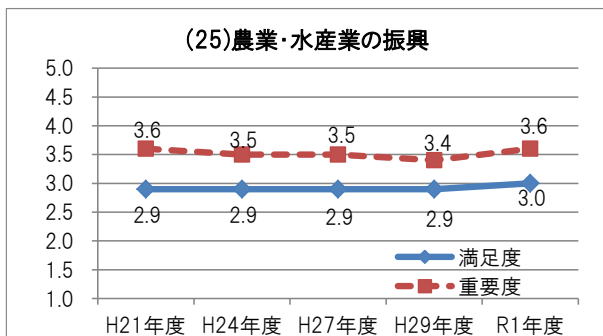
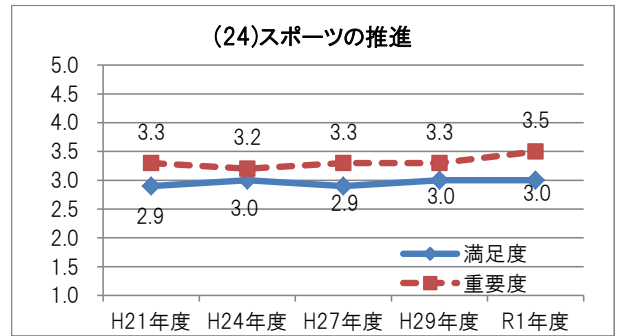
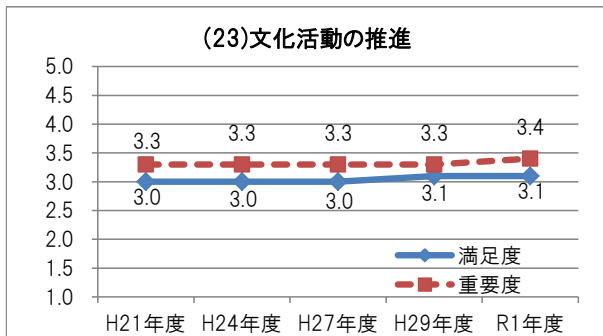
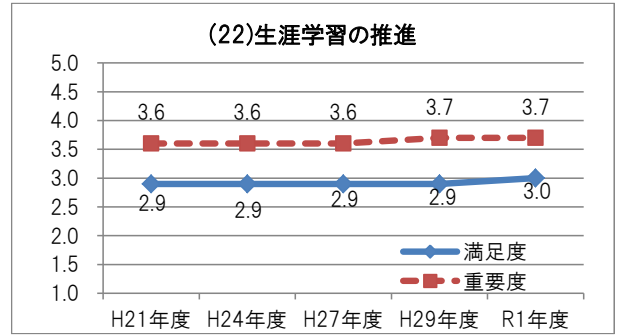
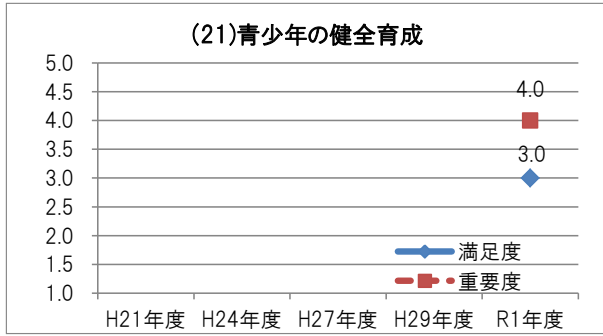
前回と比較可能な 32 項目で比較すると、満足度では 32 項目中 28 項目が上昇、2 項目が横ばい、2 項目が下降となり、平均では 0.06 の上昇となっている。

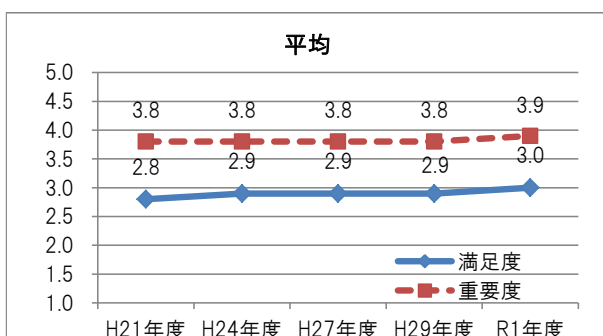
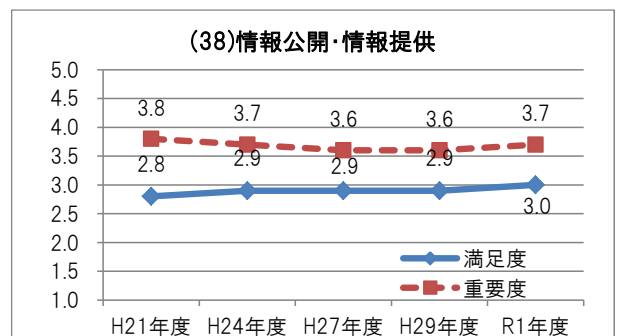
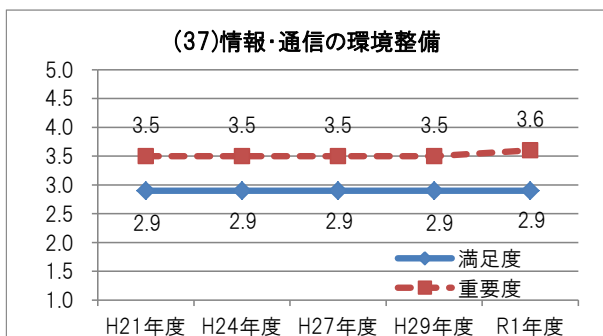
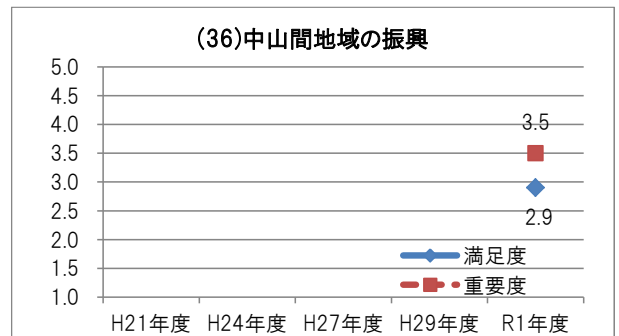
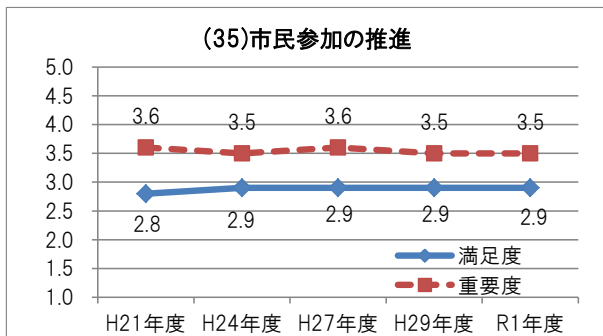
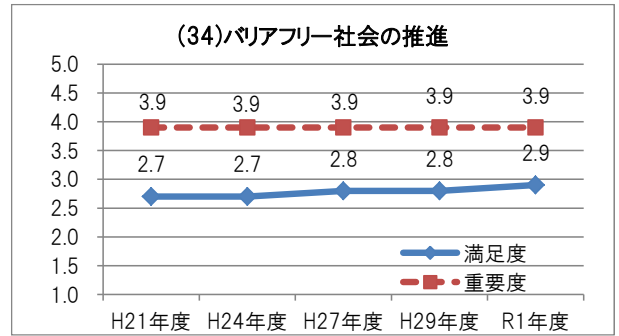
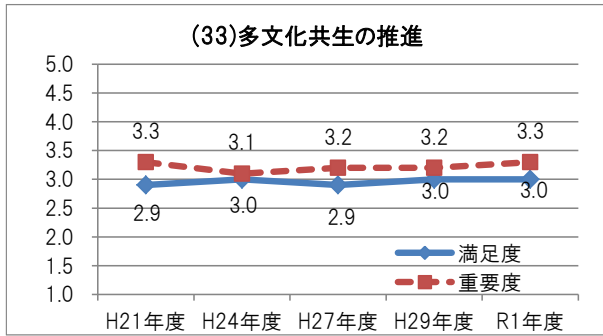
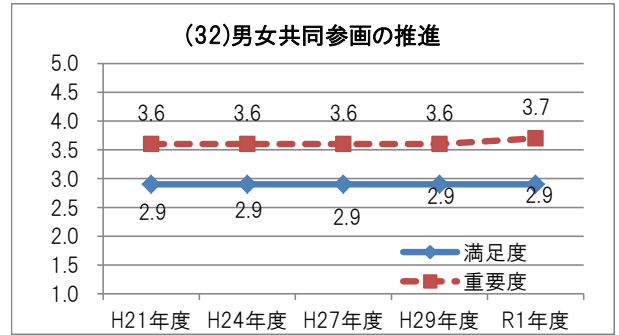
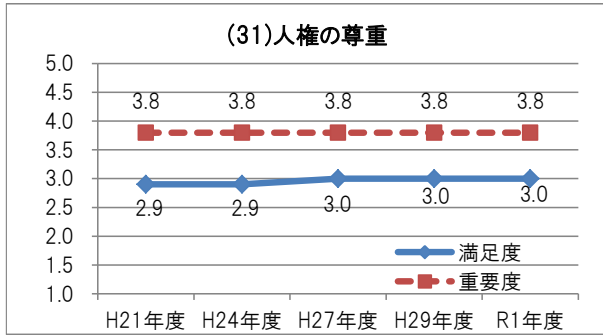
重要度をみると、32 項目中 29 項目が上昇、1 項目が横ばい、2 項目が下降となり、平均では 0.08 の上昇となっている。

項目番号	施策	項目番号	施策	満足度					重要度												
				H21年度	H24年度	H27年度	H29年度	R1年度	H21年度	H24年度	H27年度	H29年度	R1年度								
1	防災対策の整備	1	防災対策	2.70	↓	2.61	↗	2.72	↗	2.78	↗	2.82	4.33	↗	4.49	↓	4.38	↗	4.42	↗	4.46
2	交通安全対策の整備	2	浸水対策									2.77									4.40
3	防犯対策の整備	3	交通安全対策	2.50	↓	2.47	→	2.47	↗	2.53	↗	2.55	4.28	↗	4.35	↓	4.31	↓	4.29	↗	4.33
4	市街地・拠点等の整備	4	防犯対策	2.78	↓	2.74	↗	2.91	↗	2.95	→	2.95	4.36	↗	4.38	↓	4.31	↓	4.28	↗	4.32
5	道路・港湾等の整備	5	市街地・拠点等の整備	2.39	↗	2.42	↗	2.49	↗	2.56	↗	2.57	3.76	↗	3.72	↗	3.74	↗	3.63	↗	3.66
6	公共交通の整備	6	道路の整備	2.79	↓	2.40	↗	2.56	↗	2.61	↗	2.74	3.97	↗	4.37	↓	4.21	↗	4.24	↓	4.02
7	上下道の整備	7	公共交通の充実	2.30	↗	2.37	↗	2.35	↓	2.25	↗	2.39	3.83	↗	3.87	↗	3.90	↗	3.98	↗	4.07
8	下水道の整備	8	上下道の整備	3.37	↗	3.47	↗	3.50	↗	3.54	↗	3.60	4.08	↗	4.14	↗	4.16	↗	4.12	↗	4.23
9	住環境の整備	9	下水道の整備	2.93	↗	2.96	↗	2.97	↗	2.99	↗	3.22	3.95	↗	3.97	↗	4.00	↓	3.98	↗	4.07
10	自然環境の保全	10	住環境の整備	2.97	↗	3.00	↓	2.99	↓	2.97	↗	3.17	3.29	→	3.29	↗	3.31	→	3.31	↗	3.88
11	廃棄物(ごみ)対策の整備	11	公園・緑地の整備	3.05	↗	3.11	↓	3.03	↓	3.00	↗	3.10	3.49	↗	3.45	↗	3.50	↓	3.48	↗	3.50
12	健康づくりの推進	12	自然環境の保全	2.94	↗	2.98	↓	2.97	↗	2.98	↗	3.05	3.87	↗	3.76	→	3.76	↓	3.75	→	3.75
13	保健・医療の推進	13	廃棄物(ごみ)対策	2.97	↗	3.10	↗	3.20	→	3.20	↓	3.17	4.02	↗	3.90	→	3.90	↓	3.83	↗	3.97
14	高齢者福祉の推進	14	消防力の充実									3.15									4.18
15	障がい者福祉の推進	15	健康づくりの推進	2.88	↗	2.97	→	2.97	↗	3.00	↗	3.02	3.65	↓	3.62	↗	3.65	↓	3.63	↗	3.67
16	児童・家庭福祉の推進	16	保健・医療の推進	2.83	↗	2.99	↗	3.03	↗	3.07	↗	3.19	4.37	↗	4.29	→	4.29	↓	4.26	↗	4.30
17	学校教育等の充実	17	高齢者福祉の推進	2.87	↗	2.94	→	2.94	→	2.94	→	2.94	4.04	↗	4.00	↓	3.98	↓	3.97	↗	4.02
18	生涯学習の推進	18	障がい者福祉の推進	2.76	↗	2.80	↗	2.82	↗	2.85	↗	2.92	4.04	→	4.04	↗	3.98	↓	3.97	↗	4.00
19	文化活動の推進	19	児童・家庭福祉の推進	2.79	↗	2.89	↗	2.91	↗	2.94	↗	3.01	4.13	↗	4.16	↓	4.11	↓	4.07	↗	4.12
20	スポーツ・レクリエーションの振興	20	学校教育等の充実	2.87	↗	2.93	→	2.93	↗	2.95	↗	3.08	4.17	↗	4.18	→	4.18	↓	4.13	↗	4.15
21	農林水産業の振興	21	青少年の健全育成									3.03									4.04
22	商工業の振興	22	生涯学習の推進	2.85	↗	2.93	↓	2.91	↗	2.94	↗	2.97	3.60	↗	3.61	↓	3.58	↗	3.65	↗	3.67
23	観光の振興	23	文化活動の推進	3.00	↗	3.01	→	3.01	↗	3.06	↗	3.10	3.34	↓	3.31	↗	3.33	↓	3.30	↗	3.44
24	雇用の振興	24	スポーツの推進	2.88	↗	2.95	↓	2.94	↗	2.97	↗	3.00	3.30	↗	3.22	↗	3.30	↗	3.27	↗	3.49
25	人権の尊重	25	農林水産業の振興	2.87	↗	2.92	↓	2.91	↗	2.95	↗	3.01	3.56	↗	3.50	↗	3.52	↓	3.43	↗	3.62
26	男女共同参画社会の形成	26	林業の振興									2.95									3.57
27	国際化の推進	27	商工業の振興	2.45	↗	2.57	↗	2.65	↗	2.70	↗	2.89	3.85	↓	3.78	↓	3.71	↓	3.65	↗	3.68
28	ハリアフリー社会の推進	28	企業誘致の推進									2.82									3.79
29	市民参加の推進	29	観光の振興	2.66	↗	2.75	↗	2.79	↗	2.83	↗	2.93	3.60	↗	3.61	↓	3.58	↓	3.56	↗	3.59
30	中山間地域の振興	30	雇用の振興	2.43	↗	2.57	↗	2.67	↗	2.72	↗	2.79	4.15	↗	4.08	↓	4.01	↓	3.96	↗	3.95
31	情報・通信の整備	31	人権の尊重	2.88	↗	2.93	↗	2.95	↗	2.99	↗	3.00	3.79	↗	3.81	↓	3.76	↗	3.78	↗	3.85
32	情報公開・情報提供	32	男女共同参画社会の形成	2.89	↗	2.94	↓	2.91	↗	2.93	↗	2.95	3.56	↗	3.58	→	3.58	→	3.58	↗	3.68
平均		33	多文化共生の推進	2.87	↗	2.95	↗	2.92	↗	2.97	↗	2.96	3.27	↗	3.14	↗	3.19	↗	3.20	↗	3.35
		34	ハリアフリー社会の推進	2.66	↗	2.74	↗	2.79	→	2.79	↗	2.86	3.94	↗	3.92	↓	3.87	↓	3.86	↗	3.92
		35	市民参加の推進	2.76	↗	2.87	↗	2.85	↗	2.89	↗	2.95	3.60	↗	3.50	↗	3.55	↗	3.48	↗	3.52
		36	中山間地域の振興									2.88									3.46
		37	情報・通信の環境整備	2.87	↗	2.91	↓	2.88	↗	2.91	↗	2.94	3.47	↗	3.48	↗	3.50	↓	3.49	↗	3.62
		38	情報公開・情報提供	2.78	↗	2.94	↗	2.85	↗	2.91	↗	2.96	3.79	↗	3.66	↓	3.64	↓	3.62	↗	3.70
		平均		2.80	↗	2.85	↗	2.90	→	2.90	↗	2.96	3.83	↗	3.82	↓	3.80	↓	3.79	↗	3.87







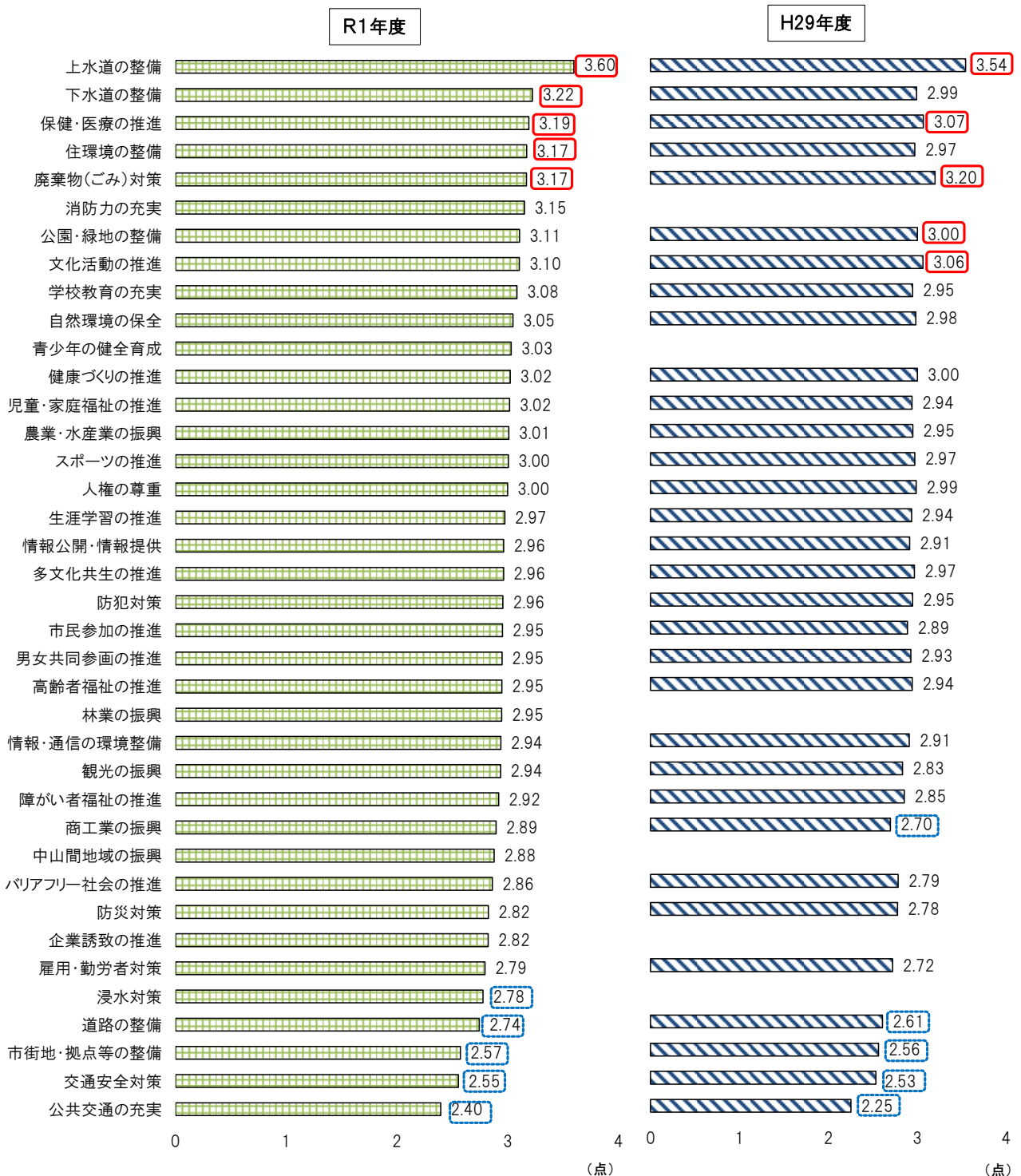


満足度の評価得点が高い上位5項目は赤枠線内 、評価得点が低い下位5項目は青枠線内 となっている。

今回の上位5項目のうち3項目は前回と同様の項目となっているが、「下水道の整備」と「住環境の整備」の2項目については、今回の調査で上位となってきた。また、前回の上位5項目のうち「廃棄物（ごみ）対策」を除く4項目については満足度が上昇している。

一方で下位5項目について、下位から4番目までは順位も含め前回と同様となっている。前回下位5項目に入っていた「商工業の振興」については、順位が上昇している。

問6 松阪市の政策に対する満足度

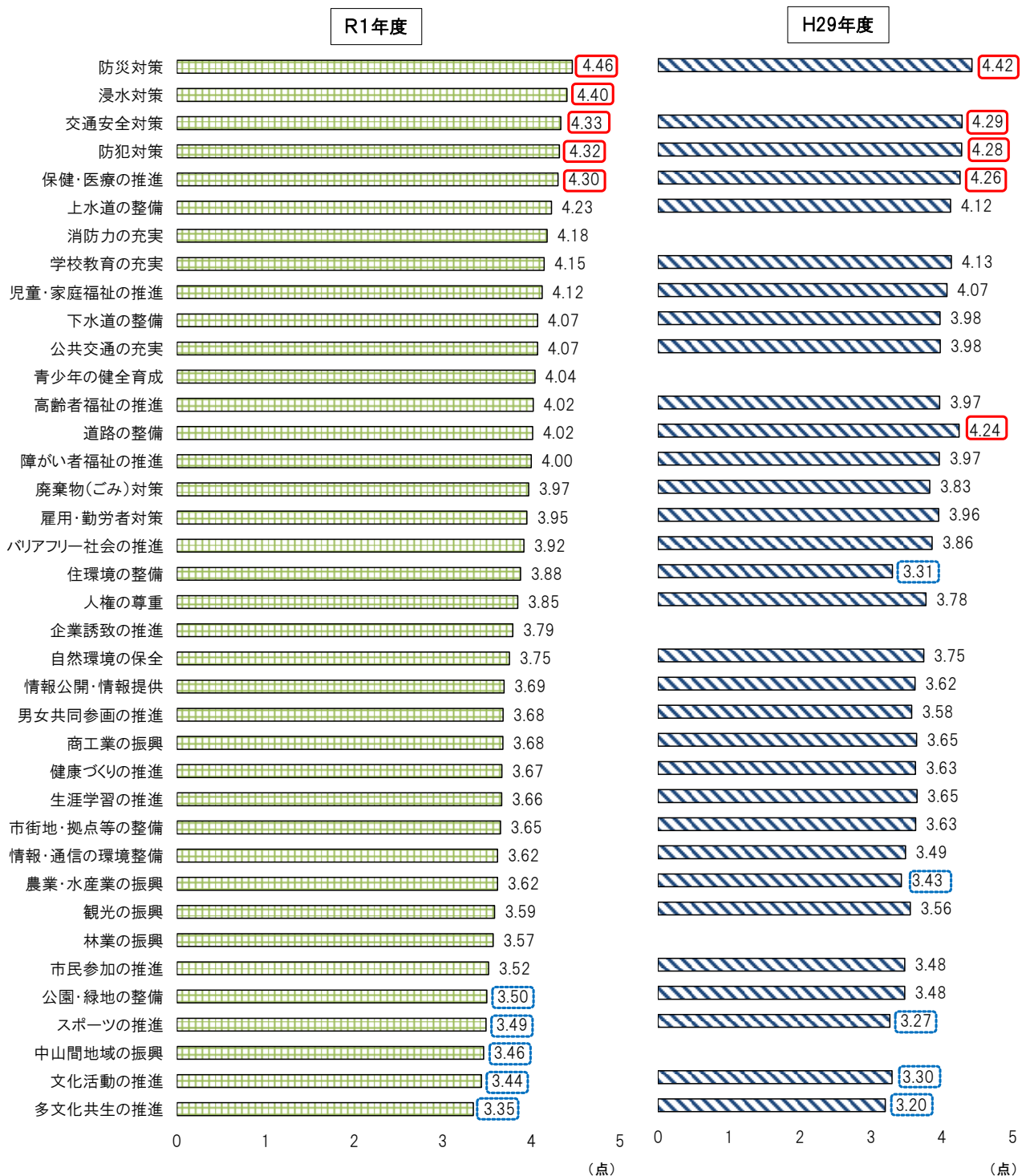


重要度の評価得点が高い上位5項目は赤枠線内 、評価得点が低い下位5項目は青枠線内 となっている。

今回の上位5項目のうち4項目は前回と同様の項目となっているが、「道路の整備」については前回から重要度が大きく低下している。

一方で下位5項目について、下位から3項目は前回と同様となっている。前回下位5項目に入っていた「住環境の整備」および「農業・水産業の振興」については、重要度が大きく上昇している。

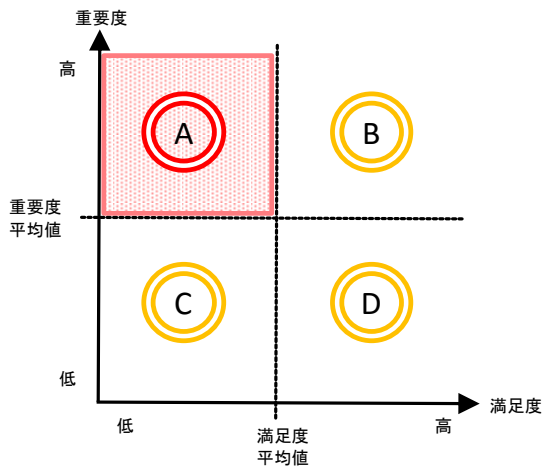
問6 松阪市の政策に対する重要度



38 項目の満足度と重要度から「市民が優先して求めている施策」を検討する。

《分析方法》

算出した満足度と重要度の評価得点をもとに、満足度と重要度をそれぞれ横軸と縦軸にとり、満足度と重要度の平均値を軸として、4つの領域に分割して分析する。



《最重点項目の設定》

重要度が高く、満足度が低い項目は、市民が最も望んでいる最重点項目と考えることができる。

最重点項目の判定基準

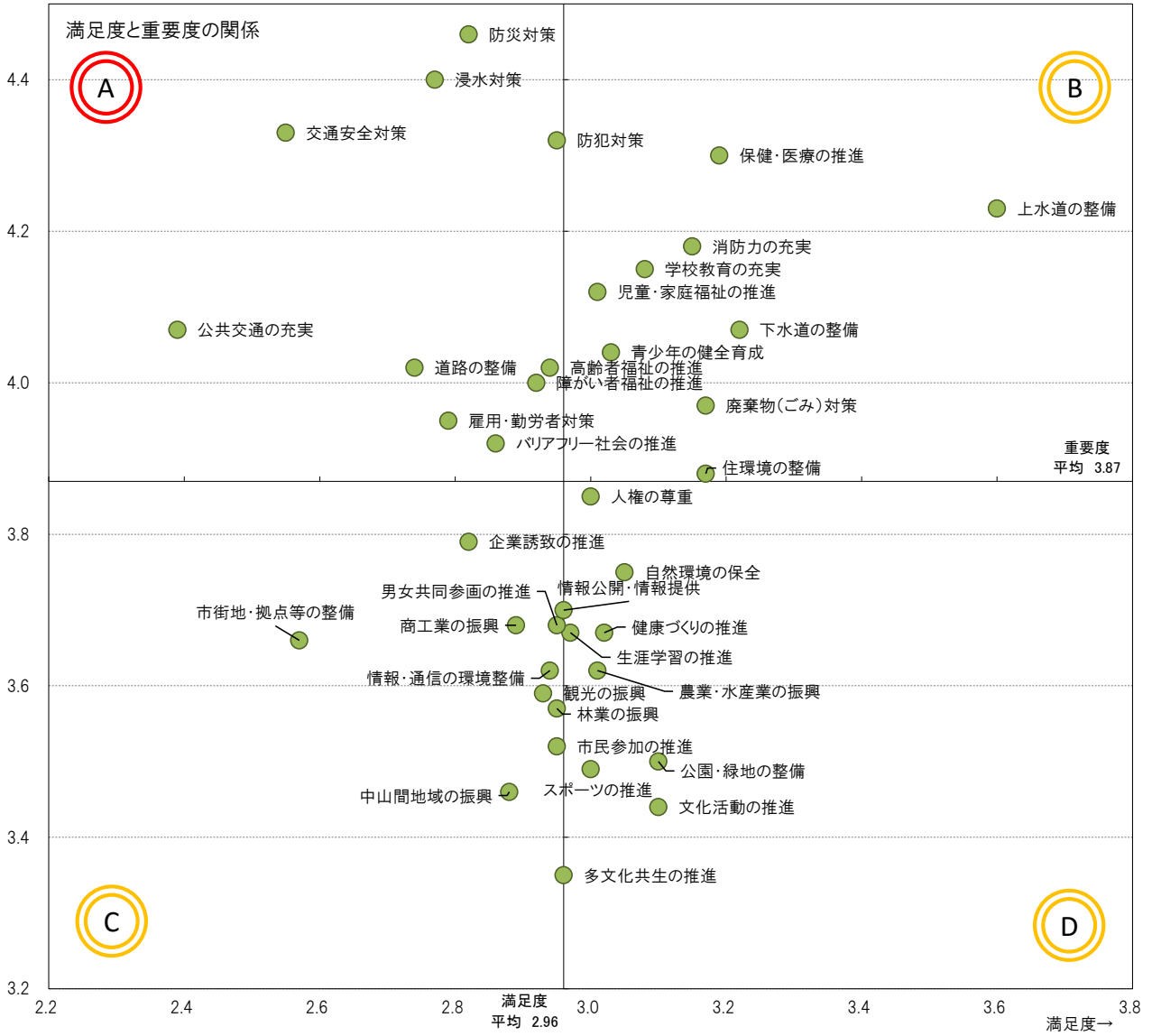
- ・満足度⇒平均値を下回る
- ・重要度⇒平均値を上回る

《施策項目に対する考え方》

分類

- ① A 満足度が低く、重要度が高い ⇒ **最重点項目（優先すべき施策）**
- ② B 満足度が高く、重要度が高い ⇒ **これまで通り継続して実施すべき施策**
- ③ C 満足度が低く、重要度が低い ⇒ **施策内容等を見直し、検討を要する施策**
- ④ D 満足度が高く、重要度が低い ⇒ **これまで通り継続し、将来に向けての検討が考えられる施策**

↑重要度



以上の方法により、満足度と重要度をまとめると、各項目の分類は下記のとおりとなる。

<p style="text-align: center;">最重点項目(市民が優先して求めている施策)</p> <p>○ 防災対策 ○ 道路の整備 ○ 障がい者福祉の推進 ○ 浸水対策 ○ 公共交通の充実 ○ 雇用・勤労者対策 ○ 交通安全対策 ○ 高齢者福祉の推進 ○ バリアフリー社会の推進 ○ 防犯対策</p>		
<p style="text-align: center;">これまで通り継続して実施すべき施策</p> <p>○ 上水道の整備 ○ 廃棄物(ごみ)対策 ○ 児童・家庭福祉の推進 ○ 下水道の整備 ○ 消防力の充実 ○ 学校教育の充実 ○ 住環境の整備 ○ 保健・医療の推進 ○ 青少年の健全育成</p>		
<p style="text-align: center;">施策内容等を見直し、検討を要する施策</p> <p>○ 市街地・拠点等の整備 ○ 企業誘致の推進 ○ 市民参加の推進 ○ 林業の振興 ○ 観光の振興 ○ 中山間地域の振興 ○ 商工業の振興 ○ 男女共同参画の推進 ○ 情報・通信の環境整備</p>		
<p style="text-align: center;">これまで通り継続し、将来に向けての検討が考えられる施策</p> <p>○ 公園・緑地の整備 ○ 文化活動の推進 ○ 人権の尊重 ○ 自然環境の保全 ○ スポーツの推進 ○ 多文化共生の推進 ○ 健康づくりの推進 ○ 農業・水産業の振興 ○ 情報公開・情報提供 ○ 生涯学習の推進</p>		

最重点項目について前回と比べると以下の通りとなる。

9つの重点項目をみると、3つのパターンに分かれる。

①『満足度が上昇』かつ『重要度が下降』

「道路の整備」「雇用・勤労者対策」があげられる。

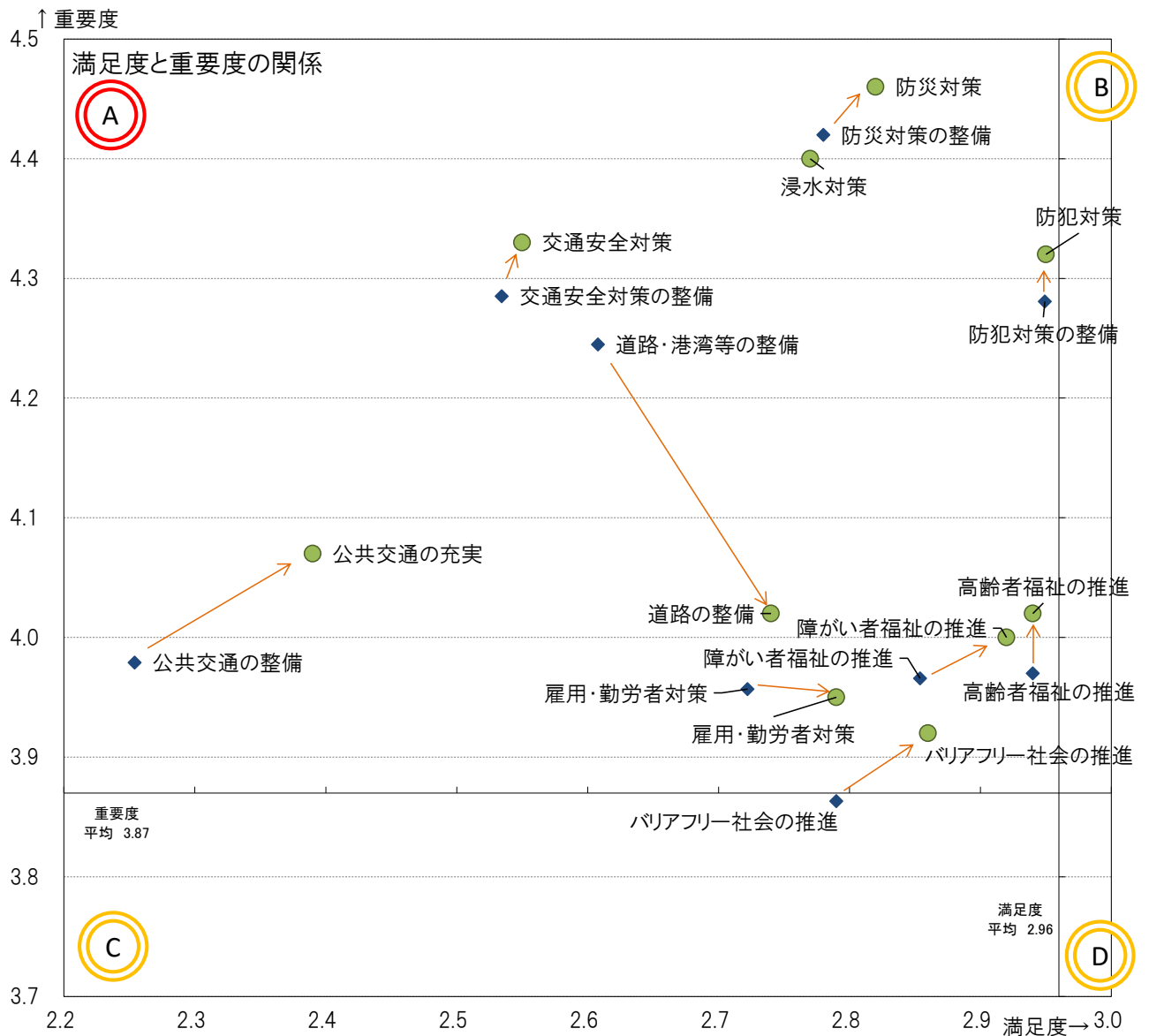
②『満足度が上昇』かつ『重要度が上昇』

「防災対策の整備」「公共交通の充実」「交通安全対策」「障がい者福祉の推進」「バリアフリー社会の推進」があげられる。

③『満足度がよこばい』かつ『重要度が上昇』

「高齢者福祉の推進」「防犯対策」があげられる。

※「浸水対策」は今回調査から



ここで、最重点項目について、ニーズを算出して整理する。

《ニーズ得点》

ニーズ得点は、満足度と重要度により、満足度が低くかつ重要度が大きいほど点数が高くなる指標であり、その得点が大きい項目ほど市民のニーズが高いことを示している。

《満足度と重要度の各選択肢に対する得点（ウエイト得点）》

選択肢	満足度	重要度	得点
1	満足	重要	5
2	やや満足	やや重要	4
3	ふつう	ふつう	3
4	やや不満	あまり重要でない	2
5	不満	重要でない	1

《ニーズ得点の算出式》

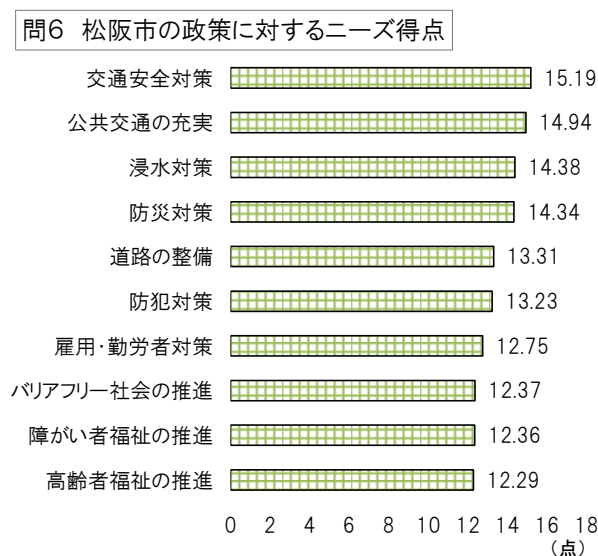
$$\text{ニーズ得点} = (6 - \text{満足度得点}) \times \text{重要度得点}$$

優先順位の判定にあたっては、平均ニーズ得点で行う。

《平均ニーズ得点の算出式》

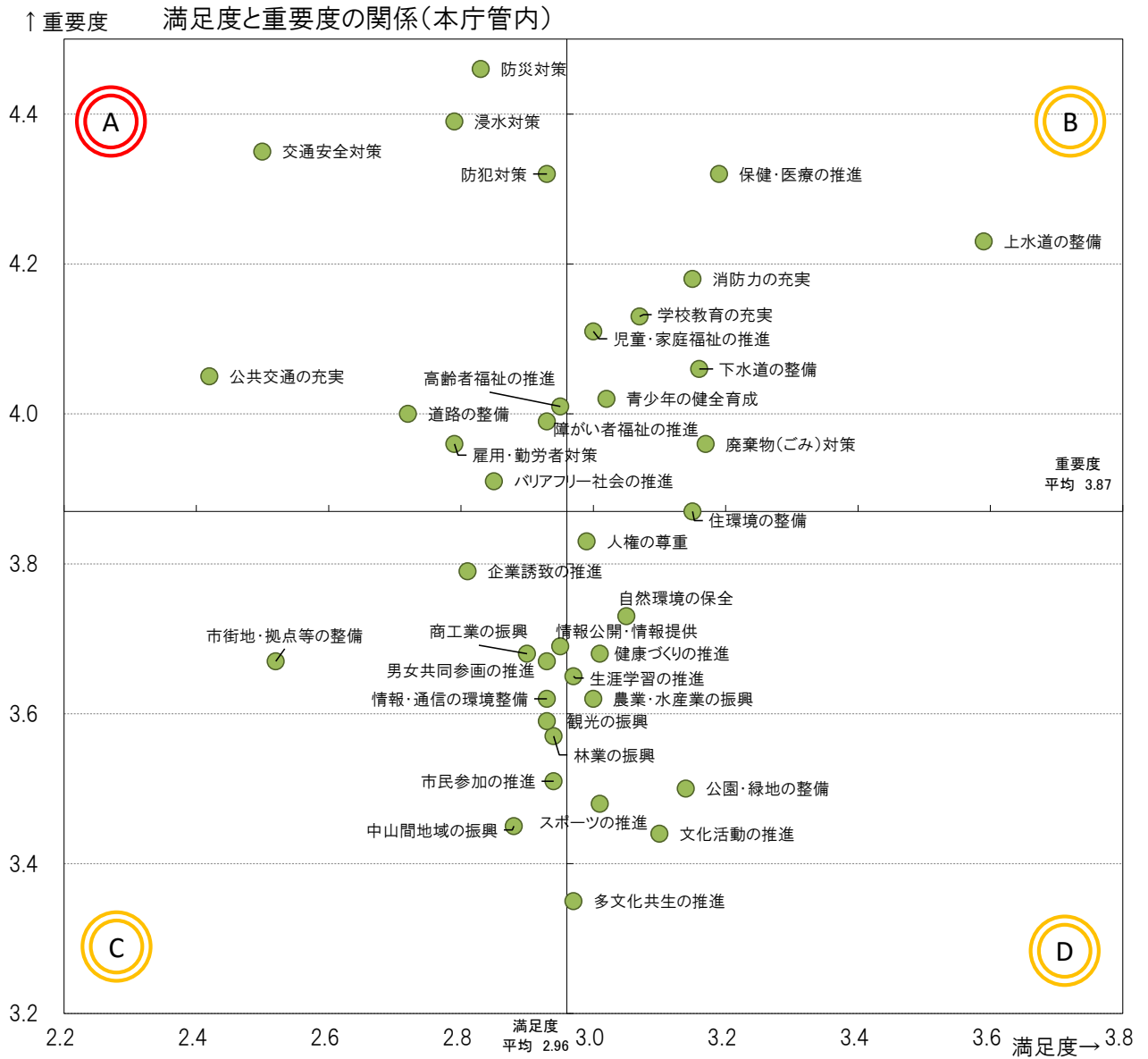
$$\text{平均ニーズ得点} = \text{ニーズ得点の合計} \div \text{回答数(満足度と重要度の両方を回答された数)}$$

以上の算出方法をもとに、最重点項目について平均ニーズ得点を整理すると、以下のように「交通安全対策」「公共交通の充実」「浸水対策」等のニーズ得点が高くなっている。



ここで、居住地域別に38項目の満足度と重要度から「市民が優先して求めている施策」を検討する。

《本庁管内》

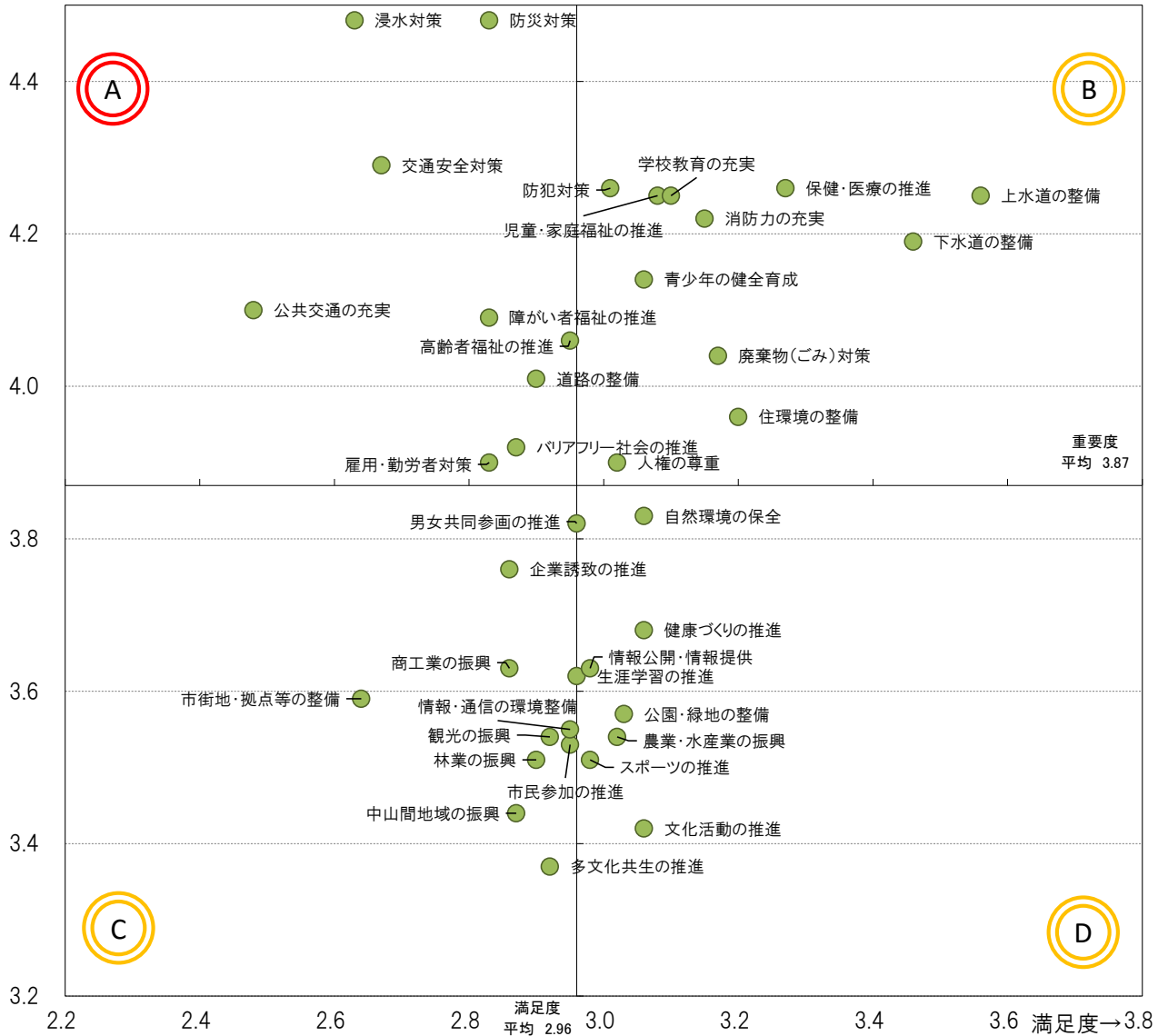


最重点項目 (本庁管内の市民が優先して求めている施策)

- 防災対策
- 道路の整備
- 障がい者福祉の推進
- 浸水対策
- 公共交通の充実
- 雇用・勤労者対策
- 交通安全対策
- 高齢者福祉の推進
- パリアフリー社会の推進
- 防犯対策

《嬉野管内》

↑重要度 満足度と重要度の関係(嬉野管内)

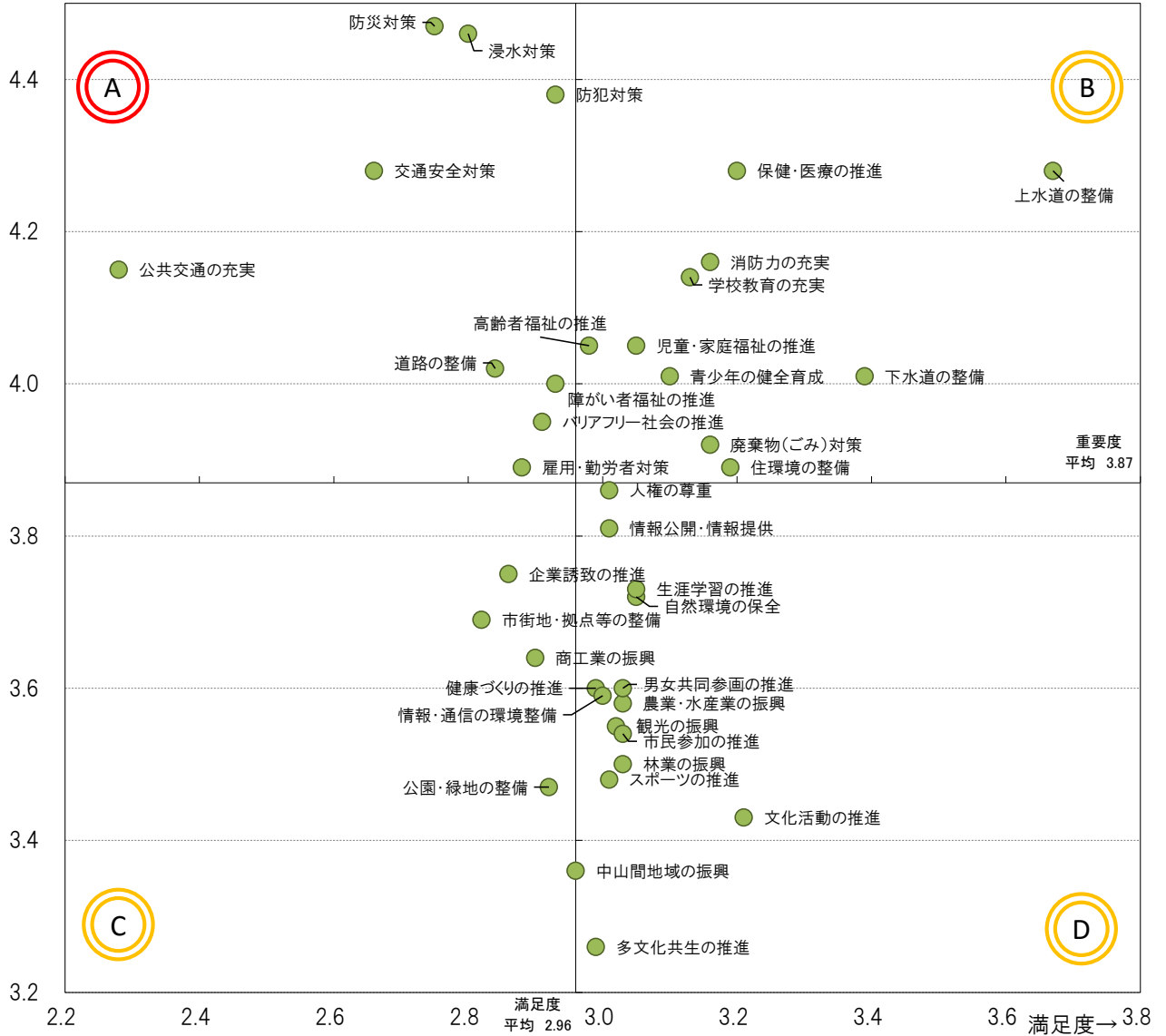


最重点項目 (嬉野管内の市民が優先して求めている施策)

- 防災対策
- 道路の整備
- 障がい者福祉の推進
- 浸水対策
- 公共交通の充実
- 雇用・勤労者対策
- 交通安全対策
- 高齢者福祉の推進
- バリアフリー社会の推進

《三雲管内》

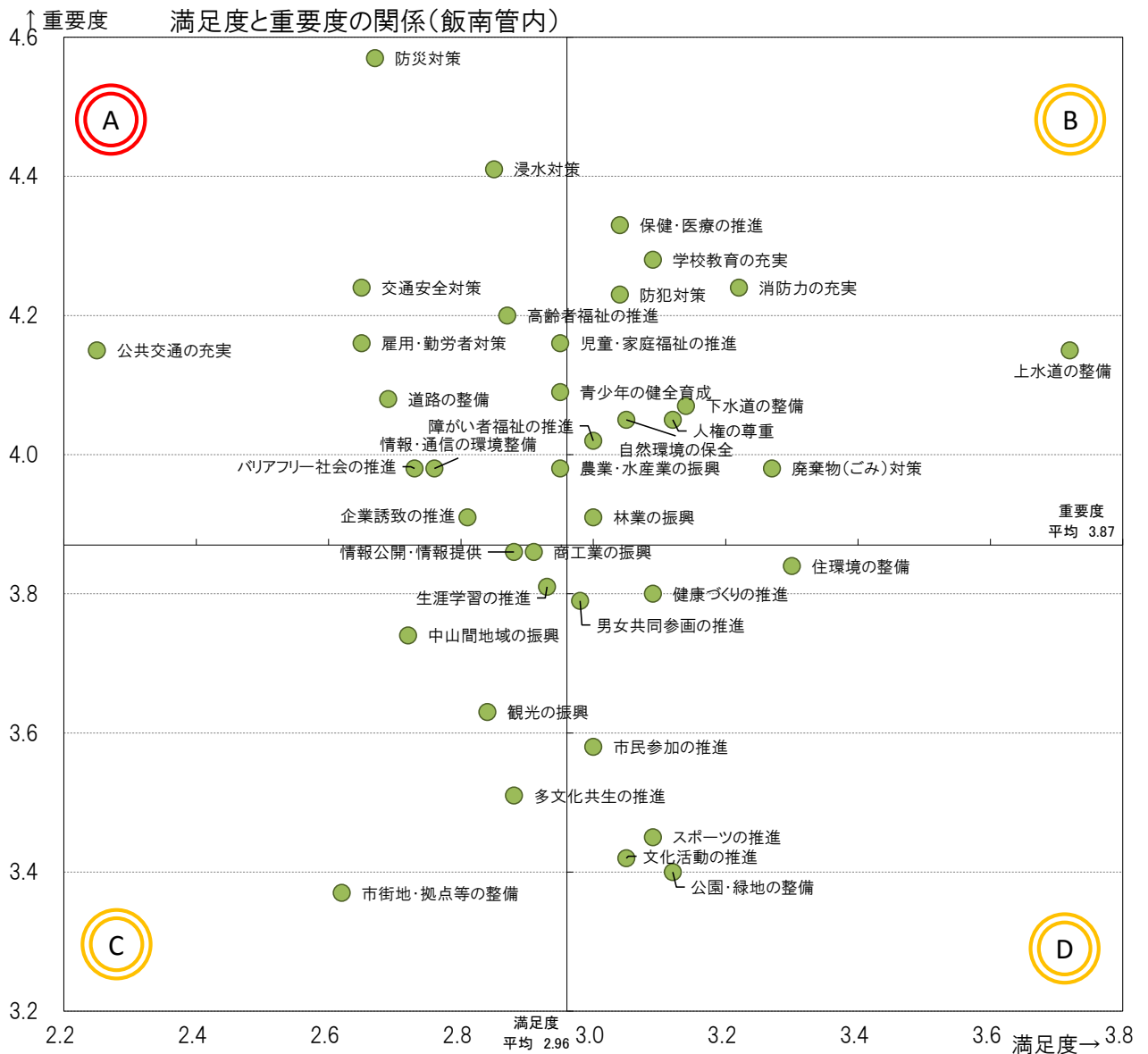
↑重要度 満足度と重要度の関係(三雲管内)



最重点項目 (三雲管内の市民が優先して求めている施策)

- 防災対策
- 浸水対策
- 交通安全対策
- 防犯対策
- 道路の整備
- 公共交通の充実
- 障がい者福祉の推進
- 雇用・勤労者対策
- バリアフリー社会の推進

《飯南管内》

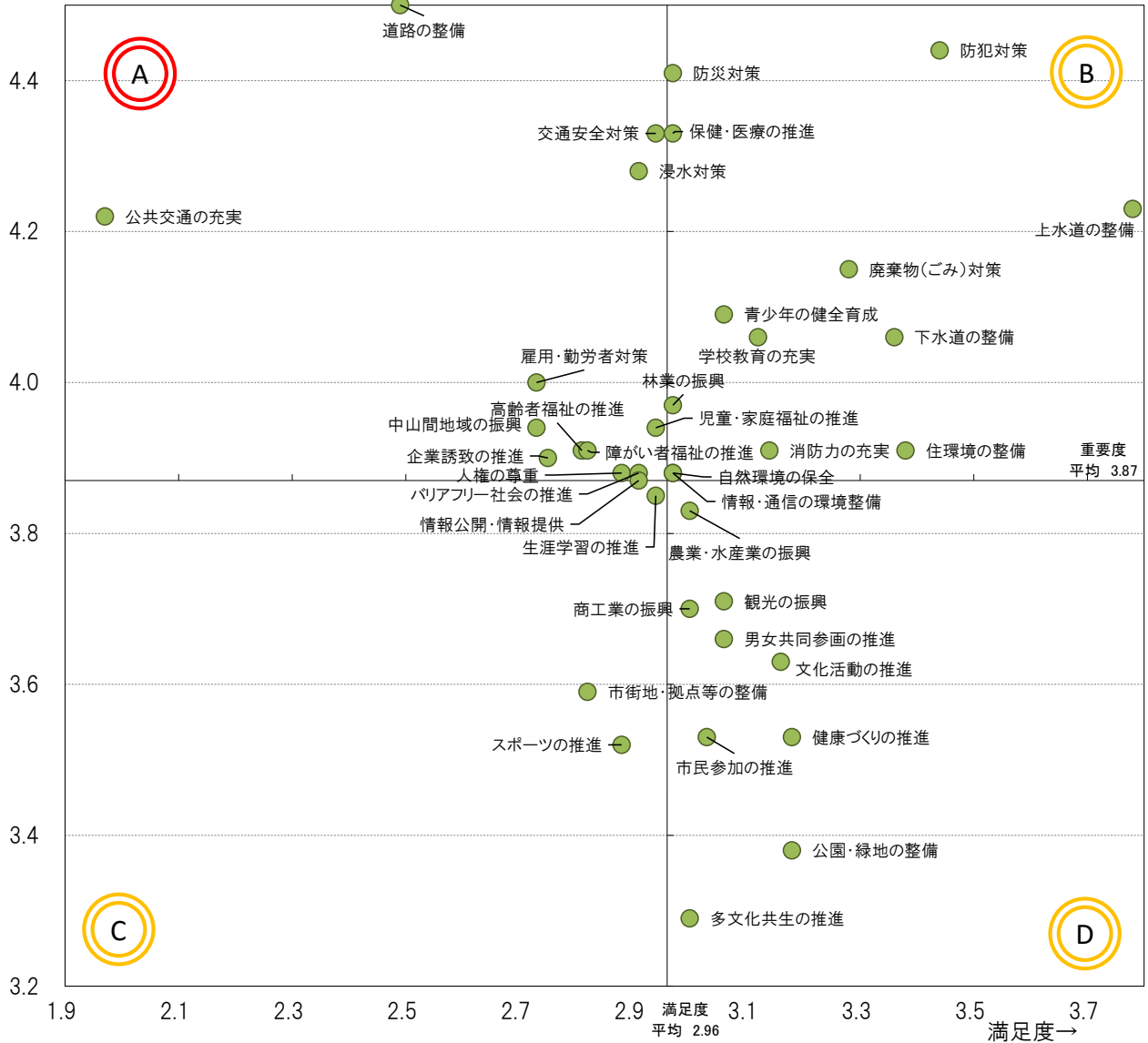


最重点項目 (飯南管内の市民が優先して求めている施策)

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 防災対策 | <input type="checkbox"/> 高齢者福祉の推進 | <input type="checkbox"/> 企業誘致の推進 |
| <input type="checkbox"/> 浸水対策 | <input type="checkbox"/> 児童・家庭福祉の推進 | <input type="checkbox"/> 雇用・勤労者対策 |
| <input type="checkbox"/> 交通安全対策 | <input type="checkbox"/> 青少年の健全育成 | <input type="checkbox"/> パリアフリー社会の推進 |
| <input type="checkbox"/> 道路の整備 | <input type="checkbox"/> 農業・水産業の振興 | <input type="checkbox"/> 情報・通信の環境整備 |
| <input type="checkbox"/> 公共交通の充実 | | |

《飯高管内》

↑重要度 満足度と重要度の関係(飯高管内)



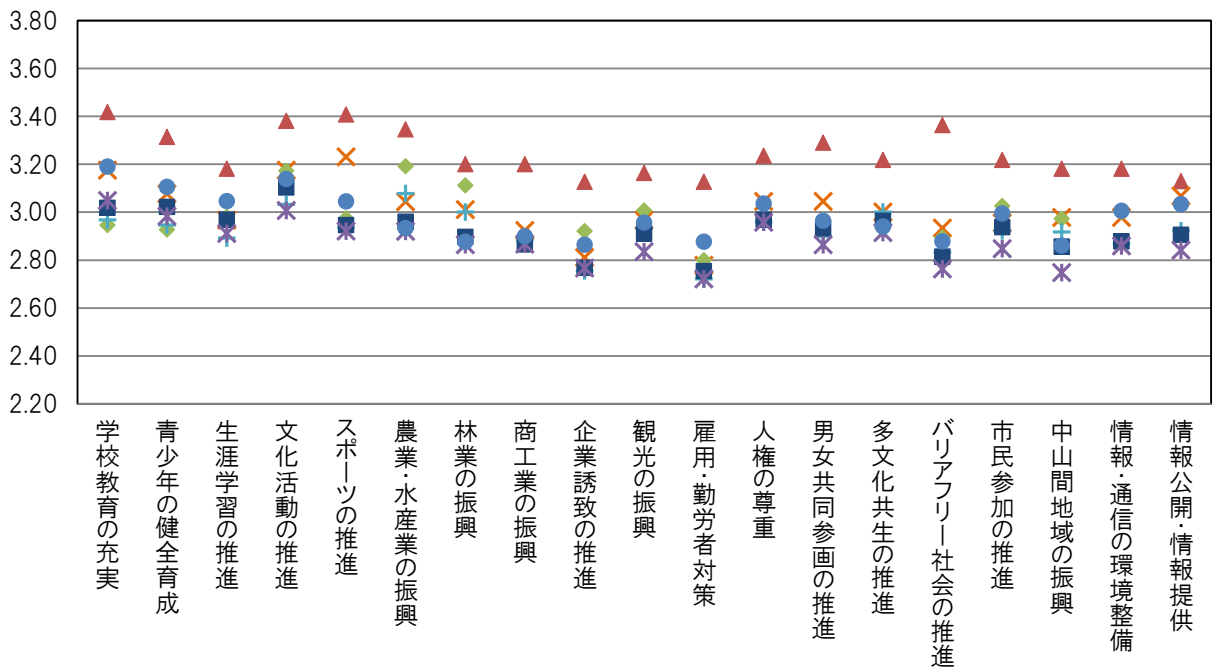
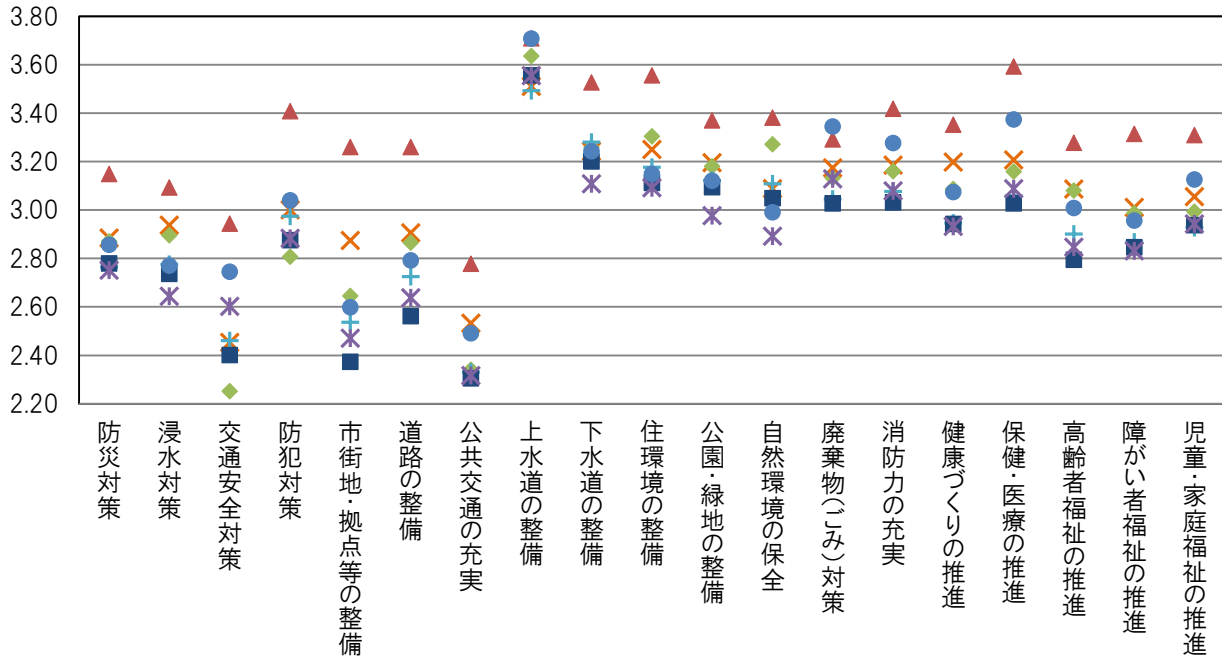
最重点項目 (飯高管内の市民が優先して求めている施策)

- 浸水対策
- 障がい者福祉の推進
- 人権の尊重
- 交通安全対策
- 児童・家庭福祉の推進
- パリアフリー社会の推進
- 道路の整備
- 企業誘致の推進
- 中山間地域の振興
- 公共交通の充実
- 雇用・勤労者対策
- 情報公開・情報提供
- 高齢者福祉の推進

年代別にみた 38 項目の満足度と重要度は以下のとおりである。

《年代別 満足度》

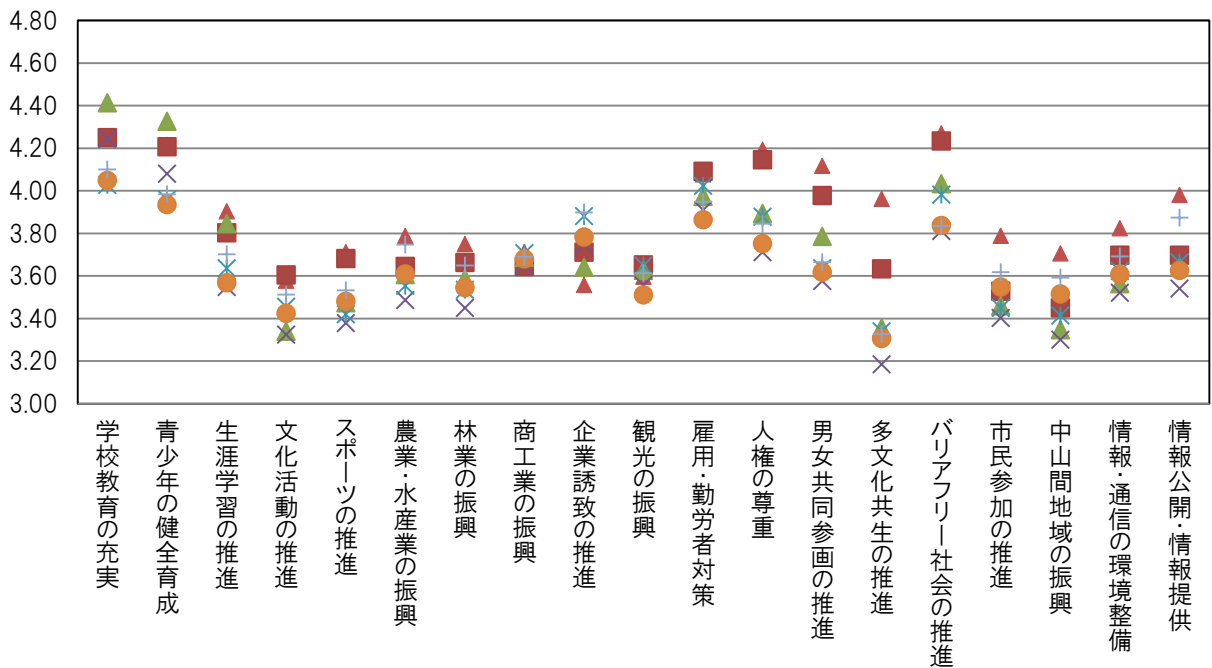
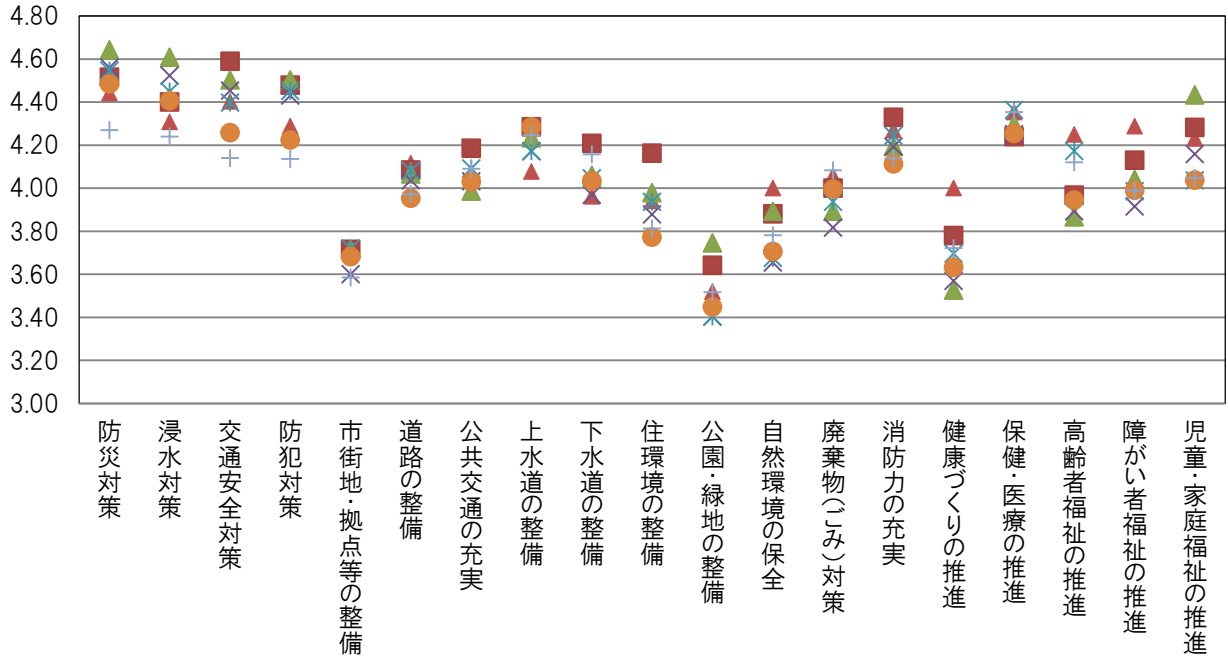
問6 年代別 満足度



▲10歳代 ×20歳代 ◆30歳代 +40歳代 ■50歳代 ×60歳代 ●70歳代以上

《年代別 重要度》

問6 年代別 重要度



▲10歳代 ■20歳代 ▲30歳代 ×40歳代 *50歳代 ●60歳代 +70歳代以上

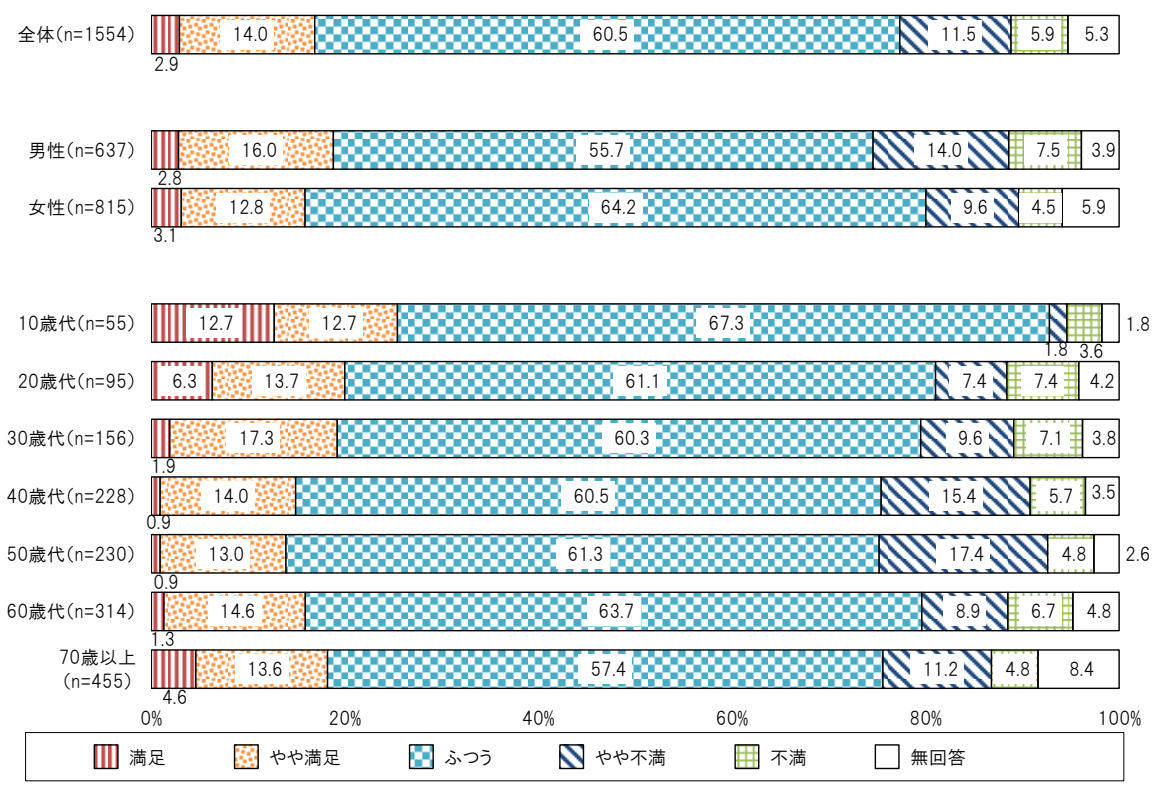
問7 あなたは松阪市の政策に対して、総合的にみてどのように感じていますか。(〇は1つだけ)

「ふつう」が60.5%で最も高く、ついで「やや満足」が14.0%、「やや不満」が11.5%となっている。

性別にみると、男性の方が女性よりも「満足」「やや満足」としている割合が2.9ポイント高くなっている。

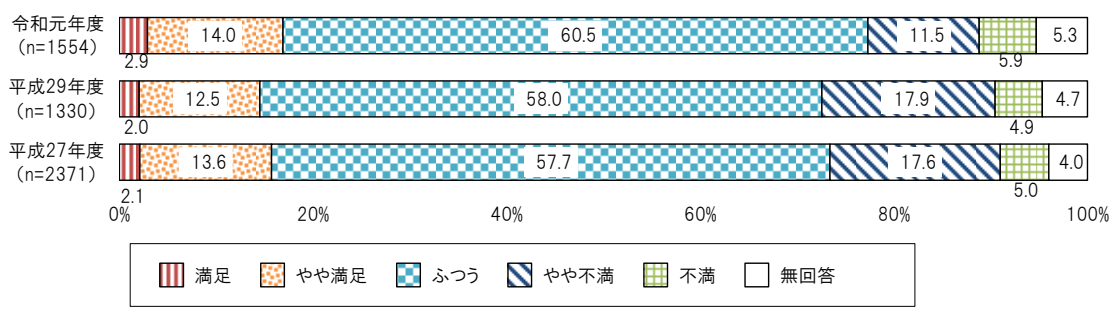
年代別にみると、「満足」「やや満足」の合計の割合は10歳代で高く、25.4%となっている。一方で40歳代から60歳代では、10歳代に比べ10ポイント程度低くなっている。

問7 松阪市の政策を総合的にみたときの満足度



前回と比較すると、「やや不満」「不満」の割合が5.4ポイント減少している。

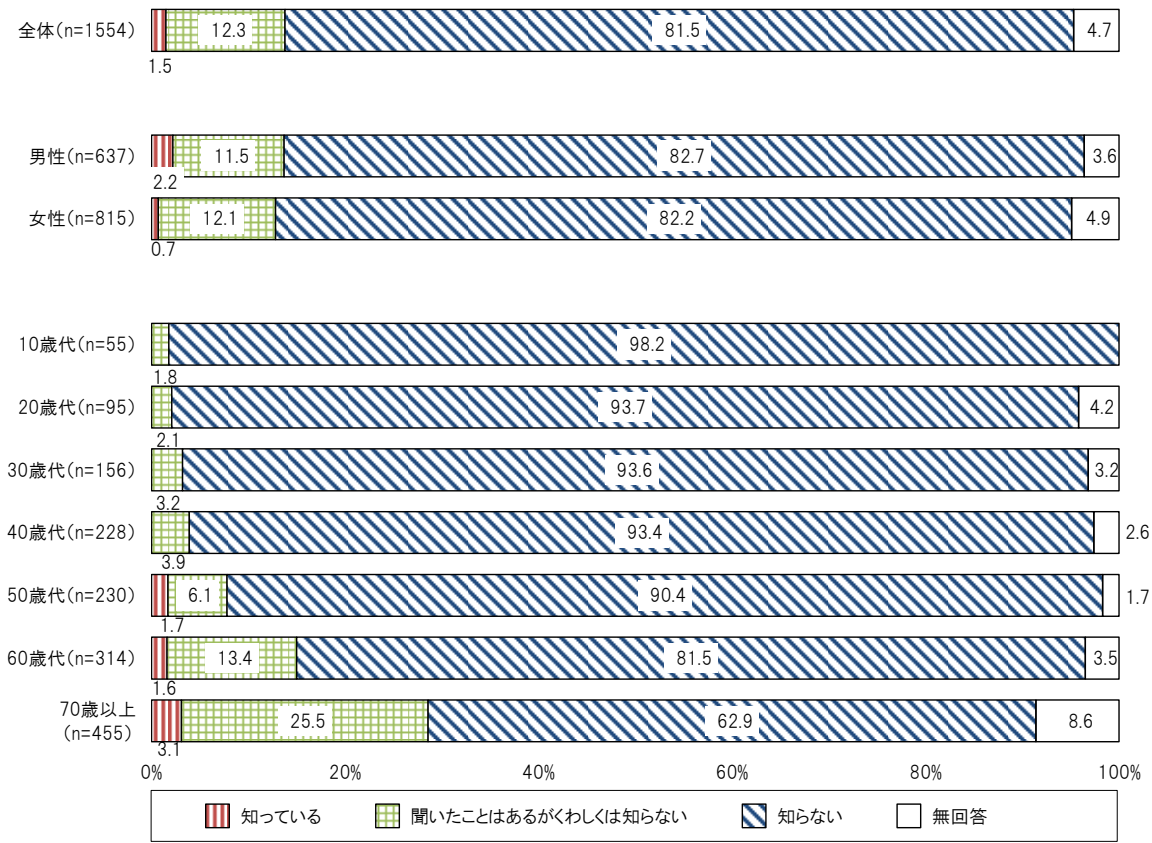
問7 松阪市の政策を総合的にみたときの満足度



問8 あなたは松阪市の総合計画「住みやすさ進行中！バージョンアップ松阪」を知っていますか。(〇は1つだけ)

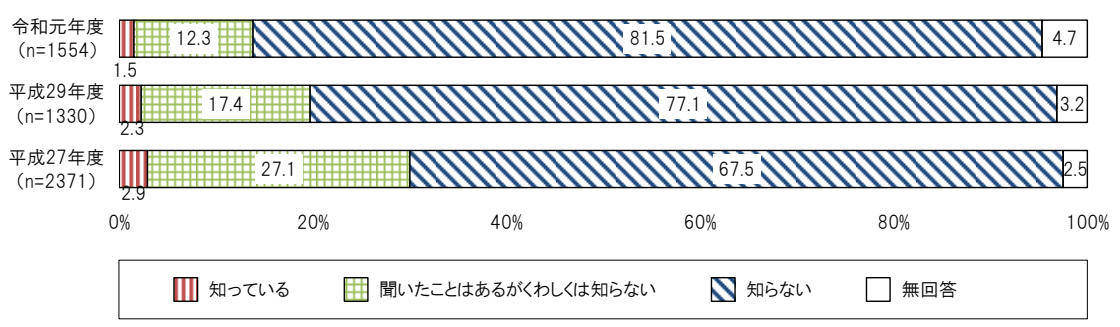
「知らない」が81.5%で最も高く、ついで「聞いたことはあるがくわしくは知らない」が12.3%、「知っている」が1.5%となっている。
 性別にみると、男女の差はあまりみられない。
 年代別にみると、「知らない」の割合は、年代が上がるごとに減少している。

問8 松阪市の総合計画の認知度



前回および前々回と比較すると、「知っている」「聞いたことはあるがくわしくは知らない」がいずれも年々減少している。

問8 松阪市の総合計画の認知度



松阪市の個々の課題

1. 人口減少対策について

問9 あなたの結婚や子育てについてのお考えなどをおうかがいします。

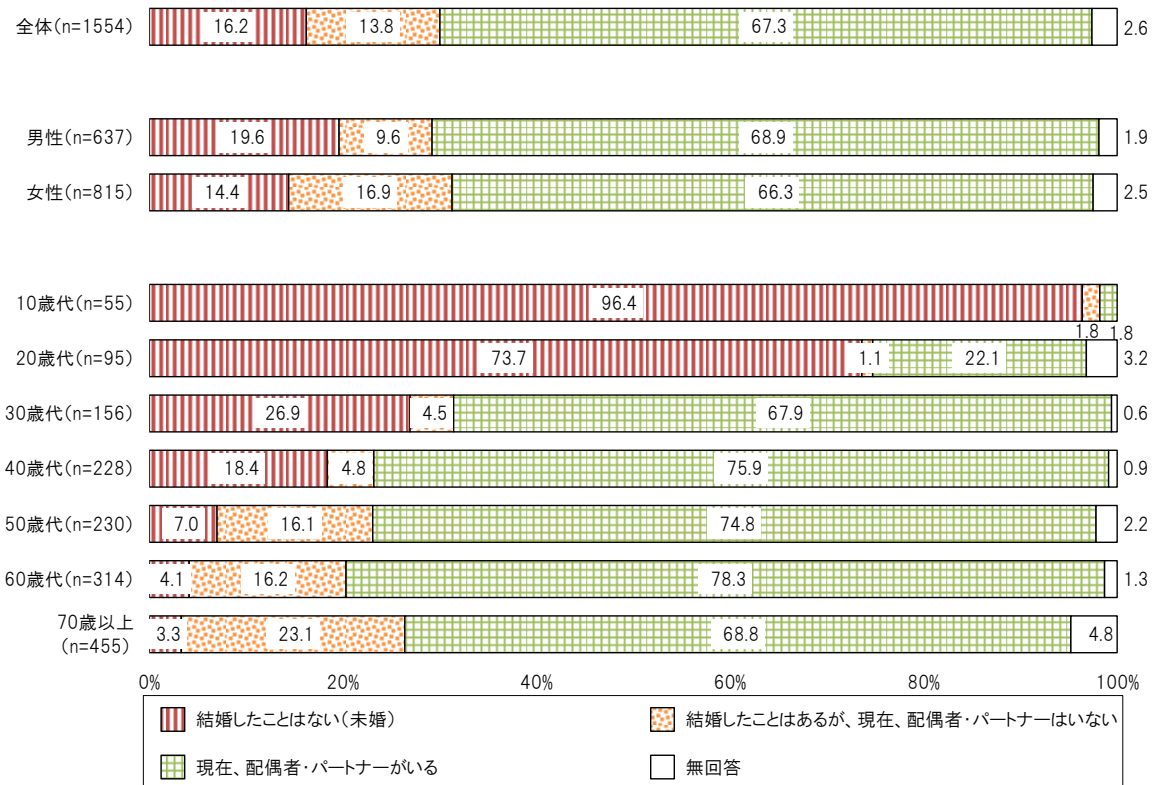
(1) あなたはこれまでに結婚をしたことがありますか。(○は1つだけ)

「現在、配偶者・パートナーがいる」が67.3%で最も高く、ついで「結婚したことはない(未婚)」が16.2%、「結婚したことはあるが、現在、配偶者・パートナーはいない」が13.8%となっている。

性別にみると、「結婚したことはない(未婚)」は男性では19.6%であるのに対し、女性では14.4%と5.2ポイントの差がみられる。

年代別にみると、「現在、配偶者・パートナーがいる」の割合は、10歳代では1.8%、20歳代では22.1%と低いのが、30歳代以上になると7割程度と高くなっている。「結婚したことはない(未婚)」は、40歳代より若い世代で全体平均より高くなっている。

問9(1) 結婚状況

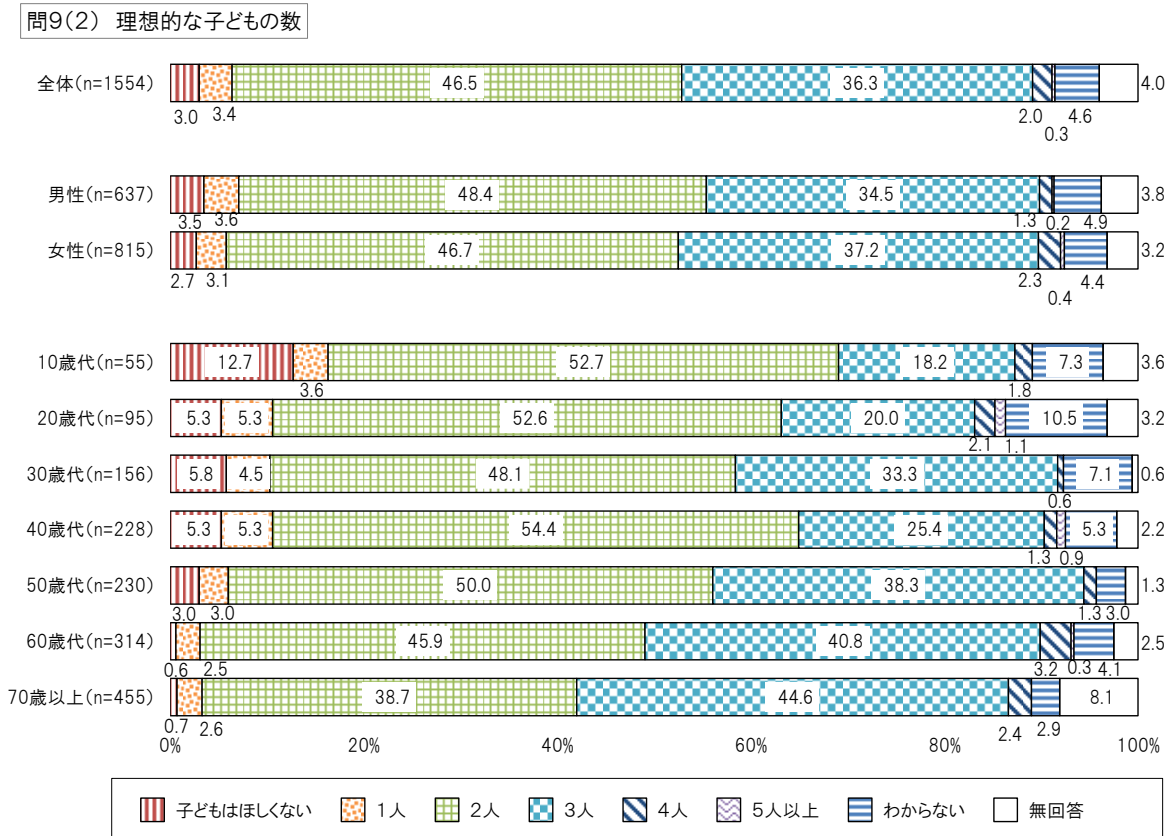


(2) あなたが理想と考える子どもの数をお答えください。すでにお子さんがいらっしゃる方は、あなたが最も理想と考える（または考えていた）子どもの数をお答えください。（〇は1つだけ）

理想と考える子どもの数として「2人」が46.5%で最も高く、ついで「3人」が36.3%となっており、それ以外は5%以下で大きな差はない。

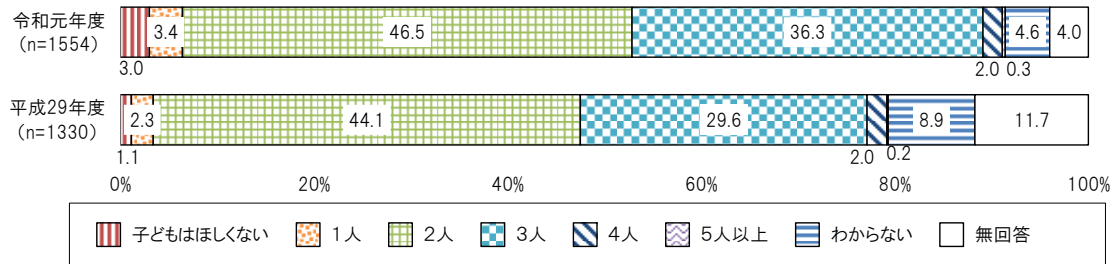
性別にみると、「2人」は男性の方が、「3人」は女性の方が若干多くなっているが、男女間で大きな差はみられない。

年代別にみると、若い年代の方が「2人」が多く、高齢の年代の方が「3人」が多くなっている。「子どもはほしくない」は、10歳代では12.7%と他年代に比べ非常に高く、20歳代から40歳代では5%程度となっている。



前回と比較すると、「2人」、「3人」とも増加しているが、「わからない」と「無回答」の合計が前回は20.6%であったのに対し、今回は8.6%と12ポイント少なくなっており、その影響による変化であることも考えられる。

問9(2) 理想的な子どもの数

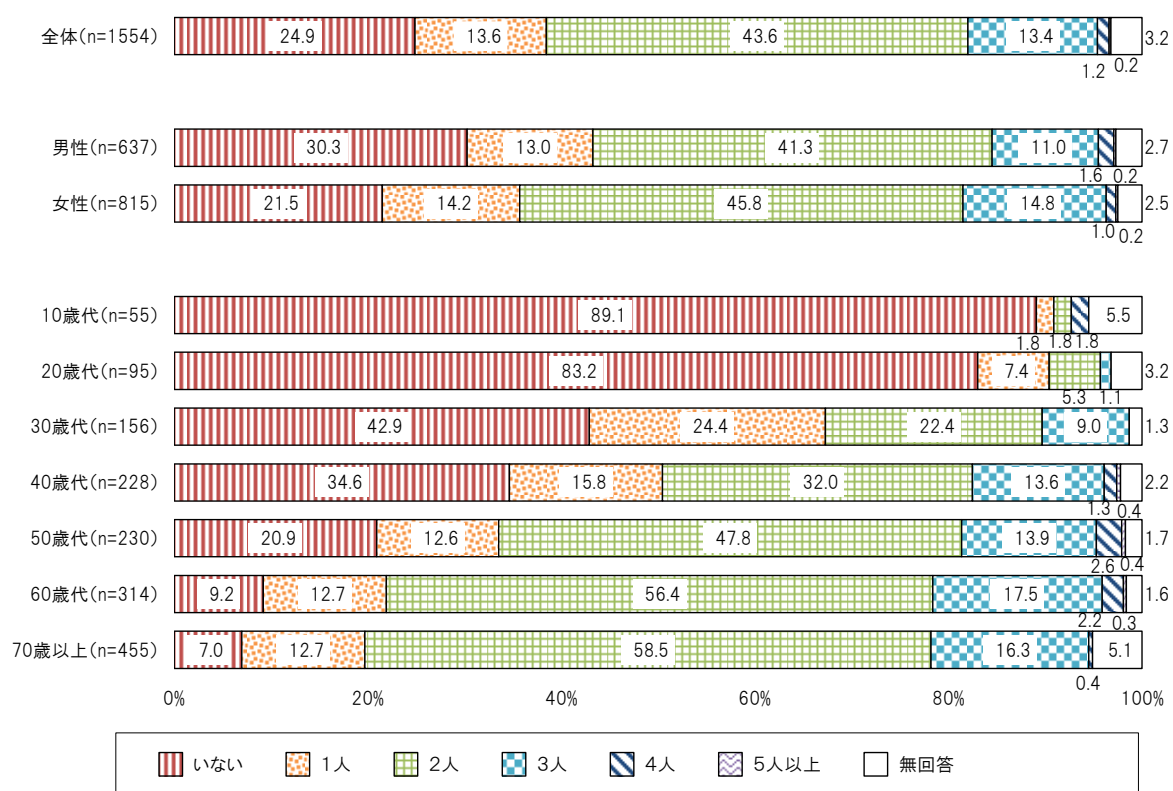


(3) あなたはお子さん（自立しているお子さんも含む）がいらっしゃるでしょうか。（〇は1つだけ）

「2人」が43.6%で最も高く、ついで「いない」が24.9%、「1人」が13.6%となっている。性別にみると、「いない」は男性で30.3%であるのに対し、女性では21.5%と、男性の方が8.8ポイント多くなっている。

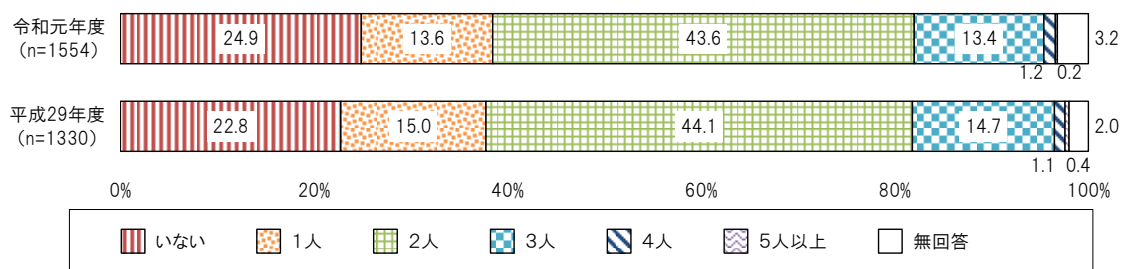
年代別にみると、「いない」は年齢が低いほど割合が高くなっており、10歳代から40歳代では「いない」が最も多くなっている。10歳代、20歳代では8割以上が「いない」となっている。

問9(3) 子どもの数



前回と比較すると、「いない」の割合は22.8%から24.9%に2.1ポイント増加している。

問9(3) 子どもの数



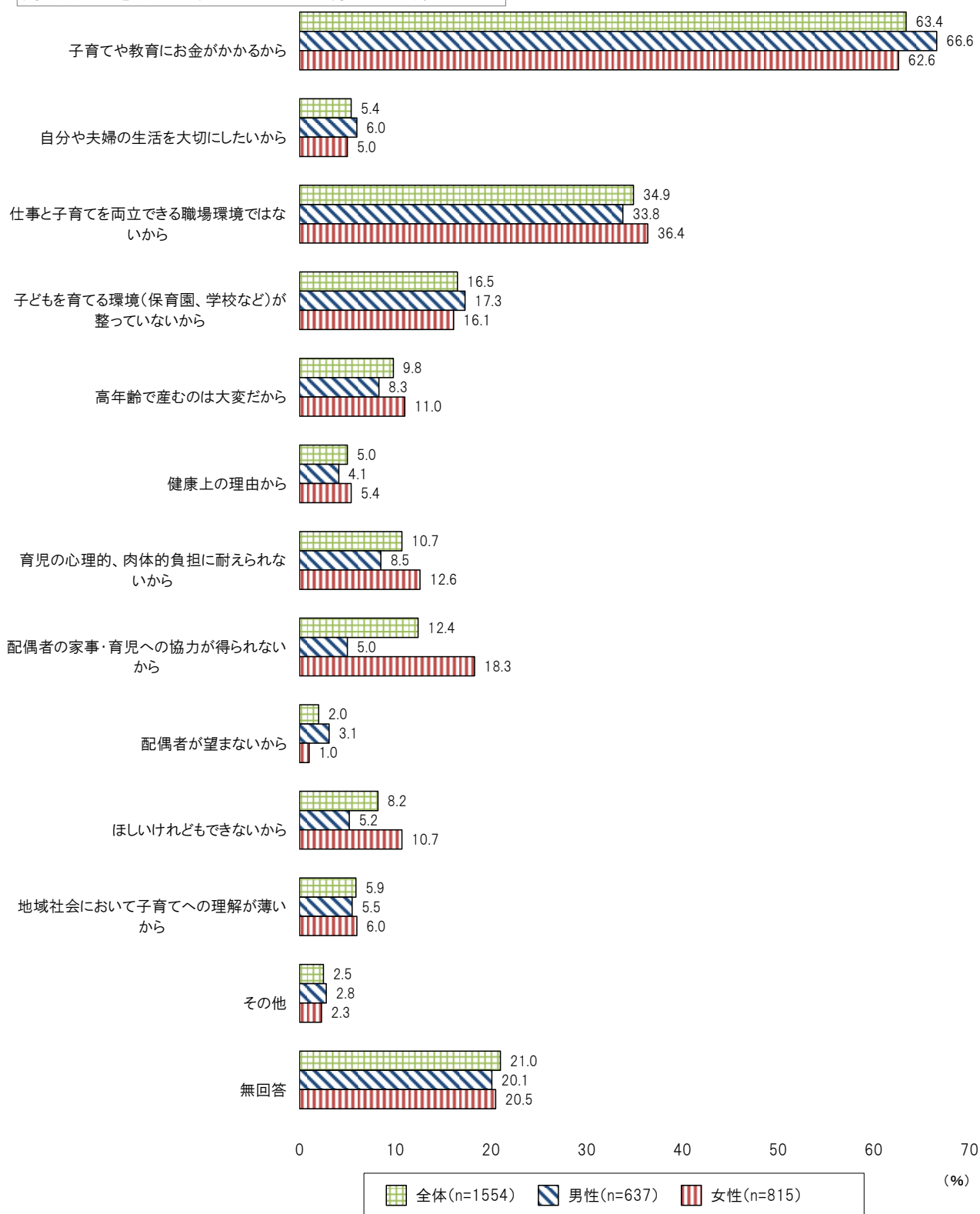
(4) 実際の子どもの数は理想の子どもの数より少ないという傾向があります。お子さんのいらっしゃる方、または、今後子どもを欲しいと考えている方におうかがいします。理想的な人数の子どもを産み育てるのが難しい理由は何だと思えますか。あなたのお考えに近いものをお答えください。(〇はいくつでも)

「子育てや教育にお金がかかるから」が63.4%で最も高く、ついで「仕事と子育てを両立できる職場環境ではないから」が34.9%、「子どもを育てる環境（保育園、学校など）が整っていないから」が16.5%となっている。

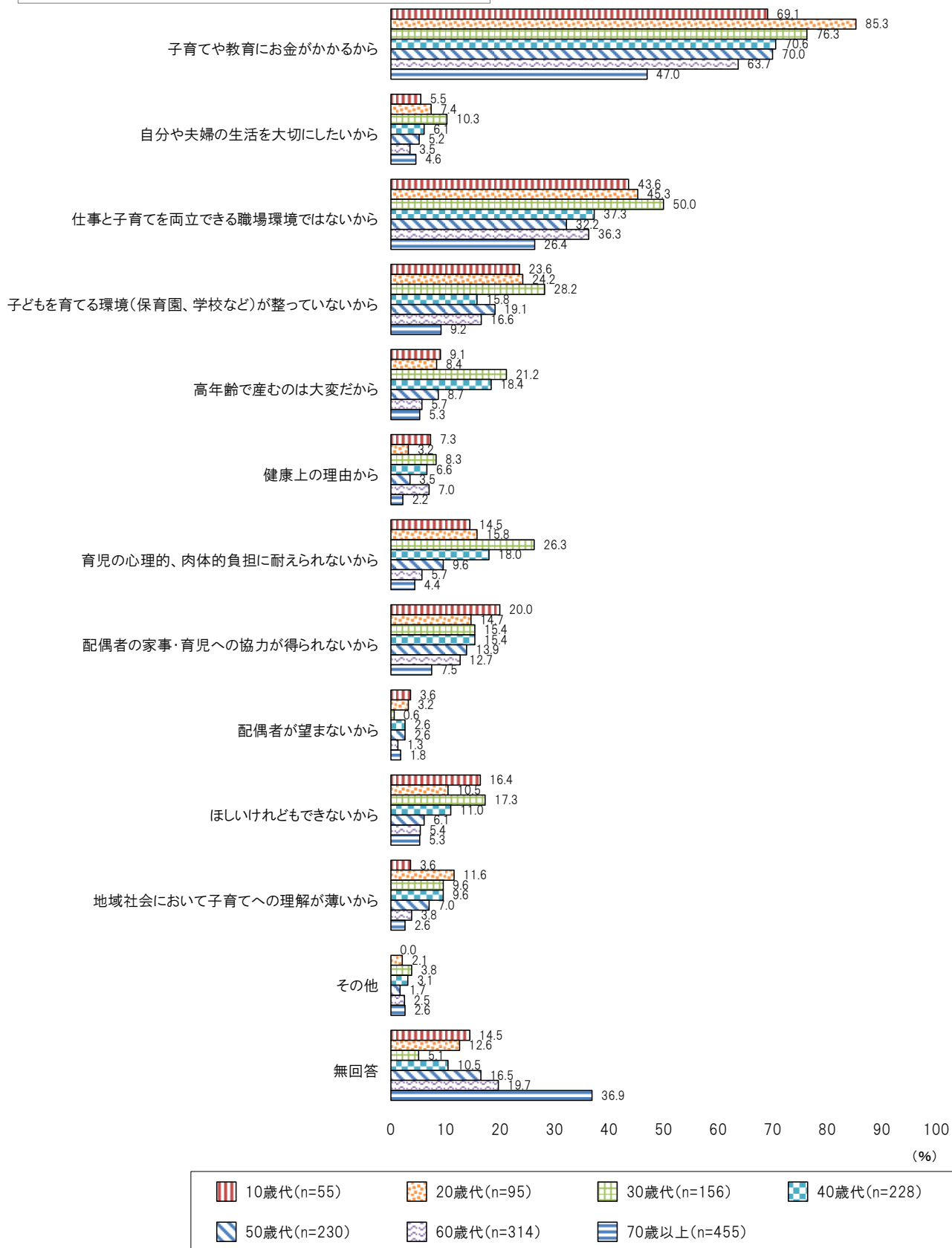
性別にみると、1番目、2番目に高い項目は同じであったが、3番目は男女で異なり、男性では「子どもを育てる環境（保育園、学校など）が整っていないから」、女性では「配偶者の家事・育児への協力が得られないから」となっている。

年代別にみると、いずれの年代も1番目、2番目に高かったのは全体と同じ項目であったが、3番目は40歳代のみ「高年齢で産むのは大変だから」であり、他の年代では「子どもを育てる環境（保育園、学校など）が整っていないから」であった。

問9(4) 理想的な人数の子どもを産み育てるのが難しい理由



問9(4) 理想的な人数の子どもを産み育てるのが難しい理由

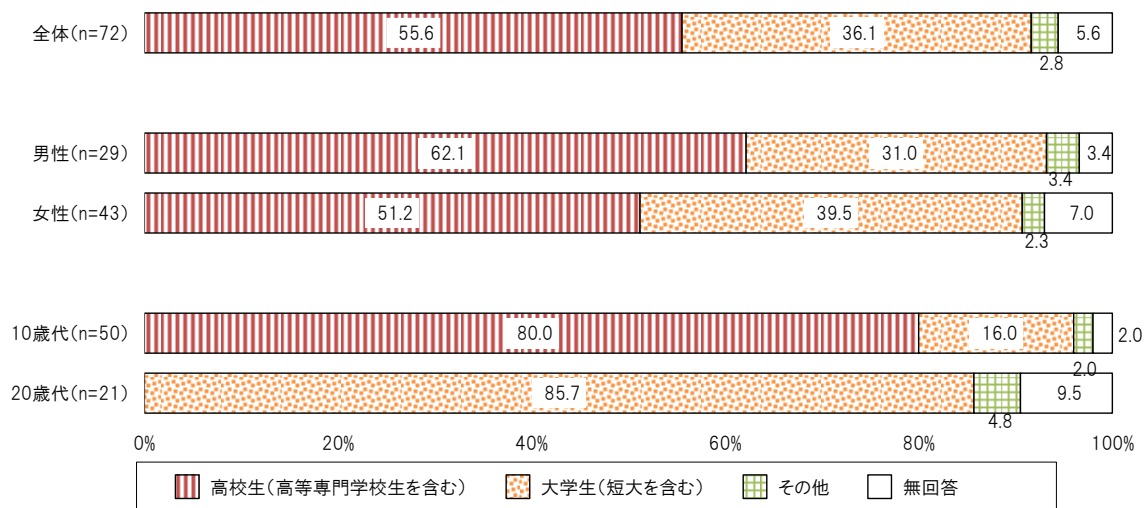


問 10 学生・専門学校生の方に、将来の進学・就職についておうかがいします。

(1) 現在の就学区分についてお答えください。(○は1つだけ)

※問 1 (5) 職業で「学生・専門学校生」と回答した方のみを対象。

問10(1) 現在の就学区分



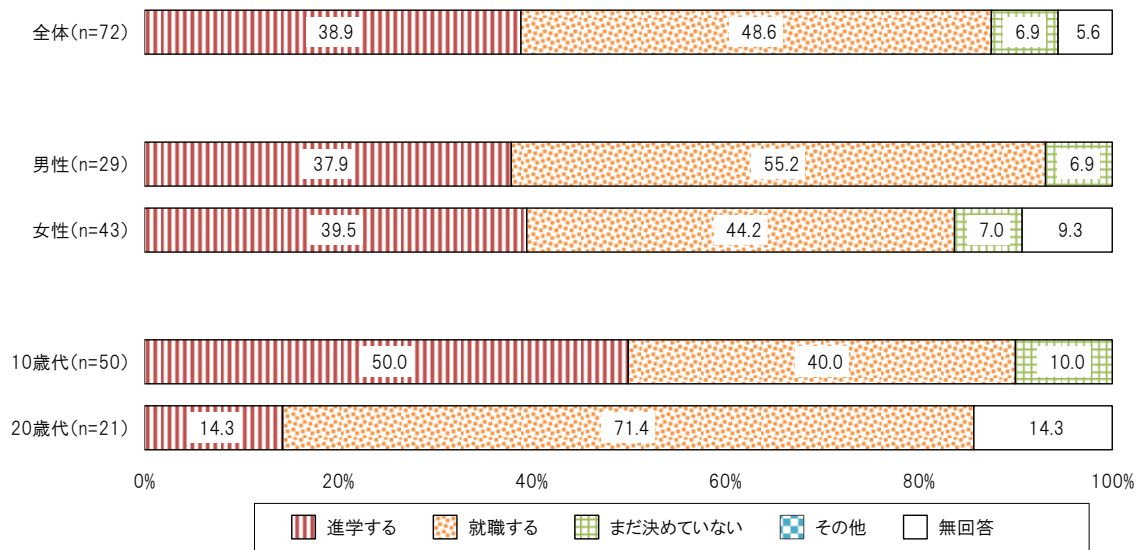
(2) 現在の学校の卒業後の進路についてどのように考えていますか。(〇は1つだけ)

「就職する」が48.6%で最も高く、ついで「進学する」が38.9%、「まだ決めていない」が6.9%となっている。

性別にみると、「就職する」は男性では55.2%であるのに対し、女性では44.2%と11ポイントの差がみられる。

年代別にみると、10歳代では「進学する」が最も多く、20歳代では「就職する」が71.4%で最も多くなっている。

問10(2) 現在の学校の卒業後の進路

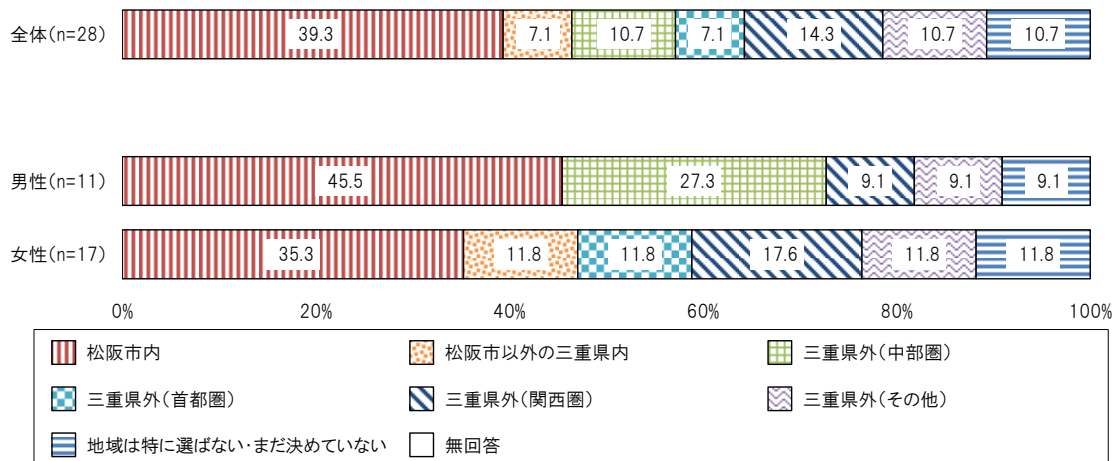


(3) 進学(予定)した場合どこに住みたいですか。あなたの希望(決まっていれば予定)をお答えください。(〇は1つだけ)

「松阪市内」が39.3%で最も高く、ついで「三重県外(関西圏)」が14.3%、「三重県外(中部圏)」が10.7%となっている。

性別にみると、「松阪市内」は男性で45.5%であるのに対し、女性では35.3%と10.2ポイント男性が高くなっている。

問10(3) 進学(予定)した場合どこに住みたいか



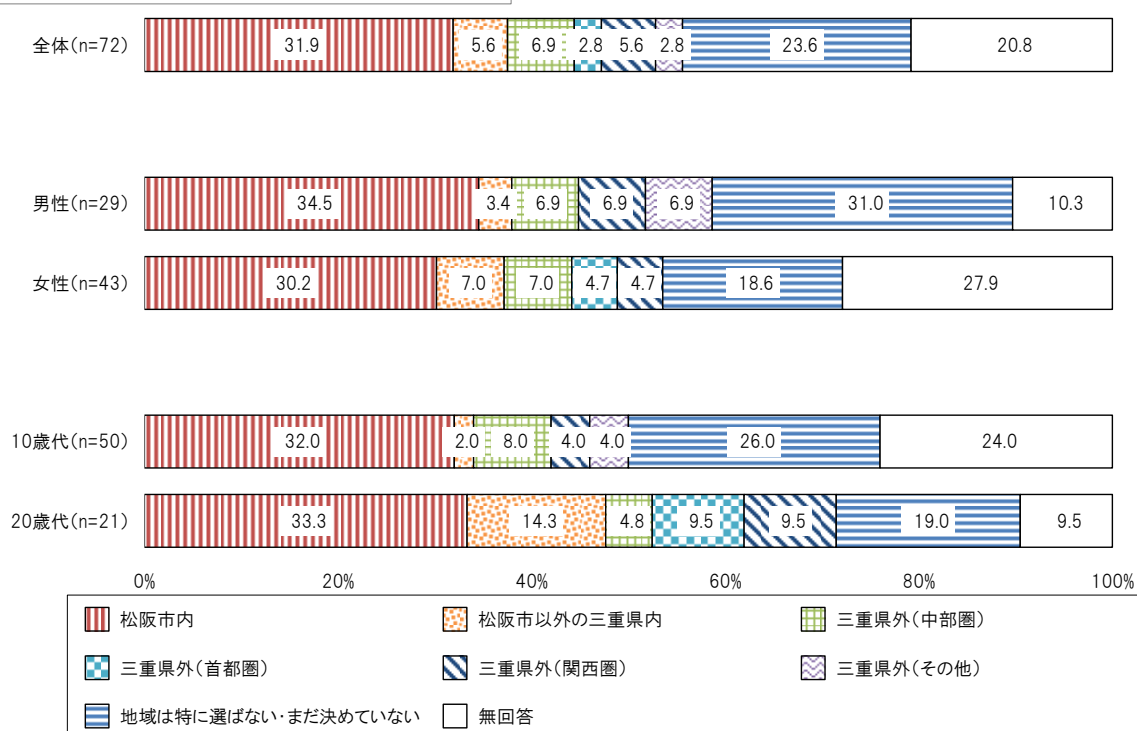
(4) 将来あなたが就職した場合どこに住みたいですか。あなたの希望（決まっていれば予定）をお答えください。（〇は1つだけ）

「松阪市内」が31.9%で最も高く、ついで「地域は特に選ばない・まだ決めていない」が23.6%、「三重県外（中部圏）」が6.9%となっている。

性別にみると、「地域は特に選ばない・まだ決めていない」は男性の方が12.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、20歳代では「松阪市以外の三重県内」の割合が、比較的高くなっている。

問10(4) 将来あなたが就職した場合どこに住みたいか



問 11 あなたの定住についての考え方についておうかがいします。

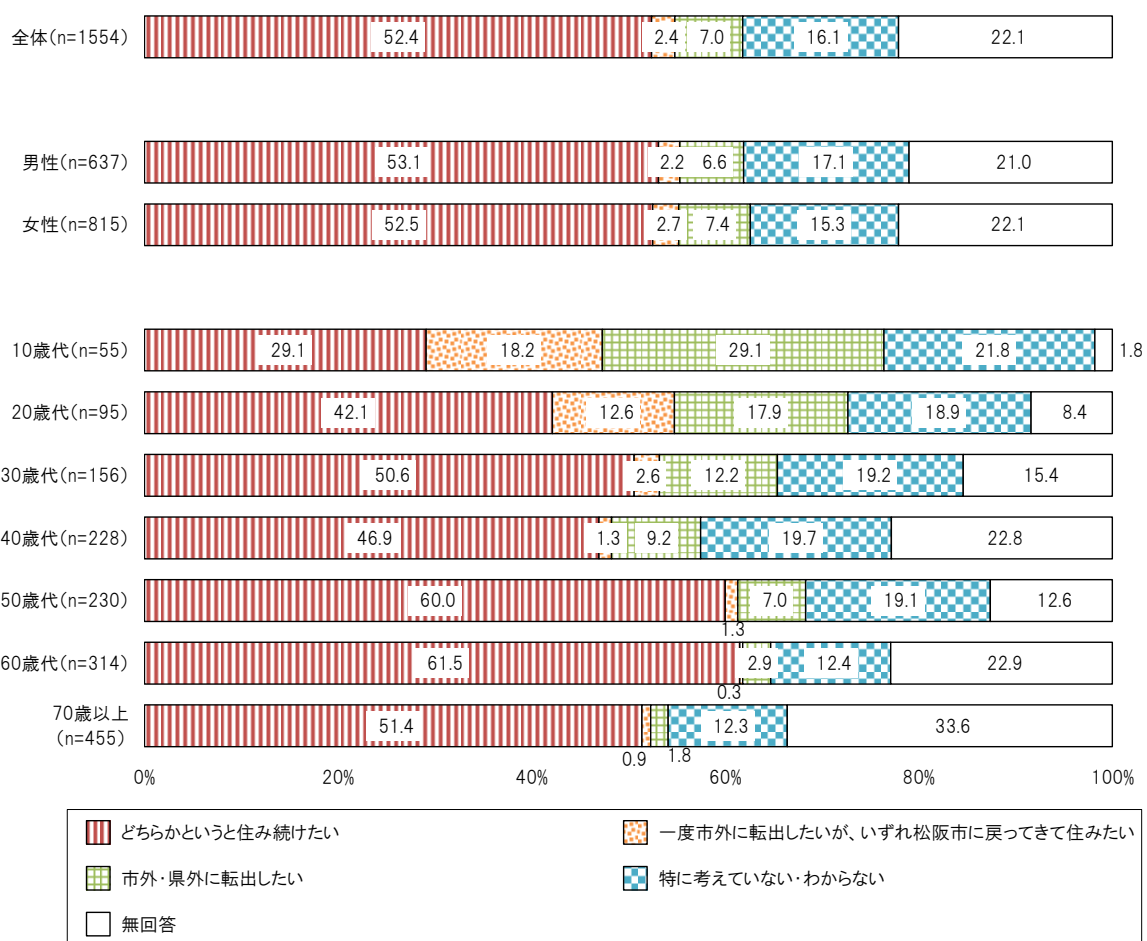
(1) あなたは松阪市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つだけ)

「どちらかというに住み続けたい」が52.4%で最も高く、ついで「特に考えていない・わからない」が16.1%、「市外・県外に転出したい」が7.0%となっている。

性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、おおむね年齢が高くなるほど「どちらかというに住み続けたい」の割合は高くなる傾向にあるが、40歳代では若干下がっている。

問11(1) 松阪市に住み続けたいか



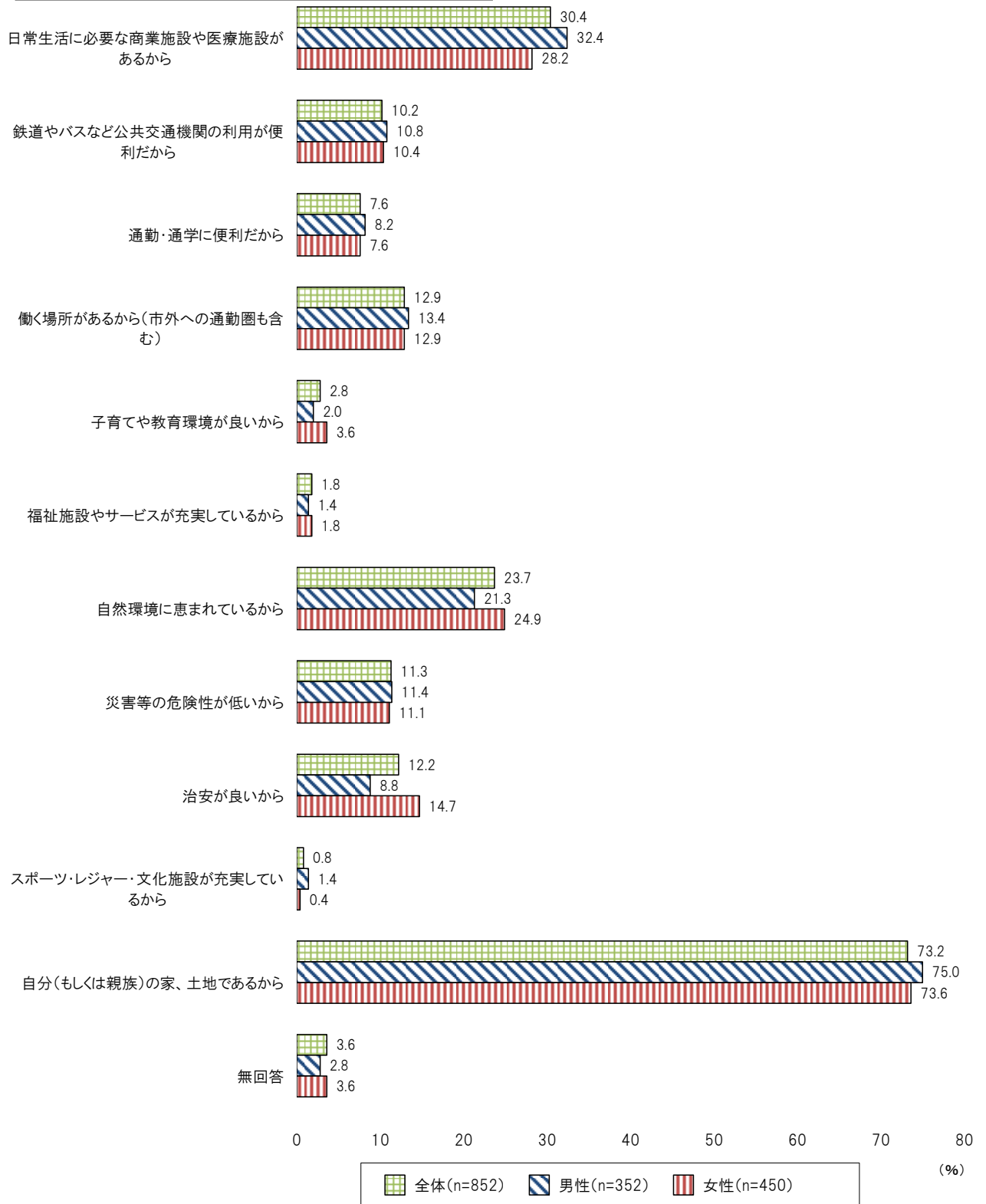
(2) 松阪市に住み続けたい、戻ってきて住みたい理由は何ですか。(〇は3つまで)

「自分（もしくは親族）の家、土地であるから」が73.2%で最も高く、ついで「日常生活に必要な商業施設や医療施設があるから」が30.4%、「自然環境に恵まれているから」が23.7%となっている。

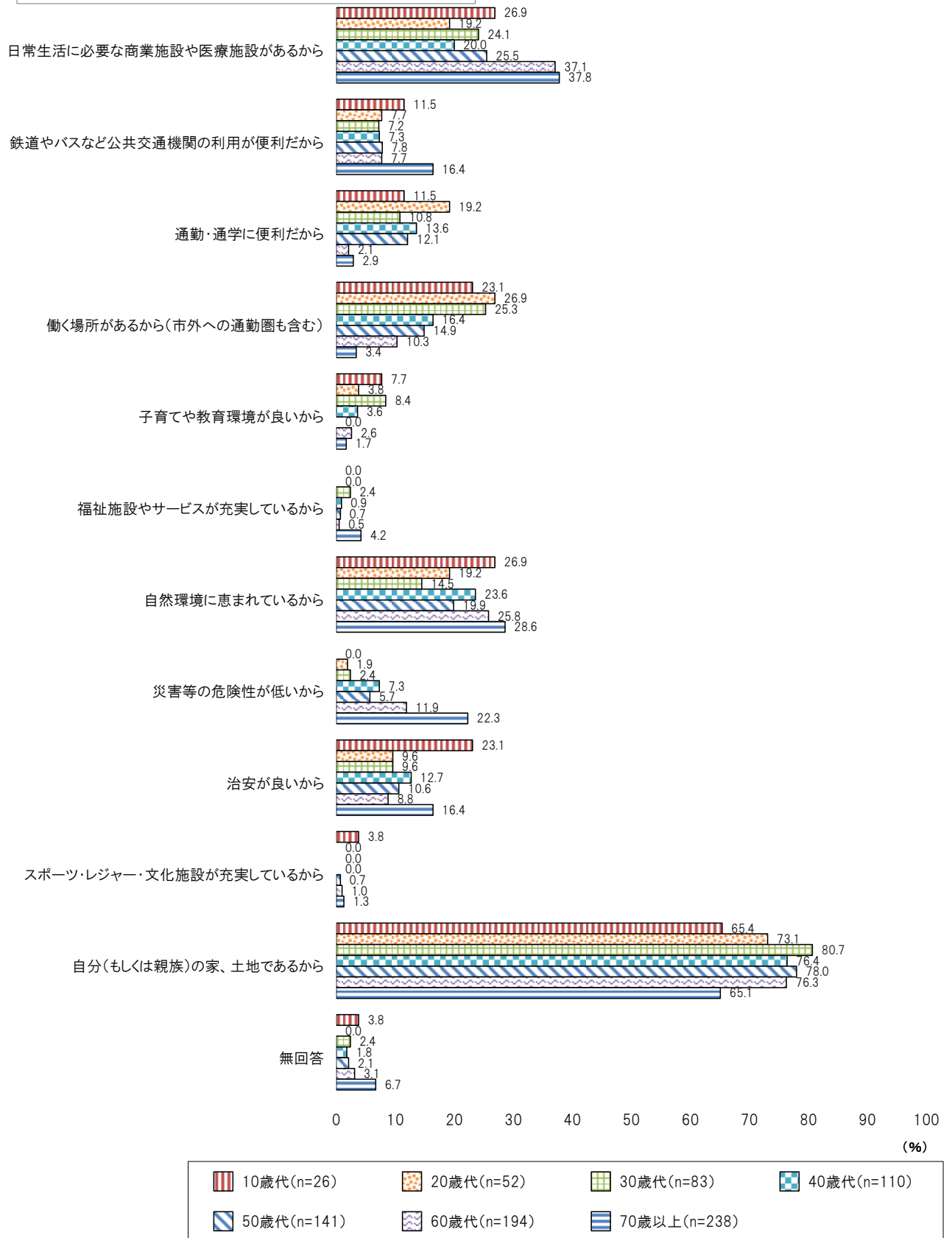
性別にみると、1番目、2番目、3番目に多い項目は男女で同じであった。男女の間で最も差が大きかったのは「治安が良いから」であり、女性の方が5.9ポイント高かった。

年代別にみると、1番目に多い項目はいずれの年代も「自分（もしくは親族）の家、土地であるから」であった。2番目に多い項目は、10歳代、50歳代以上では「日常生活に必要な商業施設や医療施設があるから」であり、20歳代、30歳代では「働く場所があるから（市外への通勤圏も含む）」、10歳代、40歳代では「自然環境に恵まれているから」となっている。なお、10歳代の2番目に多い項目は2つの項目が同率であった。

問11(2) 松阪市に住み続けたい、戻ってきて住みたい理由



問11(2) 松阪市に住み続けたい、戻ってきて住みたい理由



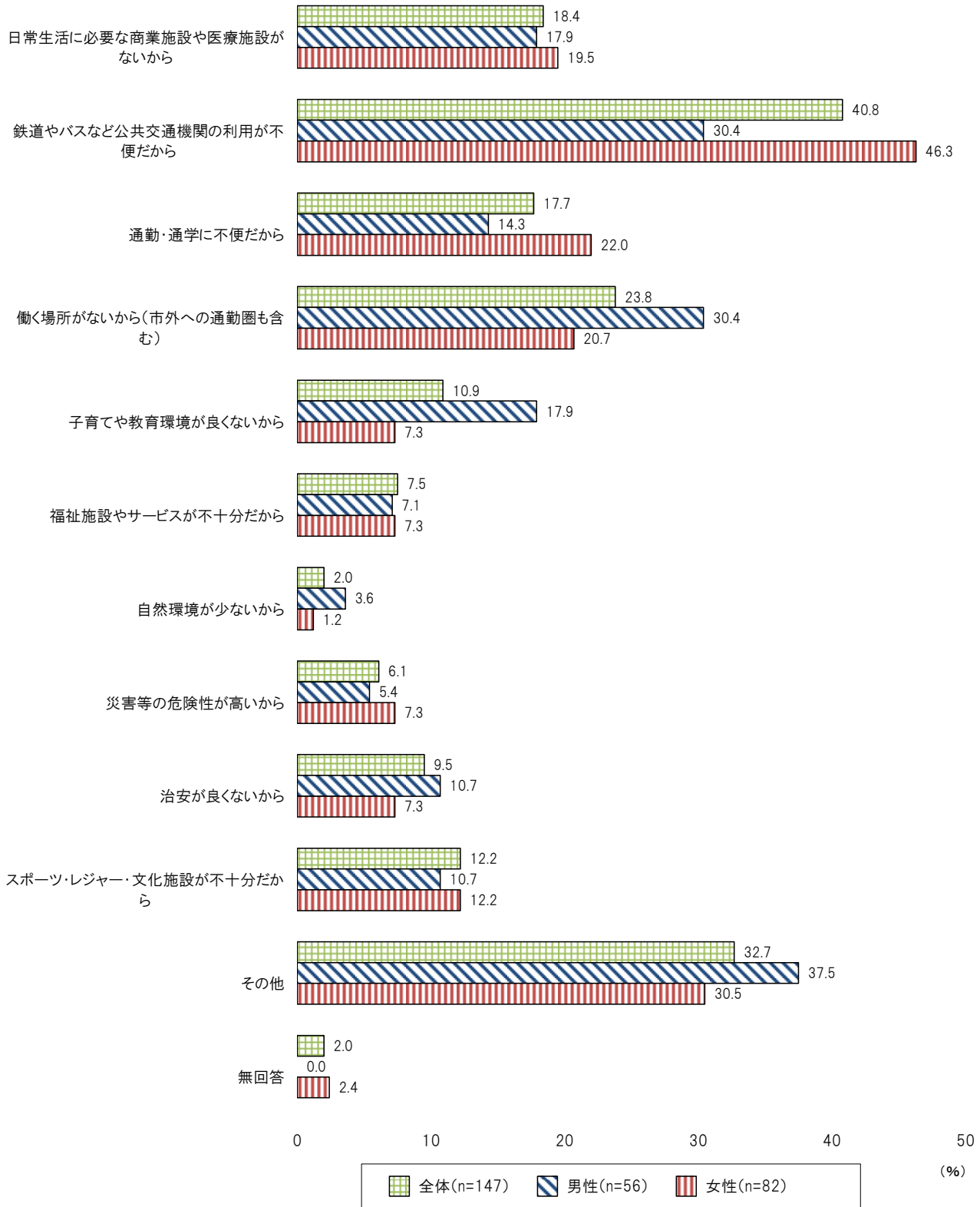
(3) 松阪市から出たいと思う理由は何ですか。(〇は3つまで)

「鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから」が40.8%で最も高く、ついで「その他」が32.7%、「働く場所がないから(市外への通勤圏も含む)」が23.8%となっている。

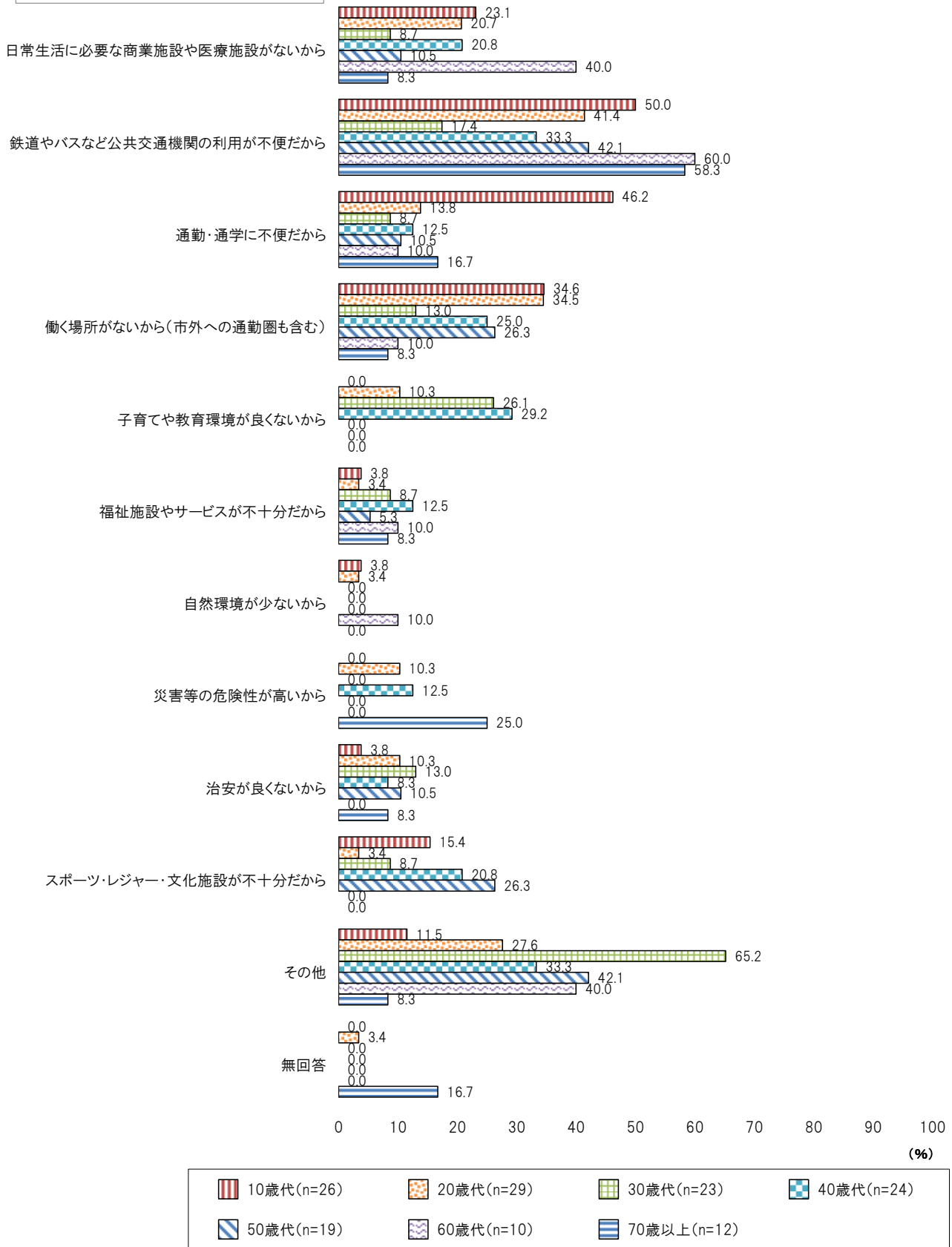
性別にみると、男性では「その他」の割合が最も高く、女性では「鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから」の割合が最も高くなっている。ついで多い項目は、男性では「働く場所がないから(市外への通勤圏も含む)」と「鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから」の2つの項目が同率で2番目に多く、女性では2番目が「その他」、3番目が「通勤・通学に不便だから」となっている。

年代別にみると、30歳代を除く他のすべての年代で「鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから」が1番多くなっている。30歳代は1番目が「その他」、2番目が「子育てや教育環境が良くないから」、3番目が「鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから」となっている。

問11(3) 松阪市から出たいと思う理由



問11(3) 松阪市から出たいと思う理由



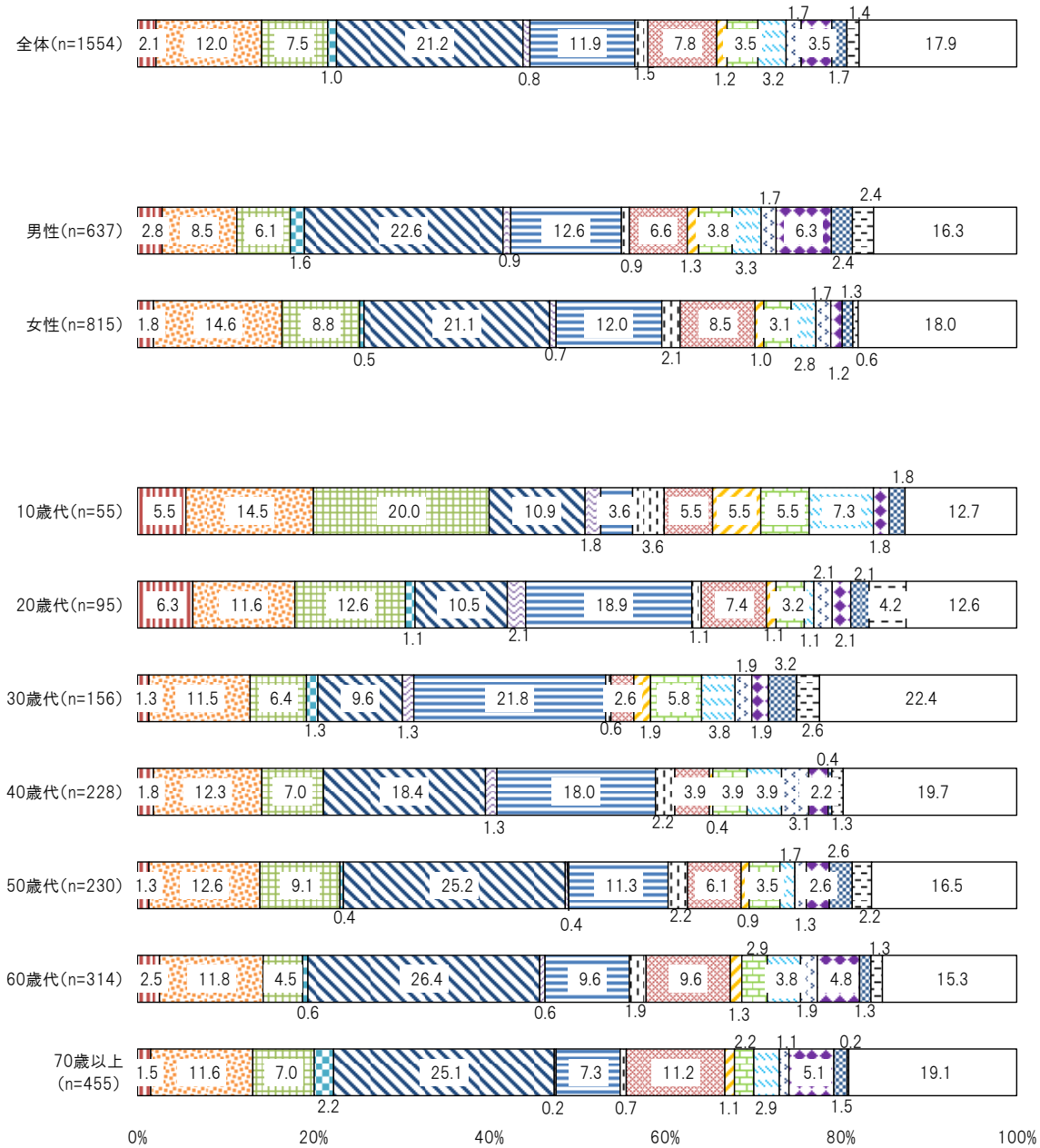
問 12 すべての方におうかがいします。今後、松阪市の人口を減らさないために、特に市が力を入れなければならない施策はどれだと思いますか。(〇は1つだけ)

「働く場の充実」が 21.2%で最も高く、ついで「公共交通機関の利便性の向上」が 12.0%、「子育て環境の充実」が 11.9%となっている。

性別にみると、男女ともに1番多かったのは「働く場の充実」で、2番目に多かったのは、男性は「子育て環境の充実」、女性では「公共交通機関の利便性の向上」であった。

年代別にみると、1番多かった項目は、40歳代以上で「働く場の充実」であり、10歳代では「買い物など日常生活の利便性向上」、20歳代、30歳代では「子育て環境の充実」であった。

問12 今後、松阪市の人口を減らさないために、特に市が力を入れなければならない施策はどれだと思うか



- 自動車での交通の利便性向上
- 公共交通機関の利便性の向上
- 買い物など日常生活の利便性向上
- 山や川などの豊かな自然環境保護
- 働く場の充実
- 文教施設(図書館やスポーツ施設)の充実
- 子育て環境の充実
- 教育環境の充実
- 福祉・医療環境の充実
- 防災対策の拡充
- 治安・まちの安全性向上
- まちなイメージの向上
- 良好な住宅環境(価格、広さなど)
- 産業の振興
- 移住の促進
- その他
- 無回答

2. 若者定住について

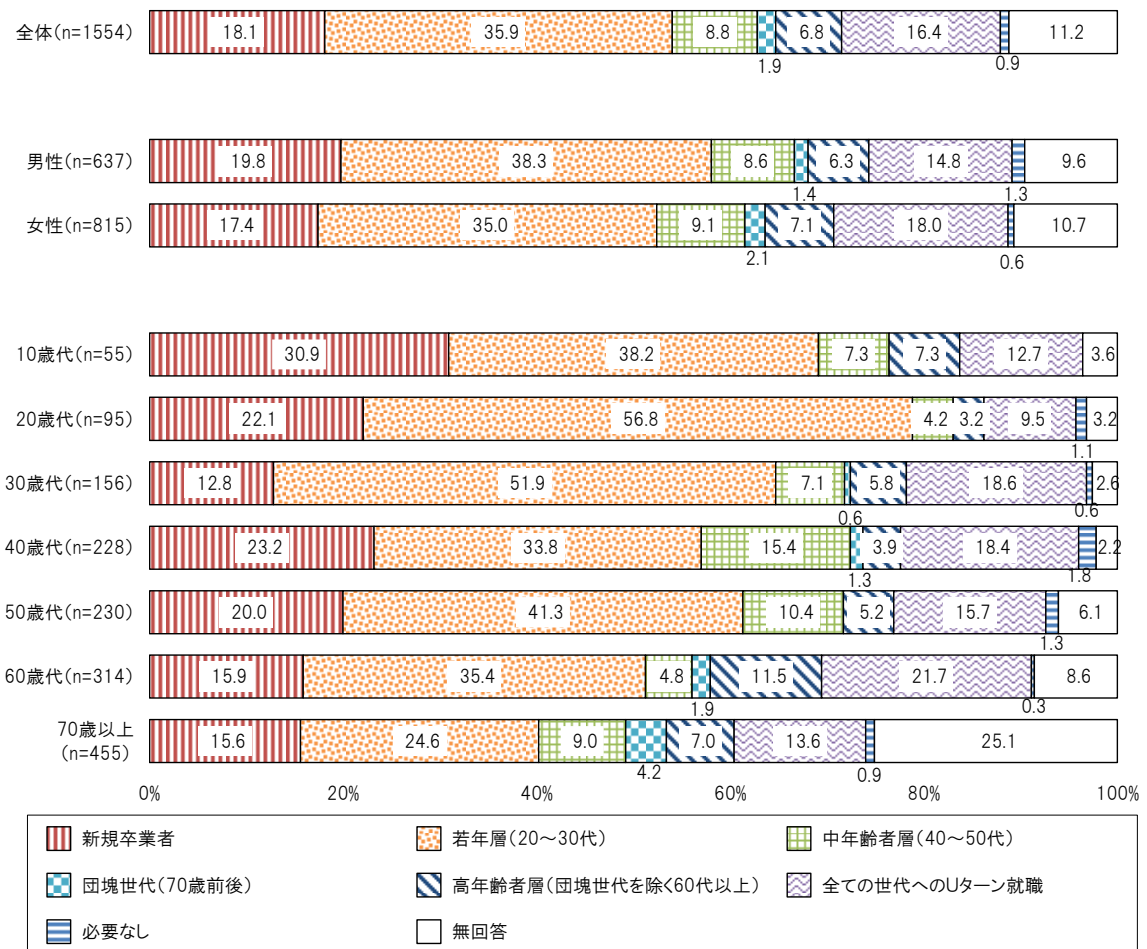
問13 あなたはどの年齢層への就労支援を充実することが最も望ましいと思いますか。(〇は1つだけ)

「若年層（20～30代）」が35.9%で最も高く、ついで「新規卒業者」が18.1%、「全ての世代へのUターン就職」が16.4%となっている。

性別にみると、「若年層（20～30代）」、「新規卒業者」については男性の方が割合が高く、「全ての世代へのUターン就職」については女性の方が割合が高い。

年代別にみると、いずれの年代でも「若年層（20～30代）」が最も高くなっている。20歳代、30歳代では「若年層（20～30代）」が半数を超えている。

問13 どの年齢層への就労支援を充実することが最も望ましいと思うか



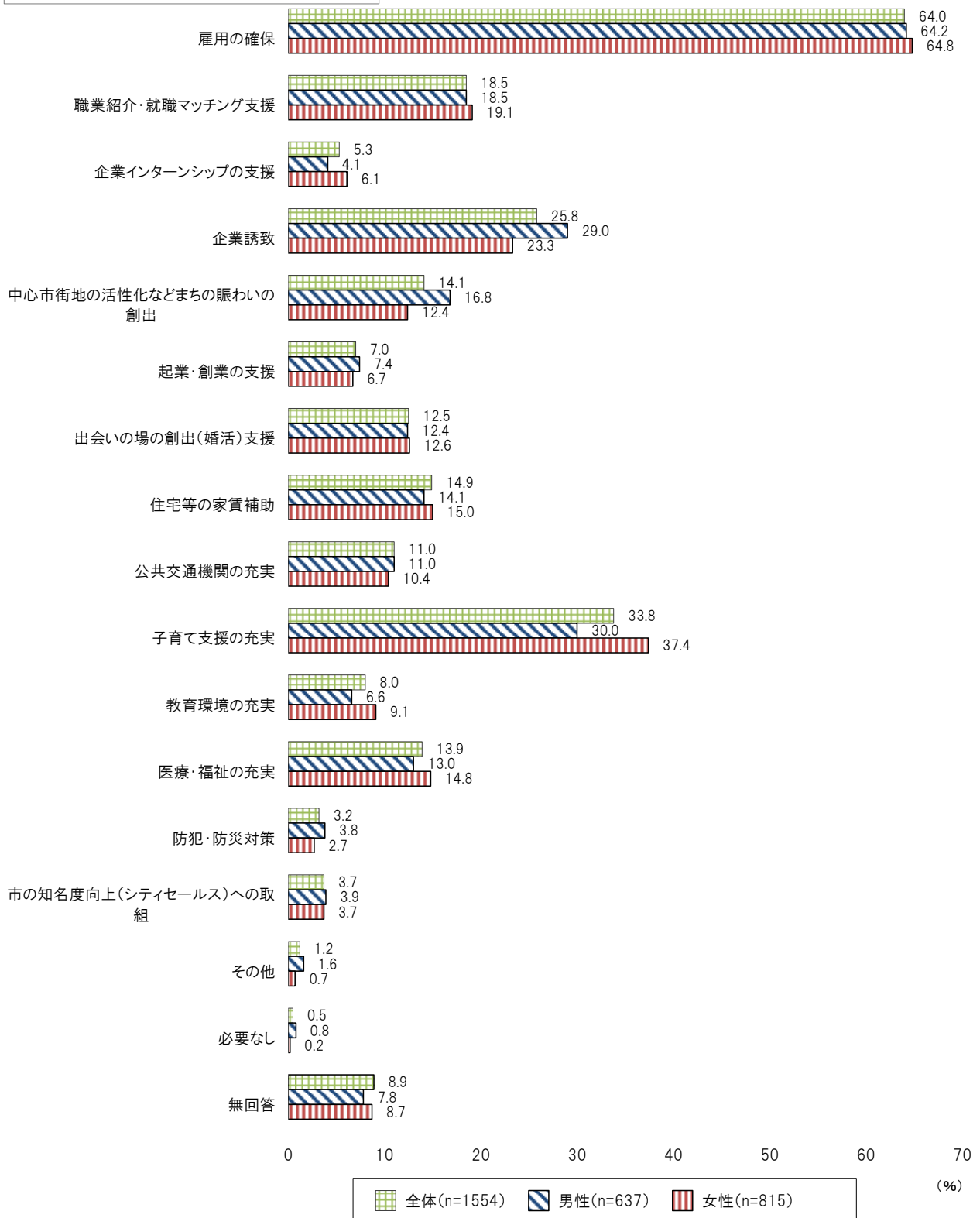
問 14 松阪市では若者定住に取り組んでいます。若者が定住するために効果的であることは何だと思いますか。(〇は3つまで)

「雇用の確保」が64.0%で最も高く、ついで「子育て支援の充実」が33.8%、「企業誘致」が25.8%となっている。

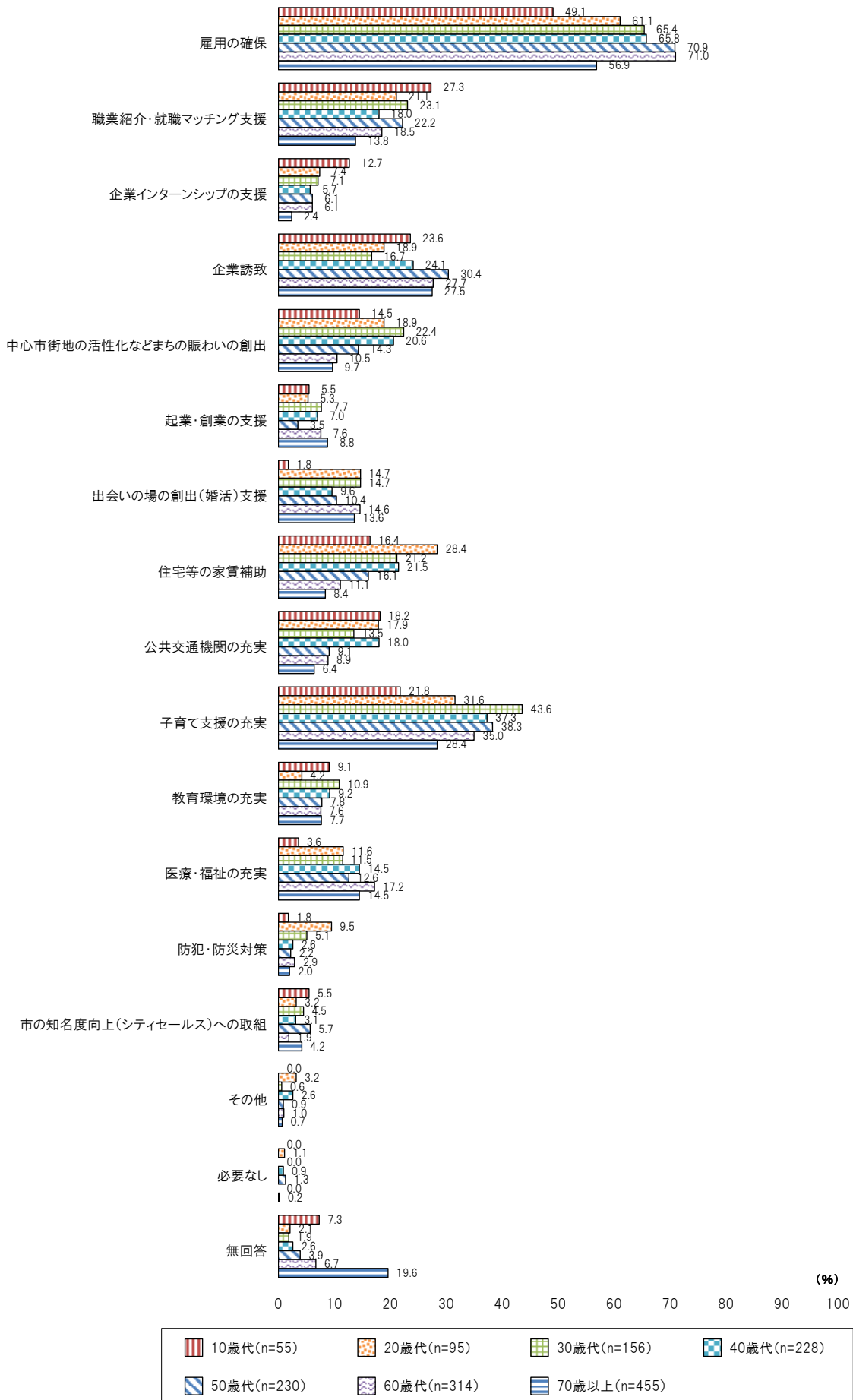
性別にみると、1番目、2番目、3番目に多かった項目は男女で同じであった。男女の間で最も差が大きかったのは「子育て支援の充実」で女性の方が7.4ポイント高かった。

年代別にみると、いずれの年代も「雇用の確保」が最も高くなっている。2番目に多い項目は、10歳代を除く他の年代では「子育て支援の充実」であり、10歳代では「職業紹介・就職マッチング支援」となっている。3番目に多い項目は、20歳代、30歳代を除く他の年代では「企業誘致」であり、20歳代では「住宅等の家賃補助」、30歳代では「職業紹介・就職マッチング支援」となっている。

問14 若者が定住するために効果的であること



問14 若者が定住するために効果的であること



3. 松阪駅西地区複合施設基本構想について

問 15 松阪駅西地区複合施設基本構想は、松阪駅西地区に民間施設を誘致したいことから、複合施設における事業に求める条件（機能）として以下のとおり整理しました。（１）～（６）の各ゾーンの重要度について、あなたのお考えに近いものをそれぞれ１つずつ選んで○をつけてください。

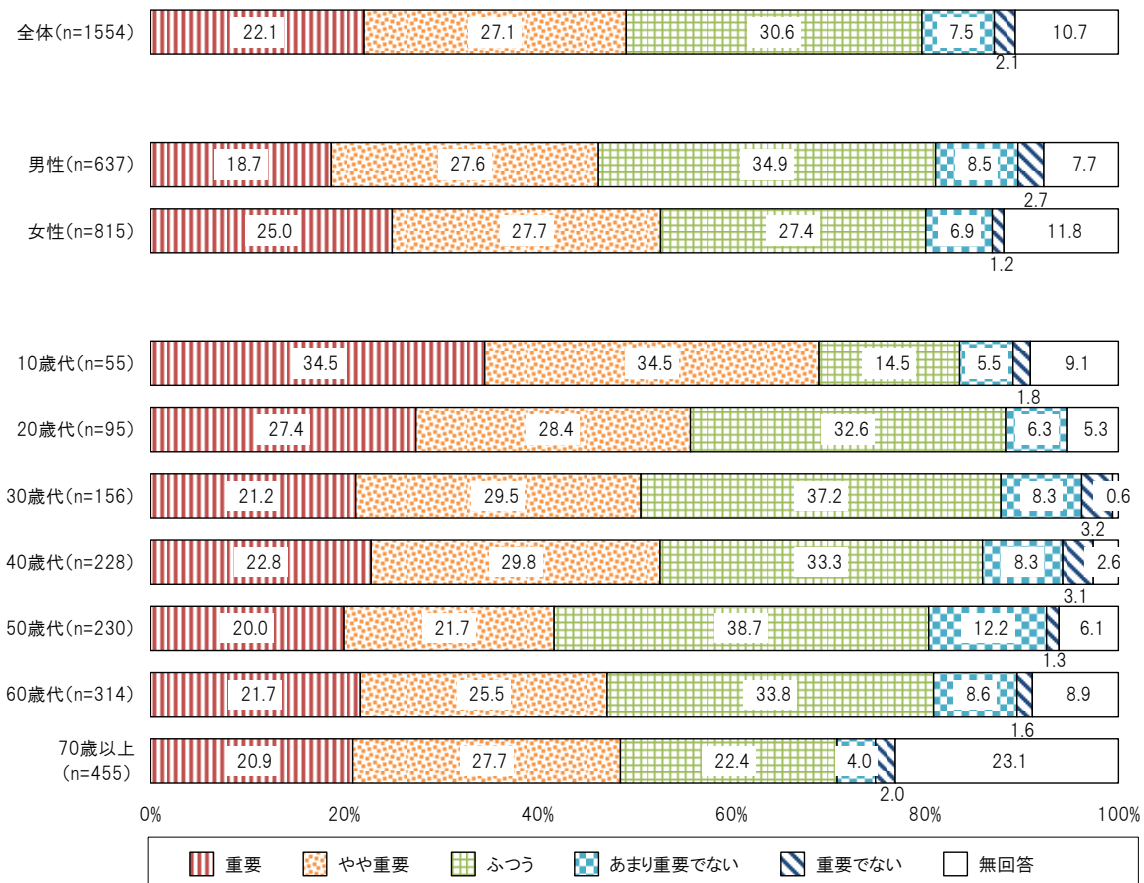
- (1) 滞在ゾーン
- ◆ 自由に滞在できる（勉強、おしゃべり、待ち合わせ等）場所
 - ◆ 市民活動などの発表の場。市民がチャレンジできる場所
 - ◆ 松阪の歴史や文化、地域情報の発信の場所
 - ◆ 子どもからお年寄りまでが楽しめる場所
 - ◆ 他の機能（ゾーン）とのつながりを生み出す場所
 - ◆ 開放的な空間とし、鉄道利用者から滞在ゾーンの様子が見える、また滞在ゾーンから鉄道の往來を眺めることができるような場所

「ふつう」が30.6%で最も高く、ついで「やや重要」が27.1%、「重要」が22.1%となっている。

性別にみると、「ふつう」の割合は男性の方が7.5ポイント高く、「重要」と「やや重要」の合計の割合は男性が46.3%、女性が52.7%であり、女性の方が6.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は10歳代で最も高く、10歳代から40歳代までの年代は50%を超えている。50歳代で41.7%と最も低くなっている。

問15(1) 滞在ゾーン



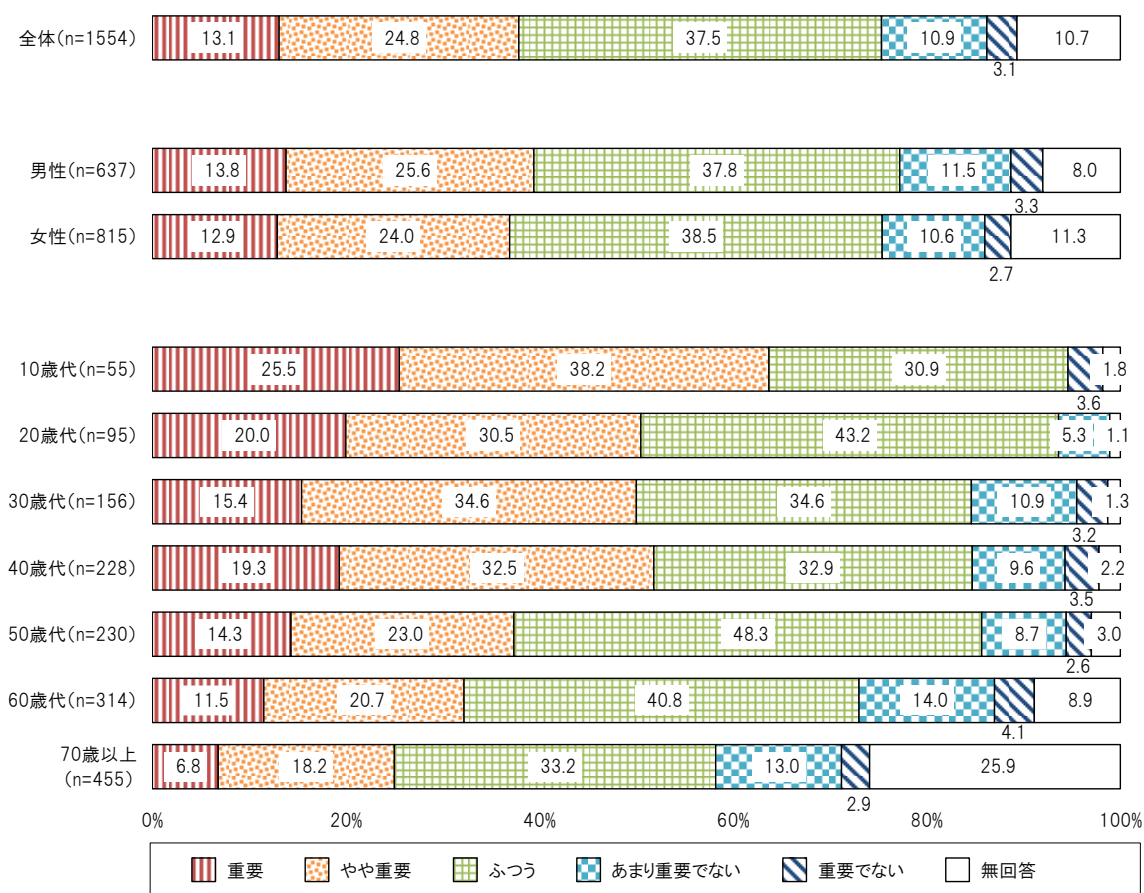
(2) 営利事業ゾーン ◆ 建設費・維持費が担保できる営利事業施設（バンケット・レストランなどを含むホテル、賃貸・分譲マンションなど）

「ふつう」が37.5%で最も高く、ついで「やや重要」が24.8%、「重要」が13.1%となっている。

性別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は男性が39.4%、女性が36.9%であり、男性の方が2.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は10歳代で最も高く、10歳代から40歳代までの年代は50%以上だが、70歳以上で25.0%と最も低くなっている。

問15(2) 営利事業ゾーン



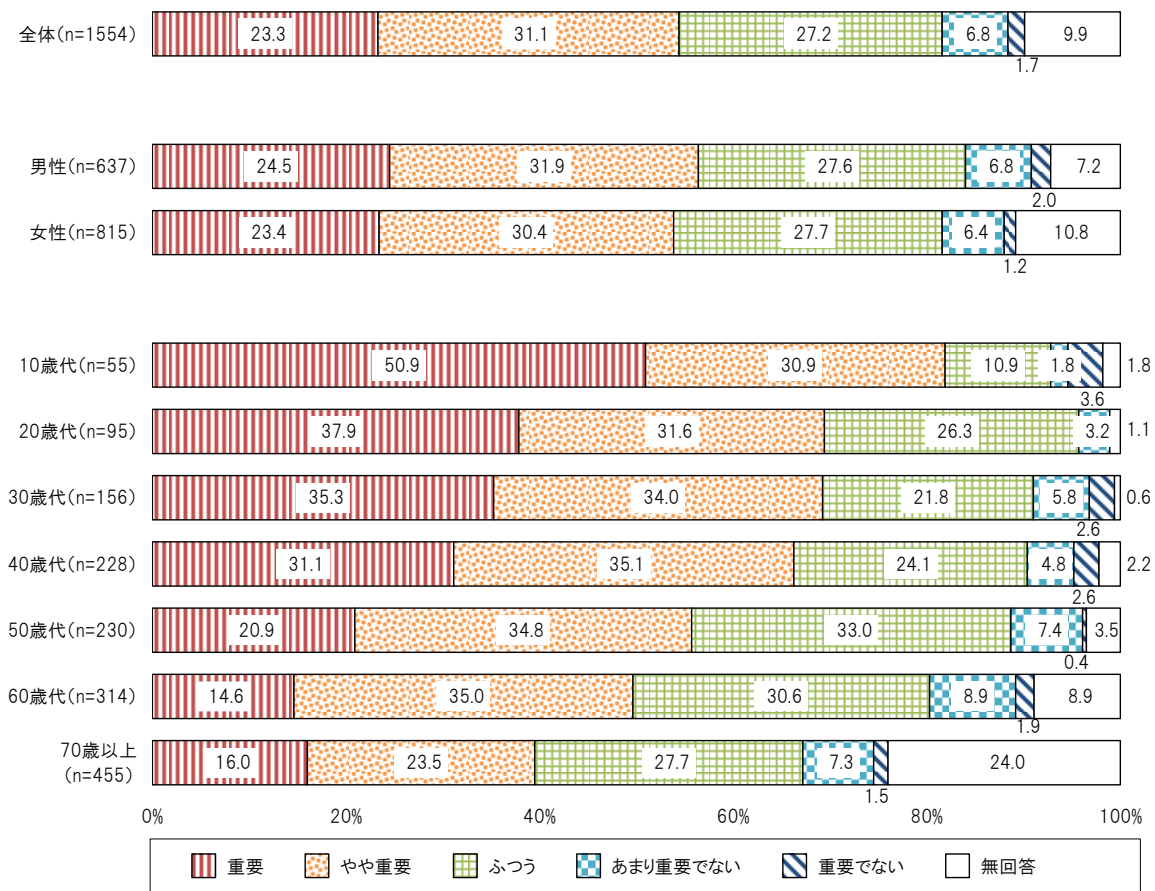
(3) テナントゾーン ◆ 日常生活に必要なモノ・コトを満たすことができる店舗（スーパーマーケット、スポーツジム、娯楽施設、貸しオフィス、貸し会議室など）

「やや重要」が31.1%で最も高く、ついで「ふつう」が27.2%、「重要」が23.3%となっている。

性別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は男性が56.4%、女性が53.8%であり、男性の方が2.6ポイント高くなっている。

年代別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は10歳代で最も高く、10歳代から50歳代までの年代は50%を超えているが、70歳以上で39.5%と最も低くなっている。

問15(3) テナントゾーン



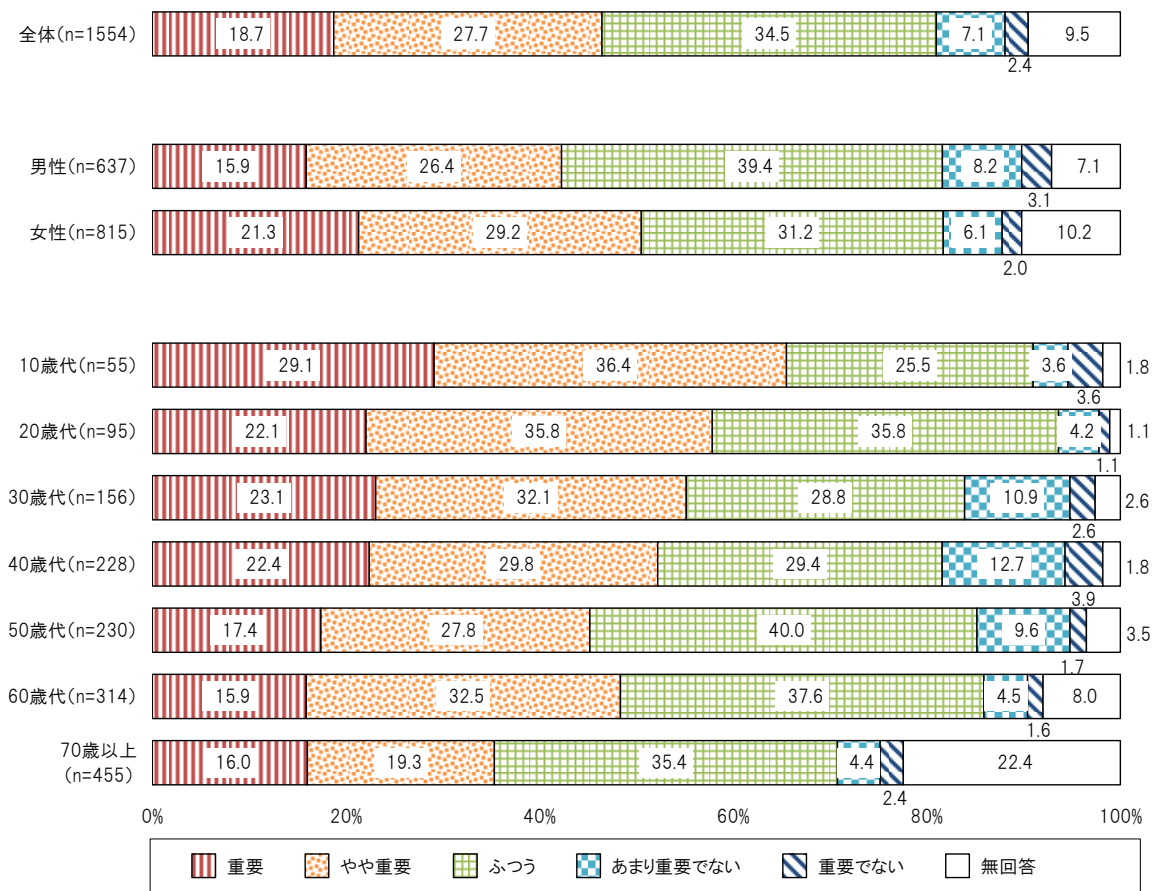
(4) 行政窓口ゾーン ◆ 行政手続きができる窓口（住民票などの証明、旅券窓口、図書館の本の貸し借りができる窓口など）

「ふつう」が34.5%で最も高く、ついで「やや重要」が27.7%、「重要」が18.7%となっている。

性別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は男性が42.3%、女性が50.5%であり、女性の方が8.2ポイント高くなっている。

年代別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は10歳代で最も高く、10歳代から40歳代までの年代は50%を超えているが、70歳以上で35.3%と最も低くなっている。

問15(4) 行政窓口ゾーン



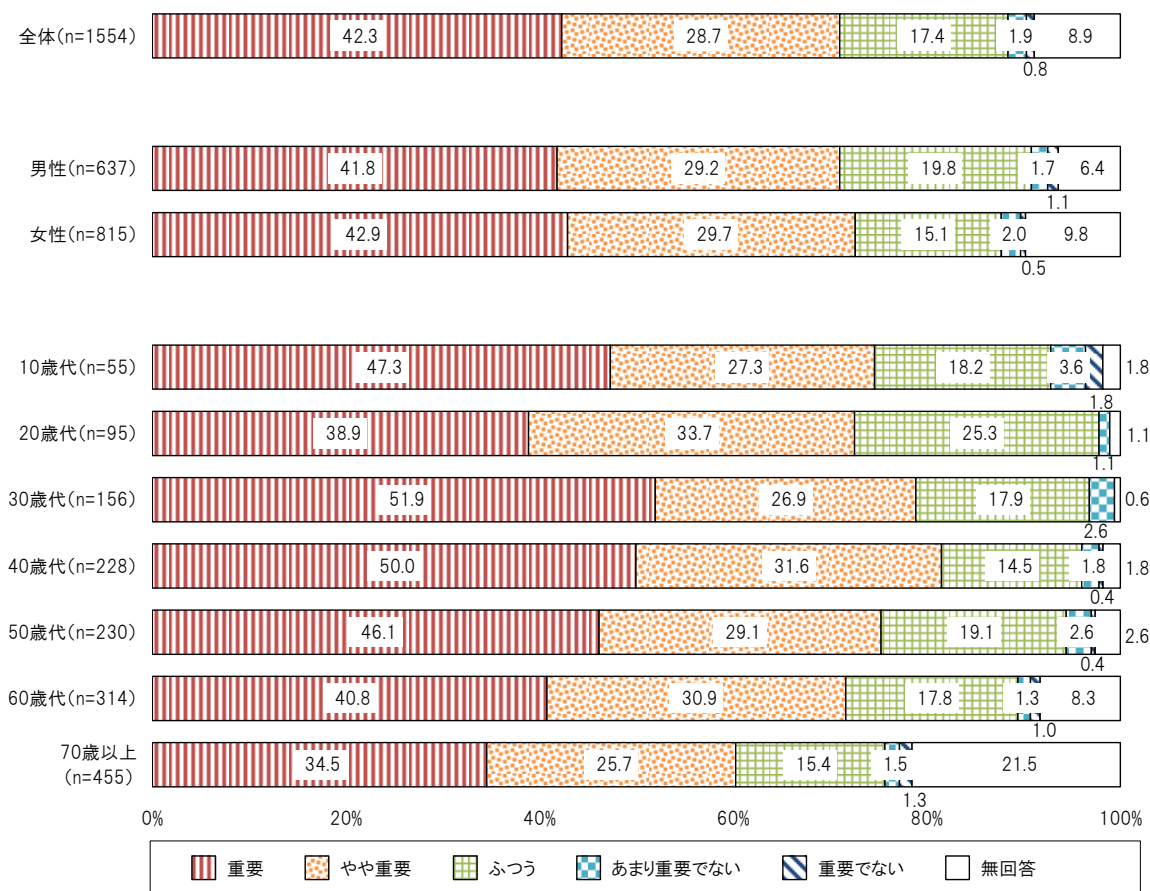
(5) 交通との連携 ◆ 駐車場・駐輪場
◆ 松阪駅・バスターミナルとの一体的な動線

「重要」が42.3%で最も高く、ついで「やや重要」が28.7%、「ふつう」が17.4%となっている。

性別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は男性が71.0%、女性が72.6%であり、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は40歳代で最も高く81.6%となっている。50歳代以降は年々割合が低くなっており、70歳以上では60.2%と最も低くなっている。

問15(5) 交通との連携



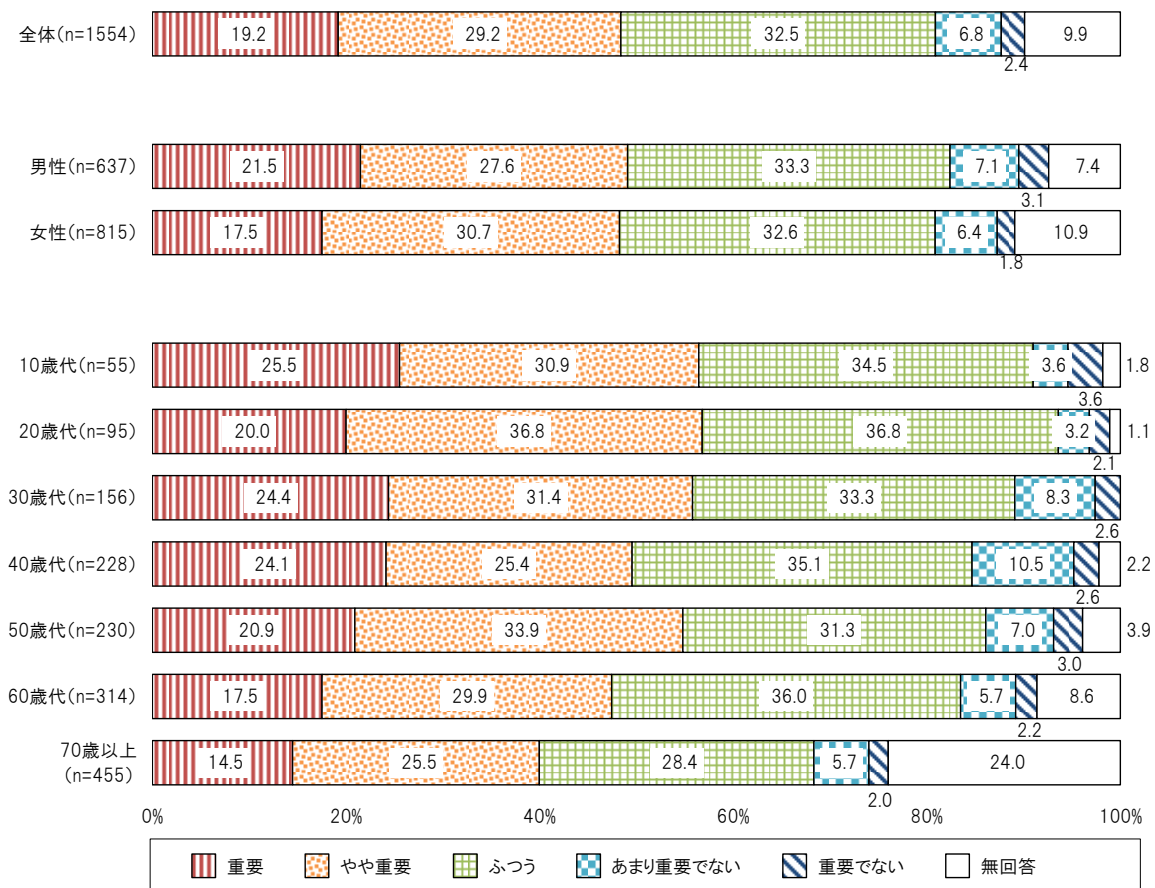
(6) 商店街等との連携 ◆ 商店街PRの場（商店街情報提供場所、セレクトショップ、松阪ブランドショップなど）

「ふつう」が32.5%で最も高く、ついで「やや重要」が29.2%、「重要」が19.2%となっている。

性別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は男性が49.1%、女性が48.2%であり、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、「重要」と「やや重要」の合計の割合は20歳代で最も高くなっている。10歳代から30歳代及び50歳代では50%を超えているが、70歳以上では40.0%と最も低くなっている。

問15(6) 商店街等との連携



問 16 上記（問 15）以外に必要な条件（機能）はありますか。ご自由にご記入ください。

《主な意見》

- 核となるテナント誘致
- バスターミナル付近の店舗
- 若者が行きたくなるショップ
- 特産品をたくさんあつめた商業施設、購入出来るお店
- 大人から子どもまで参加出来る体験型施設
- 居酒屋横丁的な飲んだり食べたりできるところ
- 松阪駅を横切れる通路
- 参宮の途中で必ず立ち寄ってもらえるようなもの
- 観光客が、車イスや福祉車両をレンタルできる施設
- 今まで松阪市内では手に入らなかったもの、おしゃれなもの、珍しいものなどそこへ行けば何かある、行くこと自体にわくわくする所
- 無料駐車場
- 24 時間トイレ有りの道の駅のような施設
- ペット同伴できる公園、施設
- イベント施設（コンサートなどできる）や市民ホール
- 住む場所の確保、安く住むことのできる場所
- バリアフリーの機能をもった施設（通路の幅の確保やエレベーターの設置、スロープ設置、ゆとりあるトイレなど）
- 保育園や幼稚園等
- 一時的な保育施設や医療機関
- 教育機関や学校
- 災害時の避難場所
- 緑の街里山再現ゾーン 小川も（セメントは不用）

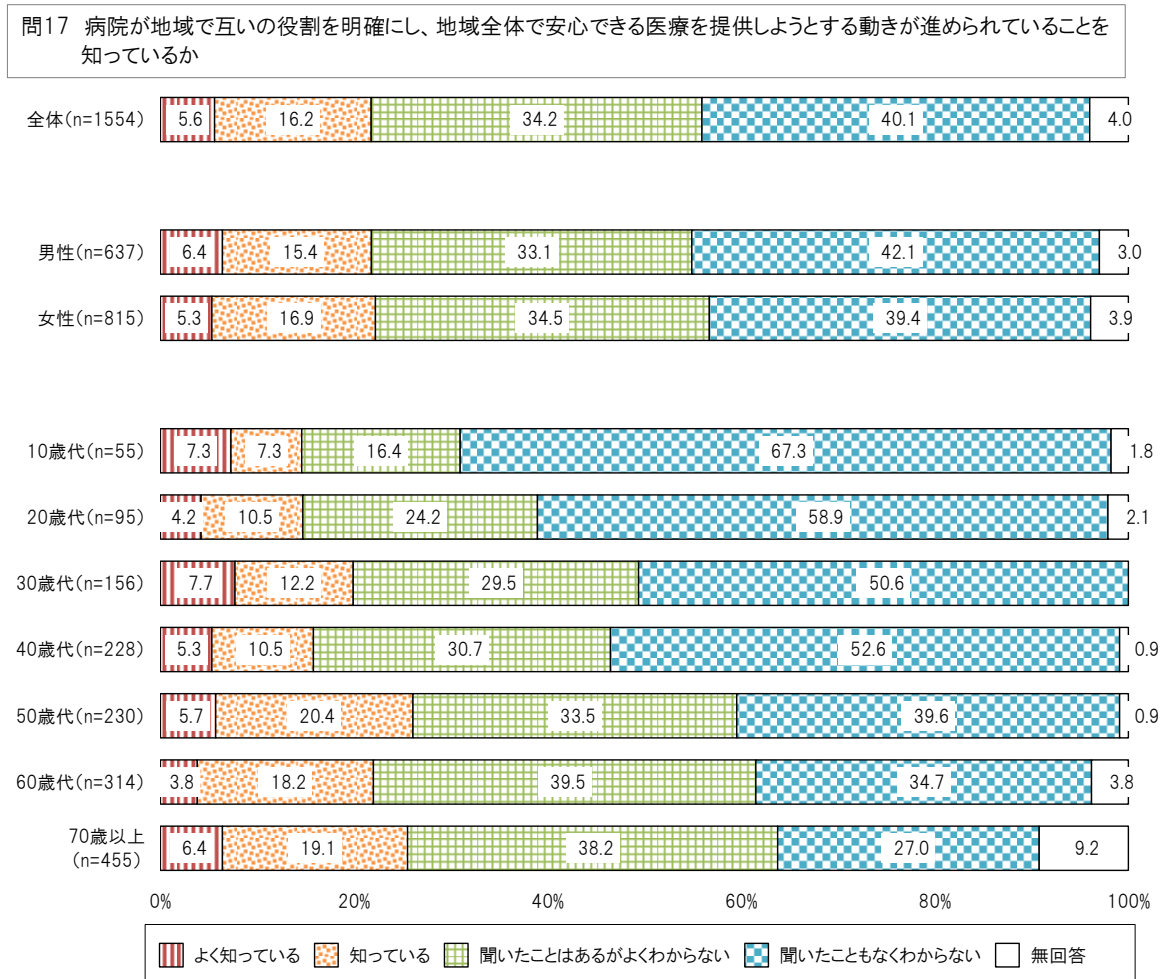
4. 地域包括ケアシステムとそれを支える医療提供体制について

問 17 現在の医療制度においては、それぞれの病院が、高度急性期機能、急性期機能、回復期機能、慢性期機能といった機能を分担しています。これらの病院が地域で互いの役割を明確にし、地域全体で安心できる医療を提供しようとする動きが進められています。このことについて知っていますか。(〇は1つだけ)

「聞いたこともなくわからない」が40.1%で最も高く、ついで「聞いたことはあるがよくわからない」が34.2%、「知っている」が16.2%となっている。

性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、「聞いたこともなくわからない」は年齢が高くなるにつれ割合が低くなっており、最も割合の高い10歳代が67.3%であるのに対し、最も割合の低い70歳以上では27.0%と40%以上の差がある。



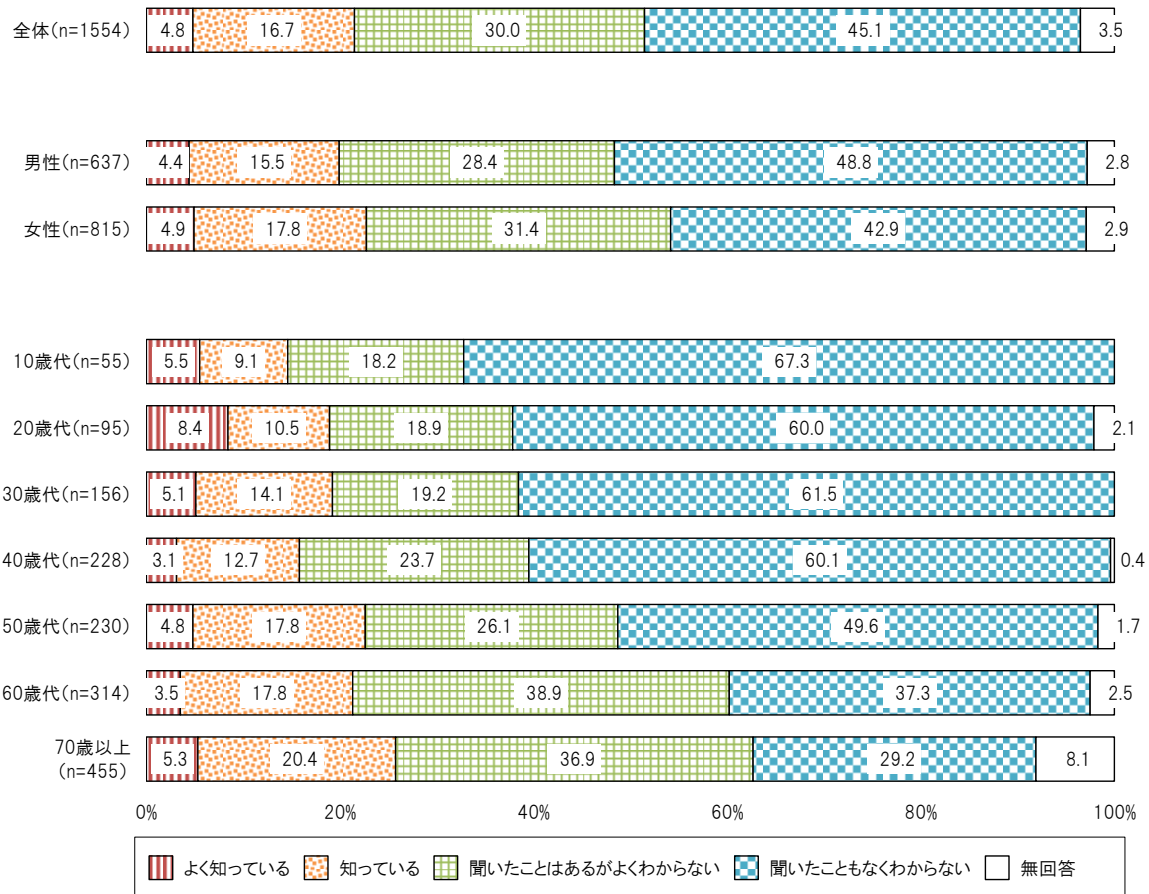
問 18 「三重県地域医療構想」では、松阪区域において 75 歳以上の人口がピークとなる 2030 年頃の超高齢社会に向けて、病床のうち回復期機能（地域包括ケア病床）の不足が見込まれています。このことについて知っていますか。（○は1つだけ）

「聞いたこともなくわからない」が 45.1%で最も高く、ついで「聞いたことはあるがよくわからない」が 30.0%、「知っている」が 16.7%となっている。

性別にみると、「聞いたこともなくわからない」の割合は、男性で 48.8%であるのに対し、女性では 42.9%であり、男性の方が 5.9 ポイント高くなっている。

年代別にみると、「聞いたこともなくわからない」は年齢が高くなるにつれ割合が低くなっており、最も割合の高い 10 歳代が 67.3%であるのに対し、最も割合の低い 70 歳以上では 29.2%と 38 ポイント以上の差がある。

問18 2030年頃の超高齢社会には病床のうち回復期機能(地域包括ケア病床)の不足が見込まれていることを知っているか

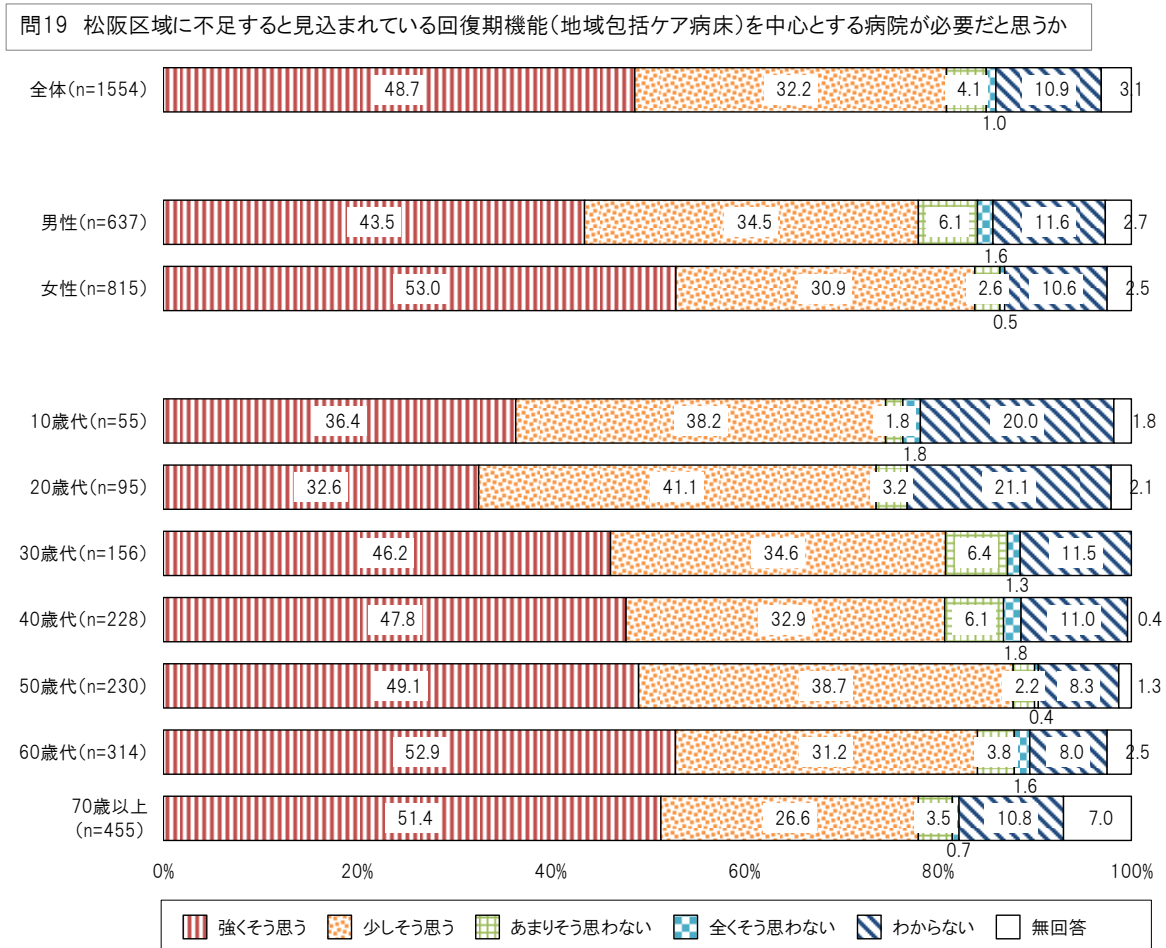


問 19 75 歳以上の人口がピークとなる 2030 年頃の超高齢社会に備え、松阪区域に不足すると見込まれている回復期機能（地域包括ケア病床）を中心とする病院が必要だと思いますか。（〇は1つだけ）

「強くそう思う」が 48.7%で最も高く、ついで「少しそう思う」が 32.2%、「わからない」が 10.9%となっている。

性別にみると、「強くそう思う」の割合は、男性で 43.5%であるのに対し、女性では 53.0%であり、女性の方が 9.5 ポイント高くなっている。

年代別にみると、「強くそう思う」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなる傾向がみられ、60 歳代、70 歳以上では 50%以上となっている。



5. COPD(慢性閉塞性肺疾患)に係る認知度について

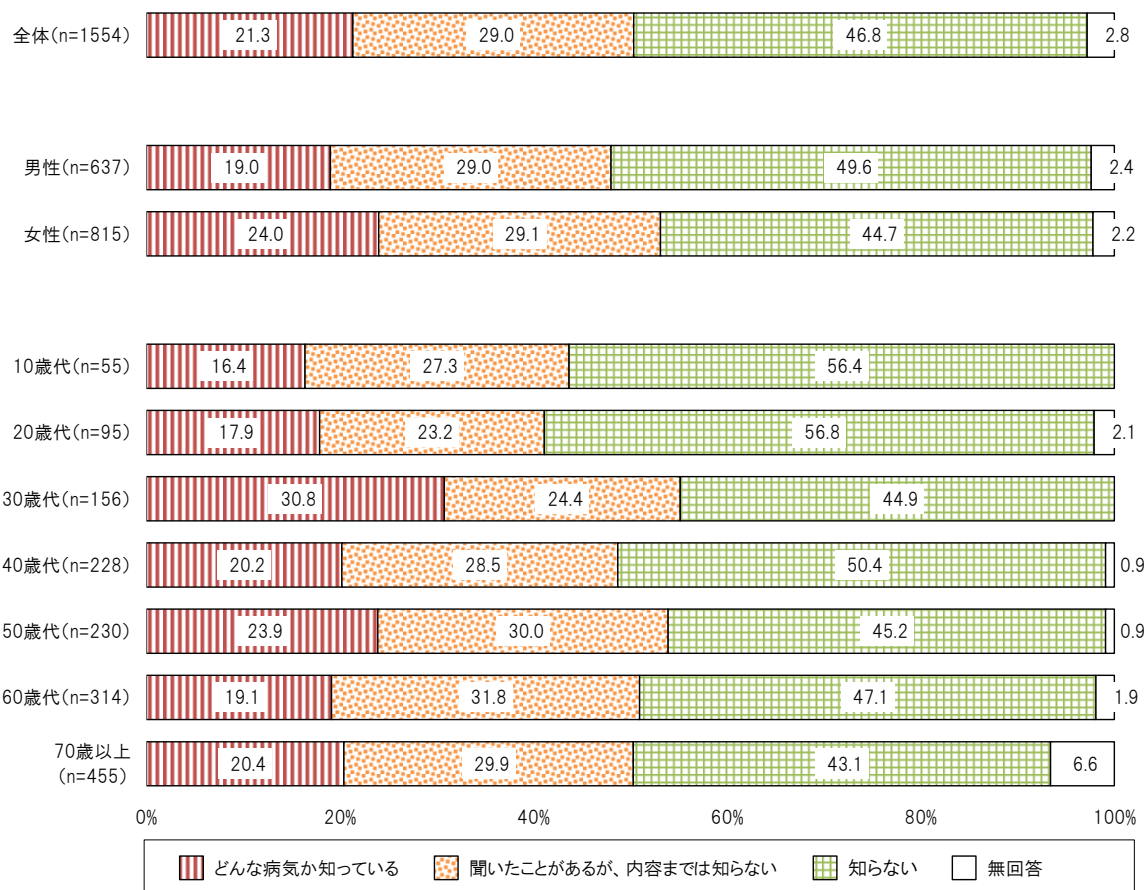
問 20 あなたは COPD (慢性閉塞性肺疾患) という病気を知っていますか。(〇は1つだけ)

「知らない」が46.8%で最も高く、ついで「聞いたことがあるが、内容までは知らない」が29.0%、「どんな病気か知っている」が21.3%となっている。

性別にみると、「知らない」の割合は、男性で49.6%であるのに対し、女性では44.7%であり、男性の方が4.9ポイント高くなっている。

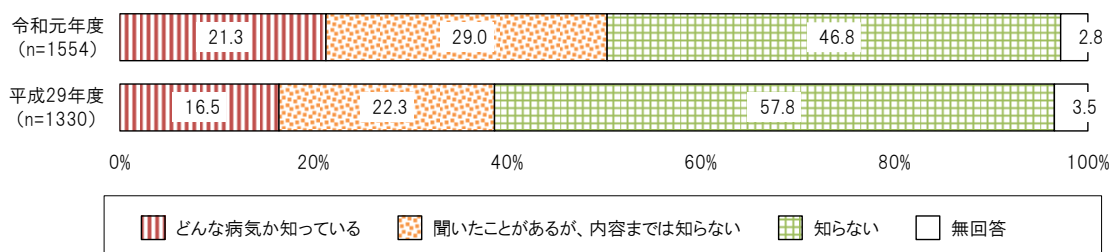
年代別にみると、「知らない」の割合は、10歳代、20歳代で高くなっている。なお、30歳代は「どんな病気か知っている」が30.8%と他の年代に比べ知っている割合が高くなっている。

問20 COPD(慢性閉塞性肺疾患)という病気を知っているか



前回と比較すると、「知らない」の割合は、前回は57.8%であったのが今回は46.8%と10ポイント以上低くなっている。

問20 COPD(慢性閉塞性肺疾患)という病気を知っているか



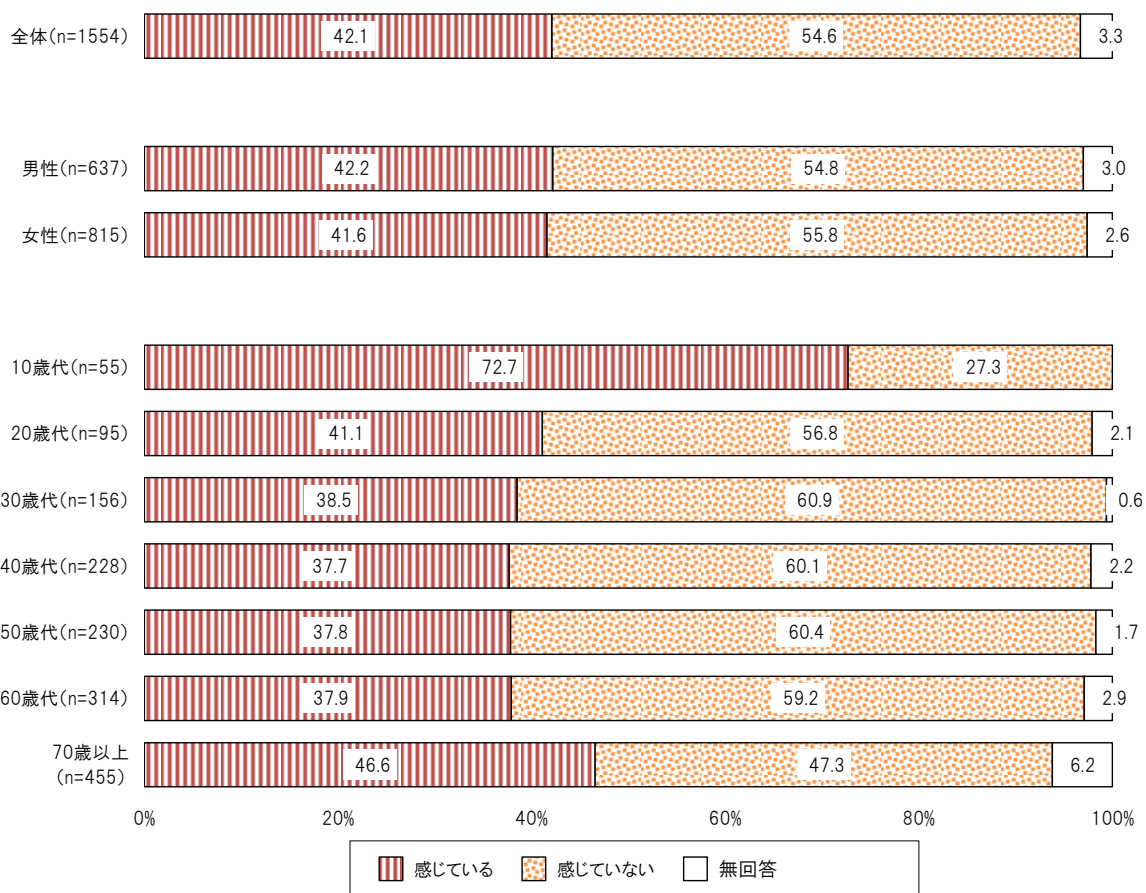
6. 交通政策について

問21 あなたは移動手段に不便を感じていますか。(〇は1つだけ)

「感じていない」が54.6%で最も高く、ついで「感じている」が42.1%となっている。
性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、20歳代から60歳代までは比較的似た傾向がみられるが、10歳代及び70歳以上で移動手段に不便を「感じている」割合が高くなっている。

問21 移動手段に不便を感じているか



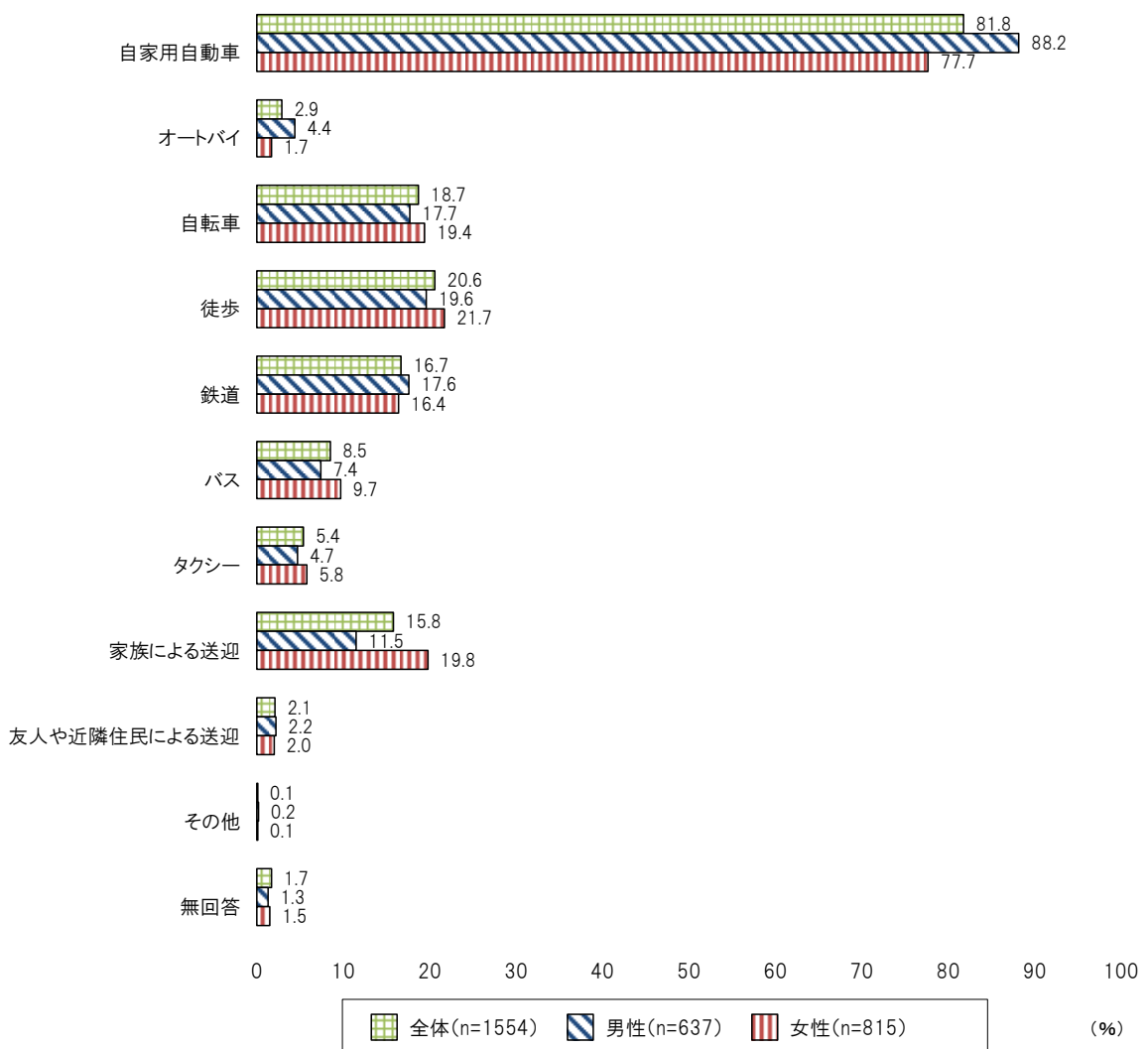
問22 あなたが普段お出かけする際の主な移動手段をお答えください。(〇は3つまで)

「自家用自動車」が81.8%で最も高く、ついで「徒歩」が20.6%、「自転車」が18.7%となっている。

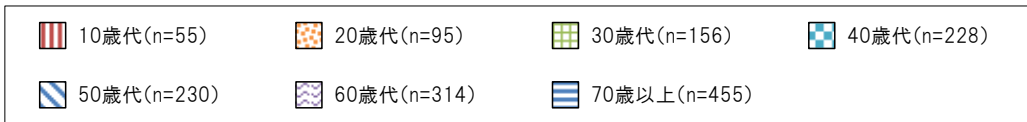
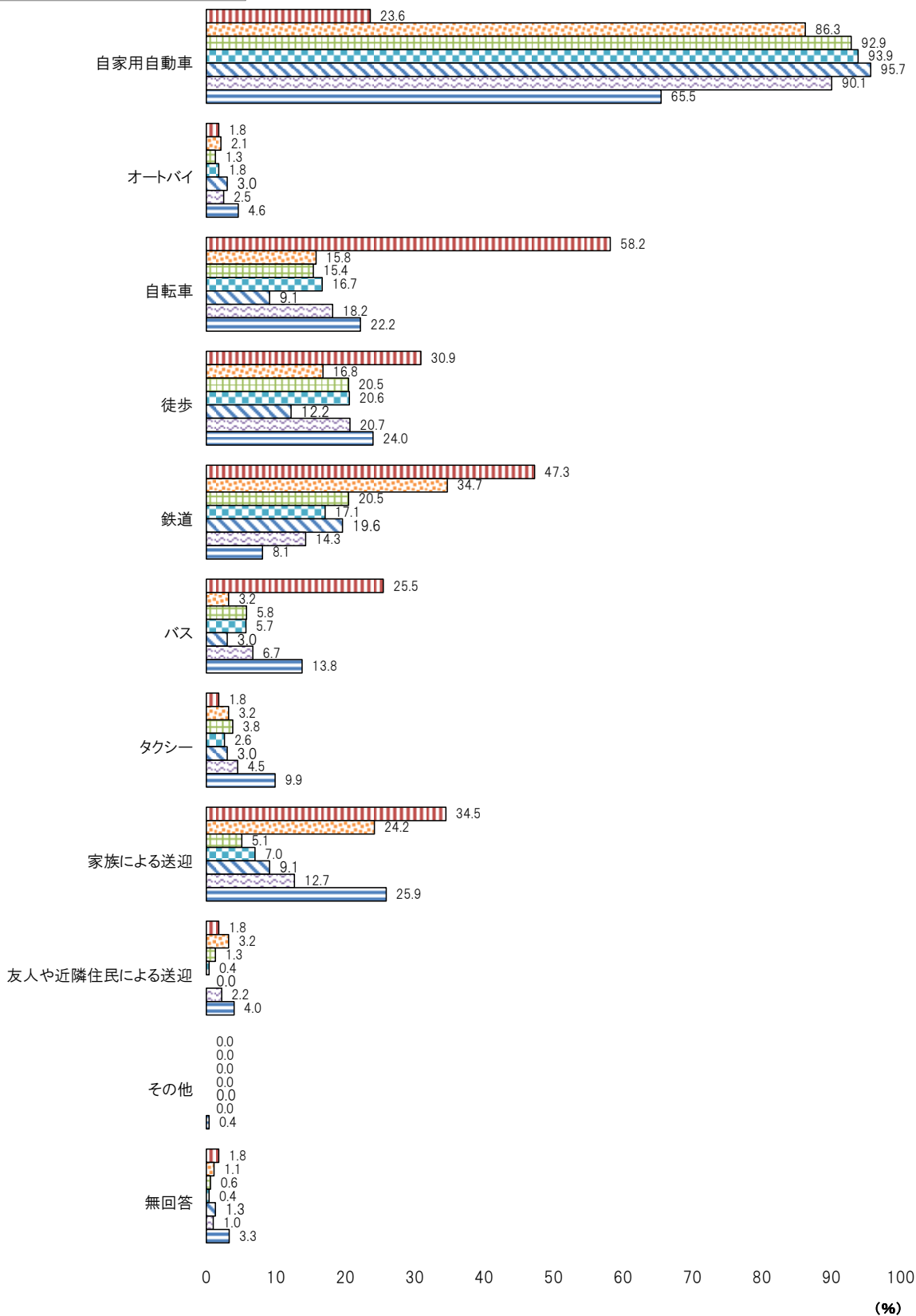
性別にみると、男女で差が大きいものは、「自家用自動車」が男性88.2%、女性77.7%で10.5ポイント男性の方が多くなっている。一方、「家族による送迎」は男性11.5%、女性19.8%で8.3ポイント女性の方が多くなっている。

年代別にみると、10歳代を除いて最も割合が高いのは「自家用自動車」となっており、10歳代では「自転車」の割合が最も高くなっている。2番目に高い項目は、10歳代、20歳代、30歳代、50歳代では「鉄道」となっており、30歳代、40歳代、60歳代では「徒歩」となっている。70歳以上では「家族による送迎」となっている。なお、30歳代の2番目に多い項目は2つの項目が同率であった。

問22 普段出かける際の主な移動手段



問22 普段出かける際の主な移動手段



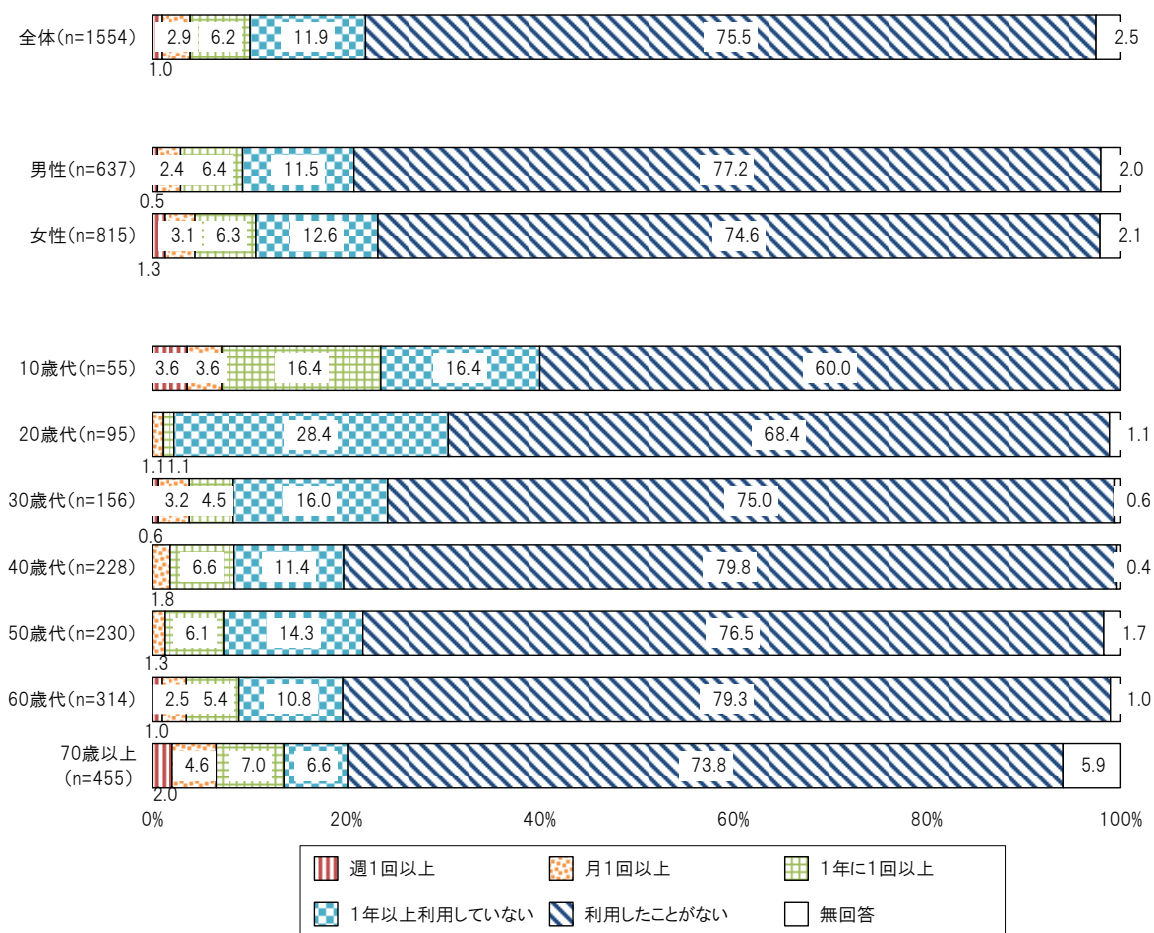
問23 鈴の音バスなど市が運営するコミュニティバスの利用頻度をお答えください。(〇は1つだけ)

「利用したことがない」が75.5%で最も高く、ついで「1年以上利用していない」が11.9%、「1年に1回以上」が6.2%となっている。

性別にみると、「週1回以上」、「月1回以上」、「1年に1回以上」の合計の割合は、男性が9.3%、女性が10.7%で、1.4ポイント女性の方が高かった。

年代別にみると、「利用したことがない」の割合は、10歳代、20歳代が60%台であったのに対し、30歳代以上はいずれの年代も70%台となっており割合が高くなっている。

問23 鈴の音バスなど市が運営するコミュニティバスの利用頻度

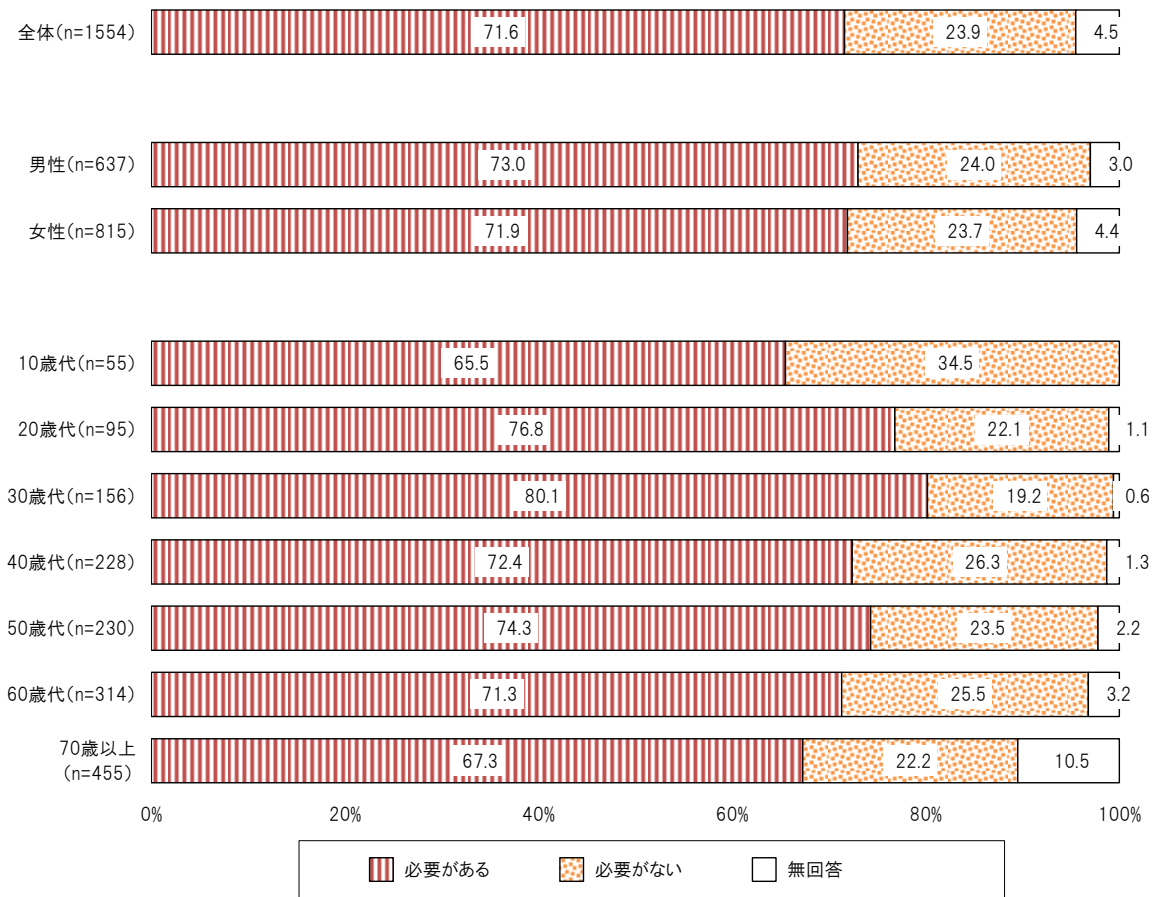


問 24 コミュニティバスは利用者数が減少し、運行経費のうち大半（1 億円以上）を税金で賄われていますが、有用性や継続性などの観点から見直しが必要であると思いますか。（〇は1つだけ）

「必要がある」が71.6%で最も高く、ついで「必要がない」が23.9%となっている。性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、「必要がある」の割合は、最も高い30歳代の80.1%と最も低い10歳代の65.5%の間で14.6%の差はあるものの、いずれの年代においても65%以上が「必要がある」としている。

問24 有用性や継続性などの観点からコミュニティバスの見直しが必要であると思うか



【問 24 で「1. 必要がある」とご回答いただいた方にお聞きします。】

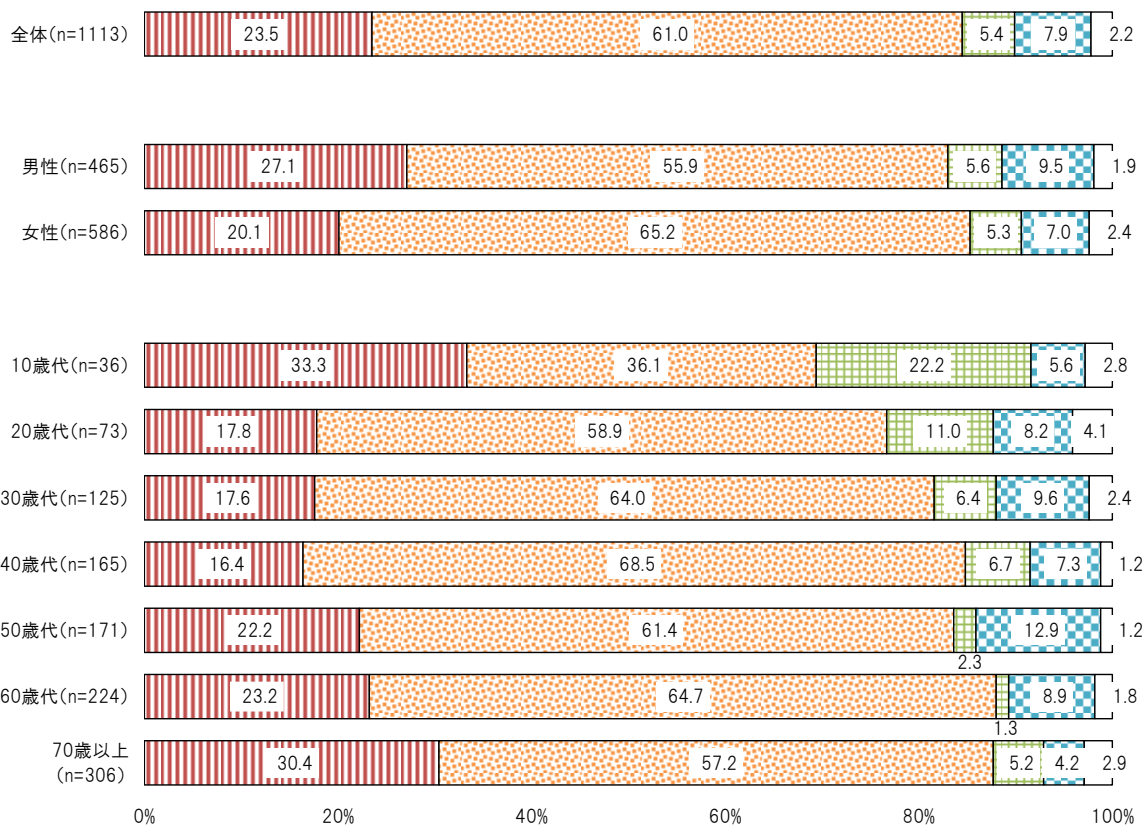
問 25 コミュニティバスから転換を図るなら、どのような形で税金を投入することが望ましいと思いますか。(〇は1つだけ)

「タクシーの活用（デマンドタクシーの普及やタクシーチケットの導入など）」が 61.0%で最も高く、ついで「住民主体による移動支援（住民同士の協力によるお出かけ支援）」が 23.5%、「その他」が 7.9%となっている。

性別にみると、「タクシーの活用（デマンドタクシーの普及やタクシーチケットの導入など）」の割合は、男性が 55.9%であるのに対し、女性では 65.2%であり、女性の方が 10 ポイント近く高くなっている。

年代別にみると、「住民主体による移動支援（住民同士の協力によるお出かけ支援）」の割合は 10 歳代を除いて年齢が低いほど割合が低く、年齢が高くなるほど割合が高くなっている。10 歳代では「自転車の活用（シェアサイクルなど自転車の貸し出しサービス）」が 22.2%と高くなっている。

問25 コミュニティバスから転換を図るなら、どのような形で税金を投入することが望ましいか



7. 認知症の取組について

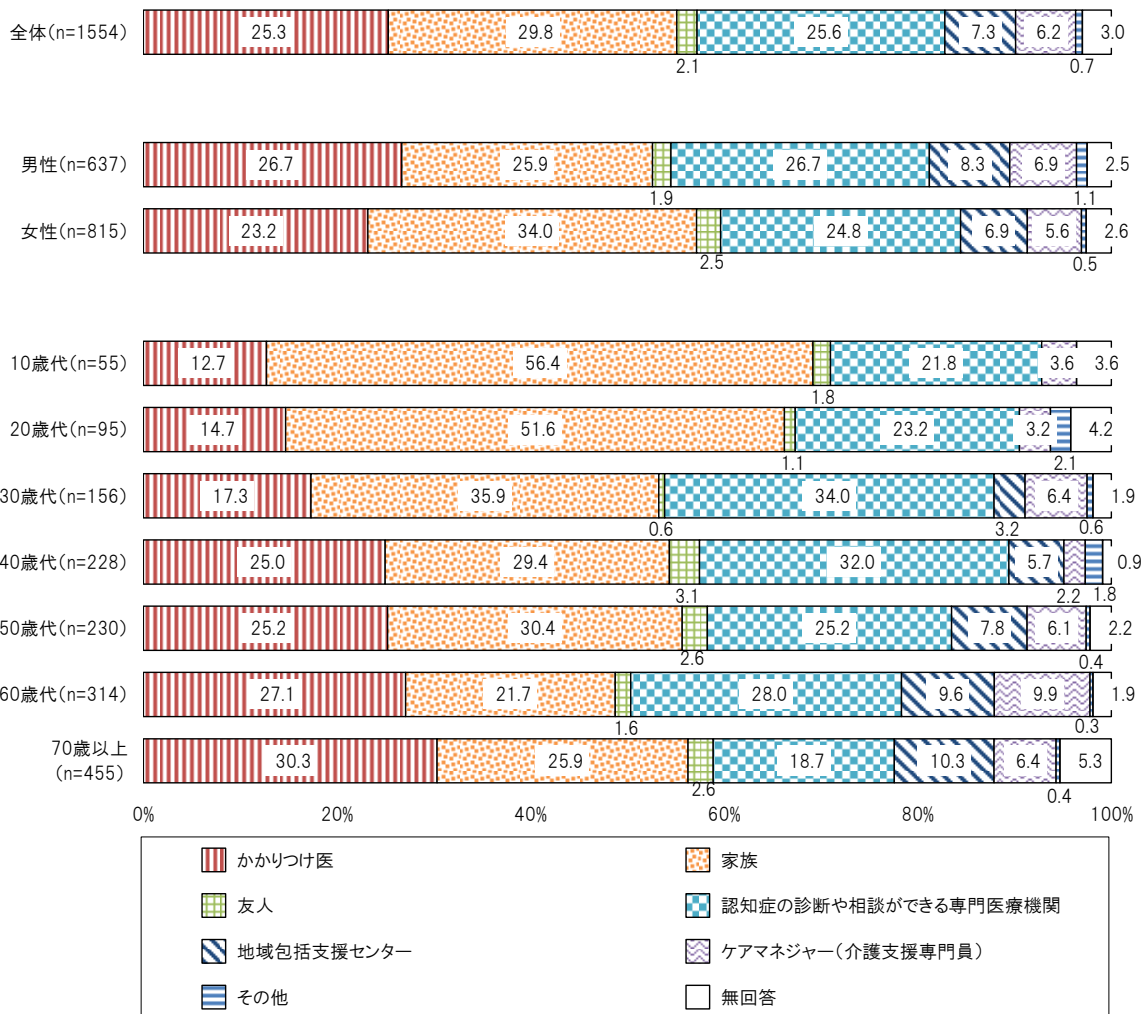
問 26 認知症は誰もがなる可能性のある病気です。あなたは身近に認知症、認知症と疑われる方がいたら誰に相談されますか。(〇は1つだけ)

「家族」が29.8%で最も高く、ついで「認知症の診断や相談ができる専門医療機関」が25.6%、「かかりつけ医」が25.3%となっている。

性別にみると、「家族」の割合は、男性が25.9%であるのに対し女性は34.0%であり、女性の方が8.1ポイント高くなっている。

年代別にみると、「家族」の割合は年齢が下がるほど高くなる傾向がみられる。また「かかりつけ医」の割合は年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。

問26 身近に認知症、認知症と疑われる方がいたら誰に相談するか



問27 認知症は個人差がありますが、軽度・中度・重度と状態が進行していきます。認知症の進行により物事の判断ができなくなったときに利用できる「成年後見制度」を知っていますか。(〇は1つだけ)

「知っている」が38.7%で最も高く、ついで「知らない」が36.4%、「言葉は聞いたことがある」が22.7%となっている。

性別にみると、「知っている」の割合は、男性が33.3%であるのに対し女性は43.6%であり、女性の方が10.3ポイント高くなっている。

年代別にみると、年齢が上がるにつれて「知っている」の割合は高くなる傾向がみられるが、70歳以上では「知っている」は40.0%となっている。

問27 認知症の進行により物事の判断ができなくなったときに利用できる「成年後見制度」を知っているか



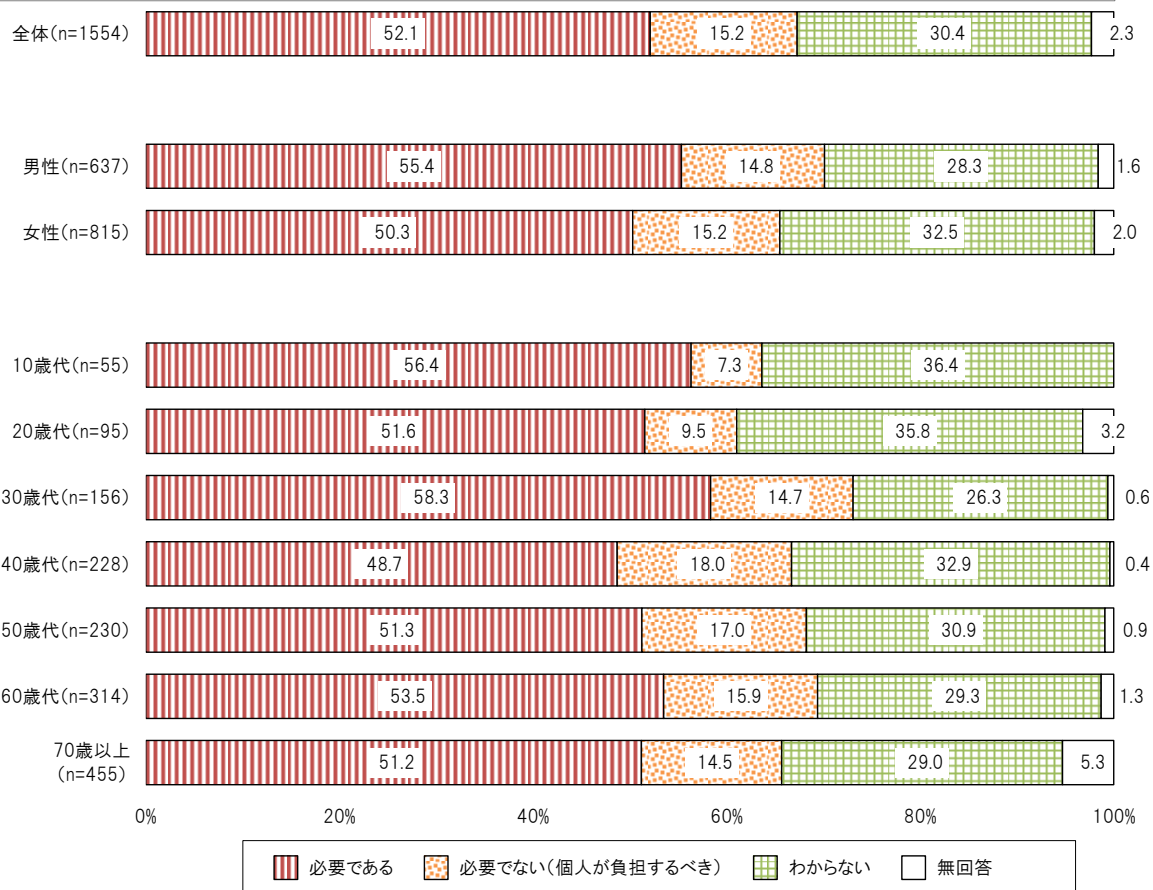
問 28 成年後見制度を利用するには、専門医による認知症の診断が必要ですが、その診断にかかる費用に公的な助成が必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

「必要である」が52.1%で最も高く、ついで「わからない」が30.4%、「必要でない(個人が負担すべき)」が15.2%となっている。

性別にみると、「必要である」の割合は、男性が55.4%であるのに対し女性は50.3%であり、男性の方が5.1ポイント高くなっている。

年代別にみると、「必要である」の割合は全年代で50%程度となっている。

問28 成年後見制度を利用するには専門医による認知症の診断が必要だが、その診断にかかる費用に公的な助成が必要だと思うか



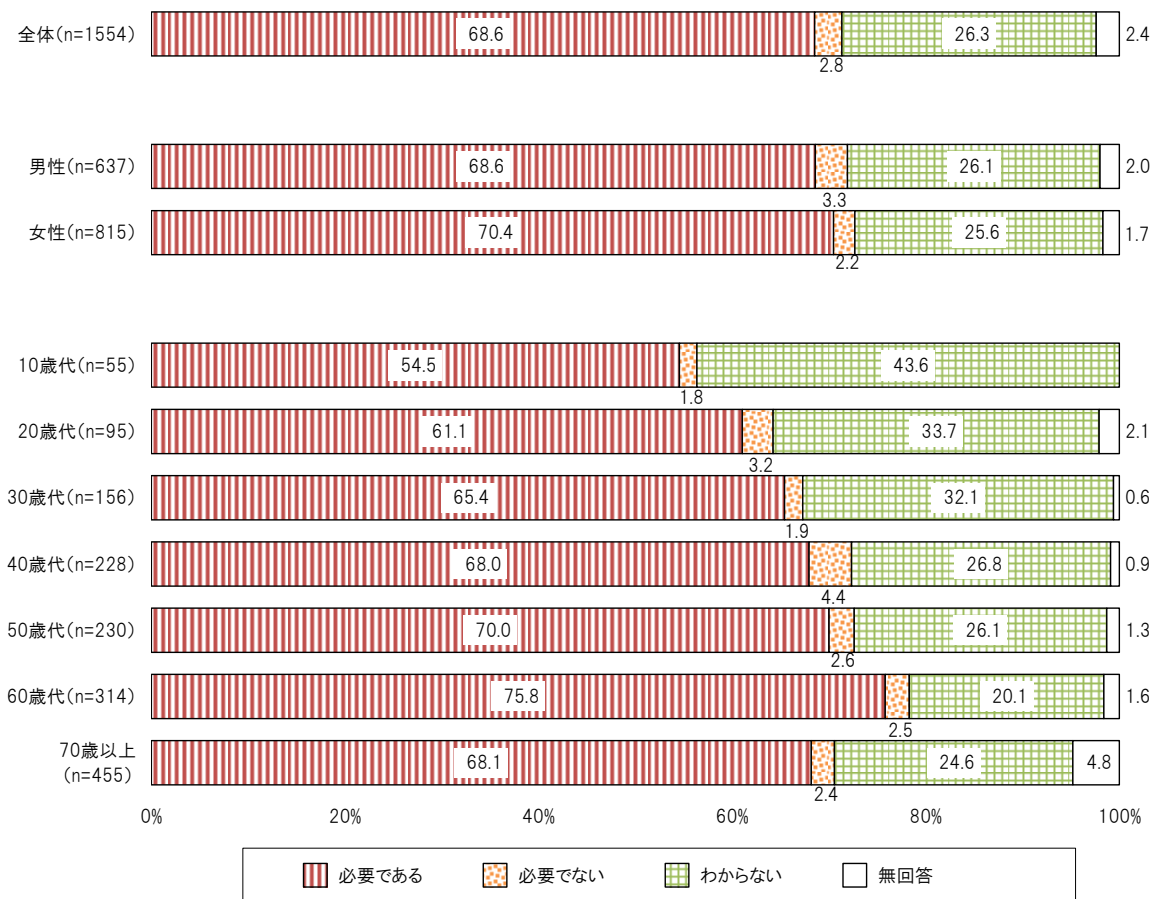
問 29 認知症の人やひとり暮らしの高齢者が増えていくなか、成年後見制度の利用を進めるため、「成年後見サポートセンター」の設置を考えています。センターの設置についてどう思いますか。(〇は1つだけ)

「必要である」が68.6%で最も高く、ついで「わからない」が26.3%、「必要でない」が2.8%となっている。

性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、おおむね年齢が高くなるほど「必要である」の割合は高くなっているが、70歳以上では68.1%と50歳代、60歳代に比べ低くなっている。

問29 「成年後見サポートセンター」の設置は必要だと思うか



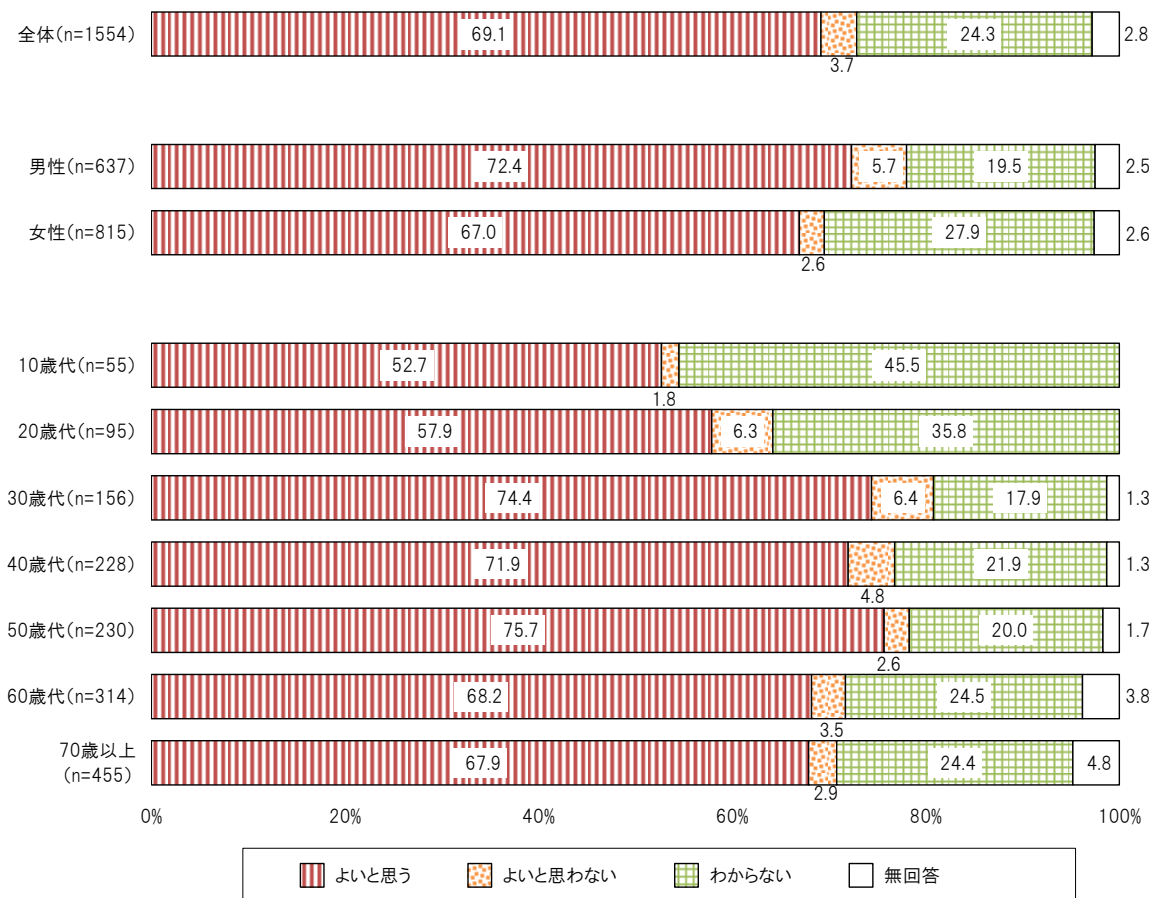
問 30 認知症で判断能力のない人が事故を起こしたり他人に損害を与えた場合、家族に必ずしも監督義務や賠償責任があるわけではないという最高裁判所の判決が出ています。その場合、事故等により被害を受けた方の救済を誰がどのように行うのかという問題があります。そこで、認知症の人による事故・トラブルの補償をするために賠償保険へ加入する自治体がでてきています。市が賠償保険へ加入することについてどう思いますか。(〇は1つだけ)

「よいと思う」が69.1%で最も高く、ついで「わからない」が24.3%、「よいと思わない」が3.7%となっている。

性別にみると、「よいと思う」の割合は、男性が72.4%であるのに対し女性は67.0%であり、男性の方が5.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、「よいと思う」の割合は30歳代から50歳代の間の年代で高くなっている。60歳代、70歳以上ではそれらの年代に比べ低くなっている。10歳代では「わからない」が半数ほどとなっている。

問30 市が賠償保険へ加入することについての考え



8. 企業誘致の推進について

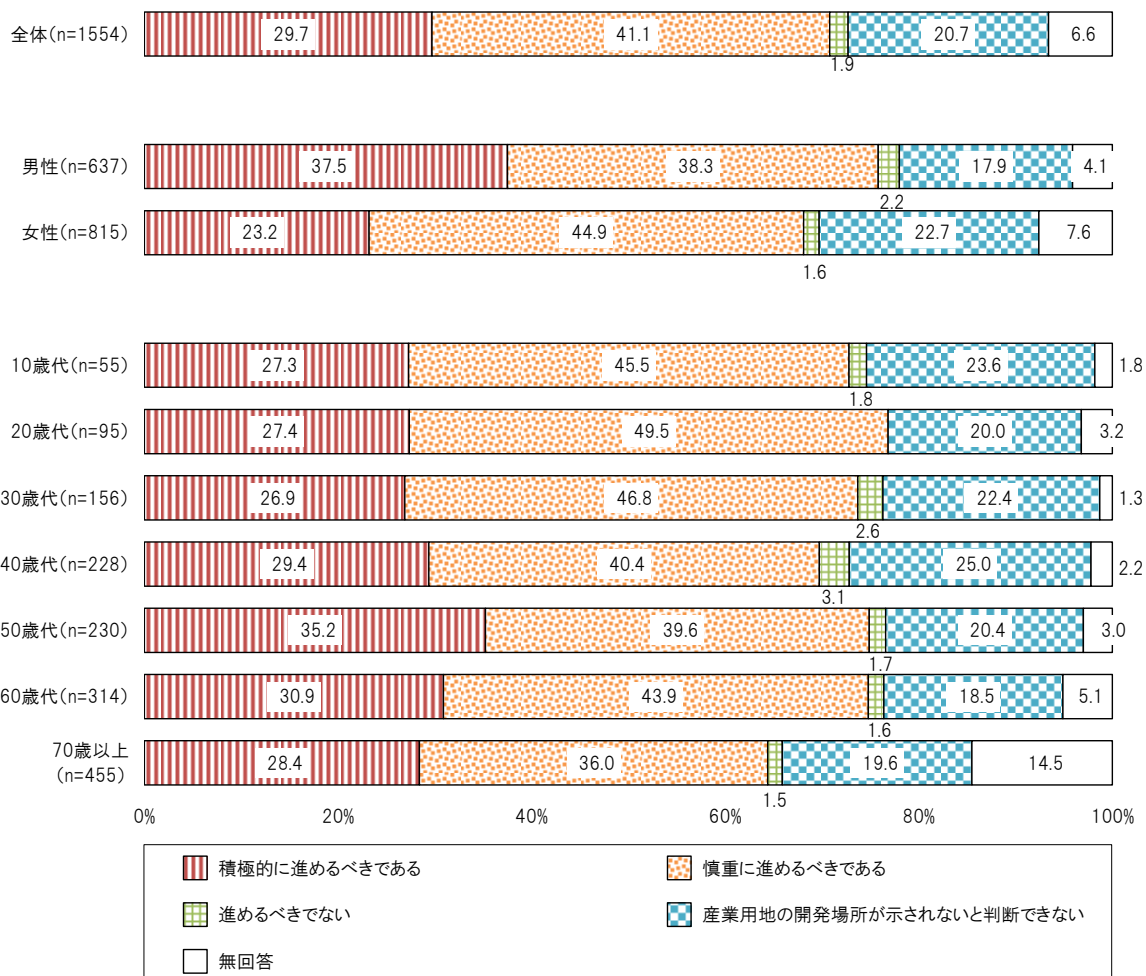
問 31 若者の雇用の場の確保による大都市圏への流出防止、企業立地による税収の確保に向けて、新工場等の企業誘致・投資促進が重要ですが、現在市内の工業団地はほぼ完売しており、新たな産業用地の開発が必要となっています。今後の産業用地の開発について、あなたのお考えに近いものをお答えください。(〇は1つだけ)

「慎重に進めるべきである」が41.1%で最も高く、ついで「積極的に進めるべきである」が29.7%、「産業用地の開発場所が示されないと判断できない」が20.7%となっている。

性別にみると、「積極的に進めるべきである」の割合は、男性が37.5%であるのに対し女性は23.2%であり、男性の方が14.3ポイント高くなっている。

年代別にみると、「積極的に進めるべきである」の割合は大半の年代で20%台後半となっているが、50歳代、60歳代では30%を超えている。

問31 今後の産業用地の開発についての考え

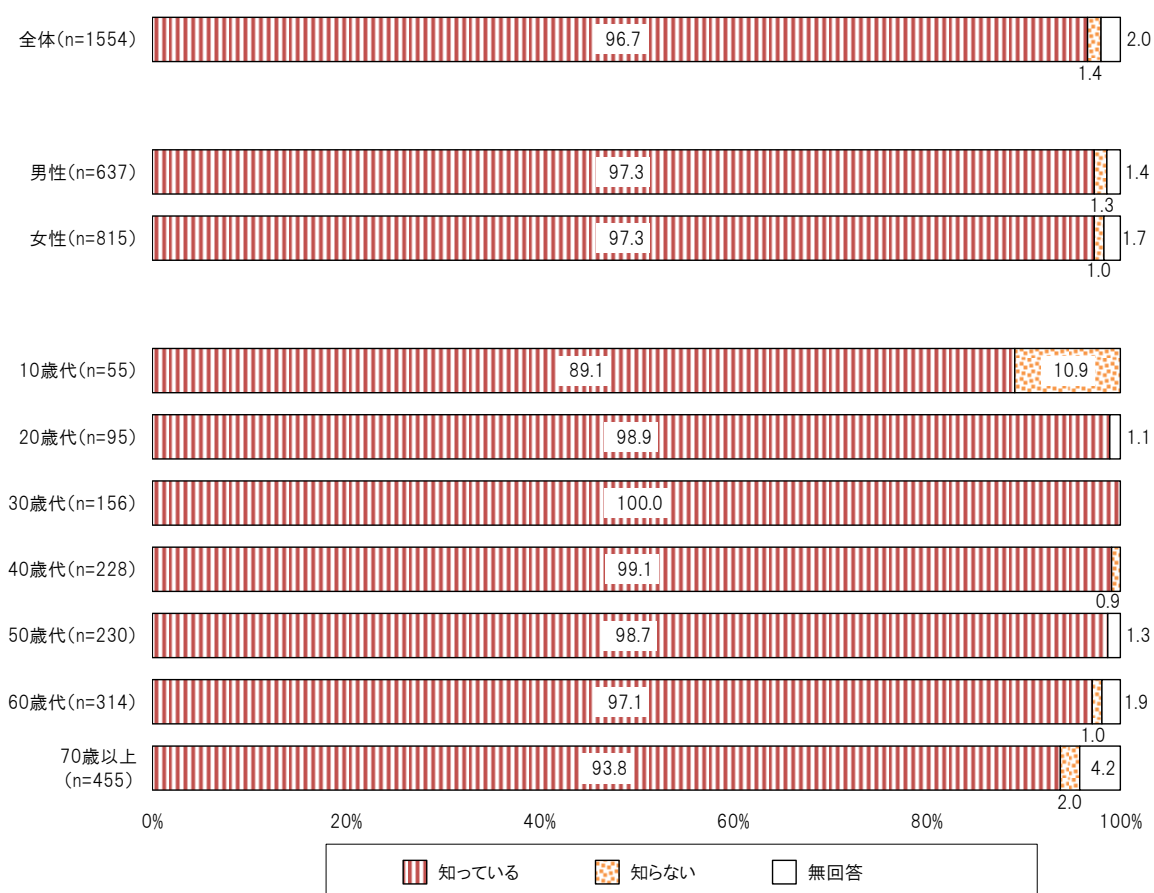


9. マイナンバーカードの認知度について

問32 マイナンバーカードがあることを知っていますか。(〇は1つだけ)

「知っている」が96.7%であり、非常に高い認知度となっている。
性別にみると、男女で大きな差はみられない。
年代別にみると、10歳代と70歳以上で若干低くなっている。

問32 マイナンバーカードがあることを知っているか



問 33 全国のコンビニエンスストア等で、マイナンバーカードを使用して、住民票の写しなどの公的な証明書が毎日取得できることを知っていますか。(〇は1つだけ)

「知っている」が72.3%で最も高く、ついで「知らない」が25.5%となっている。

性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、「知っている」の割合は10歳代で大幅に低くなっており、30歳代から60歳代の間の年代では「知っている」割合が75%を超えている。

問33 コンビニエンスストア等で、住民票の写しなどの公的証明書を取得できることを知っているか



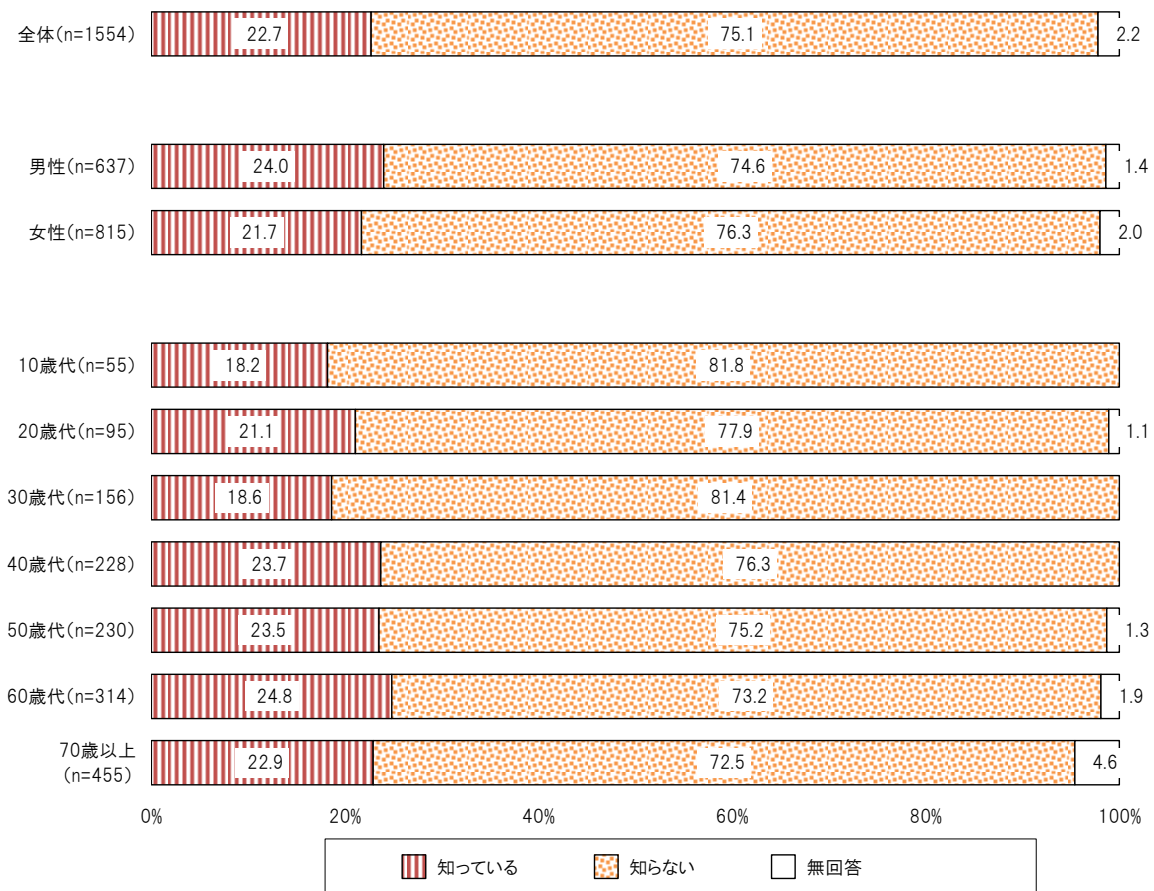
問 34 令和3年度からマイナンバーカードが健康保険証として利用ができることを知っていますか。(〇は1つだけ)

「知らない」が75.1%で最も高く、ついで「知っている」が22.7%となっている。

性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、「知っている」の割合は10歳代、30歳代で若干少なくなっており、他の年代では20%台前半となっている。

問34 令和3年度から健康保険証として利用できることを知っているか



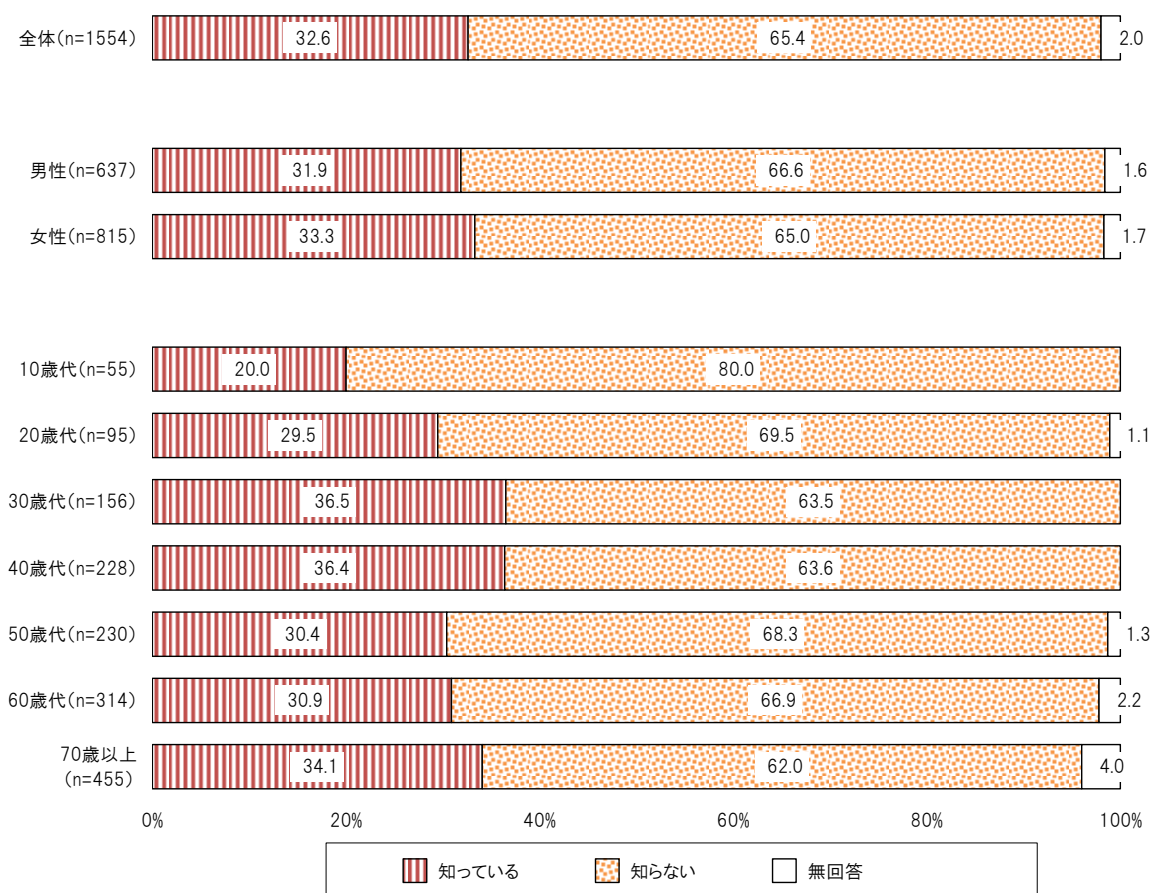
問 35 戸籍住民課が平日夜間に証明書発行窓口（午後 8 時まで）を開設していることを知っていますか。（〇は 1 つだけ）

「知らない」が 65.4%で最も高く、ついで「知っている」が 32.6%となっている。

性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、「知っている」の割合は 10 歳代が低くなっており、30 歳代、40 歳代で比較的高くなっている。

問35 戸籍住民課が平日夜間に証明書発行窓口を開設していることを知っているか



松阪市男女共同参画プラン策定にかかる意識調査

1. 男女共同参画の意識について

問 36 次のことばについて、お聞きします。①～⑤の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

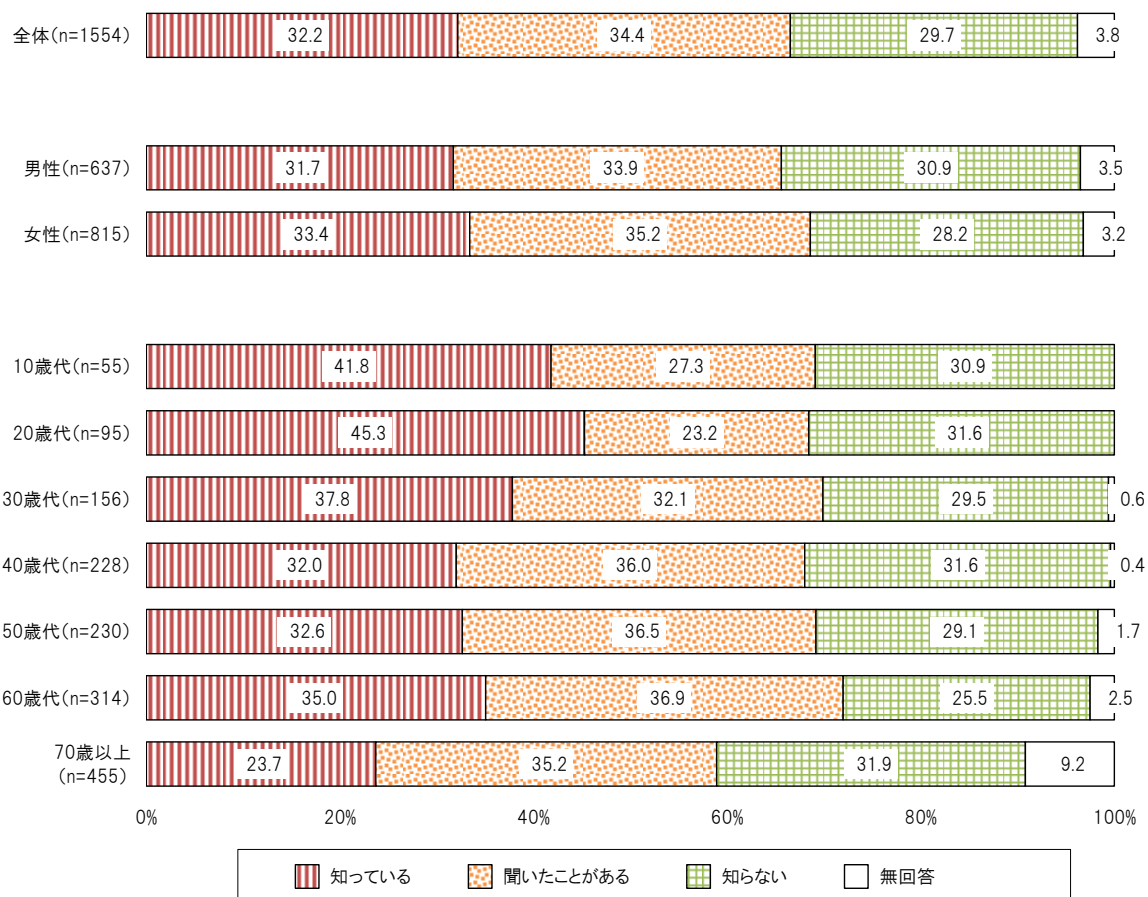
①「男女共同参画」

「聞いたことがある」が34.4%で最も高く、ついで「知っている」が32.2%、「知らない」が29.7%となっている。

性別にみると、「知らない」の割合は、男性が30.9%であるのに対し女性は28.2%であり、男性の方が2.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、おおむね年齢が高くなるほど「知っている」の割合が低くなる傾向がみられる。

問36①「男女共同参画」



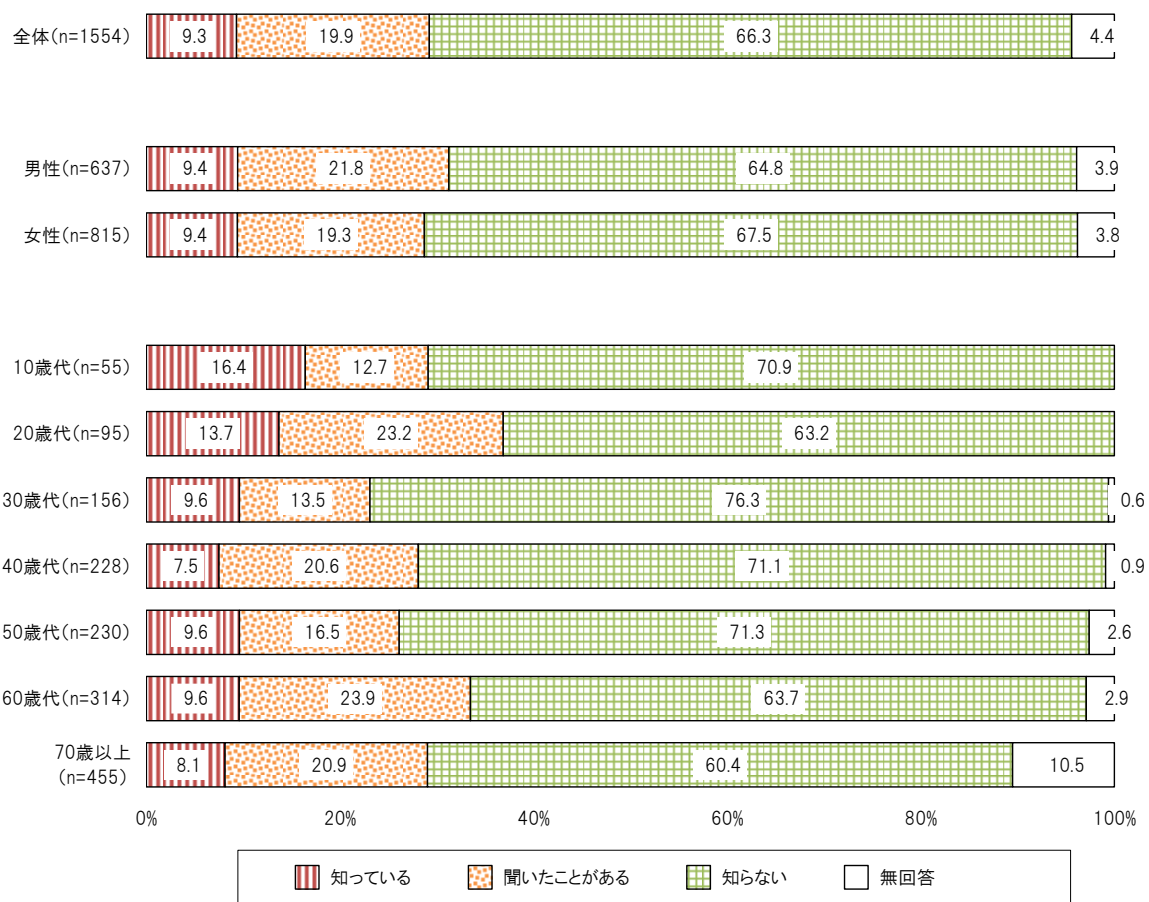
② 「固定的性別役割分担」

「知らない」が66.3%で最も高く、ついで「聞いたことがある」が19.9%、「知っている」が9.3%となっている。

性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、「知らない」の割合は、30歳代で76.3%と最も高くなっている。

問36② 「固定的性別役割分担」



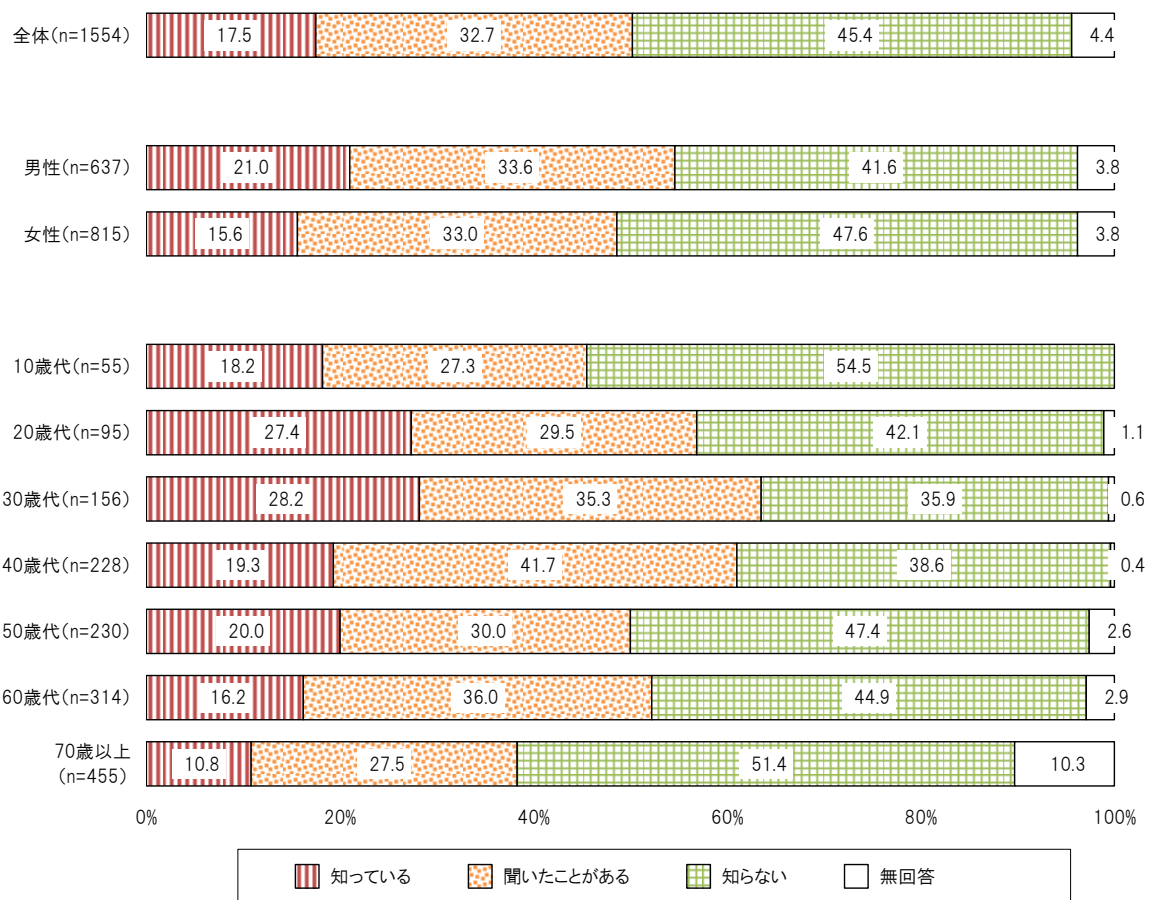
③ 「女性活躍推進法」

「知らない」が45.4%で最も高く、ついで「聞いたことがある」が32.7%、「知っている」が17.5%となっている。

性別にみると、「知っている」の割合は、男性が21.0%であるのに対し女性は15.6%であり、男性の方が5.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、10歳代を除いて年齢が低いほど「知っている」の割合は高くなる傾向がみられる。

問36③ 「女性活躍推進法」



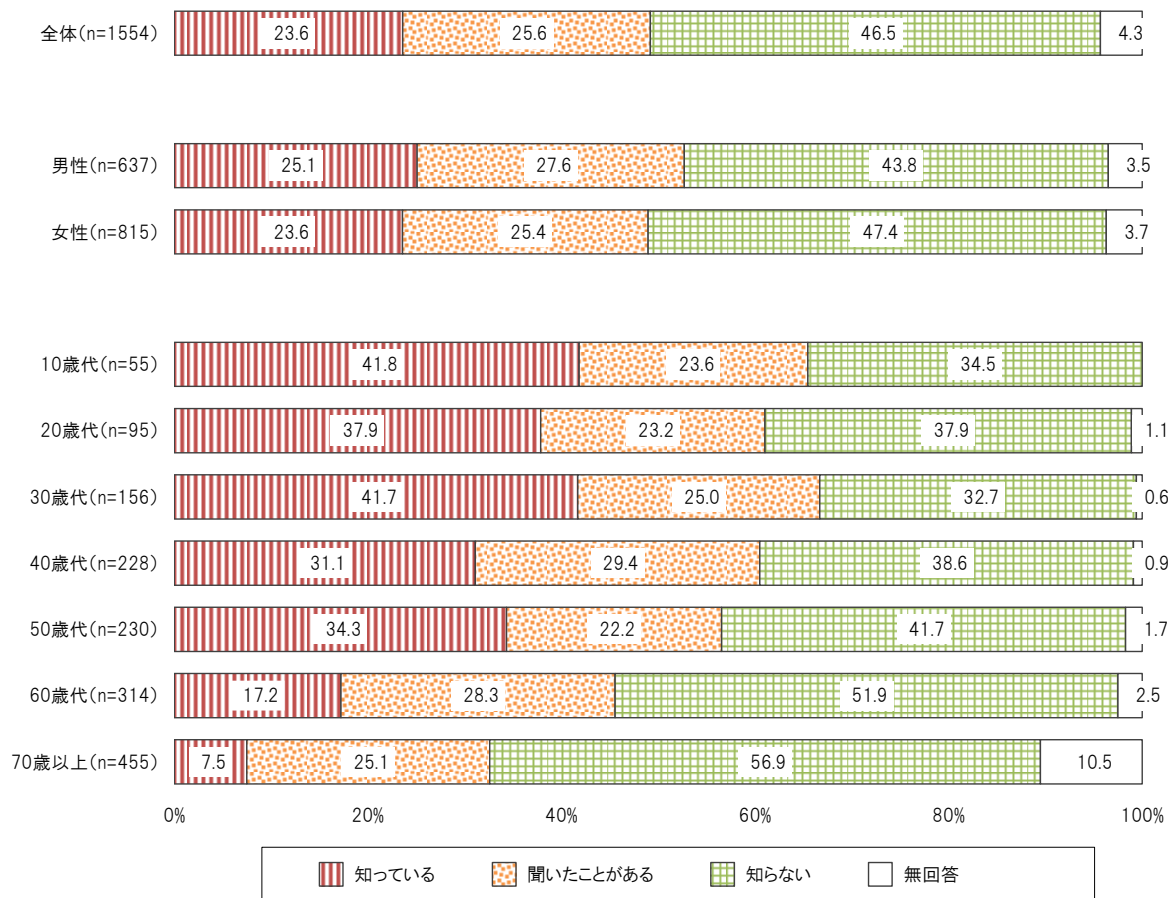
④ 「ワーク・ライフ・バランス」

「知らない」が46.5%で最も高く、ついで「聞いたことがある」が25.6%、「知っている」が23.6%となっている。

性別にみると、「知らない」の割合は、男性が43.8%であるのに対し女性は47.4%であり、女性の方が3.6ポイント高くなっている。

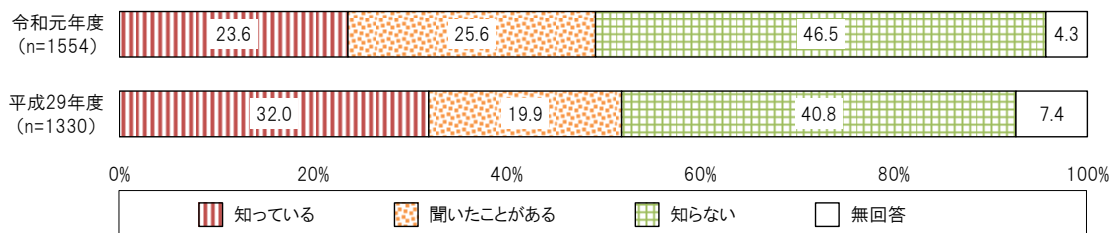
年代別にみると、おおむね年齢が低いほど「知っている」の割合は高くなる傾向がみられる。60歳代、70歳以上で「知らない」の割合が50%を超えている。

問36④ 「ワーク・ライフ・バランス」



前回と比較すると、「知っている」の割合は、前回は32.0%であったのが今回は23.6%と8.4ポイント低くなっている。

問36④ 「ワーク・ライフ・バランス」



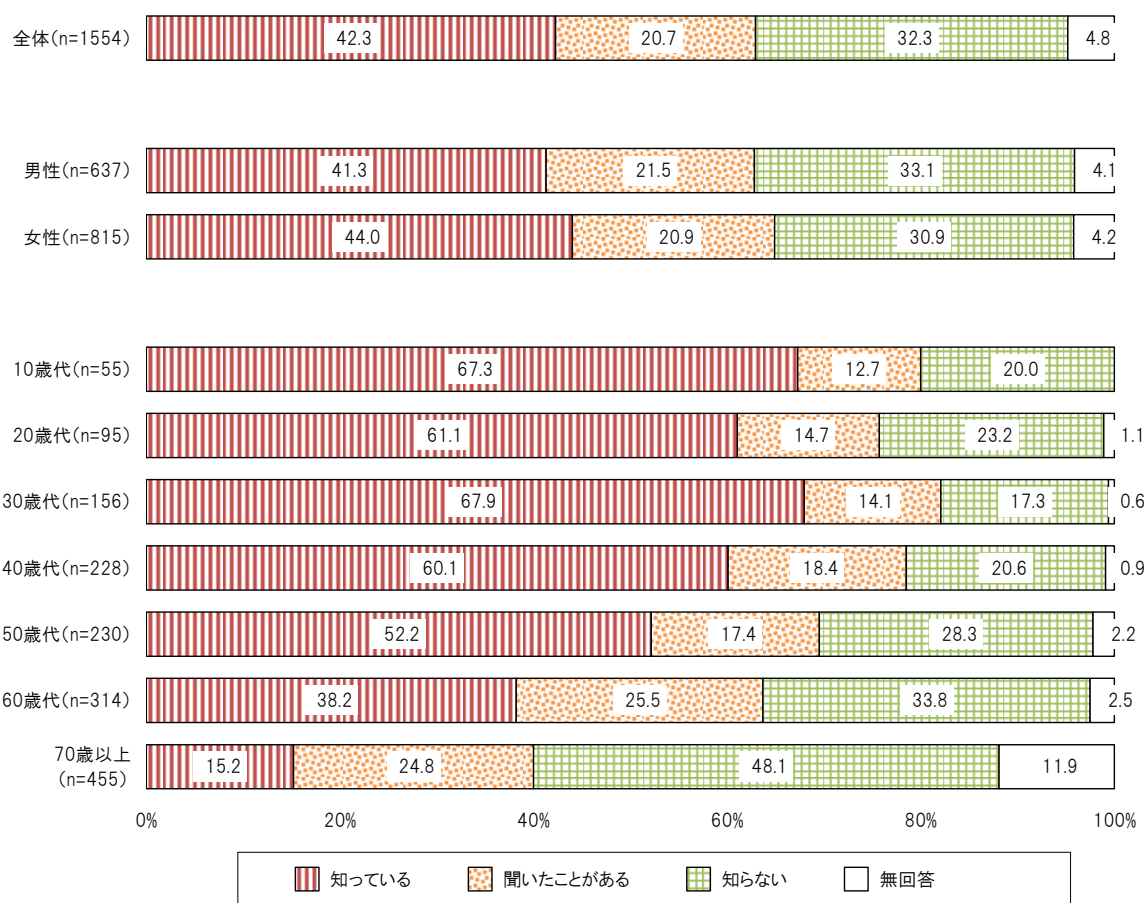
⑤ 「LGBT」

「知っている」が42.3%で最も高く、ついで「知らない」が32.3%、「聞いたことがある」が20.7%となっている。

性別にみると、「知っている」の割合は、男性が41.3%であるのに対し女性は44.0%であり、女性の方が2.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、おおむね年齢が低いほど「知っている」の割合は高くなる傾向がみられる。60歳代、70歳以上で「知っている」の割合が40%を下回っている。

問36⑤ 「LGBT」



問37 あなたは、次にあげる分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。
①～⑤の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

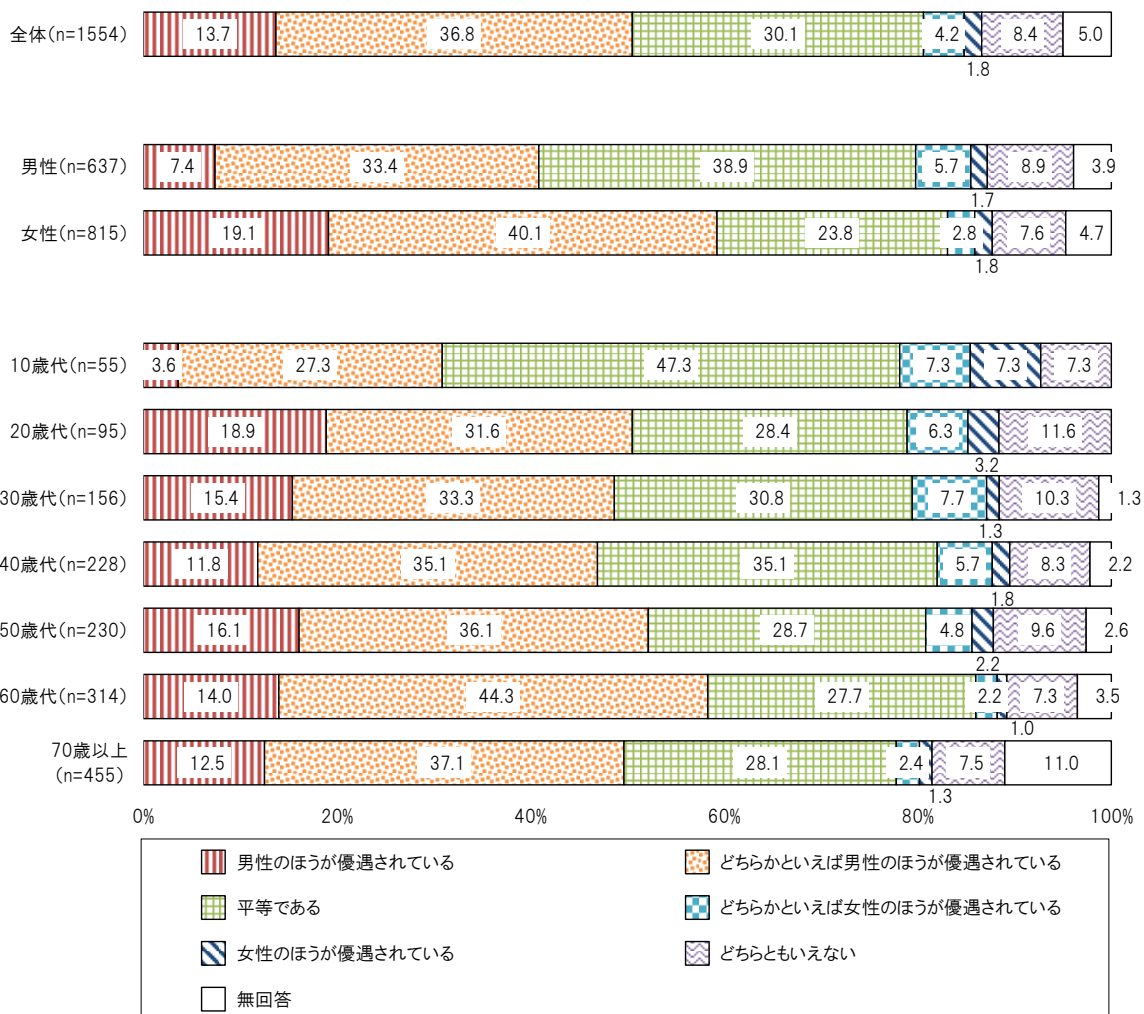
①家庭生活では

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が36.8%で最も高く、ついで「平等である」が30.1%、「男性のほうが優遇されている」が13.7%となっている。

性別にみると、「男性のほうが優遇されている」の割合は、男性が7.4%であるのに対し女性は19.1%であり、女性の方が11.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、「男性のほうが優遇されている」、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計の割合は、10歳代で30.9%と大幅に低くなっており、他の年代では50%前後となっている。60歳代で最も割合が高く58.3%となっている。

問37① 家庭生活では



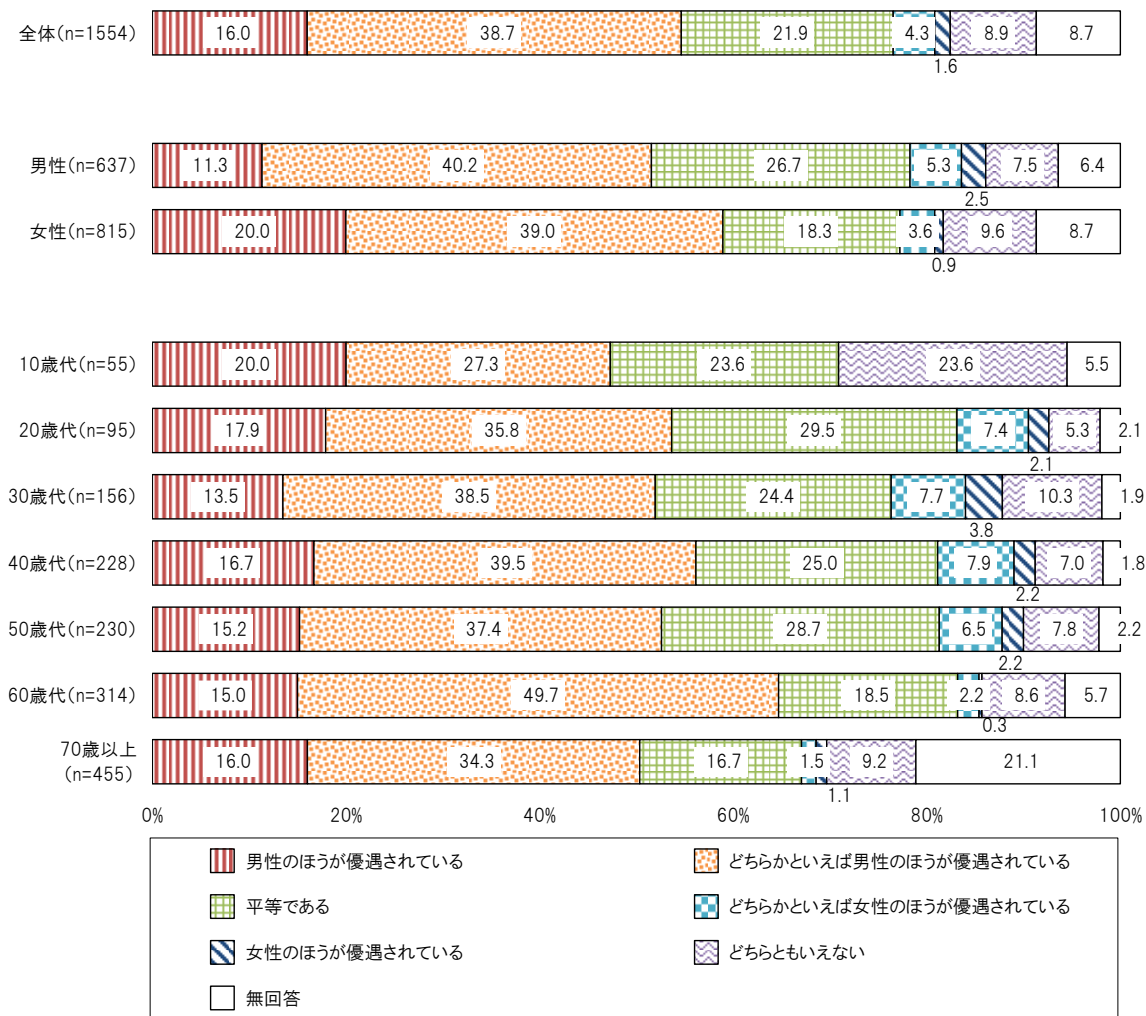
②職場では

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が38.7%で最も高く、ついで「平等である」が21.9%、「男性のほうが優遇されている」が16.0%となっている。

性別にみると、「男性のほうが優遇されている」の割合は、男性が11.3%であるのに対し女性は20.0%であり、女性の方が8.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、「男性のほうが優遇されている」、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計の割合は、最も低いのは10歳代の47.3%であり、最も高いのは60歳代の64.7%となっている。

問37② 職場では



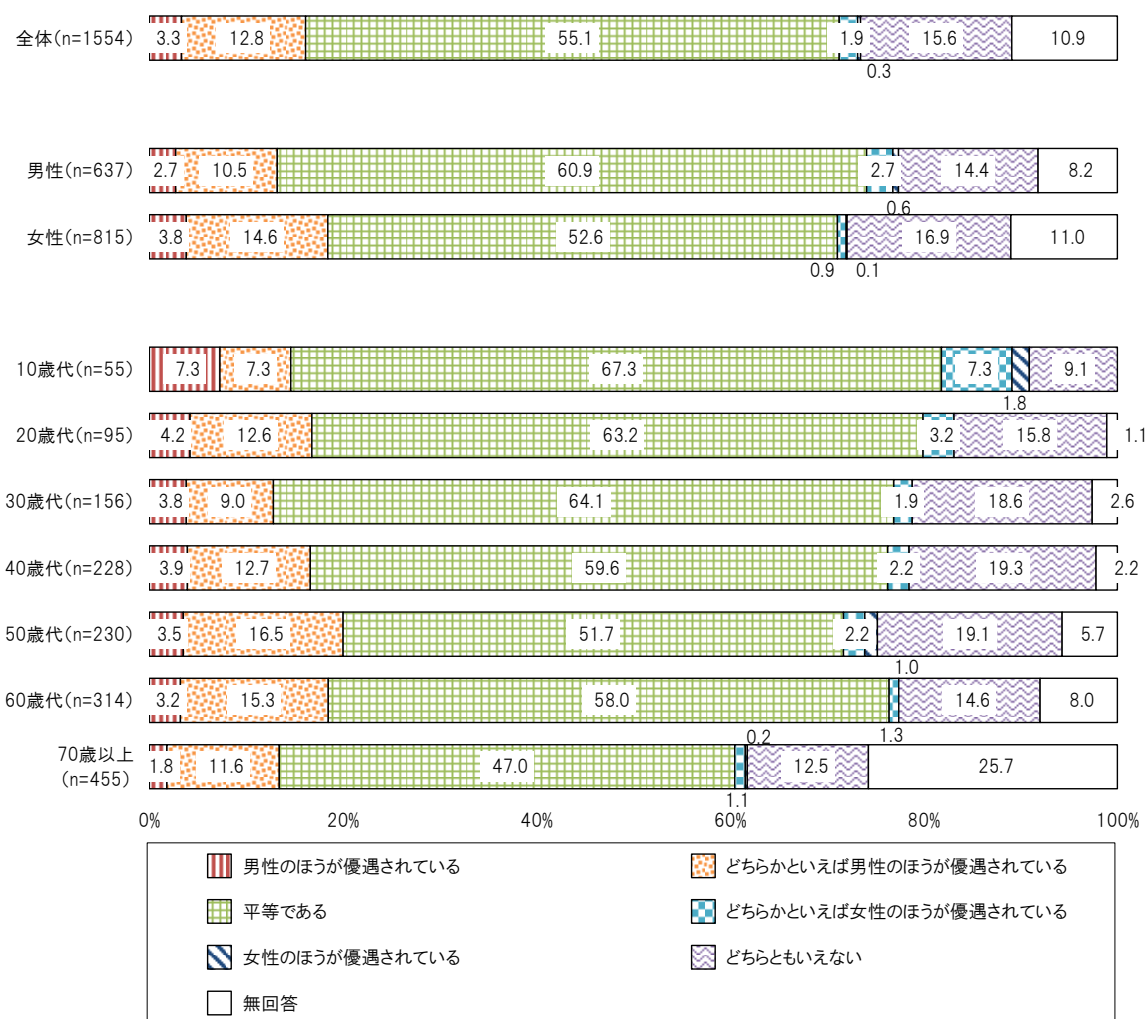
③学校教育の場では

「平等である」が55.1%で最も高く、ついで「どちらともいえない」が15.6%、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が12.8%となっている。

性別にみると、「平等である」の割合は、男性が60.9%であるのに対し女性は52.6%であり、男性の方が8.3ポイント高くなっている。

年代別にみると、「平等である」の割合は、おおむね年齢が低いほど割合が高くなっている。最も低いのは70歳以上の47.0%であり、最も高いのは10歳代の67.3%となっている。

問37③ 学校教育の場では



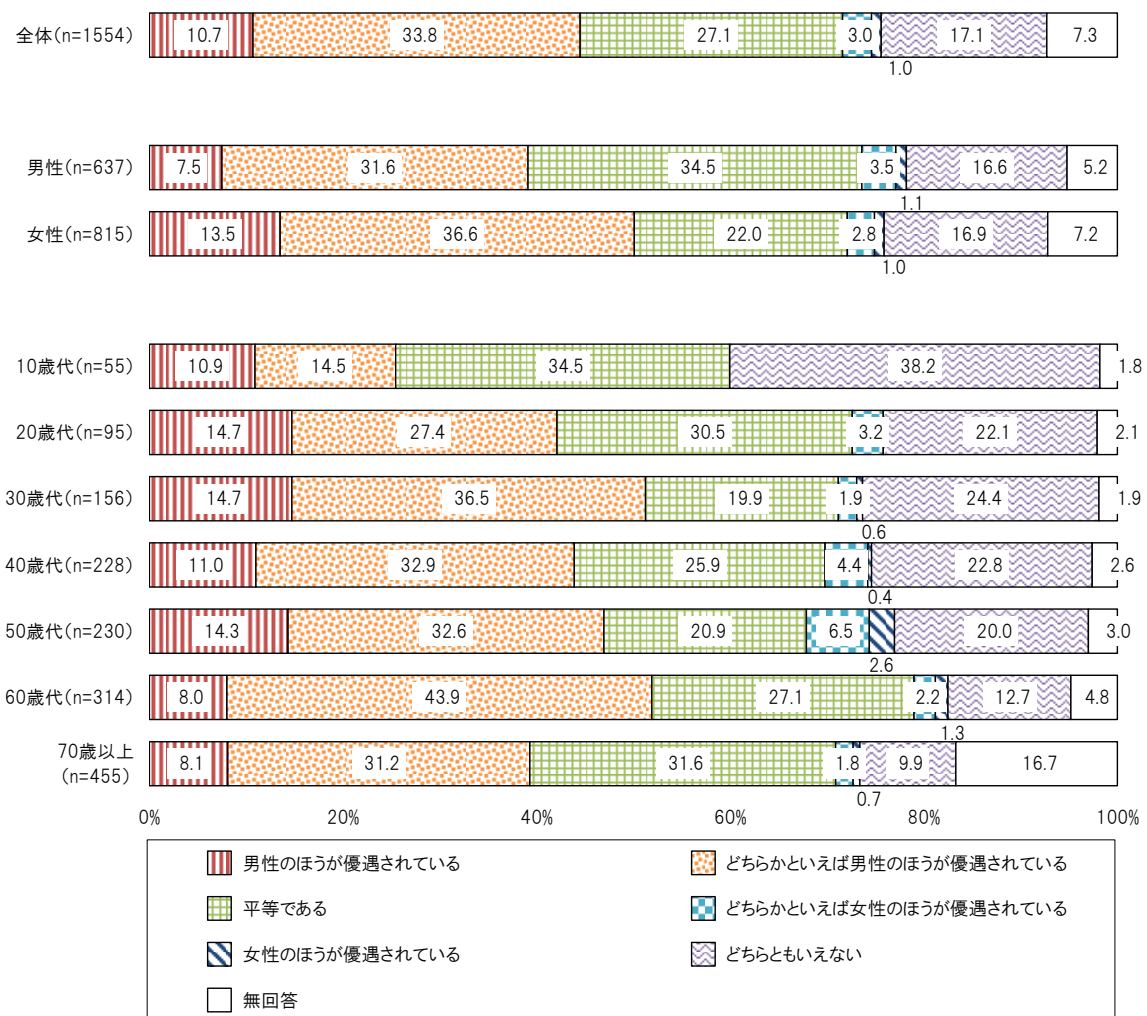
④地域社会では

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が33.8%で最も高く、ついで「平等である」が27.1%、「どちらともいえない」が17.1%となっている。

性別にみると、「平等である」の割合は、男性が34.5%であるのに対し女性は22.0%であり、男性の方が12.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、「平等である」の割合が30%を超えているのは10歳代、20歳代、70歳以上となっている。

問37④ 地域社会では



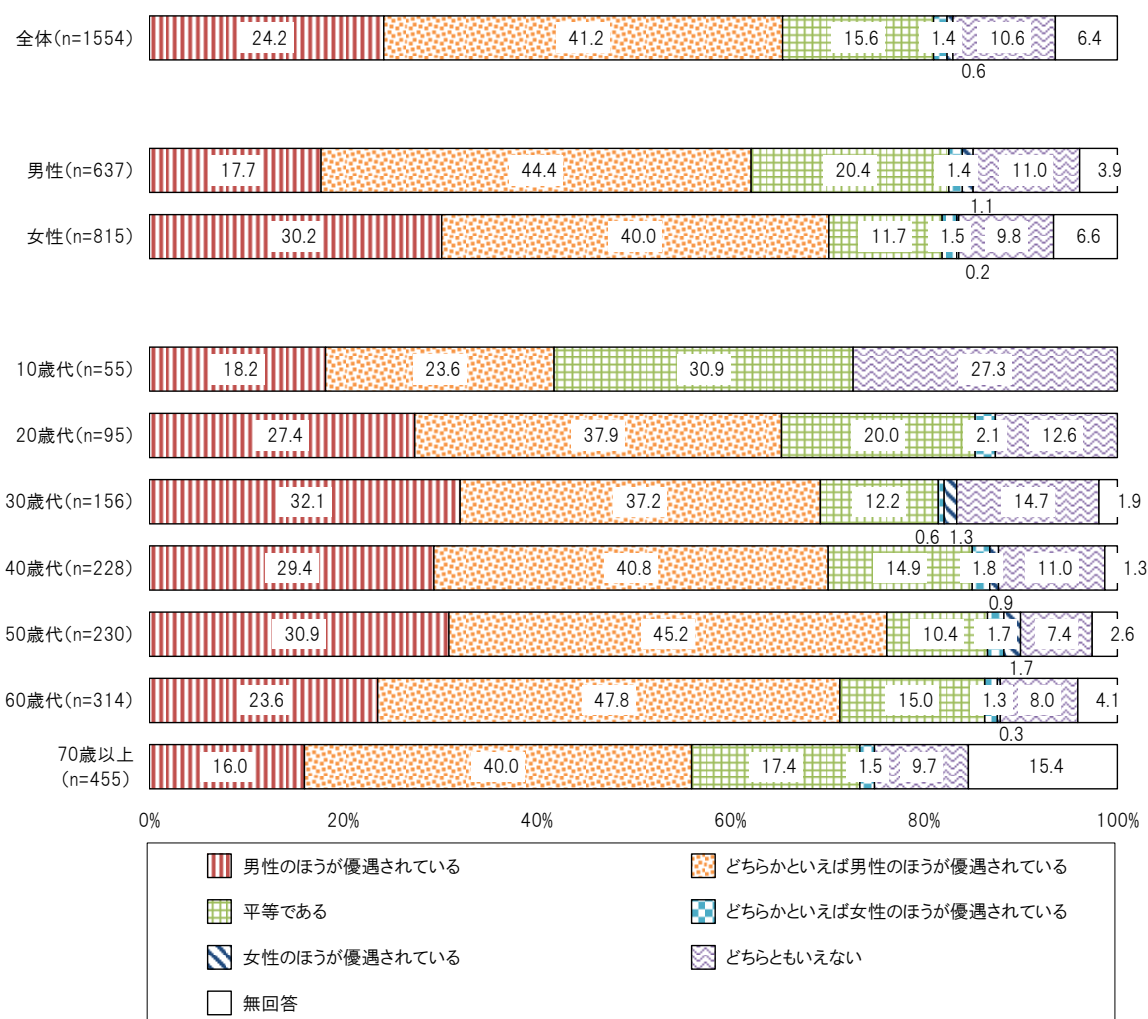
⑤社会通念、慣習、しきたりなどでは

「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が41.2%で最も高く、ついで「男性のほうが優遇されている」が24.2%、「平等である」が15.6%となっている。

性別にみると、「男性のほうが優遇されている」の割合は、男性が17.7%であるのに対し女性は30.2%であり、女性の方が12.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、「男性のほうが優遇されている」の割合が30%を超えているのは30歳代、50歳代となっており、20%を下回っているのは10歳代、70歳以上となっている。

問37⑤ 社会通念、慣習、しきたりなどでは



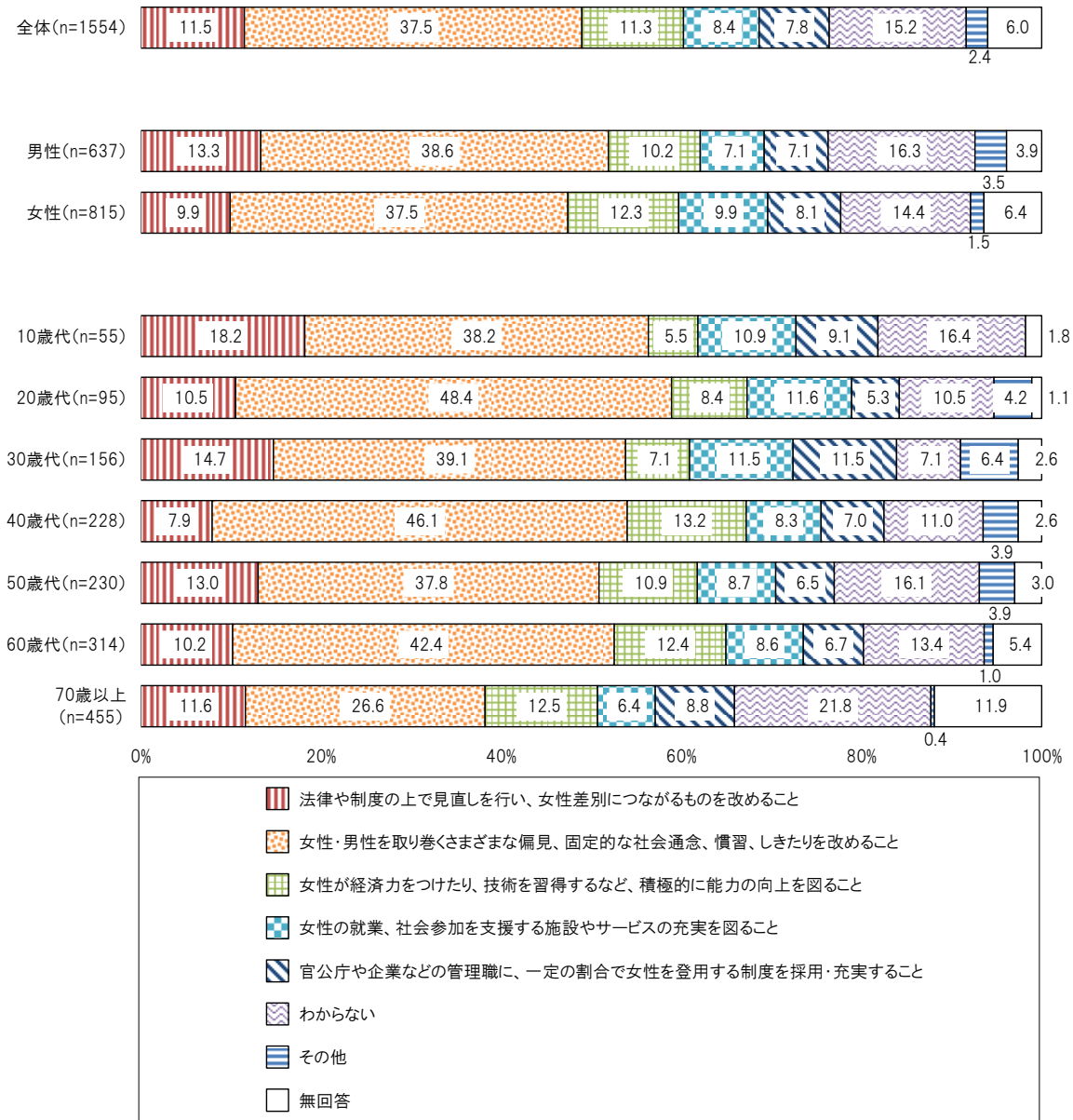
問 38 今後、社会のあらゆる分野で更に男女が平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。(〇は1つだけ)

「女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が37.5%で最も高く、ついで「わからない」が15.2%、「法律や制度の上で見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」が11.5%となっている。

性別にみると、男女の間で差が最も大きかったのは「法律や制度の上で見直しを行い、女性差別につながるものを改めること」であり、男性が13.3%であるのに対し女性は9.9%であり、男性の方が3.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、「女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」の割合は、20歳代で最も高く48.4%であり、70歳以上で最も低く26.6%となっている。

問38 今後、社会のあらゆる分野で更に男女が平等になるために最も重要だと思うこと



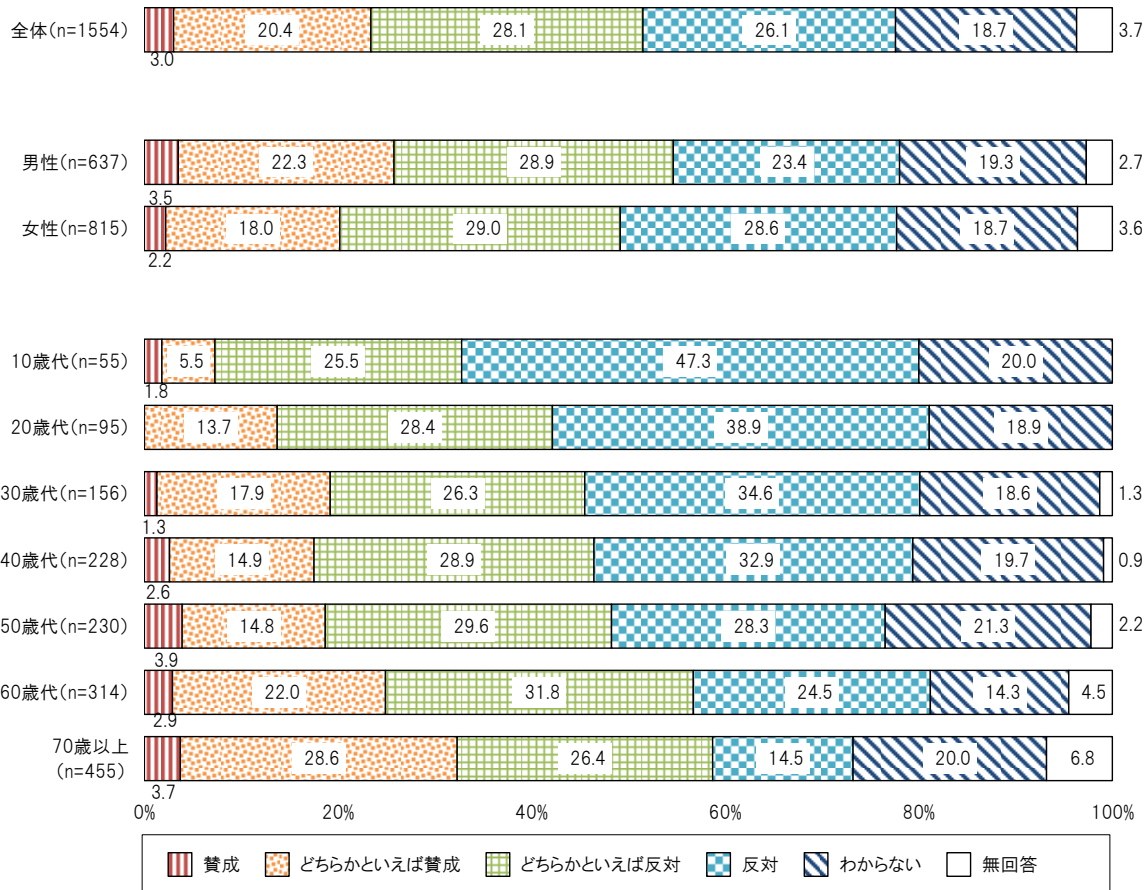
問 39 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(〇は1つだけ)

「どちらかといえば反対」が 28.1%で最も高く、ついで「反対」が 26.1%、「どちらかといえば賛成」が 20.4%となっている。

性別にみると、男女の間で差が最も大きかったのは「反対」で、男性が 23.4%であるのに対し女性は 28.6%であり、女性の方が 5.2 ポイント高くなっている。

年代別にみると、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計の割合は、10 歳代が最も高く 72.8%であり、年齢が高くなるほど割合は低くなる傾向がみられる。70 歳以上では 40.9%となっている。

問39 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うか



問 40 あなたの家庭では、次のことについて主にどなたが行っていますか。①～③の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

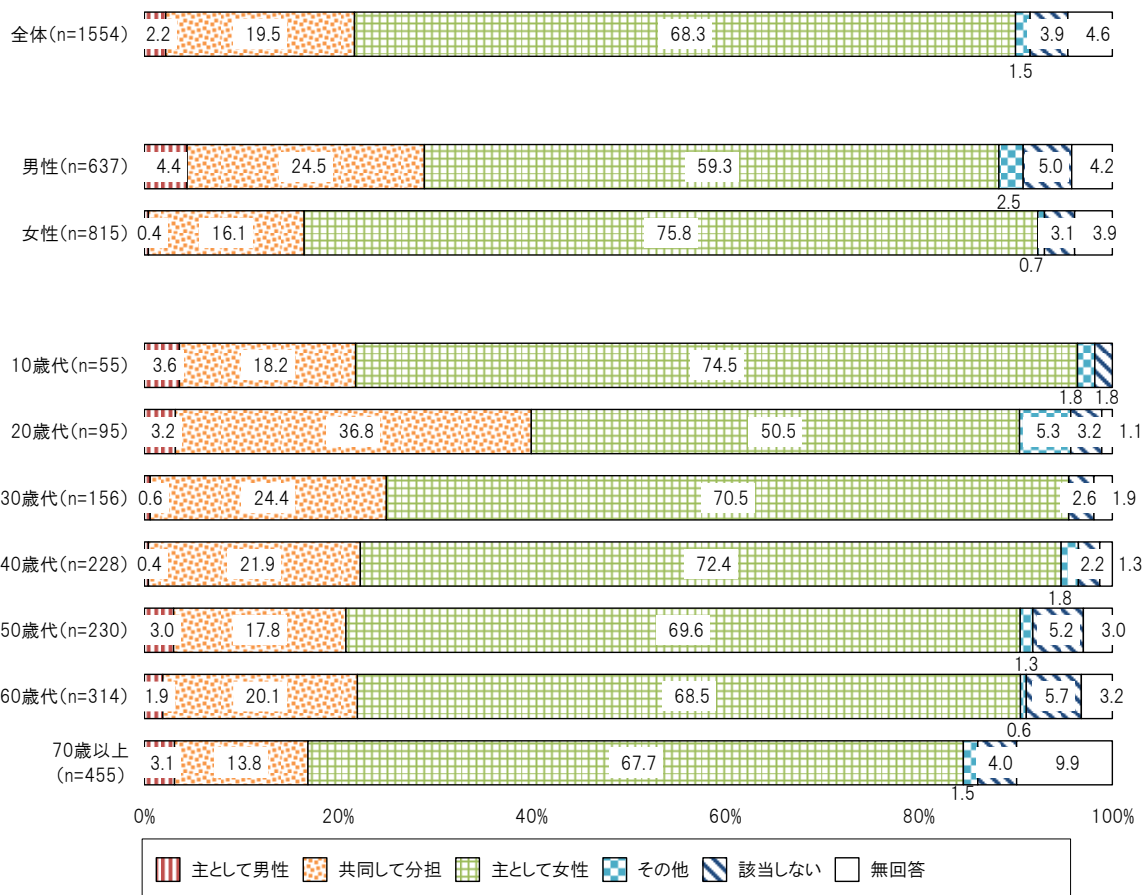
①家事（炊事、洗濯、掃除など）

「主として女性」が68.3%で最も高く、ついで「共同して分担」が19.5%、「該当しない」が3.9%となっている。

性別にみると、「主として女性」の割合は、男性が59.3%であるのに対し女性は75.8%であり、女性の方が16.5ポイント高くなっている。

年代別にみると、20歳代では「主として女性」の割合が50.5%と他の年代に比べ非常に低くなっており、「共同して分担」が36.8%となっている。20歳代以外の年代では「主として女性」の割合は、7割程度となっている。

問40① 家事(炊事、洗濯、掃除など)



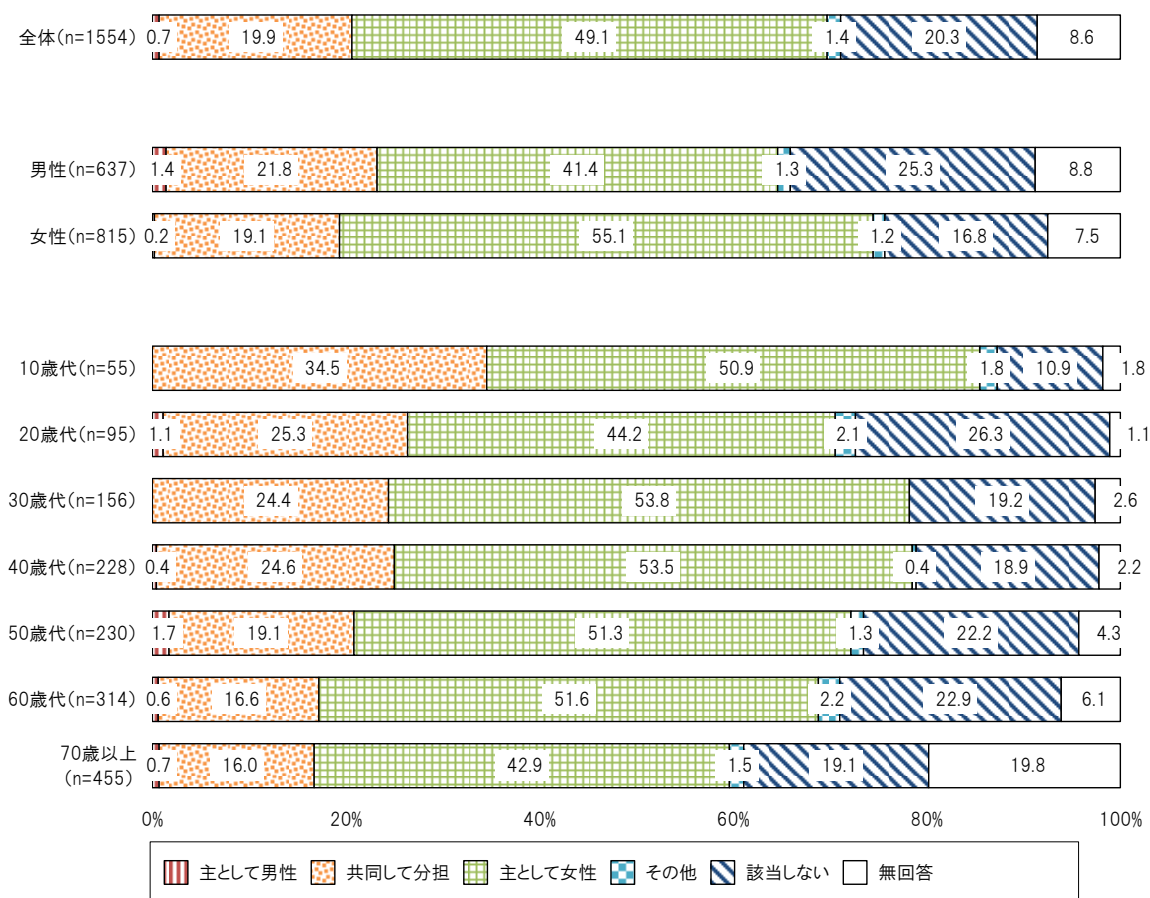
②育児（子どもの世話、しつけ、教育など）

「主として女性」が49.1%で最も高く、ついで「該当しない」が20.3%、「共同して分担」が19.9%となっている。

性別にみると、「主として女性」の割合は、男性が41.4%であるのに対し女性は55.1%であり、女性の方が13.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、年齢が低くなるほど「共同して分担」の割合は高くなる傾向がみられる。

問40② 育児(子どもの世話、しつけ、教育など)



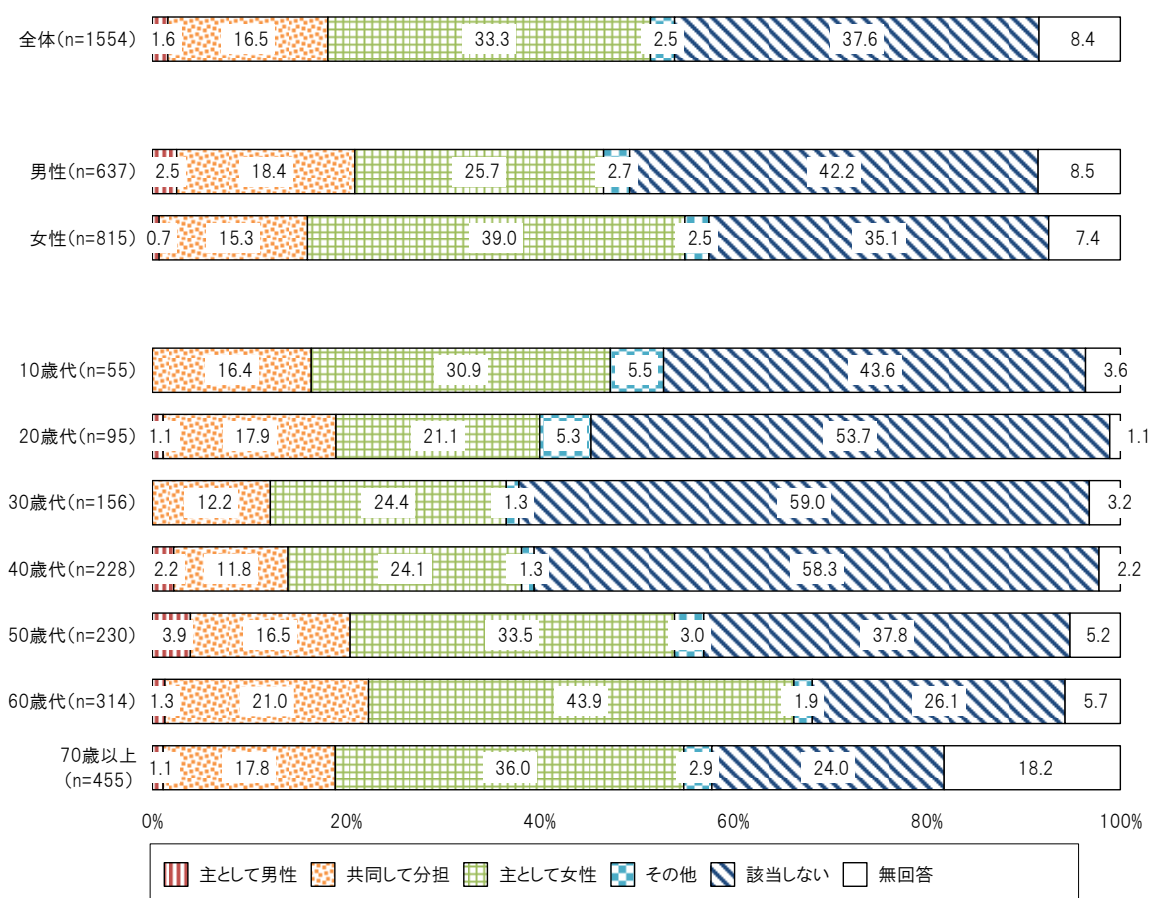
③介護（介護の必要な親等の世話など）

「該当しない」が37.6%で最も高く、ついで「主として女性」が33.3%、「共同して分担」が16.5%となっている。

性別にみると、「主として女性」の割合は、男性が25.7%であるのに対し女性は39.0%であり、女性の方が13.3ポイント高くなっている。

年代別にみると、20歳代、30歳代、40歳代では「該当しない」が半数以上を占めている。60歳代では43.9%が「主として女性」と回答している。

問40③ 介護(介護の必要な親等の世話など)



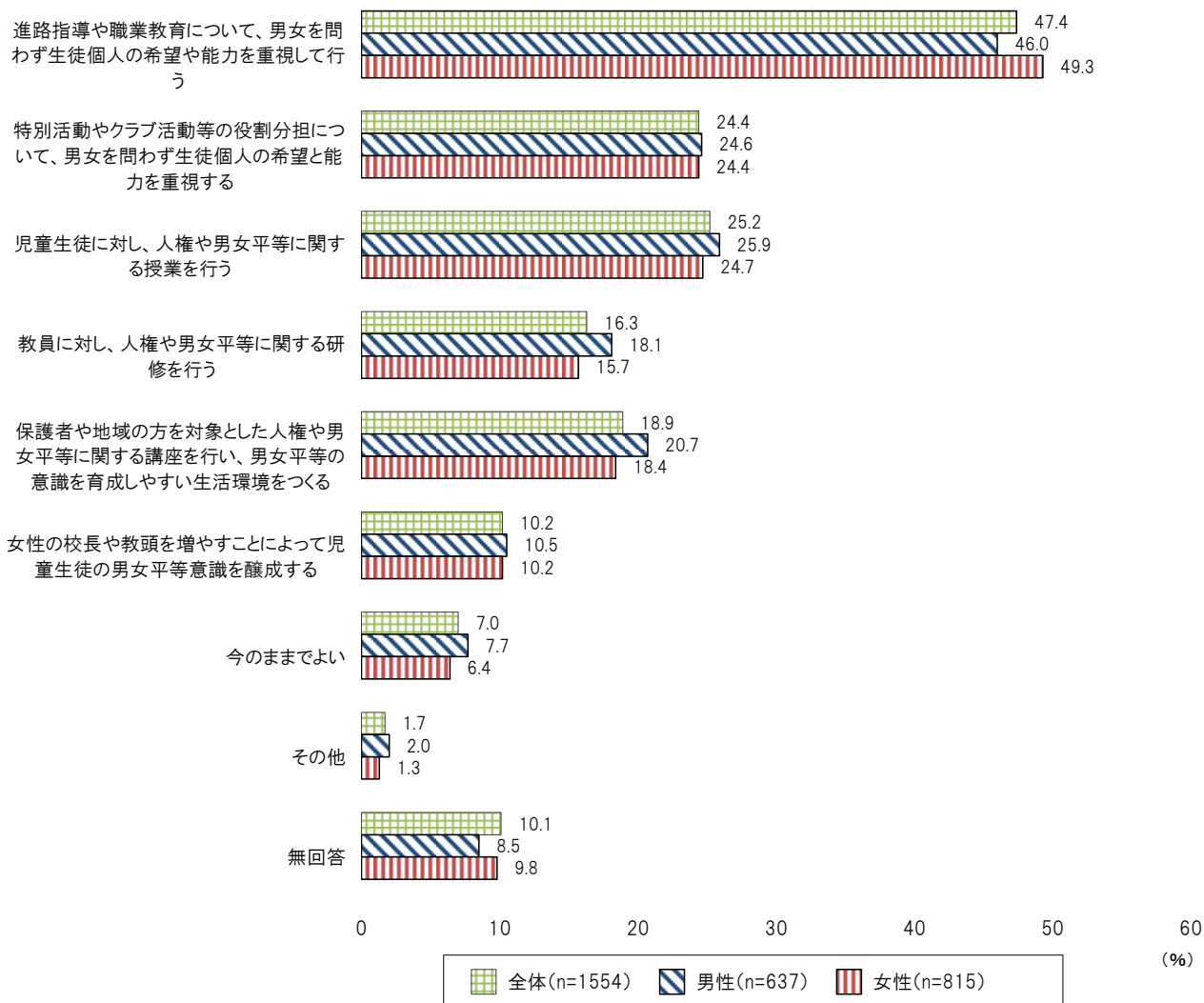
問 41 学校教育で、男女平等意識の育成のために、必要だと思うことは何ですか。(〇は2つまで)

「進路指導や職業教育について、男女を問わず生徒個人の希望や能力を重視して行う」が47.4%で最も高く、ついで「児童生徒に対し、人権や男女平等に関する授業を行う」が25.2%、「特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず生徒個人の希望と能力を重視する」が24.4%となっている。

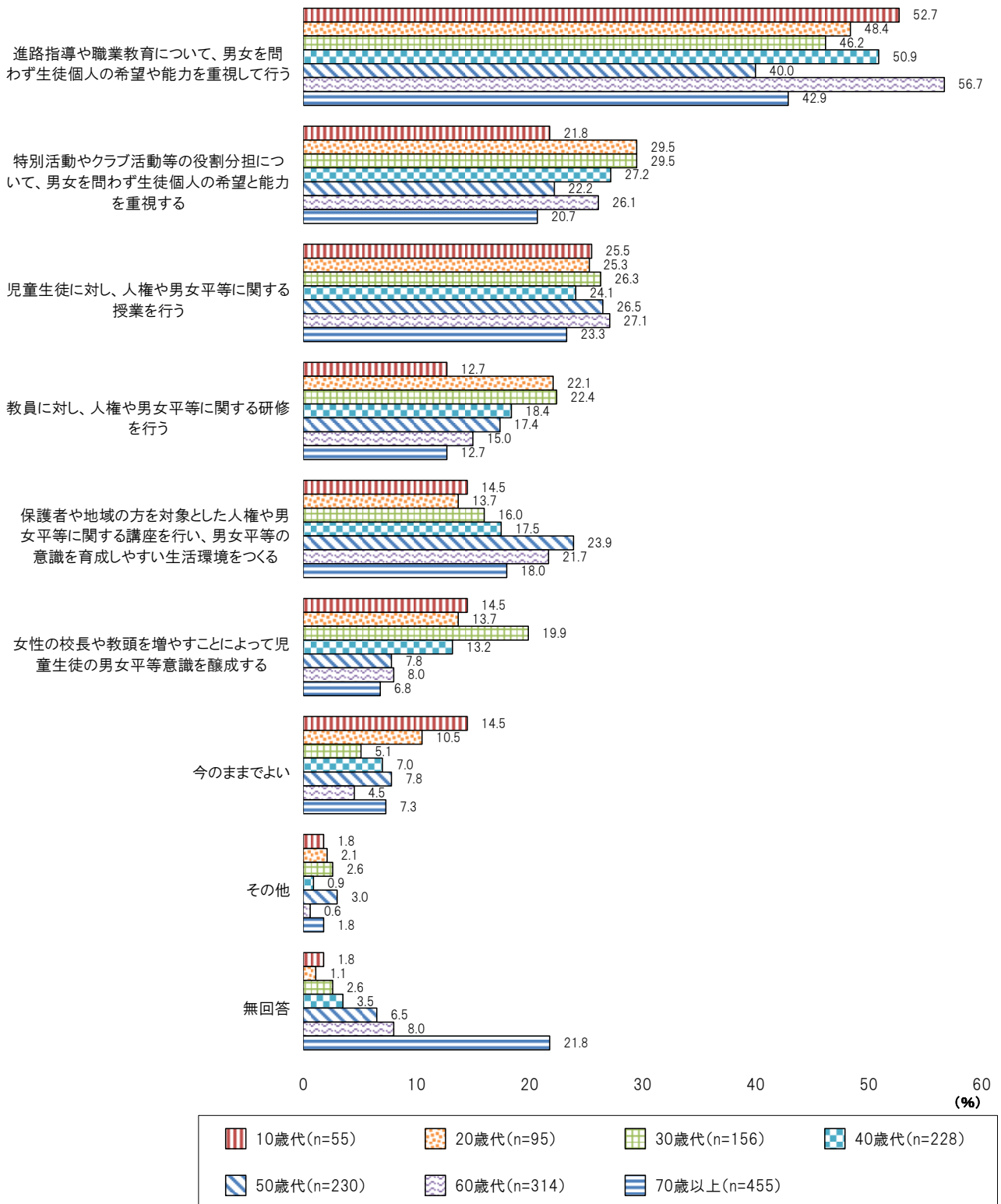
性別にみると、割合の高い項目の順番は男女で全て一致しており、大きな差はみられない。

年代別にみると、1番目に割合の高かった項目はいずれの年代でも「進路指導や職業教育について、男女を問わず生徒個人の希望や能力を重視して行う」であった。2番目に割合が高かった項目は、10歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「児童生徒に対し、人権や男女平等に関する授業を行う」であり、20歳代、30歳代、40歳代では「特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず生徒個人の希望と能力を重視する」であった。

問41 学校教育で男女平等意識の育成のために必要だと思うこと



問41 学校教育で男女平等意識の育成のために必要だと思うこと



2. 就労やワーク・ライフ・バランスについて

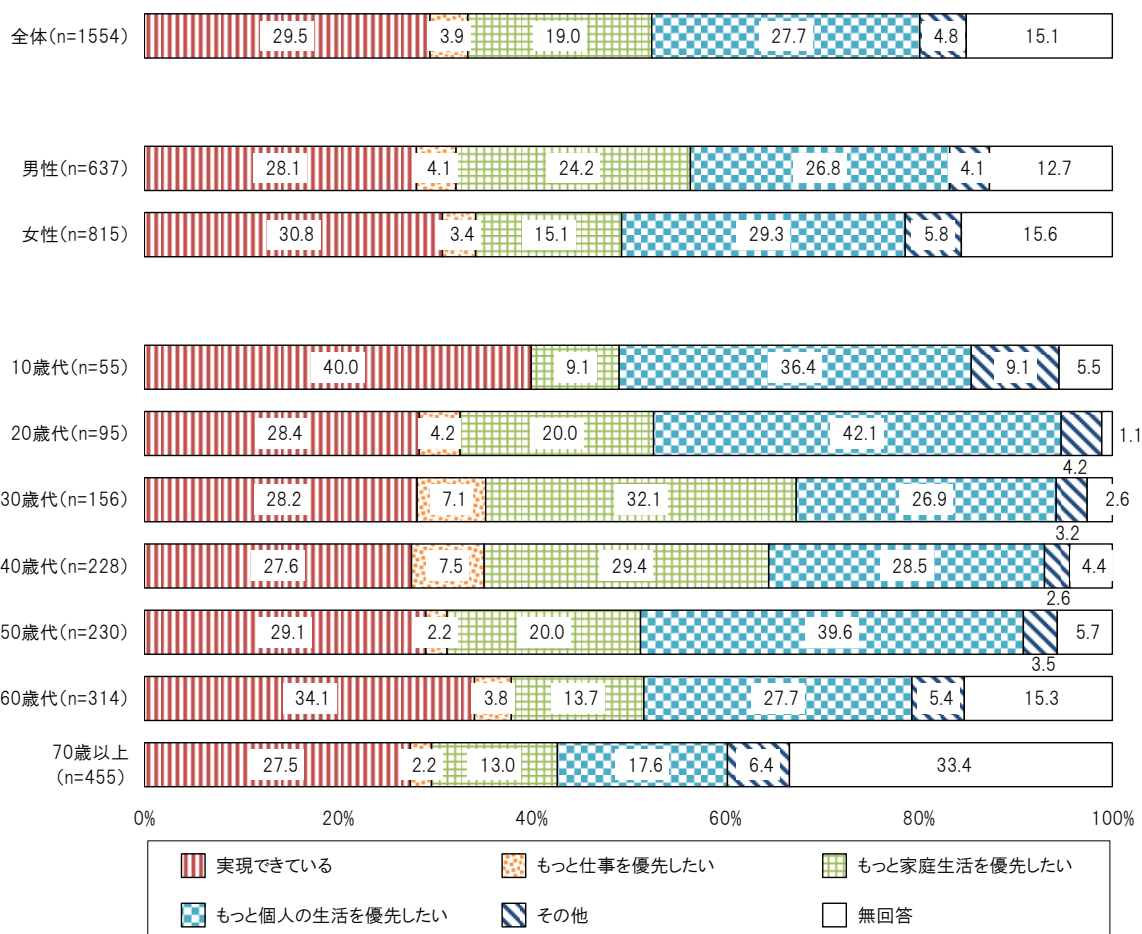
問 42 「仕事」と「生活」の調和を図るワーク・ライフ・バランスという考え方があります。あなたの思うような仕事と生活のバランスは実現できていますか。(〇は1つだけ)

「実現できている」が29.5%で最も高く、ついで「もっと個人の生活を優先したい」が27.7%、「もっと家庭生活を優先したい」が19.0%となっている。

性別にみると、「もっと家庭生活を優先したい」の割合は、男性が24.2%であるのに対し女性は15.1%であり、男性の方が9.1ポイント高くなっている。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目は、10歳代、60歳以上は「実現できている」、20歳代、50歳代は「もっと個人の生活を優先したい」、30歳代、40歳代は「もっと家庭生活を優先したい」であった。

問42 仕事と生活のバランスは実現できているか



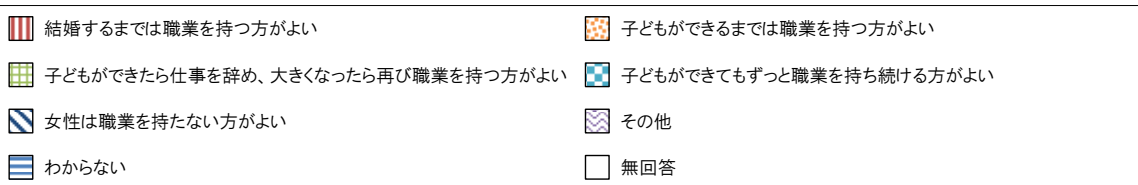
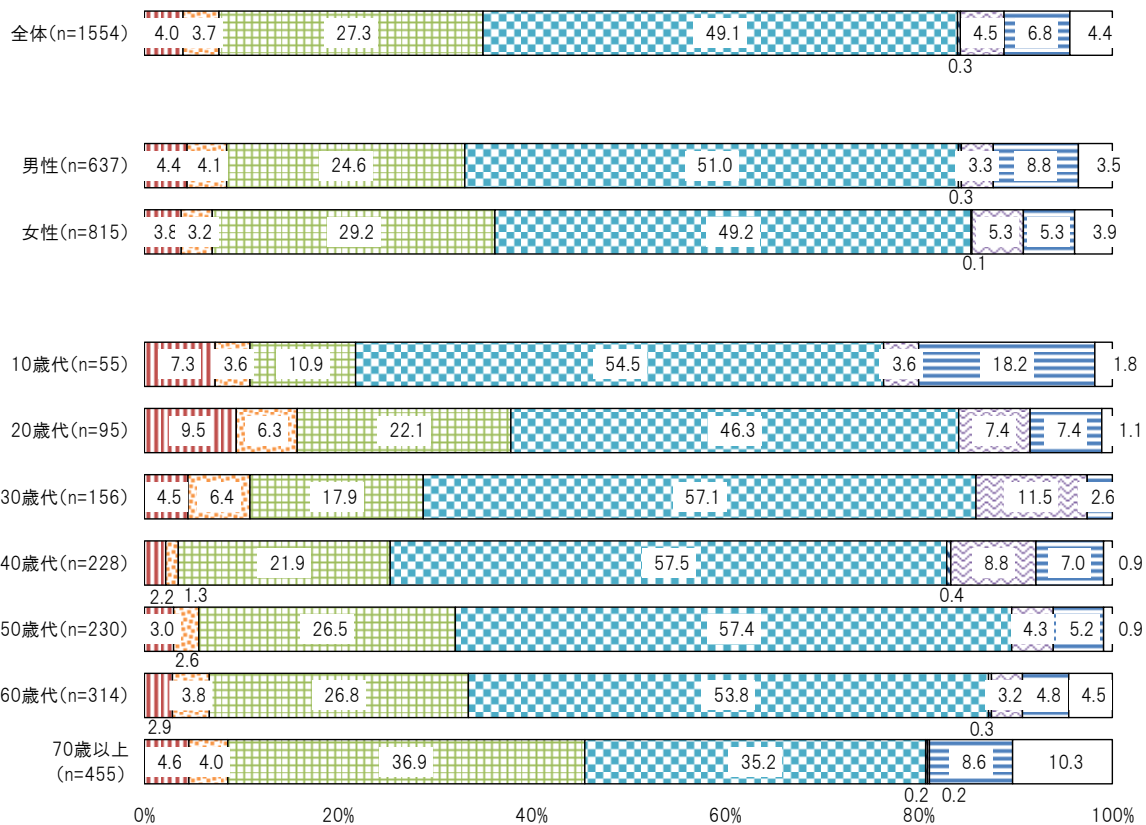
問43 女性が職業を持つことについて、どう思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(〇は1つだけ)

「子どもができてはずっと職業を持ち続ける方がよい」が49.1%で最も高く、ついで「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が27.3%、「わからない」が6.8%となっている。

性別にみると、「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合は、男性が24.6%であるのに対し女性は29.2%であり、女性の方が4.6ポイント高くなっている。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目は、70歳以上を除いたいずれの年代も「子どもができてはずっと職業を持ち続ける方がよい」であり、70歳以上は「子どもができたなら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」となっている。

問43 女性が職業を持つことについてどう思うか



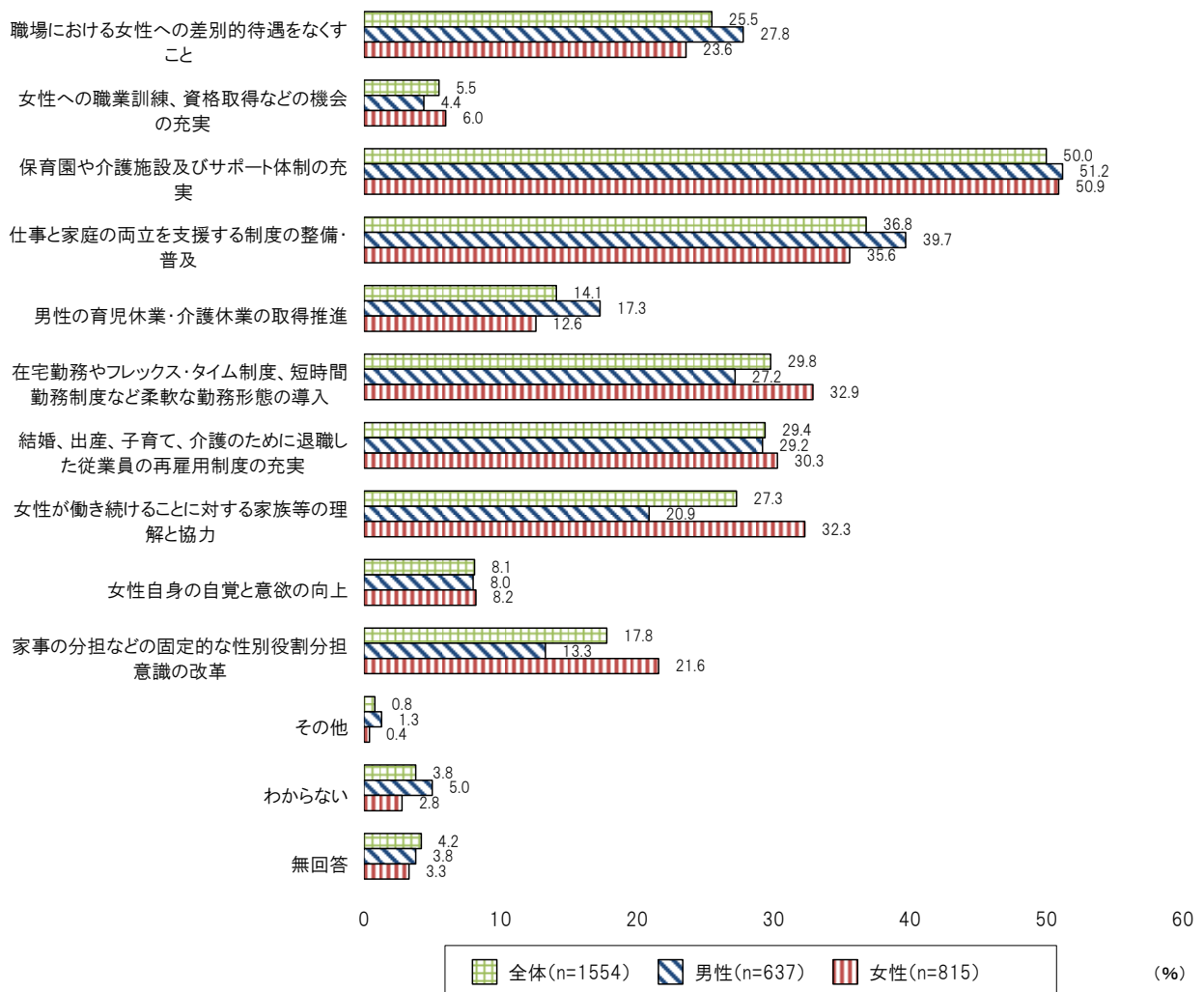
問44 女性が働き続けるためにはどのようなことが特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「保育園や介護施設及びサポート体制の充実」が50.0%で最も高く、ついで「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及」が36.8%、「在宅勤務やフレックス・タイム制度、短時間勤務制度など柔軟な勤務形態の導入」が29.8%となっている。

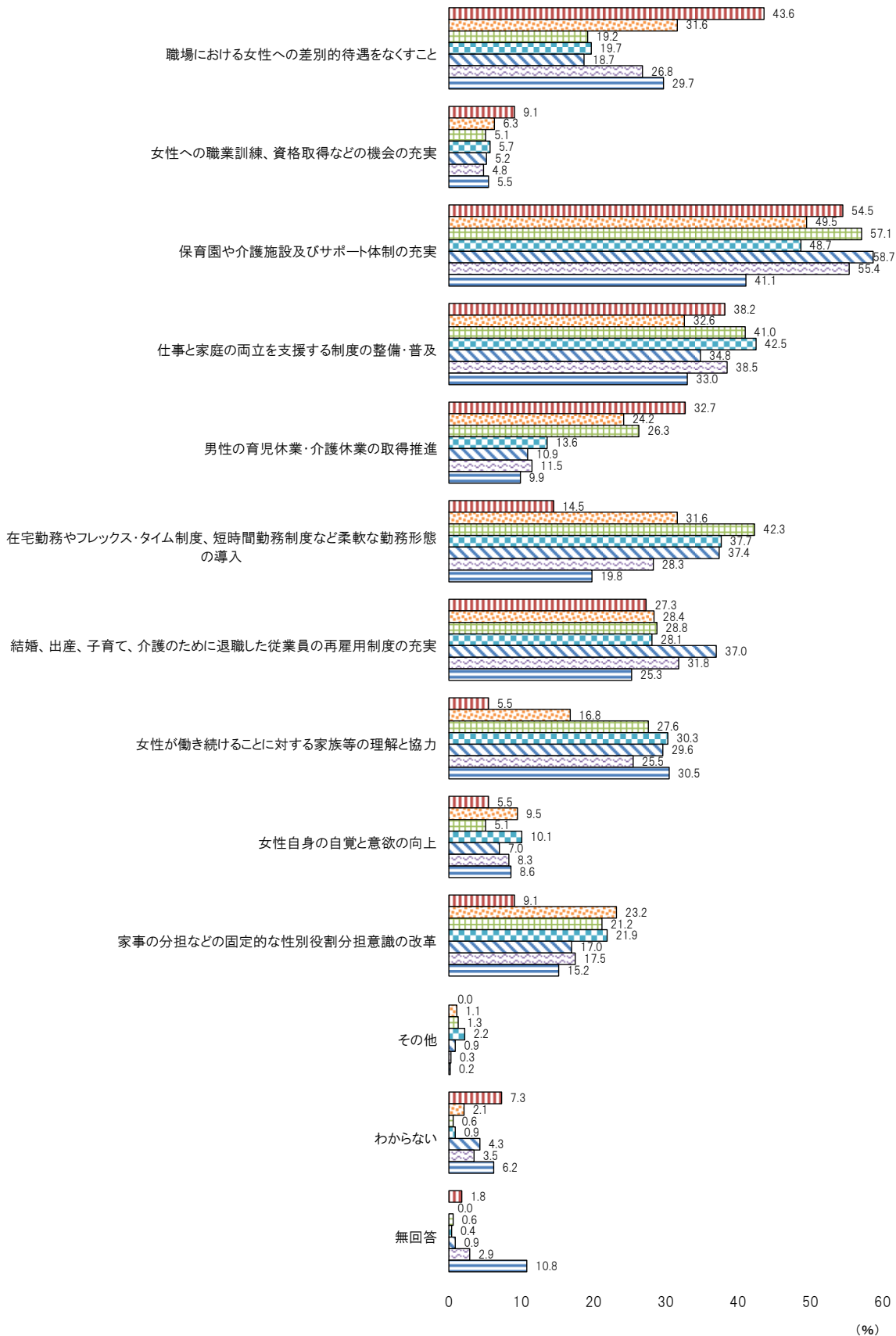
性別にみると、1番目、2番目に割合の高い項目は同じであり、3番目に割合の高い項目は、男性は「結婚、出産、子育て、介護のために退職した従業員の再雇用制度の充実」であり、女性は「在宅勤務やフレックス・タイム制度、短時間勤務制度など柔軟な勤務形態の導入」であった。男女の間で最も差が大きかったのは「女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力」であり、女性の方が11.4ポイント高かった。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目はいずれの年代も「保育園や介護施設及びサポート体制の充実」であり、2番目に割合の高い項目は、20歳代、40歳代、60歳代、70歳以上は「仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及」であり、30歳代、50歳代は「在宅勤務やフレックス・タイム制度、短時間勤務制度など柔軟な勤務形態の導入」、10歳代は「職場における女性への差別的待遇をなくすこと」となっている。

問44 女性が働き続けるためにはどのようなことが特に必要か



問44 女性が働き続けるためにはどのようなことが特に必要か



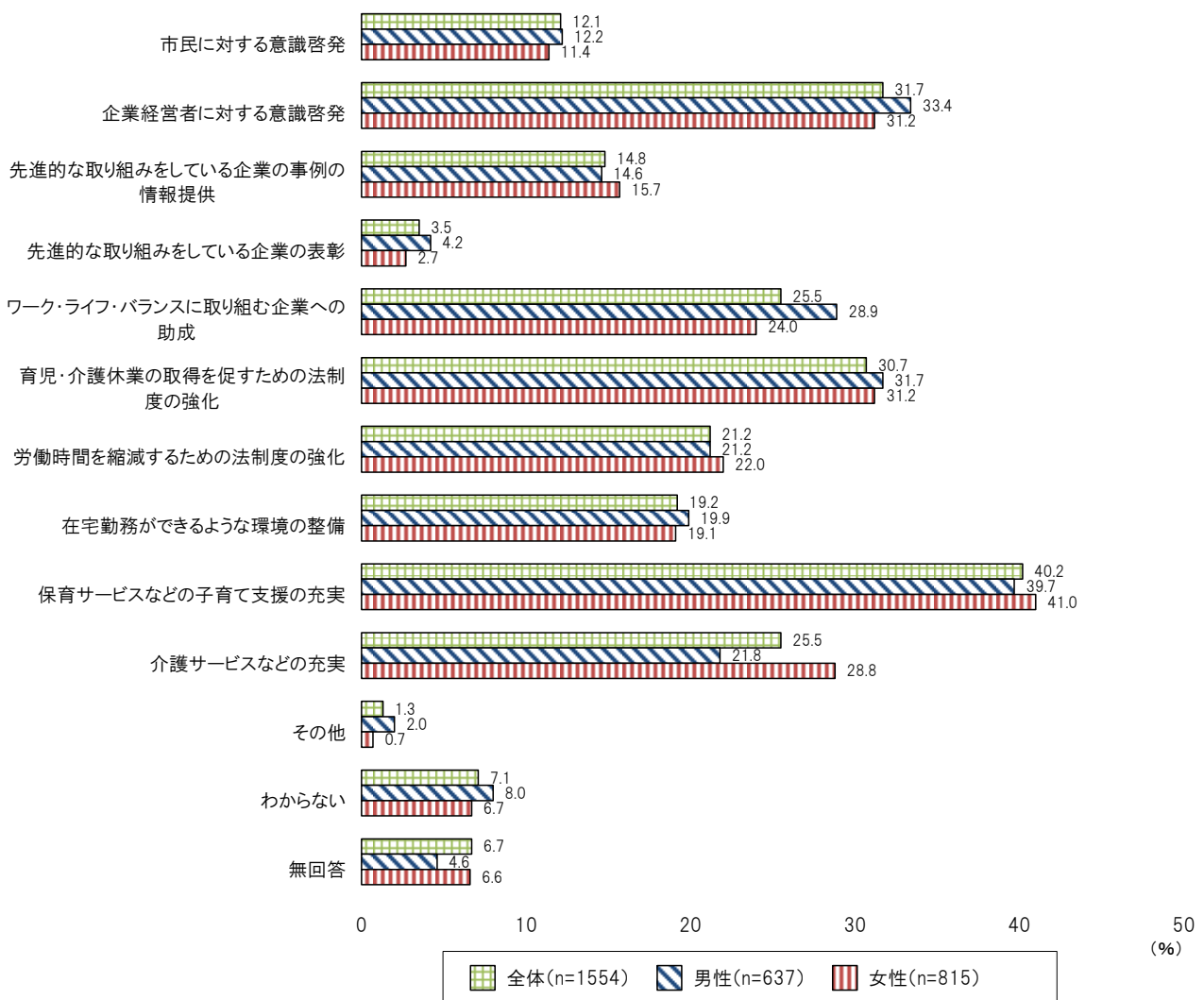
問 45 男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「保育サービスなどの子育て支援の充実」が40.2%で最も高く、ついで「企業経営者に対する意識啓発」が31.7%、「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」が30.7%となっている。

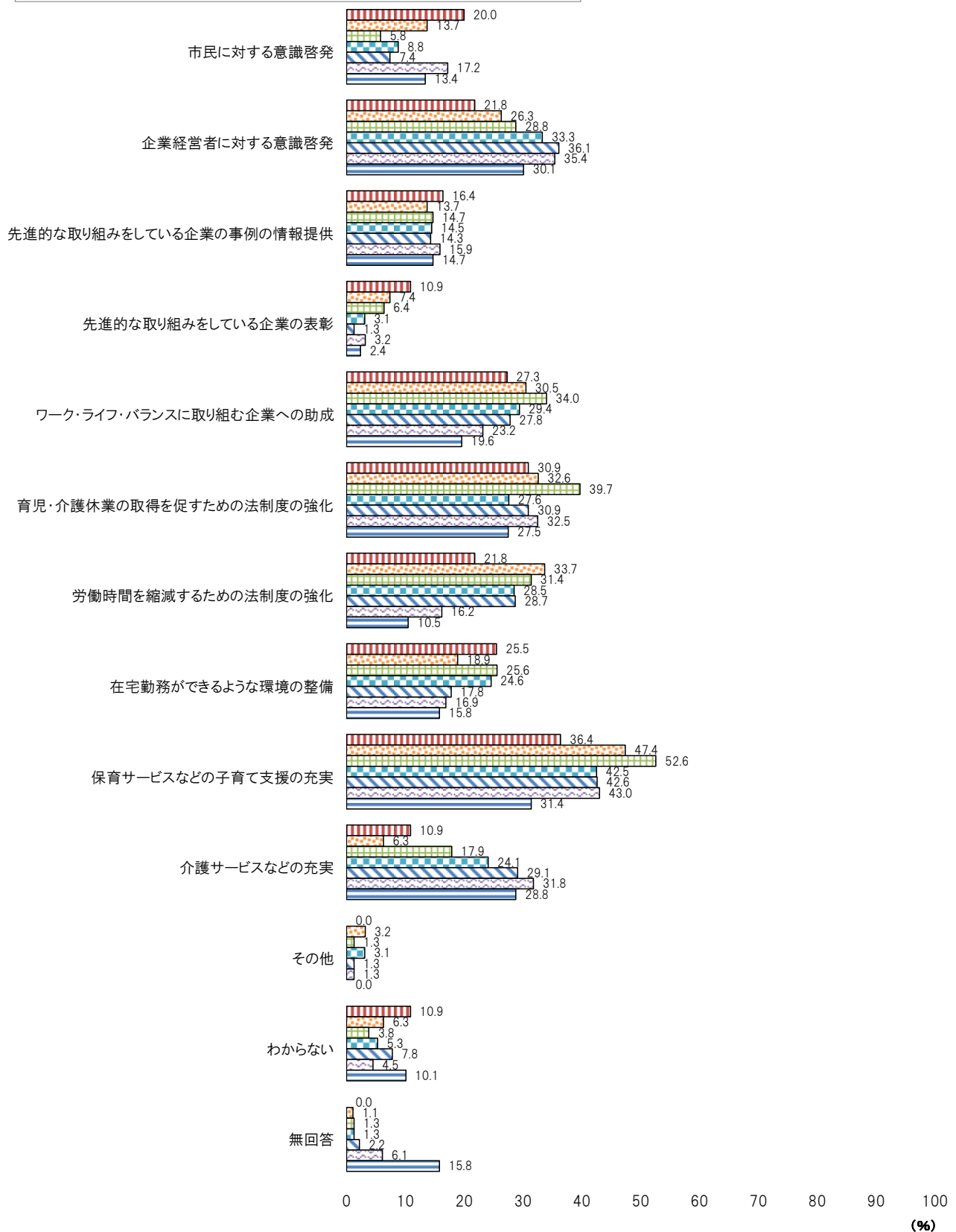
性別にみると、1番目、2番目、3番目に割合の高い項目は男女で同じである。男女の間で最も差が大きかったのは「介護サービスなどの充実」であり、女性の方が7.0ポイント高かった。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目はいずれの年代も「保育サービスなどの子育て支援の充実」であり、2番目に割合の高い項目は、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上は「企業経営者に対する意識啓発」であり、10歳代、30歳代は「育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化」、20歳代は「労働時間を縮減するための法制度の強化」となっている。

問45 男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには何が必要か



問45 男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには何が必要か



3. ドメスティック・バイオレンスについて

問 46 あなたはこれまでに配偶者や恋人など親しい関係にある人から次のようなことをされたことがありますか。①～④の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

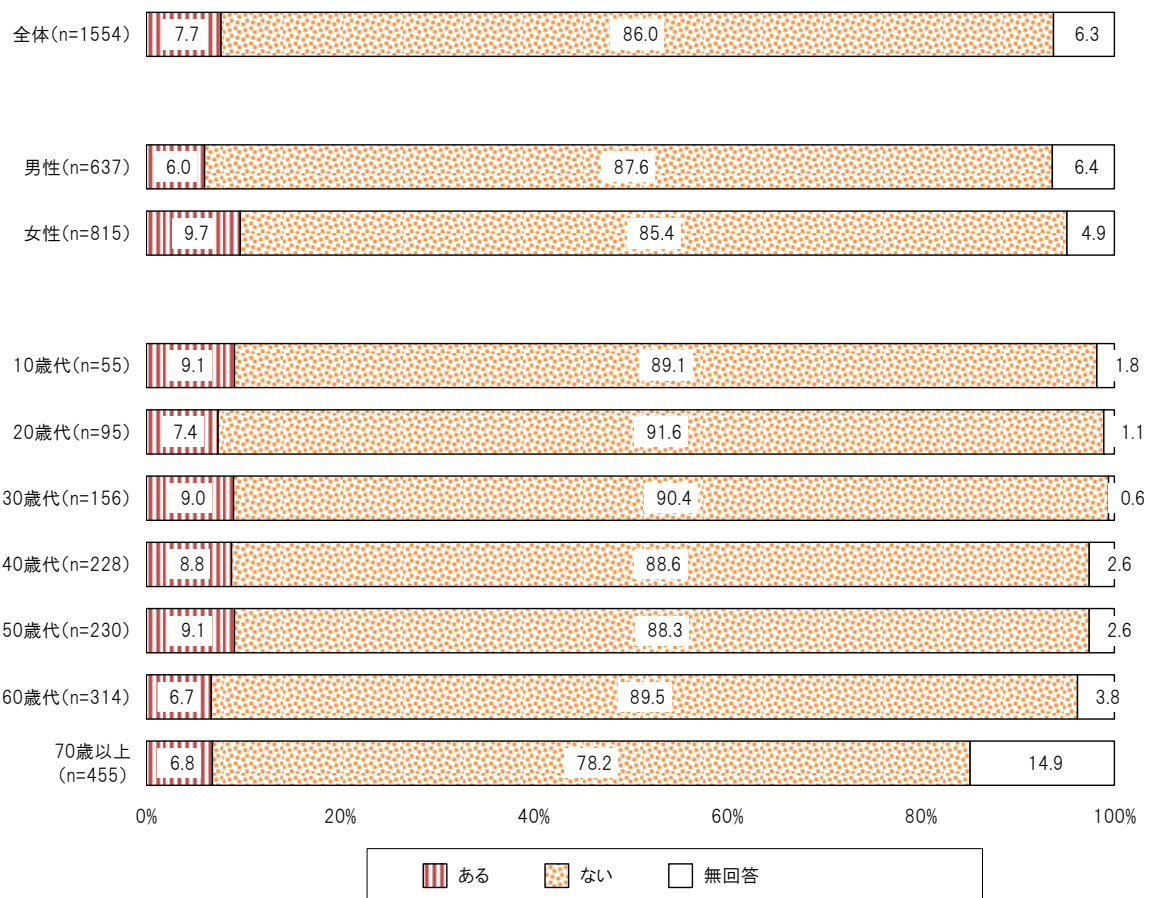
①身体的な暴力

「ない」が86.0%で最も高く、ついで「ある」が7.7%となっている。

性別にみると、「ある」の割合は、男性が6.0%であるのに対し女性は9.7%であり、女性の方が3.7ポイント高くなっている。

年代別にみると、「ある」の割合は、10歳代、30歳代、40歳代、50歳代で比較的高くなっている。

問46① 身体的な暴力



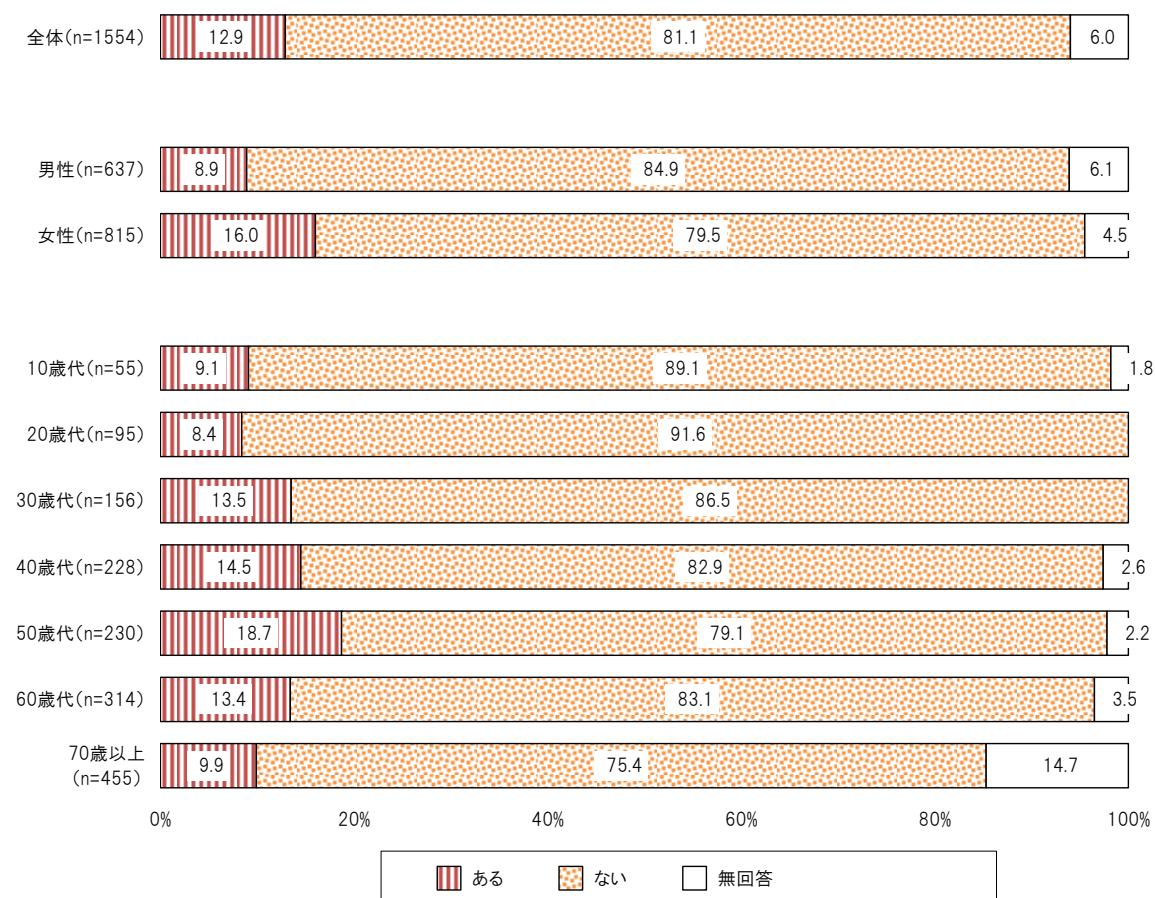
②精神的な暴力・社会的な暴力

「ない」が81.1%で最も高く、ついで「ある」が12.9%となっている。

性別にみると、「ある」の割合は、男性が8.9%であるのに対し女性は16.0%であり、女性の方が7.1ポイント高くなっている。

年代別にみると、「ある」の割合は、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代で比較的高くなっている。

問46② 精神的な暴力・社会的な暴力



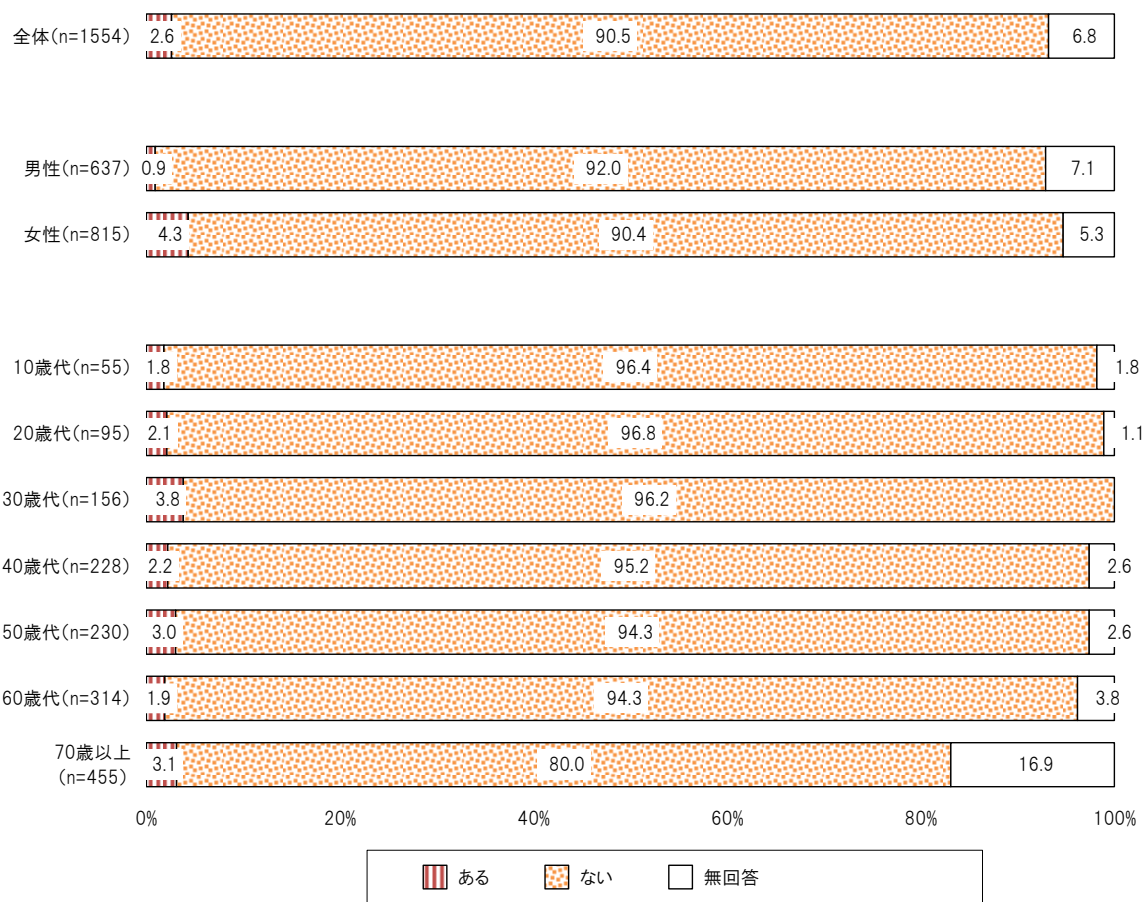
③性的な暴力

「ない」が90.5%で最も高く、ついで「ある」が2.6%となっている。

性別にみると、「ある」の割合は、男性が0.9%であるのに対し女性は4.3%であり、女性の方が3.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、「ある」の割合は、30歳代、50歳代、70歳以上で比較的高くなっている。

問46③ 性的な暴力



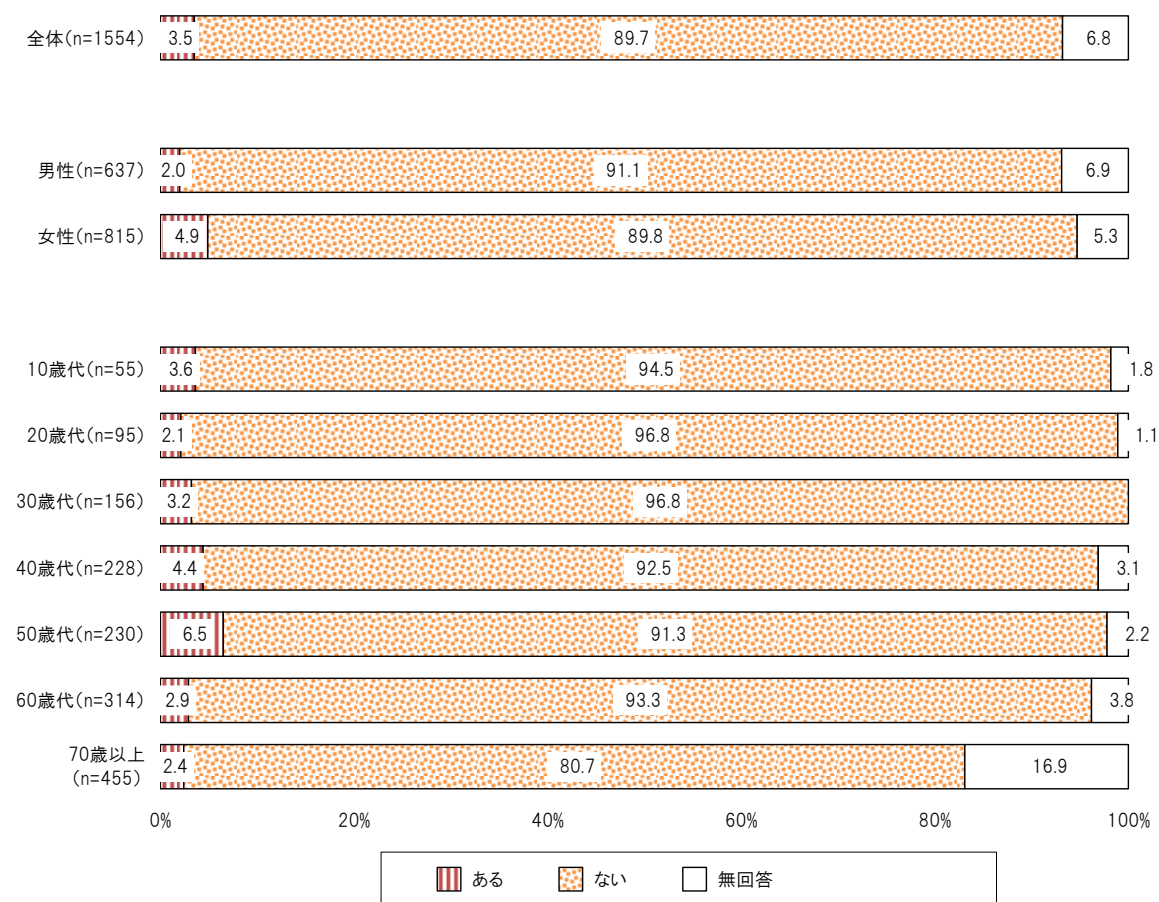
④経済的な暴力

「ない」が89.7%で最も高く、ついで「ある」が3.5%となっている。

性別にみると、「ある」の割合は、男性が2.0%であるのに対し女性は4.9%であり、女性の方が2.9ポイント高くなっている。

年代別にみると、「ある」の割合は、10歳代、40歳代、50歳代で比較的高くなっている。

問46④ 経済的な暴力



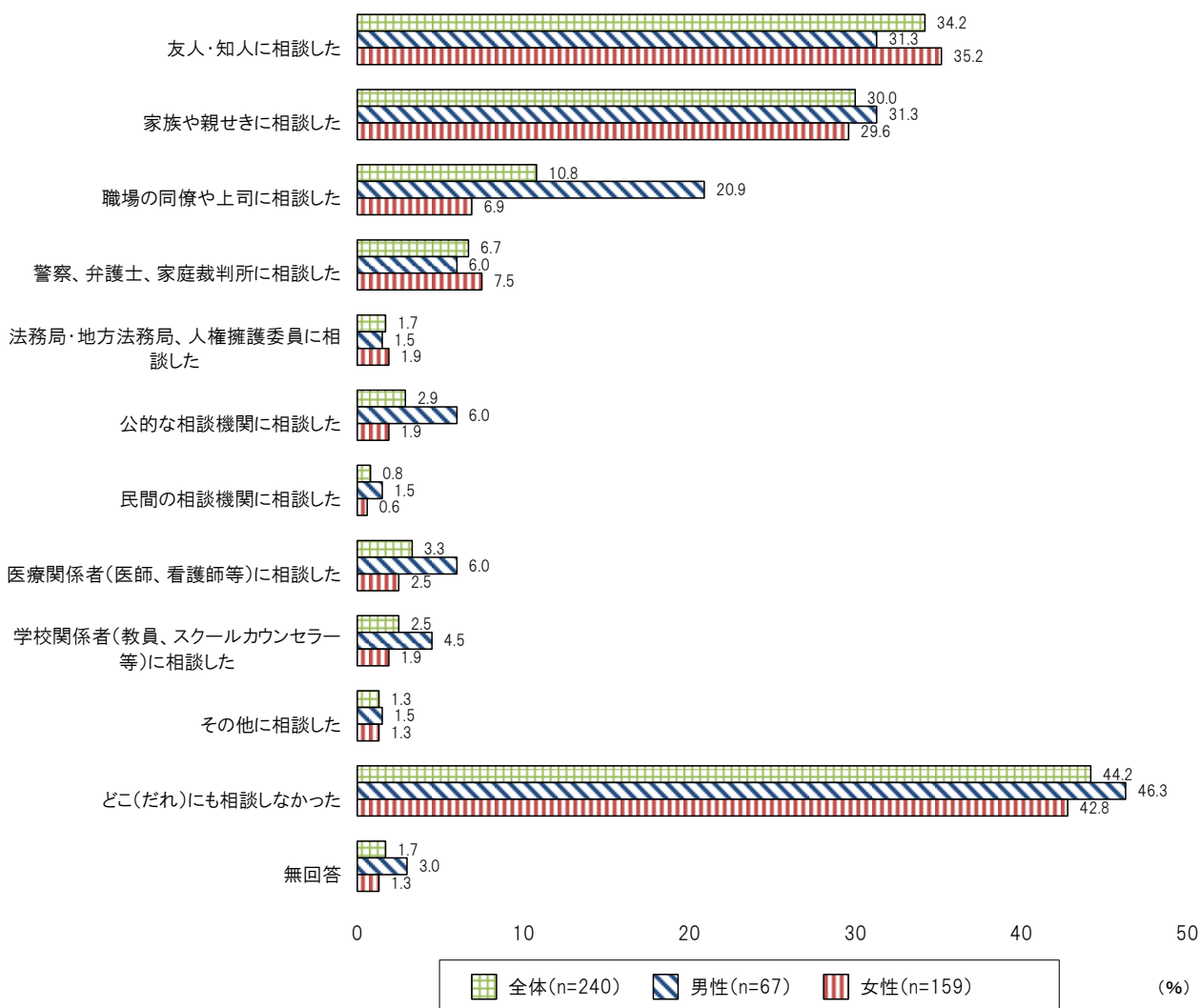
【問46で1つでも「ある」とご回答いただいた方にお聞きします。】

問47 その後どこか（だれか）に相談しましたか。（○はいくつでも）

「どこ（だれ）にも相談しなかった」が44.2%で最も高く、ついで「友人・知人に相談した」が34.2%、「家族や親せきに相談した」が30.0%となっている。

性別にみると、1番目、2番目、3番目に割合の高い項目は男女で同じである。男女の間で最も差が大きかったのは「職場の同僚や上司に相談した」であり、男性の方が14.0ポイント高かった。

問47 その後どこか(だれか)に相談したか



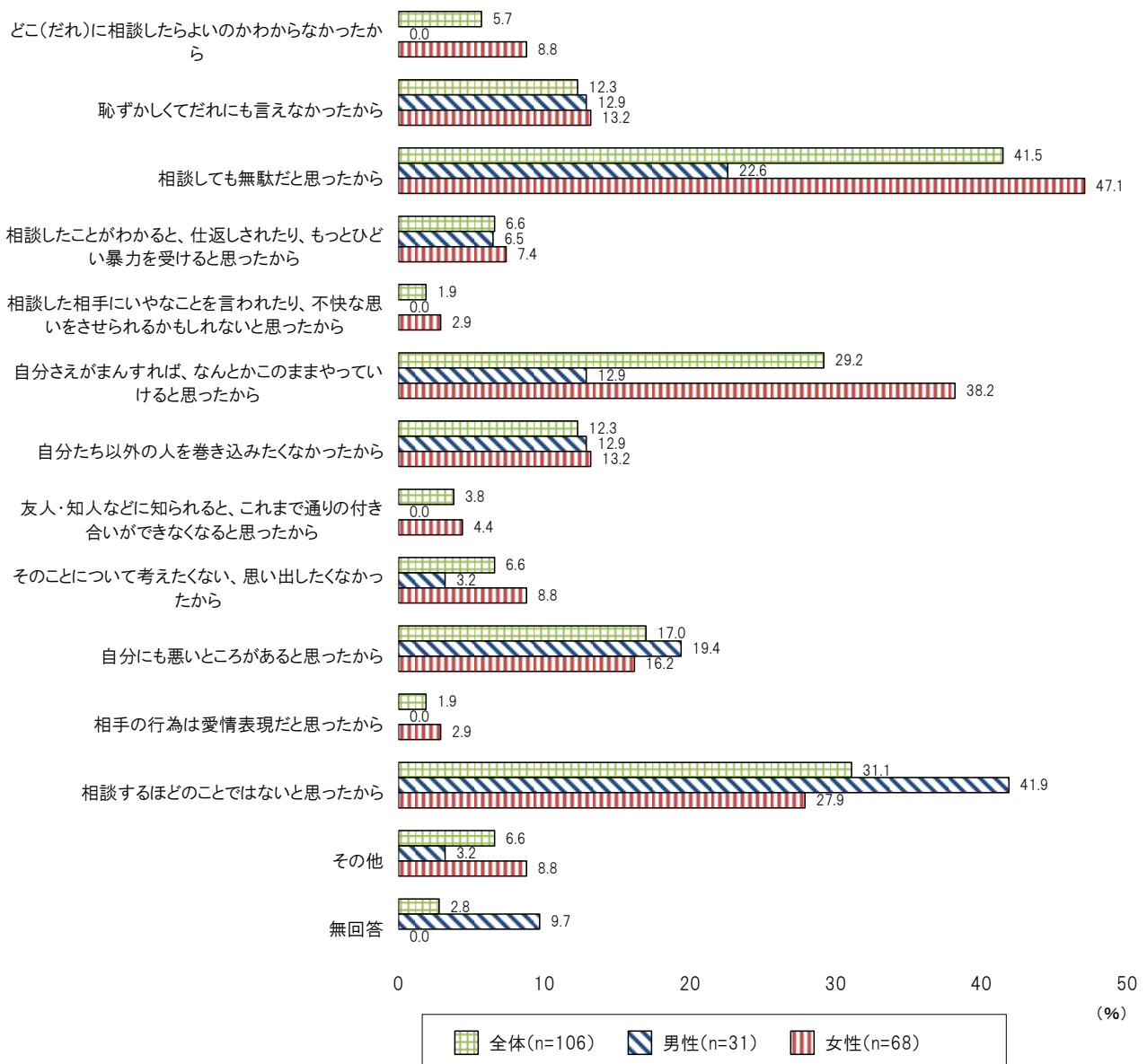
【問47で「11. どこ(だれ)にも相談しなかった」とご回答いただいた方にお聞きします。】

問48 相談しなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「相談しても無駄だと思ったから」が41.5%で最も高く、ついで「相談するほどのことではないと思ったから」が31.1%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が29.2%となっている。

性別にみると、最も割合の高い項目は男性では「相談するほどのことではないと思ったから」で41.9%、女性では「相談しても無駄だと思ったから」で47.1%となっている。男女の間で差が大きかったのは、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が女性の方が25.3ポイント高く、「相談しても無駄だと思ったから」が女性の方が24.5ポイント高かった。

問48 相談しなかった理由



4. セクシュアル・ハラスメントについて

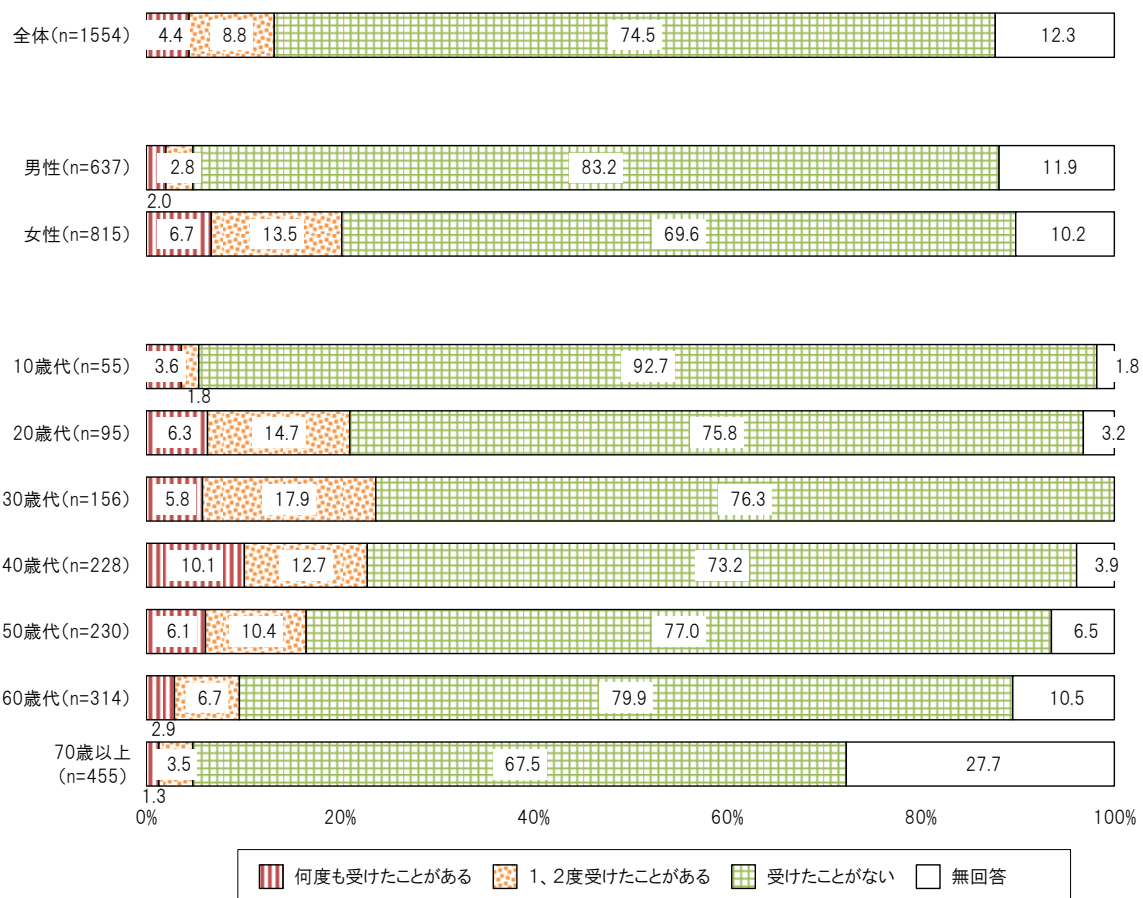
問 49 あなたはこれまでにセクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。(〇は1つだけ)

「受けたことがない」が74.5%で最も高く、ついで「1、2度受けたことがある」が8.8%、「何度も受けたことがある」が4.4%となっている。

性別にみると、「何度も受けたことがある」、「1、2度受けたことがある」の合計の割合は男性が4.8%であるのに対し女性は20.2%であり、女性の方が15.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、「何ども受けたことがある」、「1、2度受けたことがある」の合計の割合は、20歳代、30歳代、40歳代で高くなっており20%を超えている。一方、10歳代、60歳代、70歳以上では10%を下回っている。

問49 これまでにセクシュアル・ハラスメントを受けたことがあるか



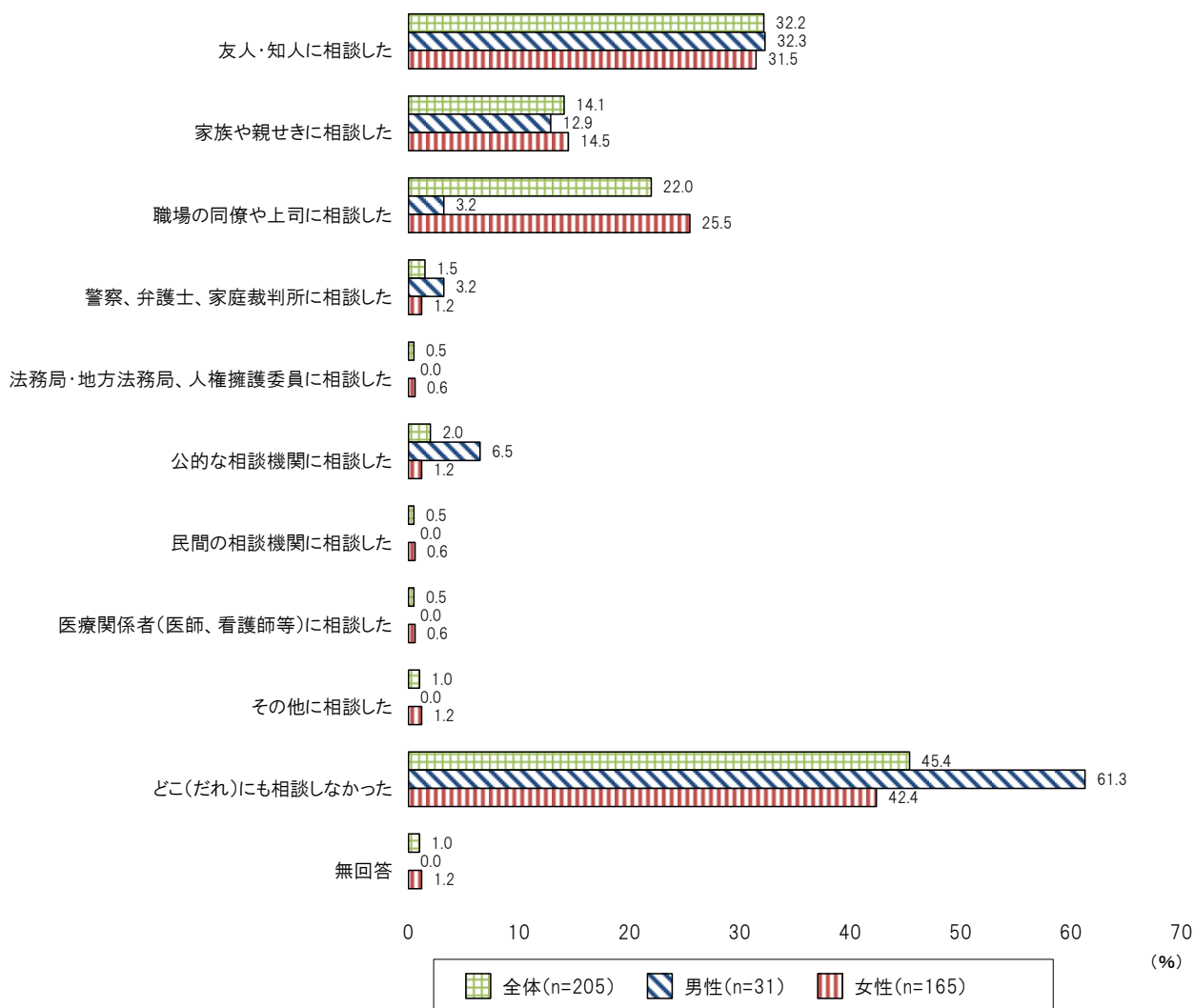
【問49で「1. 何度も受けたことがある」「2. 1、2度受けたことがある」とご回答いただいた方にお聞きします。】

問50 その後どこか（だれか）に相談しましたか。（〇はいくつでも）

「どこ（だれ）にも相談しなかった」が45.4%で最も高く、ついで「友人・知人に相談した」が32.2%、「職場の同僚や上司に相談した」が22.0%となっている。

性別にみると、1番目、2番目に割合の高い項目は男女で共通であった。男女の間に差が大きかったのは、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が男性の方が18.9ポイント高く、「職場の同僚や上司に相談した」が女性の方が22.3ポイント高かった。

問50 その後どこか(だれか)に相談したか



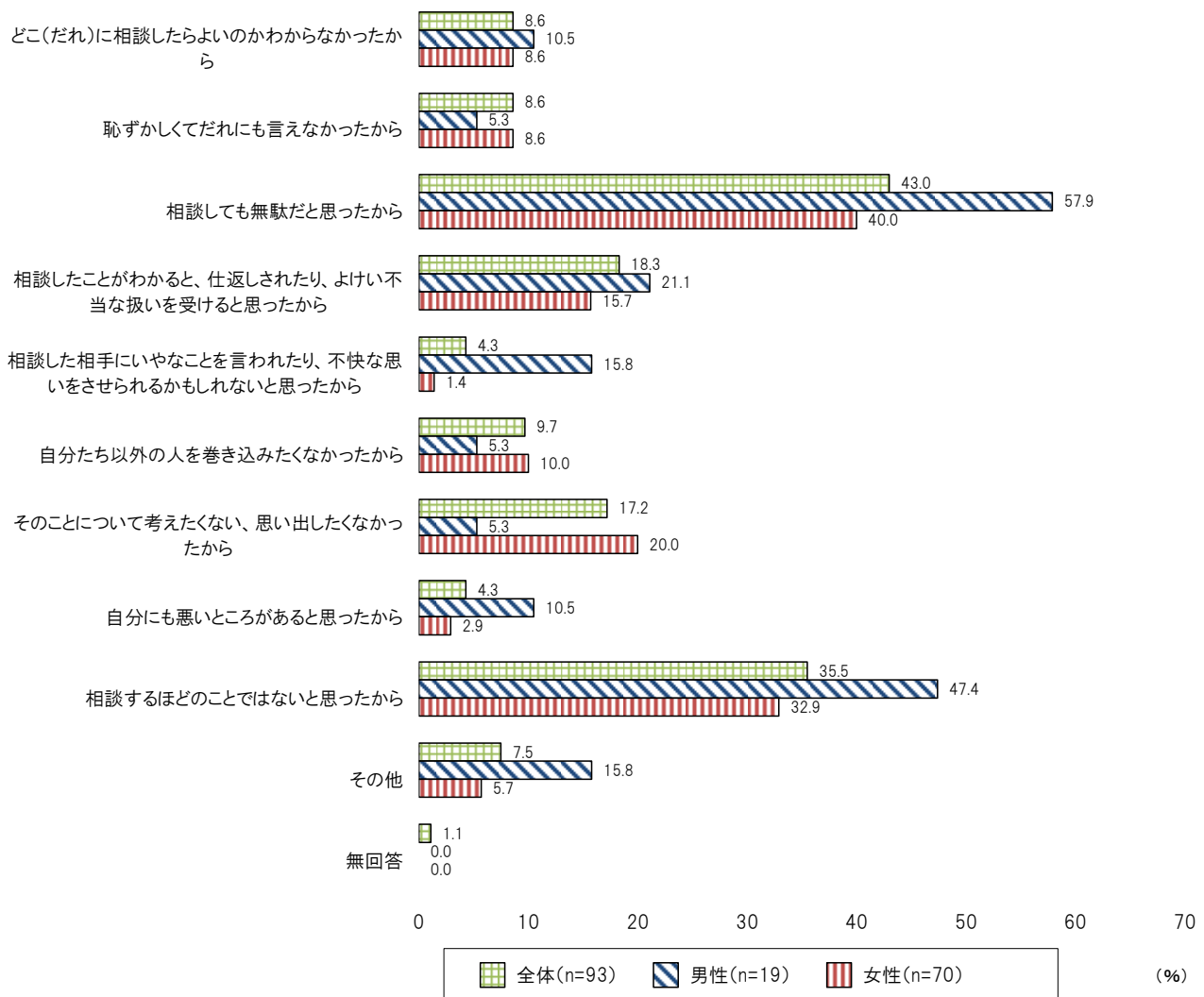
【問 50 で「10. どこ（だれ）にも相談しなかった」とご回答いただいた方にお聞きします。】

問 51 相談しなかった理由は何ですか。（〇はいくつでも）

「相談しても無駄だと思ったから」が 43.0% で最も高く、ついで「相談するほどのことではないと思ったから」が 35.5%、「相談したことがわかると、仕返しされたり、よけい不当な扱いを受けるといったから」が 18.3% となっている。

性別にみると、1 番目、2 番目に割合の高い項目は男女で共通であった。男女の間で差が大きかったのは、「相談しても無駄だと思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」、「相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思ったから」、「そのことについて考えたくない、思い出したくなかったから」などとなっている。

問51 相談しなかった理由



5. 政策・方針の場への男女共同参画について

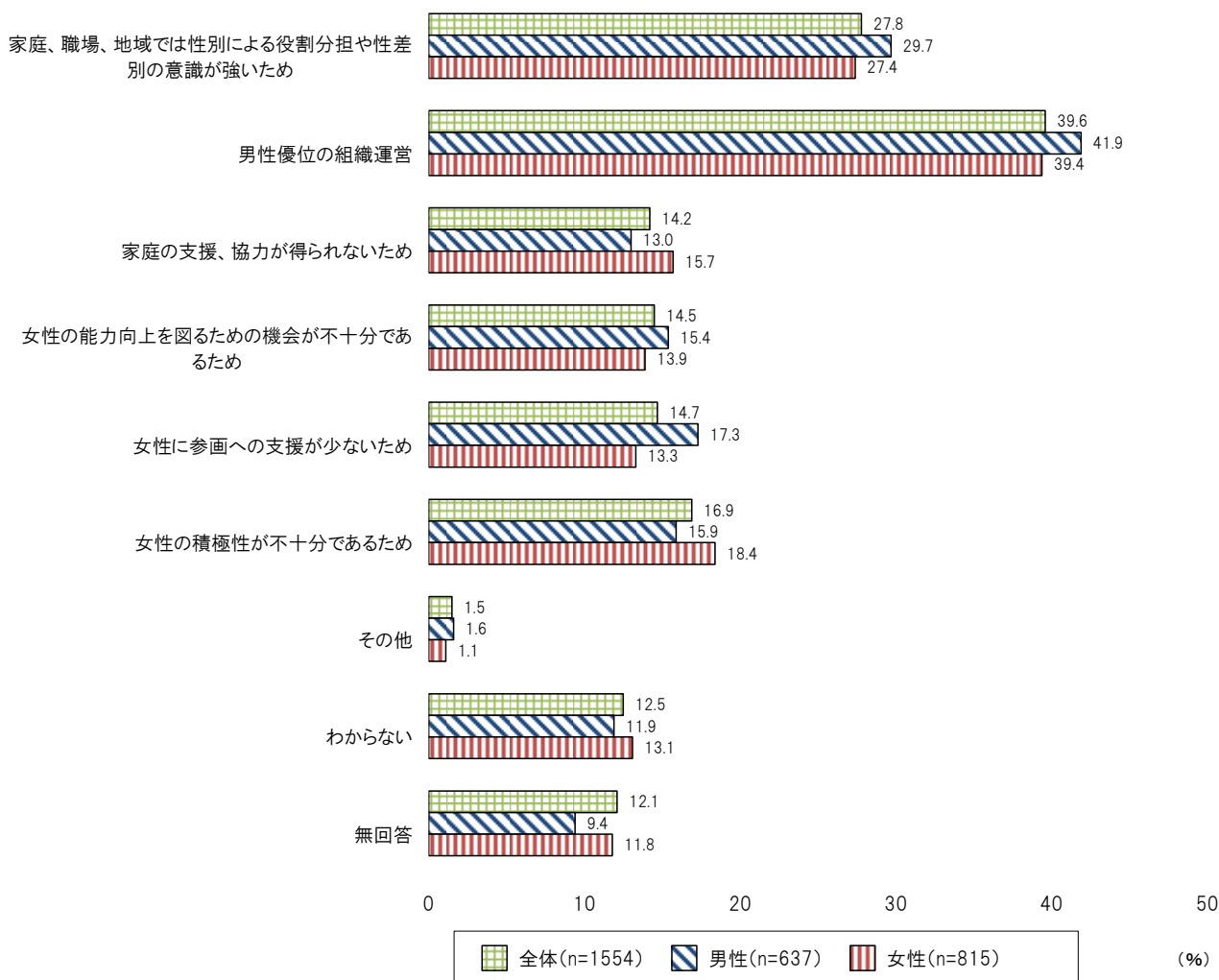
問52 「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画が少ない」といわれていますが、その原因は何だと思えますか。(〇は2つまで)

「男性優位の組織運営」が39.6%で最も高く、ついで「家庭、職場、地域では性別による役割分担や性差別の意識が強いため」が27.8%、「女性の積極性が不十分であるため」が16.9%となっている。

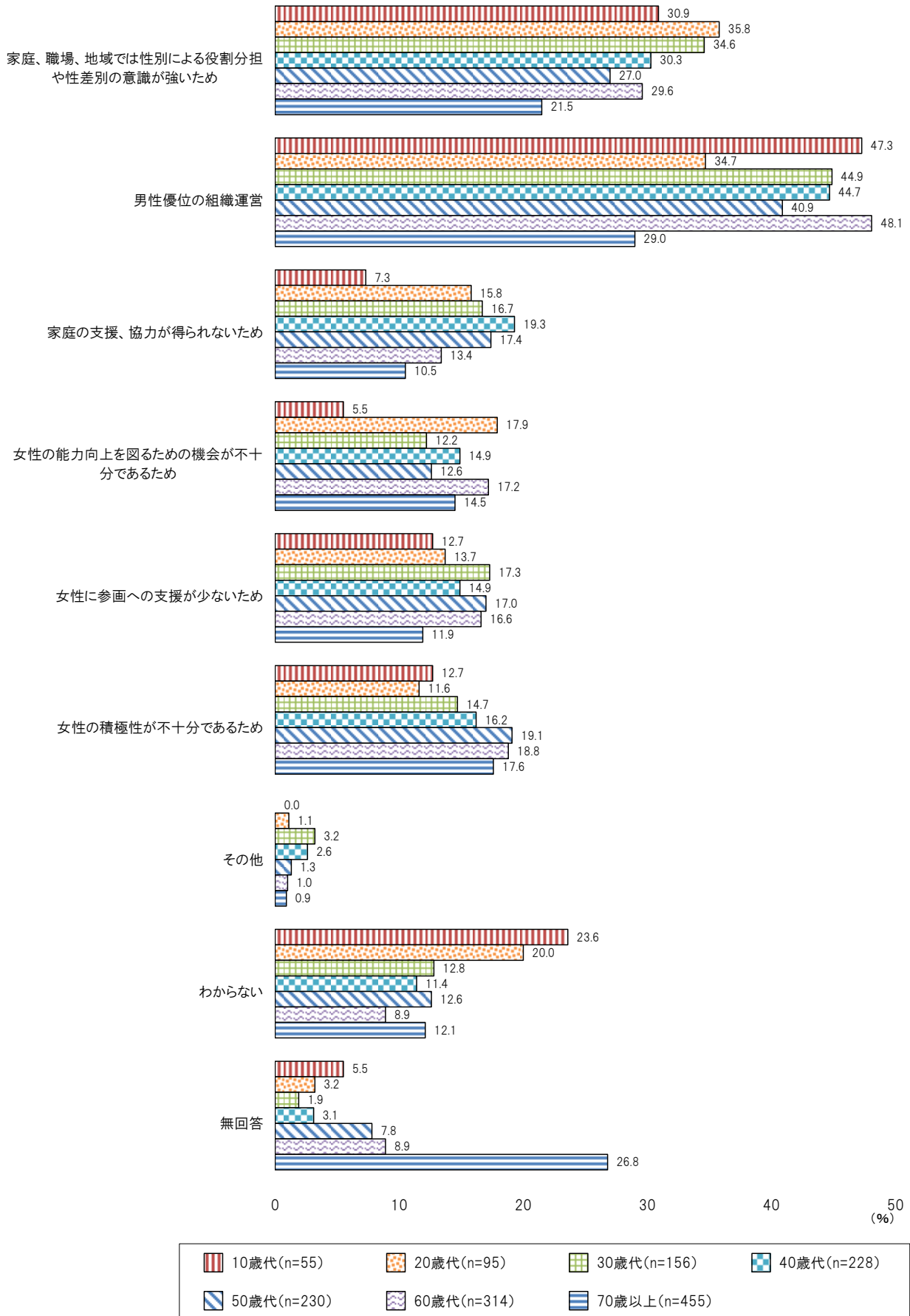
性別にみると、1番目、2番目に割合の高い項目は男女で共通であった。3番目に割合の高い項目は、男性は「女性に参画への支援が少ないため」であり、女性は「女性の積極性が不十分であるため」であった。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目は、20歳代を除く全ての年代で「男性優位の組織運営」であり、20歳代では「家庭、職場、地域では性別による役割分担や性差別の意識が強いため」であった。

問52 「企画立案や方針決定の場に女性の参画が少ない」といわれてる原因は何だと思うか



問52 「企画立案や方針決定の場に女性の参画が少ない」といわれている原因は何だと思うか



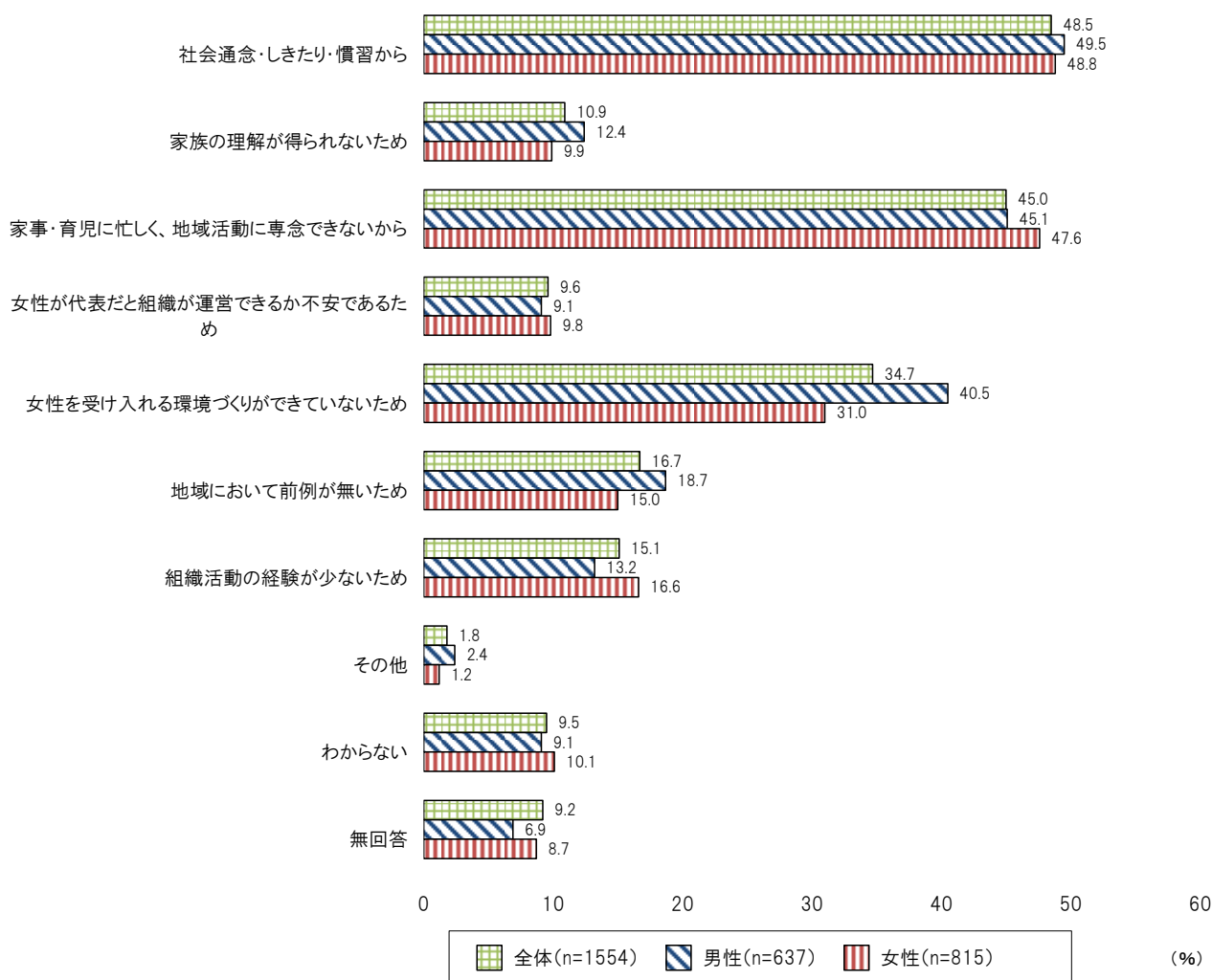
**問 53 自治会や住民協議会など地域の団体の代表において女性が少ない原因は何だと思
いますか。(〇は3つまで)**

「社会通念・しきたり・慣習から」が48.5%で最も高く、ついで「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」が45.0%、「女性を受け入れる環境づくりができていないため」が34.7%となっている。

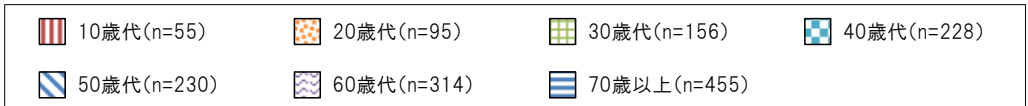
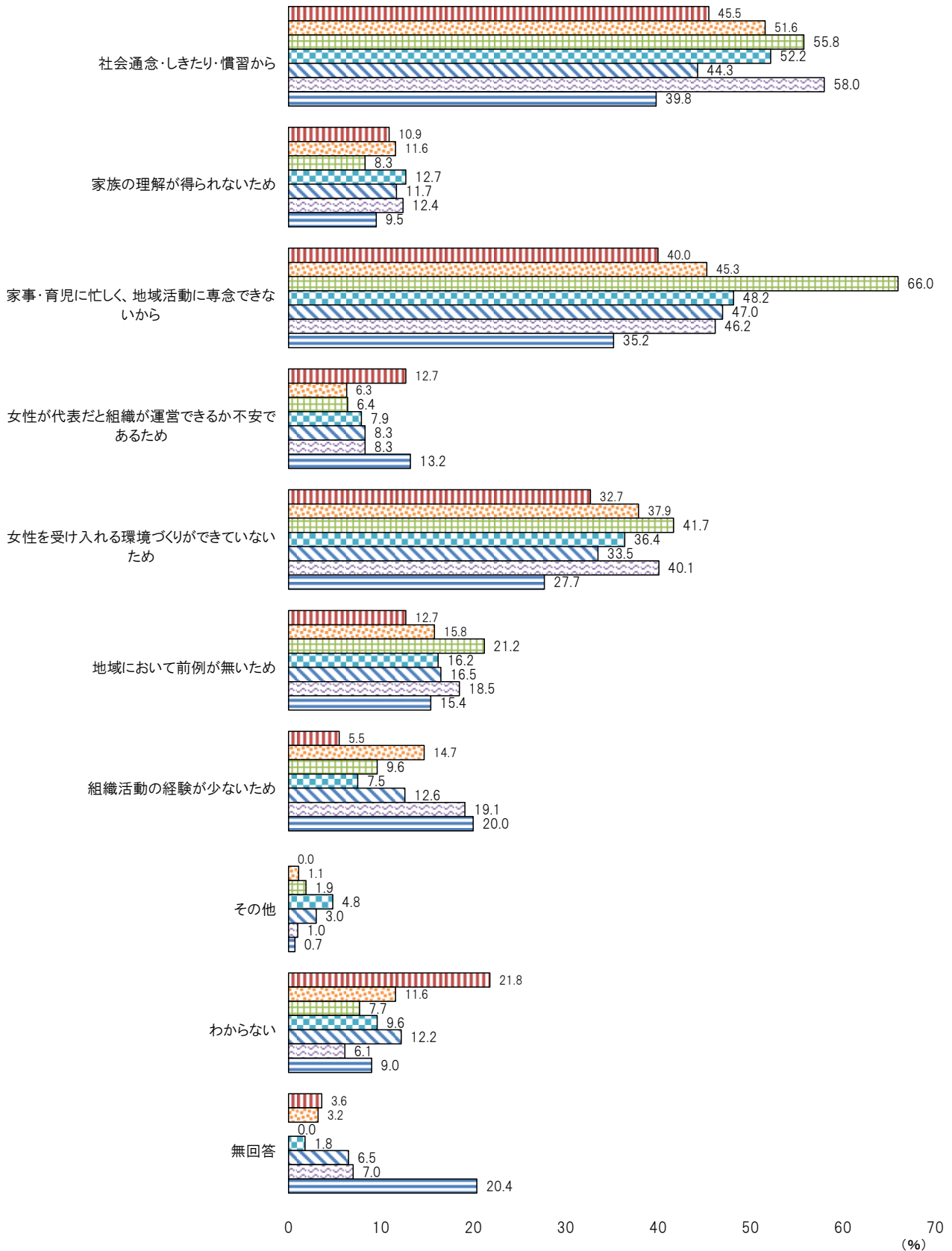
性別にみると、1番目、2番目、3番目に割合の高い項目は男女で共通であった。男女の間で差が大きかったのは、「女性を受け入れる環境づくりができていないため」が男性の方が9.5ポイント高かった。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目は、10歳代、20歳代、40歳代、60歳代、70歳以上では「社会通念・しきたり・慣習から」であり、30歳代、50歳代では「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」であった。

問 53 自治会や住民協議会など地域の団体の代表に女性が少ない原因は何だと思うか



問53 自治会や住民協議会など地域の団体の代表に女性が少ない原因は何だと思うか



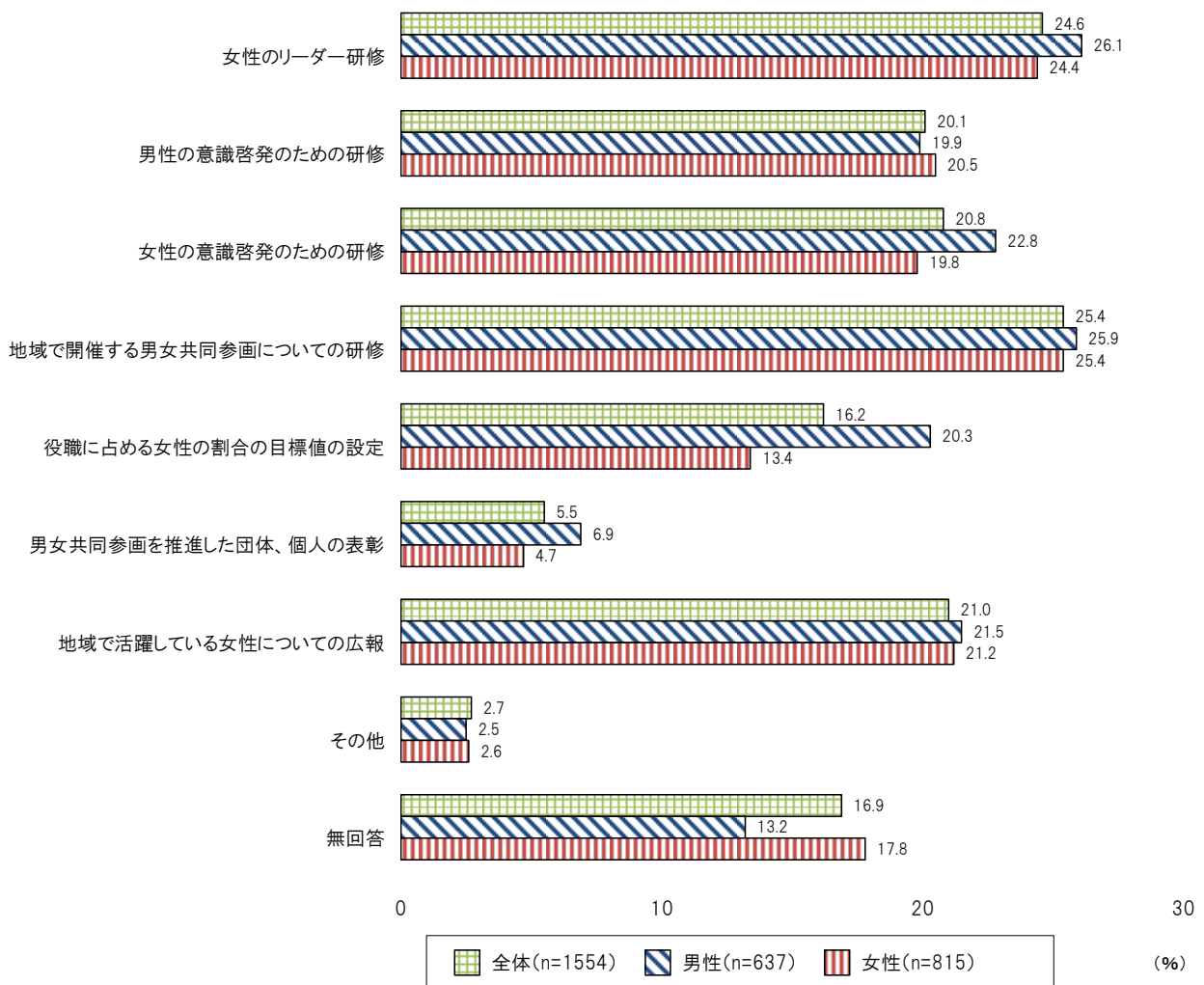
問54 地域活動における方針決定の場に女性が増えていくために効果的だと思うことは何ですか。(〇は2つまで)

「地域で開催する男女共同参画についての研修」が25.4%で最も高く、ついで「女性のリーダー研修」が24.6%、「地域で活躍している女性についての広報」が21.0%となっている。

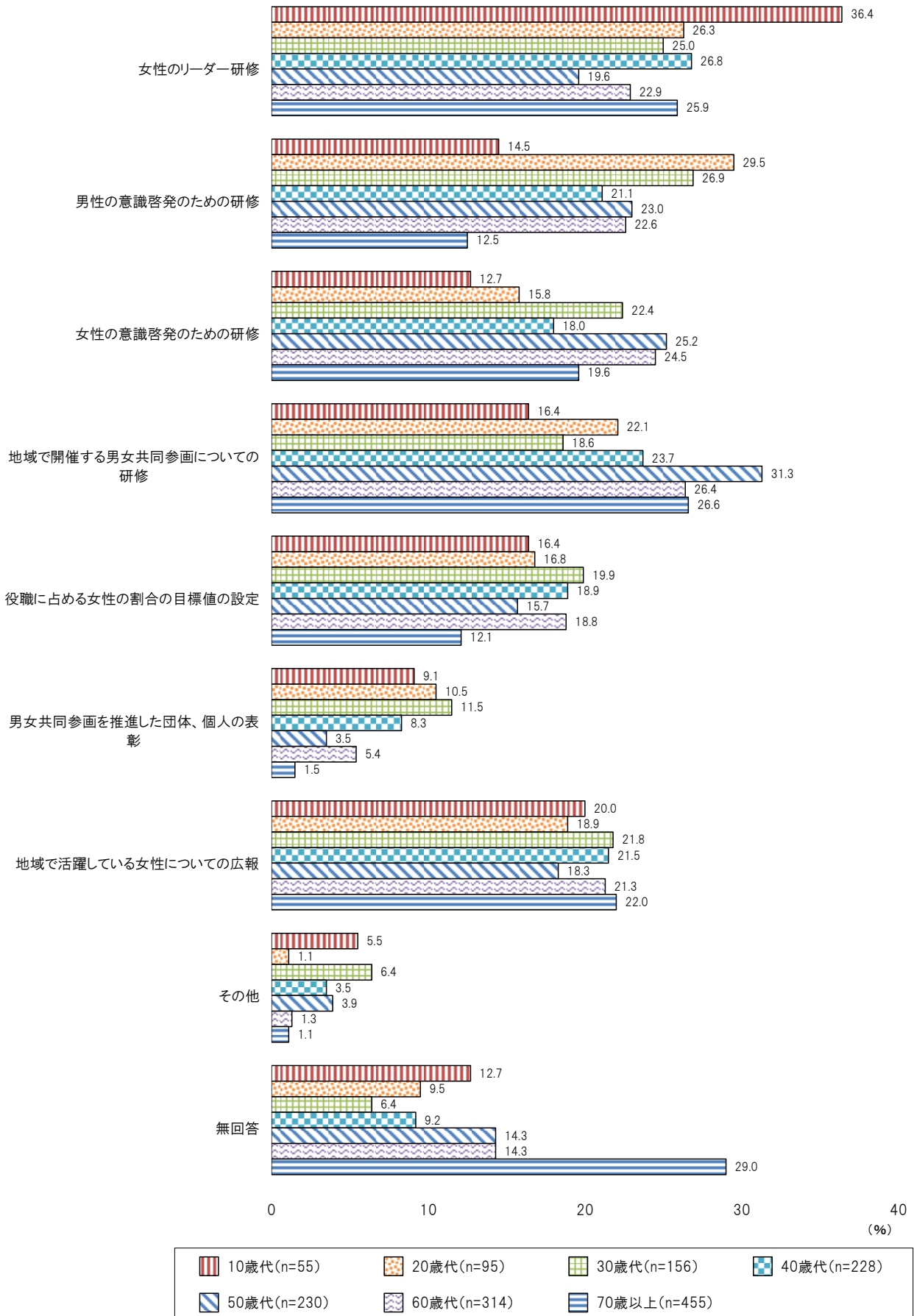
性別にみると、1番目に割合の高い項目は、男性は「女性のリーダー研修」であり、女性は「地域で開催する男女共同参画についての研修」であった。2番目に割合の高い項目は、男性は「地域で開催する男女共同参画についての研修」であり、女性は「女性のリーダー研修」で、1番目と入れ替わりとなっている。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目は、10歳代、40歳代では「女性のリーダー研修」であり、20歳代、30歳代では「男性の意識啓発のための研修」、50歳代、60歳代、70歳以上では「地域で開催する男女共同参画についての研修」であった。

問54 地域活動における方針決定の場に女性が増えていくために効果的だと思うこと



問54 地域活動における方針決定の場において女性がが増えていくために効果的だと思うこと



6. 行政の取組について

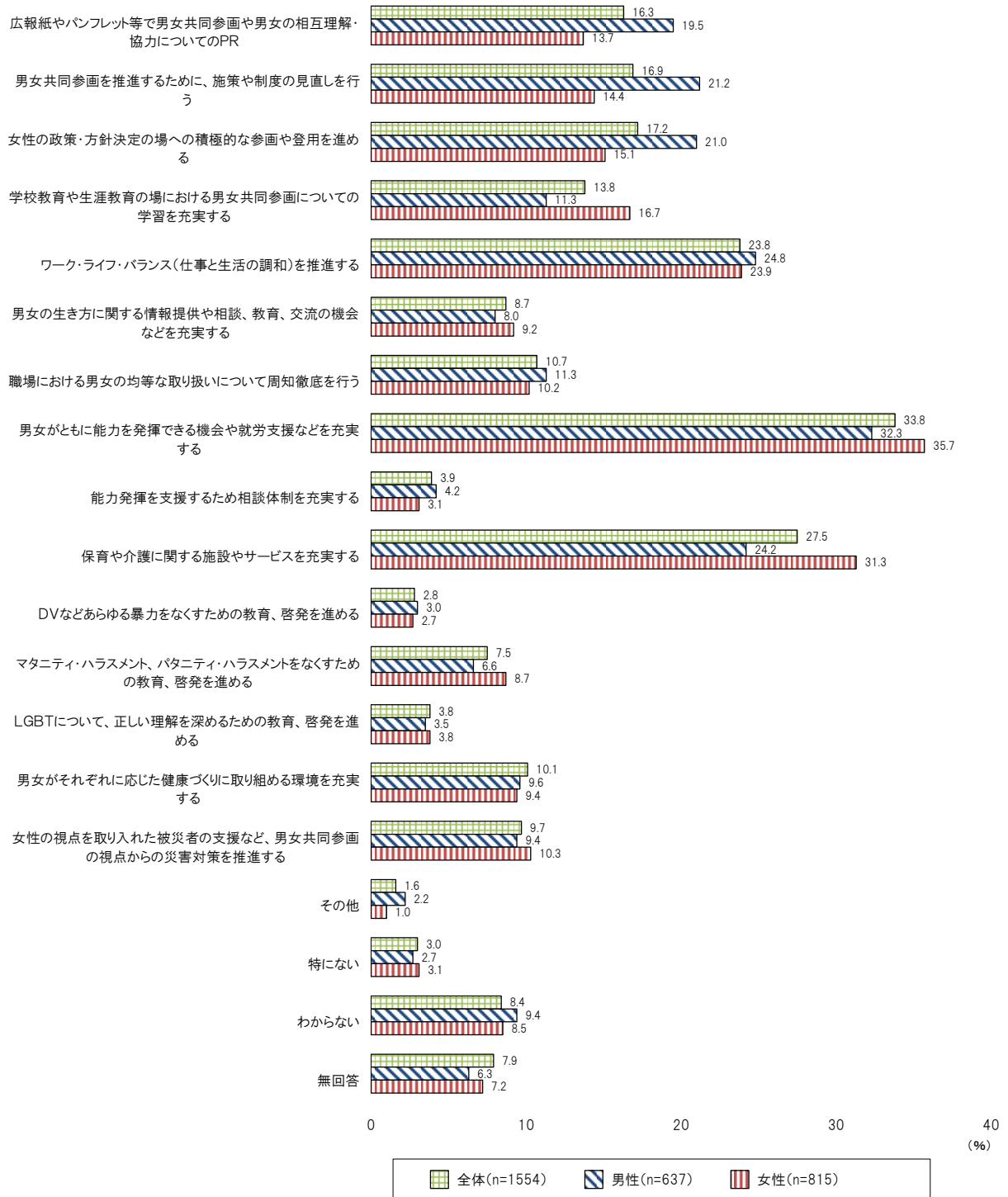
問 55 男女共同参画社会を実現するために、今後、松阪市ではどのようなことに取り組んでいけばよいと思いますか。(〇は3つまで)

「男女がともに能力を発揮できる機会や就労支援などを充実する」が33.8%で最も高く、ついで「保育や介護に関する施設やサービスを充実する」が27.5%、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進する」が23.8%となっている。

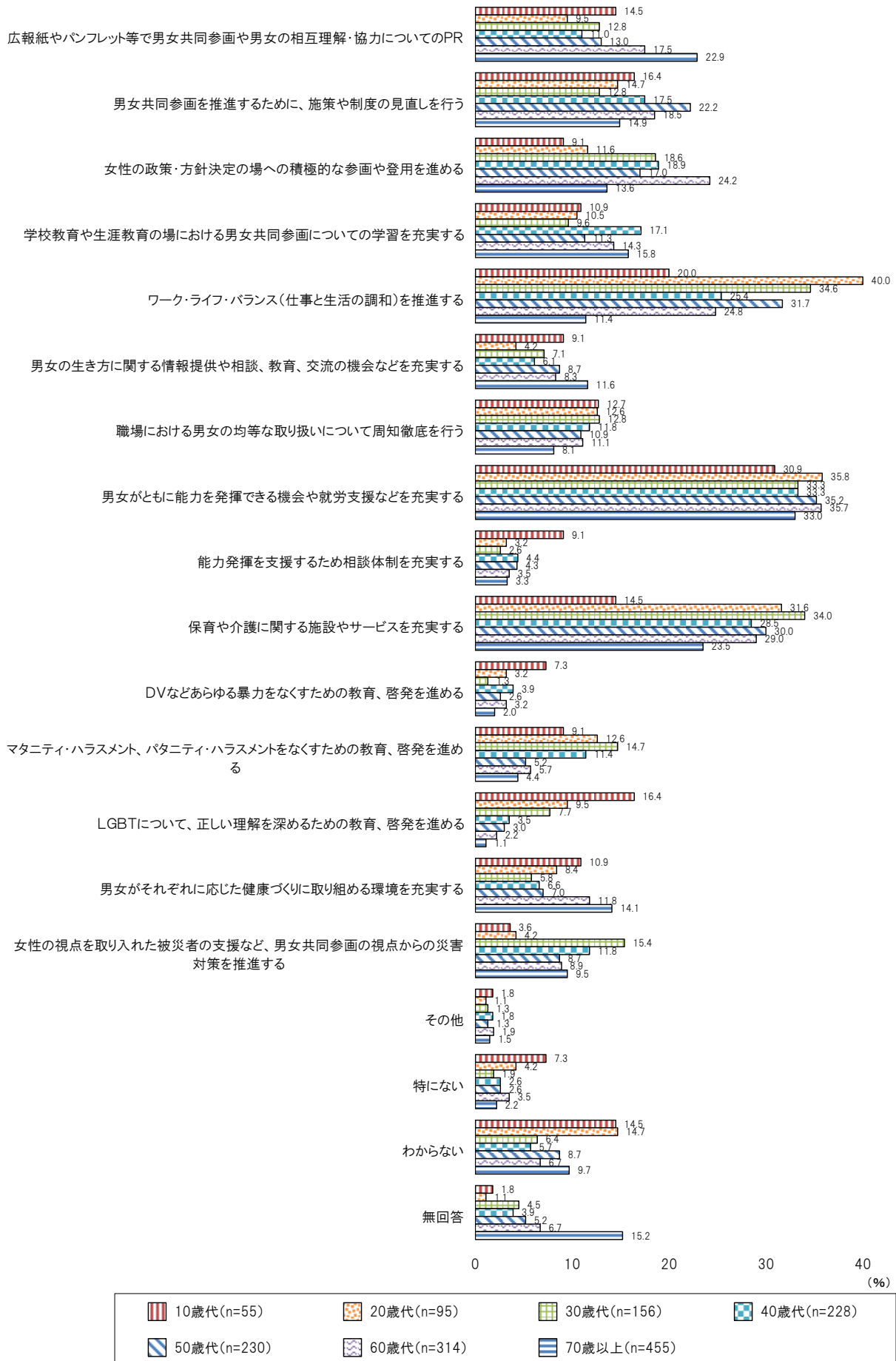
性別にみると、1番目に割合の高い項目は男女で共通であり、2番目に割合の高い項目は、男性は「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進する」、女性は「保育や介護に関する施設やサービスを充実する」となっている。男女の間で差が大きかったのは「保育や介護に関する施設やサービスを充実する」で女性の方が7.1ポイント高かった。

年代別にみると、1番目に割合の高い項目は、10歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「男女がともに能力を発揮できる機会や就労支援などを充実する」であり、20歳代、30歳代では「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進する」であった。

問55 男女共同参画社会を実現するために、今後どのようなことに取り組んでいけばよいと思うか



問55 男女共同参画社会を実現するために、今後どのようなことに取り組んでいけばよいと思うか



Ⅲ 自由記述

市政に対するご意見については、310 人の方からご意見をいただきました。いただいたご意見の主なものを総合計画の政策分野ごとに分類し、政策分野に属さないご意見については、「市政全般」等に分類しました。

できる限り原文に忠実に記述していますが、不適切な表現は一部修正しています。また、誤字等についても修正させていただいています。ご了承ください。



《主な意見》

1. 輝く子どもたち

- 若い世代が定住したいと思う街は子育て支援が必要。子どもを育てやすい環境が大切だと思う。子どもが少ない町は活気がなくなると思う。
- 「みえこどもの城」のような子どもと訪れる施設への助成をもっと進めてほしいと思います。
- 子ども会が多く地域で衰退しています。大人がやりたくないからですが、子どもがかawaiiそうです。地域の有志で子どものためのイベントや行事を企画した際に市からのサポートが頂けたらと願っています。
- 幼稚園、保育園は延長保育があるが、入学すると、学童保育に入れるかどうかかわからないと聞いています。安心して仕事が続けられるよう、小学校でも学童保育を充実してほしいです。又、サービス業が増加していることを考えた上で、土・日も働けるような仕組みを考えてほしい。
- 子どもに関しては、発達障害の児童が増加しており、放課後デイサービスをもっと必要としています。
- 子どもの医療費について他市と同じ様に早くして欲しい。三重県内で松阪市だけ除外されているのはどうしてですか。
- 県外出身ですが、住みにくいと思います。今は小さな子どもがいて、支援や気軽に参加できる（親子で）教室がもっとほしい。子育て支援センターに行っても、他の人の輪に入れず、楽しくなく、結局家に引きこもるといふ毎日です。
- 若い世帯をもっと呼び込むような具体的な施策を考えたらどうだろう。幼稚園が多すぎる。保育園に変えていったら、もしくは、同時に、幼保の役割をする園にしていけば良いのと思う。（行政の枠をはずして）
- 保育園の充実、仕事の有無に関係なく入園させてほしい。保育料無料（入園者）を家庭で育児している者に適用すべき（不公平）
- 保育園入園の条件（就業時間等）を緩和してほしい。空きのある園であれば入れてくれても良いのではと思う。複数人子どもがいると1人でそれを日中見るのはとても大変なので、せめて上の子だけでもと思う日々です。遠い園であっても入れてもらえるなら入れたいです。
- 発達障害（軽度）の子どもを支援クラスに入れようとするのをやめて下さい。子どものためと周りと言いながら、結局は学校のためです。子どものことを本当に考えているなら、普通クラスに在籍させ、社会に出ていく準備をさせるべきです。1人で戦うことに疲れてきました。育ちの丘を作ったことで余計に支援へという学校側の姿勢が目立ちます。入っていない子もいる以上、普通学級へ戻そうとする親の気持ちもくむべきではないでしょうか。子どもの将来がつぶされるのが本当に腹立たしいです。
- 三雲管内において、ここ10年で若者の住宅が増え小学生・幼児が多くなった。しかし、小学校においては、運動会の時など保護者席のうばい合いをする程の児童になっている。小学校が小規模のまままでこれからは不安になる。三雲管内は、以前（10年程前ですが）畑だった所が宅地になり、若者が増えつつある。あと5年もしたら、小学校へ入る子ども達で溢れそうな気がします。今後、大切な子ども達の為に考えてあげて欲しいと思います。
- 教育に関してです。これまで耳にしていますが、市内の中学校でかなり学力差があります。実際、

子どもが中学生となり、市内で共通で受ける実力テストにおいても、A中学校で上位の子どもであってもB中学校では真ん中くらいになります。同じ公立中学校でこれほどまで学力の差があると、高校受験で困ります。同じ公立なので（特色があるのはいいと思いますが）あまり差がないような指導をお願いします。

- 中川小学校について。駅（近鉄、伊勢中川駅）周辺の開発が進み、児童数が急増して、手狭になっています。学区制の変更など早急に検討していただけたらと思います。
- 教育にもっとお金を使って下さい。先生足りません。
- 子どもの医療費の助成は、なぜ所得制限があるのですか。期限延長よりもすべての子どもが平等にサービスを受けられないのはおかしいと思います。せめて、3才頃までは全住民が助成を受けられるようにしてほしいです。三重県は愛知県に比べて、かなり遅れています。
- 松阪市は不妊治療・助成金が低い。

2. いつまでもいきいきと

- 国民健康保険税が高すぎると思います。
- 教育現場における集団フック化物洗口を止めてほしい。長期的に見た場合の健康被害が検証不可能なため。
- 各自治体によって乳幼児医療助成制度のサービスが違うのはなぜですか。高額なシナジスは各自治体均一化してほしい。シナジスはほかの予防接種と違って、健康保険の適用を受けているため、自己負担額は、乳幼児医療費助成制度によって助成されると津市の病院で説明を受けました。津市は後から支給があるのに、松阪市はない。健康センターはるるを利用した際、エレベーターが双子ベビーカーサイズではなかったことが残念でした。双子、多胎児を受け入れる環境になっていないのではないですか。小さい子どもが遊べる施設、公園、増やしてほしいです。双子ベビーカーを扱う際の広い駐車場を作してほしい。
- スポーツといっても好きな時間に出来ない。（予約制が多い）
- フルマラソンはやる必要が考えられない。その予算をもっと違う所で活用して欲しい。特に道路の白線関係、事故死亡者が多いのもそれが1つの原因になっていませんか。フルマラソンをやるメリットは何でしょうか。
- 今、やっと市民への広報がはじまった市民病院のあり方の検討について、今の市民病院が変質することへの懸念、不満は大きいものがあります。検討委員会の結果をうけて市がその方向にかじをきくことは市政への大きな反発となることと思います。拙速な今の方向への同調は慎重にしてください。市民病院のための税金補填こそ有意義と考えます。ひとにぎりのフルマラソンへの税金流失は許せませんが。
- 地域包括ケア病床ですが、知人の方が松阪市内で探されていましたが、結局病状の関係で断られて明和町の施設へ行かれます。松阪市は現状でも全然受け入れ体制ができていないのではありませんか。もう少し考えていただきたいと思います。
- 現在、市民病院にお世話になっているのですが、体制が変わると聞きました。なぜ、今のままでいけないのでしょうか。不安です。
- 松阪市は生活保護の人が多い。そして、本当に必要かと思う方が多く見受けられる。生活保護になるハードルが低く、なったらそのまま受け続けている気がする。もっと必要な方がいるので、受給

の基準をもっと厳しくしてほしい。医療機関で「金払わんでいいんや」と大きな顔をしていたり、都合よく弱者になっている人がいることが腹だたい。

- 生活保護を受けている人は、重い病気や障がい働けなくて働けない人がいるというのは理解できるが、どのような理由で生活保護を受けているのかわからない人がみえます。市の職員さんが一人一人とコミュニケーションをとりあって就労支援をもっと取り組んでほしい。少ない給料でギリギリの生活をしている人も少なくありません。生活保護を受けている人の方が生活にゆとりがある気がします。
- 生活保護世帯が多いので自立支援をして、生活保護世帯を減らしてほしい。
- 松阪市は、生活保護の金額が大変多すぎます。国民年金を20才～60才までかけても、1ヶ月6万円ぐらいです。病院代も無料です。私の友達は、生活保護をもらって、私より裕福にすごしています。みんなの税金です。もう少し金額を減らすべきで、生活保護を渡す人をよく調べて下さい。
- 高齢者だけの世帯でも安心して生活していける様に（細やかな困り事など一人ひとり色々あると思いますが）、誰でも気軽に話し合いが出せる環境で少しずつクリアしていくことが出来ればと思います。
- 介護施設の人手不足が進んでおり、市として外国人の受け入れ等の検討もしてもらいたい。このままでは、施設の運営が難しくなる。
- 高齢者年金を充実して頂きたい。増やして下さい。健康保険個人負担を1割にとどめて頂きたい。
- 年に1、2回でも、生活の様子聞き取りが有ると心強いと思います。遠くの子供達では伝わりにくい生活の事など、災害の後など特に心細く感じる。又被害に会った時など。
- 高齢者が1人で住まわられている家が多いのですが、市から地域の民生委員に見回りをするよう働きかけて下さい。
- 要介護者の入れる特別養護老人ホームを増やしてほしい。1人で2人の介護をしているので、いつ共倒れになるか不安。自分の時間がほしい。
- 低所得者に対する介護保険が高く思います。国民健康保険みたいに所得によって支払うお金を設定してほしいです。
- 高齢者を大切にしない松阪市。介護問題、施設の充実など、今まで松阪市を支えてきた高齢者のことをもっと考え、安心して暮らせる老後であることが、若者が将来安心できることにつながると思う。将来の見通しを考えると安心できる老後の保障をすべきだと思う。若者のやる気につながると思う。
- 高齢者にとっては、買い物カゴを移動させる事さえ大変です。杖をつき買い物カゴを持つのは、想像をこえる力が必要です。助けてもらえるとありがたいです。若い人中心より高齢者に優しい町づくりが、地域に必要なだと思います。年金も少なく生活が苦しい現状です。
- 高齢の方々が運転免許証を返納されたらタクシーチケットを渡してもらいたい。月々3,000円位か割引チケットとか。
- 障がい者の働く場所の確保と最低限生活できるだけの賃金、買い物、通院などの少しのサポート、相談できる人など。
- 重度障がい者がショートステイで利用できる施設が少なく、市外で利用している人が多いと思います。障がい者本人やその家族のためにも施設が増えることを願っています。
- 障がい者（重度など）にも安心して生活できる環境づくり。働く場など（障がいの程度に関係なく）

- 個人の願いですが、ワクチン被害で子は全身系の機能障害となってしまう生活困難な状態です。私が仕事を辞めて介護をしています。将来が不安です。何か、給付金のような援助はしてもらえないでしょうか。(子宮けいがんワクチン被害)(理解のある病院の先生に相談しても、まずは、手足の不自由な方からです。と障害年金は保留のままです。)
- AEDの設置箇所がどうしても市の施設、駅、学校等に集中しており、いわゆる地方住居地区には設置されておりません。せめて、住居が500~600世帯毎に集会所等に設置されることを希望いたします。

3. 活力ある産業

- 今、松阪市の農家出身で、松阪以外で生活していた各年齢層の人々が、実家の農家の後継者として、帰りたくないと言う人が激増している。息子や娘、孫も松阪に戻って来てくれません。農家の後継者になると、自動的に莫大な金銭的負担がかかります。これを給料又は年金から支払いしなければいけない。美しく温暖な松阪ですが、暮らしていけないと云っている。
- 農地転用について、住みたい人が、農地転用が出来ないということは、人口の減少につながるため見直して下さい。
- 松阪牛の銘柄がどの地区かわかりづらい。
- コンビニが大量に出店したため、流通が壊れかけている。何とかならないものでしょうか。スーパーとコンビニの両立は難しい。全体的に売り上げが減っている。このままでいいのでしょうか。
- 知名度の高い商業施設の誘致
- 商店街が生き生きしてくれる事を望みます。駅からゆっくり歩いて途中にベンチがあったりして人と会話をして、また歩き出して声をかけて、そういう空気の松阪を期待します。必ずなると思います。歩く=発展
- 若者の都会への流出が激しいが松阪市には良好な土地があるから、工業誘致を積極的に進める必要がある。産業、企業の積極推進課を作り、今の人口を20万人位の街にして欲しいものである。努力不足が否めない感があります。思い切った雇用を作る下地作りが不足しているように思う。
- 松阪市にも若い人達が働いてもらえる大企業や魅力的な職場があれば、大学や高校を出ても松阪に来てもらえると思います。企業誘致は難しい事だと思いますができればいいと思います。
- 民間の力を大いに利用して、多気町のような大企業を松阪へ連れて来て、松阪牛をメインにしたテーマパークを民間と一緒につくれるようにすべきだ。
- 友人が他県から来た時、松阪の見所を案内する場所が浮かびません。観光についても考えて下さい。
- 全国的に松阪の知名度はあるが、まだまだ「松坂」と書かれる事がある。新名神の開通があり、渋滞も減ったので、伊勢、志摩と一体となった魅力的な地域づくりでの観光振興と、住民にとって住みやすい環境づくりに、今後ともご活躍くださいますよう祈念致します。
- 経済を活性化させる事が大部分の問題解決となり得ることから、まずは、観光地への観光客の囲い込み。そのためには、売りとなる目玉を多数作ることが大切。経済を活性化させる事が雇用を生み、町を活性化させる。そのためには市が率先して観光プロジェクトに取り組み、市民と協力しながら「松阪ブランド」を全国的にやがては世界へと広めていく必要がある。
- 若者が地元で安心して働ける職場の確保を推進してもらいたい。
- 70才、75才未満の雇用も週に2、3日働ける。介護資格を持っていますが、そういう配慮もお考えで

できればお願い致します。

- 松阪の人口をふやす為、人口が増えている中国やインドの人々を就労で暮らしてもらうのも良いのではないか。
- 飯南・飯高地域では、市内よりも人口減少が著しいかと思えます。地元での働く場所やお茶の生産や林業などアピールして働く人材を増やしてほしいです。

4. 人と地域の頑張る力

- 自治会を大切にしてください。
- 当地域のまちづくり住民協議会は中止してほしい。この地区の住民はほとんどの人が理解しておりません。市からの助成金の半分以上は人件費になっています。これまでのような自治会制度が一番平等に知る事が出来るし、これから高齢者が多くなるにつれ、解りやすいなれた地域の政治をしてほしい。
- まち協をなくし、その予算で美しいまちづくりを進める。特に市の外側の町に力を入れよ。すべての予算が市中心に使い過ぎである。
- 利用する人しない人、利用が多い施設少ない施設とさまざまですが、市民の平等はどうか。利用できる人が得をしているのではないですか。図書館も必要ないです。読みたければ購入し、飯南、飯高、三雲の図書館の必要性は？
- 地方の文化会館の活用をもう少し考えてほしい。
- パワハラについても、考えていただけるとありがたいです。
- 30年前に松阪に住み始めたころは、歴史ある古いお店も沢山あって、良い街だとの印象だったが、時間が経つに連れてどんどん劣化、衰退の感は否めない。現状のあるべき姿だけでなく、ありたい姿（ビジョン）を大胆に描いて市民に希望を示して欲しい。現在、外国籍の人達も多く住む松阪ですから共に生きる仕組みも含めて具体的に進めて頂きたい。
- 能力・資質もないのに、必要以上に女性を役職、代表にすることは無いと思いますが、同じ立場の時に男性を優先させたり、平等にチャンスを与えないような環境は無くしていくような取組を希望します。表面的にはなくなったように見えていても、やっぱり最後の決定や裏側には、男性優位の意識は確実に残っています。（一方、女性にもそれに甘んじた甘えが残っている部分もあります）
- 働く女性が忙しすぎます。男女平等と言っても、男性がもっと家庭内の仕事を担ってくれないと実現できません。男性にもっと教育しなければ、いつまでも家事、仕事、育児に忙殺され、社会で活躍する心身の余裕はありません。
- このアンケートで女性の社会進出のことばかり取り上げられていますが、子どもにとって母親の存在がどれ程重要か、全く無視されているのが残念です。
- このアンケート自体に女性差別を感じる。女性が社会で活躍していない前提ですか。女性の待遇を変えるより、男の考え方を変えた方がいい。古い考えが残るすぎ。今の上の男の頭が固いのがそもそもの原因なのでは。
- このアンケートにより「聞いたことはあるがよくわからない」ことを知ることができた。啓蒙にもなると思いました。男女、障がい者（他多くの）に対する差別は、表面にはでていませんが、根深いものがあると思います。その立場にならないとわからないので、バーチャル体験の場が広がると良いかなと思います。文章や言葉でわかるより体験談や疑似体験の場を。

5. 安全・安心な生活

- 交通のマナーが悪すぎます。県外から来た人や、市外から来た人に指摘されるのは恥ずかしいです。横断歩道もはげたまま。意識が低すぎます。もう大人を変えるのは、厳しい取り締まりしかありません。でも、子どもが変われば親が変わるかも。そして、10年後の松阪は変わるかも。交通公園をぜひ作って下さい。よく考えて、これが一番だと思います！よろしくお願いします。
- 私は地域の交通安全（学校）の為、毎月11日、祝日は翌日等、街頭指導をしておりますが、今だに一時停止しない車両、歩行者が渡ろうとしているのに止まらない運転者等多数見受けられます。市長さんが防災無線を利用して呼びかけられているのは、大変好事だと思います。
- 「治安が悪い」と聞く地域があり心配である。実際、駐車場で当て逃げをされたり等もある。
- 子ども達が帰宅する頃、辺りは真っ暗なので防犯対策として、暗い道などに街灯をたくさん増やしてほしいです。
- 電柱の老朽化が心配。台風までに考えてほしい。千葉県のように。市内店舗の避難場所が水につかる場所となっている。神奈川県斜面崩落（女子高校生死亡）。松阪市も飯南飯高の方面なども考えてほしい。見直してほしい。
- 空家のことでのお願い。税金面で考えてほしい。危ないのでさら地にしたいが、撤去費の問題とさら地の税金面を早く改定してほしい。
- 津波が来たら高い所が無いので不安。
- 災害時の避難場所ですが、私たちの在所は川に囲まれて、避難場所は川を渡らないといけな場所がありいつも不安に思います。企業とも提携して、より安全な場所への避難場所を決めて頂きたいと思います。
- 僕は三雲管内に住んでいますが、三雲は川と川の間で海も山も近いです。出来る事なら堤防をもっと高くしてもらって、津波対策をしてもらいたいです。会社も三雲のため、会社・自宅と両方流れてしまいます。お願いですから見直して下さい。
- 地域の消防団員を縮小して下さい。人口が減っているのに、人数を維持するのは無理があります。
- 津波などの浸水被害が不安です。阪内川（松阪橋下流）の草木、土砂など撤去して災害に備えてほしいです。（特に港小学校の河川はひどいです）
- 金剛川の草刈りを年2回にしてほしいです。以前は2回だったのに、今は1回になりました。（予算がないとかで）冬は枯れ草になっています。火事になったら大変だなと思います。
- 町内清掃の時の側溝掃除で出たヘドロが入った土のう袋をすぐに回収してほしいです。
- 松阪市の通行する車のマナーが悪い。横断歩道では止まらない。ダンプカーなど遮断機で止まると出にくいので歩行者がいても無視する。道路の状態が悪く大型車が通るたびに地ひびきがする。
- 防災対策に力を入れてほしい。地震や台風等自然災害に強い町づくり。特に、河川の改修をお願いしたい。

6. 快適な生活

- 愛犬家のマナーが本当にひどいです。リードなしでの散歩やふん尿の放置をなんとかしてほしい。毎日嫌な思いをしています。
- 民間の葬儀会館は高すぎて利用出来ません。市の会館を以前利用させてもらって助かりました。この頃家族葬が多いようです。一人っ子が多いのでみんな利用を希望しています。
- 松阪駅のトイレにお金をかけ、きれいにしていただく事は出来ないでしょうか。先日、妹が（名古屋勤務）松阪駅をおり、トイレを使おうとしたところ、きたなくて早くこの場所を離れようと思ったそうです。駅のトイレがきれいであれば、もっと松阪に魅力を感じられるのにと話しておりました。
- 多くは望みませんが、静かな松阪にして下さい。夜、バイクの空ふかしの騒音に悩まされています。警察に言っても、ケガをさせたら大変だから取締りができないと言われました。騒音のない町にして下さい。
- 祝日もゴミ収集に来てほしいです。
- 高齢者の運転免許証返納後のフォロー。例えば、公共の乗物の費用減額、タクシーのチケットの配布。
- 自家用車が無いと生活が出来ない。山間部の住民が免許証を返しても生活できる環境を早急に作ってほしい。そうしないと、子どもへの負担が多くなり生活に支障が出る。
- 地域にバスを開通してほしい。今後、高齢化が進み、買物もできないことが想定され、医療も受けることができなくなる。車が運転できなくなれば、住んでいくことができない。このことは、松阪市に真剣に考えていただきたい。
- 高齢者が病院や買い物、娯楽など、気軽に安全に出かけることができるようタクシー利用券などがあると家族としては安心できます。運転免許証を返納すると出かける手段がなくなり、不安になります。仕事があるので家族が送迎することもできず、高齢者が運転した時は安全に帰宅することを祈っています。
- 公共交通機関が不足していると感じています。幹線道路から遠い地区も、バス、タクシー等利用できるまちにしてください。利用率が悪く、バス停が廃止になって不便さを感じています。免許返納時のデメリット差が目立ちます。
- 必要な時に電話で依頼して利用できるお年寄り用の乗合の車がほしい（タクシー）
- 旧市内が高齢者にとって、以前より住みにくくなってきました。スーパーが遠くへ行き、個人経営の店が閉店し、買物に行くのが不便になった。駐車場がないが、公民館も遠くへ行き本当に残念です。
- このアンケートで、普段考えないことを考えさせられました。いろいろな取り組みを私たちのためにしてくれているのだと感じました。今はまだ 40 代で車を運転することがあたり前ですが、将来、運転できなくなったとき、どうになってしまうのだろうと不安です。タクシーがもっと安くなってくれればいいんですけどね。
- 今回のアンケートで、問 24 は早急に見直しが必要であると思いました。1 億円以上を毎年負担する状況をそのままにしておくことは、一般企業ではあり得ないことですし、市役所職員の職務怠慢としか考えられません。今後の改善を期待しております。
- 限られた経路で運用している鈴の音バス。利用できない人も多くいると思いますが、税金でまかな

われている割に財政負担が大きいとのこと。私の住んでいる地域でもバスは走っていません。不公平感を感じていますし、利用者も少ないのであればバスは廃止し、他の方法を検討して欲しいです。高齢者の移動手段をまず考えて欲しいです。免許返納した方の特典についても検討をお願いしたいです。

- 松阪市のコミュニティバス路線を増やしてもらいたい。
- コミュニティバスを利用しようとした時（旅行帰り）、バスが出たばかりで、次のバスまでの時間が長すぎて、結局家族に連絡して迎えに来てもらった。これから免許返納を迎える身には、利用したくてもなかなか利用しにくいので、タクシーの補助の方がありがたいと思った。
- コミュニティバスについて、土日祝も運行をお願いします。
- 私事ではありますが、車に乗れなくなった後、心配なのは病院や買物の件です。私の地域では「おおきんバス」がありますが困った事に平日はいいのですが、土日が休みなのです。出来れば月に1回でも休日に乗れるようにしてほしいです。
- 高齢者だけの家族の運転免許証返納後の移動手段を、何とか考えていただきたい。
- 合併以降、松阪市民になりました。役所、保健所、ハローワーク等公共施設が近く大変助かっています。松坂城跡など歴史ある場所も大好きで日々楽しませてもらっています。今はまだ車で移動が可能な年齢ですが、何年か先コミュニティバスが必要な時が必ずくると思います。お金（税金）はかかるでしょうが、このまま運営して頂けるよう願っています。
- 市街地はコミュニティバスもなく高齢者の移動手段がない。低額でつかえるタクシーとか、移動販売車などの支援をしてほしい。
- 駅西についての開発は無駄だと思うが、近鉄側については大型店の導入は今後も積極的にタイアップして誘致してもらうように。
- もっと活気あふれる街づくりをめざしてほしい。その為には人を呼びこめる環境を作らないといけないと思います。駅西のさびれた様子では、人は集まらないと思います。市政の力を発揮して下さい。
- 松阪駅西の開発を早く進められたいと思います。松阪駅西の風景について来訪者からよく聞くのは、駐車場ばかりで何もない所ですね、食事をするのに困りました、などの最初の言葉です。多くの人々が集まって来るような環境に早くして欲しいと思います。
- 松阪駅の利用者が多いと思いますが、その際長時間待てる施設が欲しいと何年も思っています。学生さんも多く利用されると思うので、服を見れたり、ちょっとご飯が食べられたりするところがあるとより賑やかになって、駅がさらに利用しやすくなると思うし、送り迎えの混雑も時間にばらつきがうまれるのではないのでしょうか。私自身も買い物ができる場所があれば非常に嬉しいです。
- 駅西開発で、大型でなくても良いのでスーパーができると良いと思う。毎日の食料品の買物が不便ではないかと思う。車に乗られない方も多くみえると思うので（昔からの街であり）
- 駅西に本庁舎を移転し地域活性化を。
- 市街化調整区域について。分筆できるのを20年から5年10年にしてほしい。このまま家が建てられないとよそへ出ていかななくてはならなくなる。いい所なのにどんどん人口が減っている。空いている土地なのに親族しかダメとかもやめてほしい。土地の条件が色々ありすぎて豊地地区に住みたいと言っている人も違う所に行ってしまう。
- 三雲地区の農家は、開発の規制によって閉塞感が強まり、危機感がつのっています。農業によって

生計をたてられなくなり、すでに崩壊が始まった農村地帯、農業以外に生きる道を考えても、自分の土地でありながら、農業用以外の土地利用が出来ない許可されない。後継者も負荷が重く、松阪に戻ってこない。三雲地区何千人の住民の反対意志にもかかわらず、線引きを強行した当時の市長は、50年100年先迄も糾弾される大きな汚点を残しました。

多くの若い世代が、住環境の良い三雲での生活を望んでいる。その条件がそろっている。いつか早い時期に強いリーダーが現われて、この閉塞感を打ち破ってくれるものと、望みを続けてゆこう。次の世代の松阪市に対する不信感、絶望感はとてつもなく大きい。

- 観光に力を入れたり、若年層の市外流出の食い止めなど長期で見なくては成果がでないことより、現状を改善してほしい。道路の停止線が消えて見えなかったり、街灯が暗かったり、歩道と道路の段差があって高齢者が困ったり。税金は自分たちのために使ってほしいので、今を快適にしたい。
- 市の職員の方はその人によって対応が違いすぎる。道路、側溝のことで何度も電話をしているが見にもこない。もう1年以上になる。何度も電話することでクレマーと思われるのではないかともう電話するのが怖いです。
- 毎年同じ場所を道路工事しているが、整備された試しがない（税金の無駄使い）。松阪市は他市に比べ、常に渋滞する箇所がある。もっとスムーズな流れにして欲しい。
- 道路のパトロールをもっとやって下さい。車からごみ捨てが目立ちます。
- 道路の白線が消えている場所が多く、非常に危険である。財政的問題もあると思うが、そもそも予算取りされていないことが大問題です。また、財政的問題ならば業者に丸投げするのではなく、職員自らが白線を引くぐらいのパフォーマンスがあってもいいのではないかと。市民だけでなく、今後、市の職員を目指す学生に対してもアピールになると思う。厳しい意見を書かせてもらったが、市職員へは感謝するとともに期待もしている。
- 松阪市の道路は白線が消えている場所が多く、夜、運転していると非常に危険である。交通死亡事故を少なくしたいのであれば、道路の整備をすべきである。松阪市役所前の道路は整備していたにもかかわらず、マンホールがある部分が道路より凸になっており、ガタガタして運転しにくい。
- 市内全公園内を野球・サッカーその他ボール遊びをさせないでください。周りの家がたいへん迷惑しています。至急よろしくお願いします。公園内に看板を設置してください。騒音もすごいです。
- 自転車の通り道に段差が多いので走りやすい道をお願いします。
- スケートボードの専用練習場のようなものができたそうですね。ケーブルテレビか何かで見ましたが、つくられることすら全く知らなかったもので、びっくりしてしまいました。果して、あのような施設は本当に必要だったのでしょうか。とてつもない市税が使われたと聞き、疑問に思っています。
- 通学路の安全対策もしてほしいです。道路の白線や横断歩道が消えかけている場所が多すぎます。
- 松阪市内で市と土地の持主との間でトラブルがあり下水が完備されていない所が多々あるが、早急に進めてほしい。
- 飯南、飯高には自然豊かで観光による活性化の可能性がたくさんあるが、市からは切り捨てられていくように感じている人が多い。田舎の良さの見直しを。
- 過疎の町に住む高齢者が、楽しく毎日をすごせるような出前イベントをしてほしいです。
- 飯南、飯高に住み続けて、しっかり稼げる職場に安全に通えるような環境であってほしいです。若者が自然豊かな地元で生活できるように。

7. 市民のための市役所

- 個人的な意見ですが、市役所に伺いますと職員の対応が親切で、とても気持ち良く用件をすます事ができます。いろいろ問題点は有ると思いますが、私は松阪は住みやすい町だなと思っています。
- まともな市政を。職員を減らせ。
- 最近では、ほぼ全ての方が働いています。市役所は土曜、日曜日も開けてほしいと思います。昼休み等にあわてて行くのは、事故のもとです。
- 以前より市民の為に働いている。
- 役所へ用があつて行くと外国人ばかりでびっくりする。役所の配置が混雑している。書類等の置き場所をもっと整理整頓してすっきりしたら良いと思う。
- 税金が何に使われているかわからない。投資効果の無いものはやめていくことを検討してほしい。企業なら潰れてしまう。税金が日本一安い市になるよう取り組んだら良いと思います。
- 地区・町の合併（飯南、飯高、嬉野をなくし松阪市〇〇町〇丁目〇〇番地にする）
- 市役所の人員を考えた方がいいと思います。たまに行くと言員が多いと思います。中にはこの人仕事しているのかなと思う人がいます。見えるだけに不信に思います。
- 相談すること、話し合うことだけで済まらず、実践に移して欲しい。いつまでたっても同じ事をやっているのはおかしい。
- 松阪市政のみでの発展にも、中長期的な目標や計画が見え聞こえてこない。又、あるとしてもその進歩や状況の開示が先ではないか。単独行政で不可能なら、オール三重県として津、伊勢、鳥羽との伊勢街道発展プランなど、県またはオール行政として希望のもてる元気の出る取組みをめざしてもらいたい。
- 市役所の利用時間を土日も含め、時間延長を検討して下さい。
- 市役所の駐車スペースについて、1台分の幅がせますぎる。
- このアンケート結果（市民のおもい）が、市政にどのように反映されるのでしょうか。形式的にアンケートをとるのではなく、もっと日頃から市民サービスに努めてほしいです。公僕としての意識の低い職員さんには、がっかりします。質の高い職員研修をして下さい。
- 若い人は、広報誌（紙）を読んでないので、魅力あるホームページを作ってください。
- 市政の「見える化」を期待します。市政といっても現実何を積極的に取り組んでいるのか感じません。
- 毎月配られる「広報まつさか」は、いつも楽しく読ませてもらっています。地域の情報発信として、とても役立っています。以前は、松阪でも社会教育の場として、著名な人をよんだ講演会がよく開かれていたと思いますが、最近は少なくなっているように思いますので、松阪市民対象の講演会が、たびたびあったら嬉しいなと思います。
- 一番大切な事は、今松阪市で（日本で）生活している人の中の「辛い」「苦しい」という声の窓口を持つ事。楽しく明るく、長く住んでもらいたいという気持ちなら、まず今の生活に（松阪に）不自由を感じている人へ聞きに行く事。待っているのでは無く、こちらから出向いている（姿勢を）行動を知ってもらう事。何があつても、大丈夫だなあと安心出来る街づくりを。
- 職員、議員、首長はもっと現実を見るために現場へ入ること。気持ちだけを持っていても、市民と共に実行しなければ実現は不可能だと思います。聞くだけではダメです。
- 広報をポストに入れてもらっていますが、ゴミになるしゴミ袋も有料なのでいりません。希望者に

は有料で配布するなど考えて欲しい。ラインやメールで重要なことはうけるとるようにするなど。広報も税金で作成しているんですね。他の事に使って欲しい。今どき、デジタル化してないのはもったいない。

- 新型コロナウイルスのような感染が広まることを想定し、県と市が協力し、早急に対応を講じてほしい。その旨、市民に情報宣伝してほしい。
- 市政とは、そんなこと考えたことも知らうとも思ったことはありません。松阪市は税金が高いと市外から転入されてきた方々が言います。税金の見なおしをして欲しいです。
- 人の心は計り切れないので、嘘をつかない実直な政治を行っていただきたく努力してほしいです。無駄な事はやめてほしいです。税金が高いので。
- 市役所前の借金時計は、必要なのでしょうか。

市政全般

- いつも市民の為にありがとうございます。松阪市がこれからどんどん幸せな市になると良いですね。
- このたびは、市民意識調査を通してアンケートではありますが、私なりに市政について深く考えさせられて、意見が提言出来て大変良かったと思います。勉強になりました。松阪市は市政については”広報まつさか”で理解しています。私は高齢者の一人ですが、松阪市が住みやすい町や地域になるよう期待しています。大好きな松阪の市民の一人です。
- 松阪に住み続けたいと思うようなまちづくりを期待しています。
- 他市町村に比べ、活気の無い町です。何か大きなイベントを考えて下さい。
- 松阪市の政策に対しては、中央より（旧松阪市）の感が有り、旧一志郡等は、合併におけるメリット感があまり無い。
- 毎日の生活が大変なのに市は税金（国）ばかりで、ちゃんと支払いしてるのにもうすこし生活を楽にしてください。みんながもう少し楽しく生活ができる様にしてほしいです。
- 個人の幸福から社会問題に至るまで、多くの課題は経済と密接にかかわる。行政としてどのようにふるまえるかわからないが、市民の所得水準の向上を図ることが、基礎自治体としての存立にとって重要となろう。
- 四日市から昨年四月引っ越して来ました。周りの方々のあたたかさに大変感激しながら暮らして居ります。松阪って何てあたたかい所なんだろうと皆様に感謝です。
- 旧松阪市が発展し、それ以外が取りのこされている。
- 市民の意志に基づいて市政が運営されているという意識自体が市民の側に弱い。欧米諸国と違って、依然として政治は統治者が行うもので、市民はそれに従うだけという前近代的非民主的慣習が根強く残っている。その事は市議会、市長の選挙でも極めて投票率が低い事にも表れている。行政（政治）への無関心、お任せ、統治者に従うという江戸時代までの国民性が未だに根強く残っている。下からの民主主義の意識が向上しない限り、行政側が何を提案し、何を工夫しても、市民の反応はにぶいだけだろう。市民病院の機能転換の件でも重大案件なのに大方の市民は知らされていないし、その根底に無関心がある。
- 今の市政は、合併前の旧松阪市に重点が置かれ、旧町には目が行き届いていないように感じる事があります。
- 大きな施設、大きなイベントの必要性はわかりませんが、子ども、若者だけでなく、高齢者、障が

い者にも目をむけて、みんなに平等に幸せがくるように。生きるのに疲れた者が、もう少し生きてみようかなと思う松阪市になって欲しい。

- 時代の流れかもしれませんが、バランス良く物事を進めるのが良いと思います。
- 日本一税金の安い市にすれば確実に人口は増えるよ。

アンケート

- 70 歳以上にこのようなアンケートは困難である。もう少し簡易なものを作るよう考えてほしい。
- この調査が本当に必要なのでしょうか。一体どう生かされるのか理解できませんでした。
- このアンケートの見直し。なぜ私が選ばれたか、なぜ無作為なのかの説明がない。質問が長すぎて読みにくい。似た質問はまとめてほしい。アンケートの結果がどの様に活用されたか知る機会が欲しい。
- 意識調査をやった所で何も市政に対しては期待などできません。
- 選択が多く、自分の意見と違うものでも選ばないといけない。自分で書きこむ欄がもっと多いと良いと思った。
- 年令を見てアンケートの用紙を送ってほしい
- アンケートに予算を使い、データが利用されている実感がありません。
- すごく無意味なアンケートだと思う。どうせ市民の意向は反映されないでしょ。
- このようなアンケートをするのなら是非集約してその意見を1日も早く実現してほしいです。
- このようなアンケートは、今後、web等を活用されてはどうでしょうか。(webでの回答が難しい方々もおり、難しいかもしれませんが)回収、集計等の時間と正確性、経費を考えると、非効率に思いました。せめてマークシートを活用されるとよいのではと思いました。
- アンケートをして初めて知ることができた言葉や、社会について考えるきっかけになってよかったです。
- このようなアンケートをやめて、もっと税金を大事に使って下さい。
- アンケートの言葉が15才では難しいのではないか。
- 質問が多くて答えるのが大変だったので、アンケートを返したら500円のQUOカードが貰えるとかだったらやる気が出ます。
- アンケートの量が多く大変でした。結果が少しでも反映してもらえるようお願いします。
- この資料に1時間以上かかりました。年寄りには難しく送り先を考えてほしい。
- 1つだの2つだの3つだのな訳がないでしょう。これだけ根深い問題がそんなイージーに解決すると？
- デマンドタクシー、フレックス、シェアサイクル等、意味が分からない言葉があるので注釈(日本語)して欲しい。
- このアンケートは三重県のアンケートの様に、紙でもネットでもどちらでもできるようにしてほしい。このやり方では、集計する人も回答する人もすごく時間がかかると思います。
- このアンケートから得るものがあるとは思わない。もう少し市政の事を考えられる方法をよく考慮してほしい。

その他

- 婚活パーティなど若い人たちの出会いの場をもっと作ってあげてほしいです。
- 救急車の有料化を考えて欲しい。タクシーのように救急車を使っている人を見る。救急車のみ対応してもらえそうな時、有料の方が呼びやすい。
- 市議会には若い人（30～60 才）をもっと参加させたり、市議会選挙に出られるよう、よその市とはちがう松阪だけの方法を考えてほしい。

IV 調査票

松阪市市民意識調査 ご協力をお願い

市民の皆さまには、日ごろから市政に対し、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、このアンケートは本市のまちづくりの指針となる「松阪市総合計画」の次期計画の策定及び松阪市男女共同参画プラン策定に向け、市民の皆さまが市の政策や行政サービスに対してどのようなご意見やご要望をお持ちなのかをお聞かせいただくために実施させていただきます。

アンケートの結果は、今後のきめ細やかな市政運営のための基礎資料として活用させていただきますので、お忙しいところ恐縮ですが、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただきました内容はすべて統計的に処理し、調査の目的以外には使用いたしませんので、個人のお名前やご意見が特定されることはございません。

令和2年2月

松阪市長 竹上 真人

【対象】 松阪市にお住まいの15歳以上の市民の中から無作為に選んだ3,000人

※必ず封筒のあて名のご本人がご回答ください。

※介護が必要な状態、病院に入院中等でご本人が回答できない場合は、お答えいただかなくてかまいません。なお、その場合でもお礼状が届きますのでご了承ください。

【期限】 同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、令和2年2月21日（金）までに、郵便ポストに投函してください。（氏名、住所をご記入いただく必要はありません）

【お問合せ】

調査実施主体：松阪市企画振興部経営企画課

〒515-8515 松阪市殿町1340番地1

TEL：0598-53-4319 FAX：0598-22-1377



はじめに、
「あなたご自身について」 および
「松阪市のまちづくりについて」
 お聞きします



※ご回答いただくにあたって、答えにくい質問には無理にお答えいただかなくてかまいません。

問1 あなたご自身についておうかがいします。

(1) あなたの性別をお答えください。

性別

(2)～(6)は該当するものをそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。

(2)あなたの年齢は	1. 10歳代 3. 30歳代 5. 50歳代 7. 70歳以上 2. 20歳代 4. 40歳代 6. 60歳代
(3)あなたの居住地は	1. 本庁管内 (旧松阪市) 4. 飯南管内 (旧飯南町) 2. 嬉野管内 (旧嬉野町) 5. 飯高管内 (旧飯高町) 3. 三雲管内 (旧三雲町)
(4)松阪市での居住年数は (合併前も含む)	1. 1年未満 4. 10年以上 20年未満 2. 1年以上 5年未満 5. 20年以上 3. 5年以上 10年未満
(5)あなたのご職業は	1. 自営業 (農林水産業などに従事する方も含みます) 4. アルバイト・パート 2. 会社員 (公務員・会社役員・専門職も含みます) 5. 専業主婦 (夫) 3. 学生・専門学校生 6. 無職 7. その他 ()
(6)あなたの家族構成は	1. 単身 (ひとり暮らし) 4. 3世代 (親・子・孫など) 2. 夫婦のみ 5. その他 () 3. 2世代 (親・子など)

問2 あなたの現在の状況についておうかがいします。

(1) 健康だと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. 健康だと思う | 4. 健康だと思わない |
| 2. どちらかという健康だと思う | 5. わからない |
| 3. どちらかという健康だと思わない | |

(2) 現在の生活に満足していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 満足している | 4. 満足していない |
| 2. どちらかという満足している | 5. わからない |
| 3. どちらかという満足していない | |

(3) 余暇は充実していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 充実している | 4. 充実していない |
| 2. どちらかという充実している | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかという充実していない | |

(4) 生きがいになっているものはありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. ある | 4. ない |
| 2. どちらかというとある | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかというもない | |

(5) 地域への愛着はありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. ある | 4. ない |
| 2. どちらかというとある | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかというもない | |

(6) あなたは今、幸せだと感じますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. とても幸せだと感じる | 4. 幸せでないと感じる |
| 2. どちらかという幸せだと感じる | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかという幸せでないと感じる | |

(7) あなたは幸福な生活のために必要なことはどんなことだと思えますか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 健康であること | 12. 地域に頼いの場があること |
| 2. 食生活が良好であること | 13. 頼れる人がいること |
| 3. 住まいがあること | 14. 地域に愛着があること |
| 4. 生活に経済的な余裕があること | 15. 人から頼りにされること |
| 5. 家族との関係が良好なこと | 16. 自分が活躍する場があること |
| 6. 災害に対する備えができていること | 17. 社会に貢献していると感じること |
| 7. 治安が保たれていること | 18. 働く場所があること |
| 8. 食の安全が保たれていること | 19. 仕事にやりがいを感じる |
| 9. 生活環境が良好なこと | 20. 生きがいがあること |
| 10. 近所づきあいが良好なこと | 21. 余暇が充実していること |
| 11. 地域活動・行事に参加できること | 22. その他 () |

問3 あなたのふだんの暮らしで心がけていることについておうかがいします。

(1) 日ごろから災害に対する備えをしていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|--------------|
| 1. している | 4. していない |
| 2. どちらかというとしている | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかというとしていない | |

(2) かかりつけ医がいますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

(3) あなたは、この1年間で運動・スポーツをどの程度行っていますか。(○は1つだけ)

1. ほぼ毎日	4. 週に1回	7. 年に6~10回
2. 週に4~5回	5. 月に2~3回	8. 年に1~5回
3. 週に2~3回	6. 月に1回	9. 特にしていない

(4) 最近(この2~3年間で)、松阪市の公共スポーツ施設を利用していますか。(○は1つだけ)

1. よく利用する	3. あまり利用しない(これまでに数回利用した程度)
2. たまに利用する(年に数回程度)	4. 利用したことがない

問4 あなたのお住まいの地域づくりについておうかがいします。

(1) あなたのお住まいの地域の住民協議会(まちづくり協議会)^{※1}を知っていますか。(○は1つだけ)

1. 知っている	3. 知らない
2. 聞いたことはあるがくわしくは知らない	

^{※1}住民協議会(まちづくり協議会) ……地域の住民等が身近な地域の課題を自主的に解決し、地域の特性を生かして自律的にまちづくりを行う組織。

(2) あなたはお住まいの地域の住民協議会(まちづくり協議会)のまちづくり活動に参加していますか。(○は1つだけ)

1. 積極的に参加している	3. 参加していない
2. ときどき参加している	

問5 市全般に関することについておうかがいします。

(1) あなたが思う松阪市の良いところはどんなことですか。(○は3つまで)

1. 公園や憩いの施設が整っている	14. 防災対策が進んでいる
2. 緑が比較的多く自然環境に恵まれている	15. 騒音などの公害が少ない
3. 道路が整備されている	16. 歴史や伝統がある
4. バスや鉄道など、公共交通の便が良い	17. 商業や事業を行うのに有利
5. 買い物が便利	18. 情報・通信が整備されている
6. 働く場所がある	19. 市の情報公開や情報提供が積極的
7. 子育てや子どもの教育の環境が整っている	20. ごみが落ちていない
8. 保健・福祉施設が整っている	21. 観光資源が豊富
9. 文化・スポーツなどの施設が整っている	22. 食べ物がおいしい
10. 医療施設、救急医療が整っている	23. 交通マナーが良い
11. 人と人とのつながりがある	24. 空気がきれい
12. 市政に参加する機会が多い	25. 上下水道やごみ処理など、生活に基本となる施設が整備されている
13. 治安が良い	26. その他()

(2) あなたが思う松阪市の良くないところはどんなことですか。(○は3つまで)

1. 公園や憩いの施設が整っていない	14. 防災対策が遅れている
2. 緑が少なく自然環境に恵まれていない	15. 騒音などの公害が多い
3. 道路が整備されていない	16. 歴史や伝統がない
4. バスや鉄道など、公共交通の便が悪い	17. 商業や事業を行うのに不利
5. 買い物が不便	18. 情報・通信が整備されていない
6. 働く場所がない	19. 市の情報公開や情報提供が消極的
7. 子育てや子どもの教育の環境が整っていない	20. ごみが落ちている
8. 保健・福祉施設が整っていない	21. 観光資源が少ない
9. 文化・スポーツなどの施設が整っていない	22. 食べ物がおいしくない
10. 医療施設、救急医療が整っていない	23. 交通マナーが悪い
11. 人と人とのつながりが薄い	24. 空気が汚れている
12. 市政に参加する機会が少ない	25. 上下水道やごみ処理など、生活に基本となる施設が整備されていない
13. 治安が悪い	26. その他()

(3) あなたは総合的にみて松阪市は住みやすいところだと感じますか。(○は1つだけ)

1. 住みやすい	4. 住みにくい
2. どちらかというに住みやすい	5. どちらともいえない
3. どちらかというに住みにくい	

問6 松阪市の政策に対し、あなたの気持ちに最も近いものを(1)～(38)の項目について、満足度、重要度でそれぞれ1つずつ選んで、○をつけてください。

	満足度					重要度				
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	重要	やや重要	ふつう	でない	あまり重要でない
(1) 地震や台風などの災害に強いまちづくり(防災対策)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(2) 浸水被害の軽減に向けた河川改修や雨水排水施設の整備(浸水対策)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(3) 交通事故のないまちづくり(交通安全対策)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(4) 犯罪をなくし、安全で安心して暮らせるまちづくり(防犯対策)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(5) 中心市街地の賑わいをつくるまちづくり(市街地・拠点等の整備)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(6) 安全で快適に利用できる道路づくり(道路の整備)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

	満 足 度					重 要 度				
	満 足	やや 満 足	ふ つ う	やや 不 満	不 満	重 要	やや 重 要	ふ つ う	あ ま り 重 要 で な い	重 要 で な い
(7) 地域における多様な移動手段の確保 (公共交通の充実)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(8) 安全で安心しておいしく飲むことができ る水の提供(上水道の整備)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(9) 生活排水の適切な処理による水質保全 (下水道の整備)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(10) 安全で快適に生活できる住環境づく り(住環境の整備)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(11) 気軽に利用できる憩いの場としての 公園や緑地の整備(公園・緑地の整備)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(12) 森林や河川・海など豊かな自然を守 っていく取組(自然環境の保全)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(13) ごみを減らしたり、ごみを再利用す る取組(廃棄物(ごみ)対策)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(14) さまざまな災害にすばやく対応でき る地域の消防力(消防力の充実)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(15) 元気に楽しく暮らせるよう年齢層に 応じた健康づくり(健康づくりの推 進)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(16) どこでも、いつでも安心して病院や 診療所にかかる取組(保健・医療の 推進)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(17) お年寄りの方が地域で安心して暮ら せるまちづくり(高齢者福祉の推進)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(18) 障がいを持つ方が地域で安心して暮 らせるまちづくり(障がい者福祉の推 進)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(19) 子どもたちがのびのび育つ環境づく り(児童・家庭福祉の推進)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(20) 子どもたちが安心して教育を受けら れる環境づくり(学校教育の充実)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(21) 子どもや若者がすこやかに成長でき るまちづくり(青少年の健全育成)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(22) 生涯にわたる学習環境とその成果を 生かせる環境づくり(生涯学習の推 進)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(23) 地域の歴史や芸術文化を生かしたま ちづくり(文化活動の推進)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(24) 気軽にスポーツを行うことができる 環境づくり(スポーツの推進)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

	満 足 度					重 要 度				
	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	重要	やや重要	ふつう	あまり重要でない	重要でない
(25) 地域の特色を生かした農業・水産業の取組（農業・水産業の振興）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(26) 森林保全や森林資源の活用促進などの取組（林業の振興）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(27) 魅力的な中小企業の支援など地域の産業を育てる取組（商工業の振興）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(28) 企業誘致を促進し雇用の確保に努める取組（企業誘致の推進）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(29) 地域資源を生かした観光政策（観光の振興）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(30) 働く人がいきがいをもって働ける魅力ある環境づくり（雇用・勤労者対策）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(31) 人権が尊重され、安心して幸せに暮らせるまちづくり（人権の尊重）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(32) 男性と女性が対等の立場で個性と能力を発揮できる社会づくり（男女共同参画の推進）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(33) 外国人住民にも暮らしやすいまちづくり（多文化共生の推進）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(34) すべての人が安全で安心して生活できるバリアフリー社会の実現（バリアフリー社会の推進）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(35) 市民と行政との協働を推進するまちづくり（市民参加の推進）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(36) 中山間地域の地域資源を活用したまちづくり（中山間地域の振興）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(37) 市民生活の利便性を高める情報通信社会の取組（情報・通信の環境整備）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
(38) 市の情報公開や情報提供を積極的に行う行政体制（情報公開・情報提供）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問7 あなたは松阪市の政策に対して、総合的にみてどのように感じていますか。（○は1つだけ）

1. 満足	3. ふつう	5. 不満
2. やや満足	4. やや不満	

問8 あなたは松阪市の総合計画「住みやすさ進行中！バージョンアップ松阪」を知っていますか。（○は1つだけ）

1. 知っている	3. 知らない
2. 聞いたことはあるがくわしくは知らない	

ここからは、
「松阪市の個々の課題について」
お聞きします



人口減少対策について

松阪市の人口は現在約 160,000 人で、毎年約 1,000 人ずつ人口が減少しています。今後更に人口減少、少子化、高齢化が続くものと考えられ、2040 年には現在より約 16%減少し、約 134,000 人になると予測されています。

人口減少対策を考えるにあたり、皆さまが今後も松阪市に住み続けたいと思っていただいているのか、また結婚の状況や子育てなどについてのお考えをうかがい、今後のまちづくりを進めていく資料として活用していきたいと考えております。

なお、結婚や妊娠、出産などについては、個人の考え方や価値観が尊重されるべきことであり、誰かに強制されるものではありませんので、お答えいただける範囲でお答えください。

問9 あなたの結婚や子育てについてのお考えなどをおうかがいします。※結婚は事実婚を含みます。

(1) あなたはこれまでに結婚をしたことがありますか。(○は1つだけ)

1. 結婚したことはない(未婚)
2. 結婚したことはあるが、現在、配偶者・パートナーはいない
3. 現在、配偶者・パートナーがいる

(2) あなたが理想と考える子どもの数をお答えください。すでにお子さんがいらっしゃる方は、あなたが最も理想と考える(または考えていた)子どもの数をお答えください。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 子どもはほしくない | 5. 4人 |
| 2. 1人 | 6. 5人以上(具体的に 人) |
| 3. 2人 | 7. わからない |
| 4. 3人 | |

(3) あなたはお子さん(自立しているお子さんも含む)がいらっしゃいますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------|-------|-----------------|
| 1. いない | 3. 2人 | 5. 4人 |
| 2. 1人 | 4. 3人 | 6. 5人以上(具体的に 人) |

- (4) 実際の子どもの数は理想の子どもの数より少ないという傾向があります。お子さんのいらっしゃる方、または、今後子どもを欲しいと考えている方におうかがいします。理想的な人数の子どもを産み育てるのが難しい理由は何だと思えますか。あなたのお考えに近いものをお答えください。(○はいくつでも)

1. 子育てや教育にお金がかかるから	7. 育児の心理的、肉体的負担に耐えられな
2. 自分や夫婦の生活を大切にしたいから	いから
3. 仕事と子育てを両立できる職場環境 ではないから	8. 配偶者の家事・育児への協力が得られな いから
4. 子どもを育てる環境(保育園、学校 など)が整っていないから	9. 配偶者が望まないから
5. 高年齢で産むのは大変だから	10. ほしいけれどもできないから
6. 健康上の理由から	11. 地域社会において子育てへの理解が薄 いから
	12. その他 ()

問 10 学生・専門学校生の方に、将来の進学・就職についておうかがいします。

- (1) 現在の就学区分についてお答えください。(○は1つだけ)

1. 高校生(高等専門学校生を含む)	3. その他 ()
2. 大学生(短大を含む)	

- (2) 現在の学校の卒業後の進路についてどのように考えていますか。(○は1つだけ)

1. 進学する.....	→ 問 10 (3) へ
2. 就職する.....	→ 問 10 (4) へ
3. まだ決めていない.....	→ 問 10 (4) へ
4. その他 ()	→ 問 10 (4) へ

- (3) 進学(予定)した場合どこに住みたいです。あなたの希望(決まっていれば予定)をお答えください。(○は1つだけ)

(例: 津市の学校に進学したいが、松阪市に住む場合 ⇒ 1. 松阪市内 に○をつけてください。)

1. 松阪市内	5. 三重県外(関西圏)
2. 松阪市以外の三重県内	6. 三重県外(その他)
3. 三重県外(中部圏)	7. 地域は特に選ばない・まだ決めていない
4. 三重県外(首都圏)	

- (4) 将来あなたが就職した場合どこに住みたいです。あなたの希望(決まっていれば予定)をお答えください。(○は1つだけ)

(例: 津市の会社で働きたいが、松阪市に住む場合 ⇒ 1. 松阪市内 に○をつけてください。)

1. 松阪市内	5. 三重県外(関西圏)
2. 松阪市以外の三重県内	6. 三重県外(その他)
3. 三重県外(中部圏)	7. 地域は特に選ばない・まだ決めていない
4. 三重県外(首都圏)	

問 11 あなたの定住についての考え方についておうかがいします。

(1) あなたは松阪市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--|-----------------------|
| 1. どちらかというに住み続けたい…………… | → 問 11 (2) へ |
| 2. 一度市外に転出したいが、いずれ松阪市に戻ってきて住みたい
…………… | → 問 11 (2)、問 11 (3) へ |
| 3. 市外・県外に転出したい…………… | → 問 11 (3) へ |
| 4. 特に考えていない・わからない | |

(2) 松阪市に住み続けたい、戻ってきて住みたい理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1. 日常生活に必要な商業施設や医療施設があるから | 6. 福祉施設やサービスが充実しているから |
| 2. 鉄道やバスなど公共交通機関の利用が便利だから | 7. 自然環境に恵まれているから |
| 3. 通勤・通学に便利だから | 8. 災害等の危険性が低いから |
| 4. 働く場所があるから(市外への通勤圏も含む) | 9. 治安が良いから |
| 5. 子育てや教育環境が良いから | 10. スポーツ・レジャー・文化施設が充実しているから |
| | 11. 自分(もしくは親族)の家、土地であるから |

(3) 松阪市から出たいと思う理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. 日常生活に必要な商業施設や医療施設がないから | 6. 福祉施設やサービスが不十分だから |
| 2. 鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから | 7. 自然環境が少ないから |
| 3. 通勤・通学に不便だから | 8. 災害等の危険性が高いから |
| 4. 働く場所がないから(市外への通勤圏も含む) | 9. 治安が良くないから |
| 5. 子育てや教育環境が良くないから | 10. スポーツ・レジャー・文化施設が不十分だから |
| | 11. その他() |

問 12 すべての方におうかがいします。今後、松阪市の人口を減らさないために、特に市が力を入れなければならない施策はどれだと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1. 自動車での交通の利便性向上 | 9. 福祉・医療環境の充実 |
| 2. 公共交通機関の利便性の向上 | 10. 防災対策の拡充 |
| 3. 買い物など日常生活の利便性向上 | 11. 治安・まちの安全性向上 |
| 4. 山や川などの豊かな自然環境保護 | 12. まちのイメージの向上 |
| 5. 働く場の充実 | 13. 良好な住宅環境(価格、広さなど) |
| 6. 文教施設(図書館やスポーツ施設)の充実 | 14. 産業の振興 |
| 7. 子育て環境の充実 | 15. 移住の促進 |
| 8. 教育環境の充実 | 16. その他() |

若者定住について

高等学校卒業後に進学を希望する生徒の約 4 分の 3 が県外の大学等に進学しており、大学卒業後も地元に戻らず、県外で就職することが多く、若年層の転出超過が生じています。

若年層の転出超過による「社会減」は、労働人口の減少を加速させ、企業が求人募集をして人も人が集まらない「担い手不足」という構造的な課題を生じさせています。

問 13 あなたはどの年齢層への就労支援を充実することが最も望ましいと思いますか。(○は 1 つだけ)

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1. 新規卒業者 | 5. 高年齢者層 (団塊世代を除く 60 代以上) |
| 2. 若年層 (20~30 代) | 6. 全ての世代へのUターン就職 |
| 3. 中年層者層 (40~50 代) | 7. 必要なし |
| 4. 団塊世代 (70 歳前後) | |

問 14 松阪市では若者定住に取り組んでいます。若者が定住するために効果的であることは何だと思えますか。(○は3つまで)

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1. 雇用の確保 | 9. 公共交通機関の充実 |
| 2. 職業紹介・就職マッチング支援 | 10. 子育て支援の充実 |
| 3. 企業インターンシップの支援 | 11. 教育環境の充実 |
| 4. 企業誘致 | 12. 医療・福祉の充実 |
| 5. 中心市街地の活性化などまちの賑わいの創出 | 13. 防犯・防災対策 |
| 6. 起業・創業の支援 | 14. 市の知名度向上 (シティセールス) への取組 |
| 7. 出会いの場の創出 (婚活) 支援 | 15. その他 () |
| 8. 住宅等の家賃補助 | 16. 必要なし |

松阪駅西地区複合施設基本構想について

問 15 松阪駅西地区複合施設基本構想は、松阪駅西地区に民間施設を誘致したいことから、複合施設における事業に求める条件 (機能) として以下のとおり整理しました。(1) ~ (6) の各ゾーンの重要度について、あなたのお考えに近いものをそれぞれ 1 つずつ選んで○をつけてください。


(1) 滞在ゾーン

- ◆ 自由に滞在できる (勉強、おしゃべり、待ち合わせ等) 場所
- ◆ 市民活動などの発表の場。市民がチャレンジできる場所
- ◆ 松阪の歴史や文化、地域情報の発信の場所
- ◆ 子どもからお年寄りまでが楽しめる場所
- ◆ 他の機能 (ゾーン) とのつながりを生み出す場所
- ◆ 開放的な空間とし、鉄道利用者から滞在ゾーンの様子が見える、また滞在ゾーンから鉄道の往來を眺めることができるような場所

- | |
|-------------|
| 1. 重要 |
| 2. やや重要 |
| 3. ふつう |
| 4. あまり重要でない |
| 5. 重要でない |


(2) 営利事業ゾーン

- ◆ 建設費・維持費が担保できる営利事業施設（バンケット・レストランなどを含むホテル、賃貸・分譲マンションなど）

- 
1. 重要
 2. やや重要
 3. ふつう
 4. あまり重要でない
 5. 重要でない


(3) テナントゾーン

- ◆ 日常生活に必要なモノ・コトを満たすことができる店舗（スーパーマーケット、スポーツジム、娯楽施設、貸しオフィス、貸し会議室など）

- 
1. 重要
 2. やや重要
 3. ふつう
 4. あまり重要でない
 5. 重要でない


(4) 行政窓口ゾーン

- ◆ 行政手続きができる窓口（住民票などの証明、旅券窓口、図書館の本の貸し借りができる窓口など）

- 
1. 重要
 2. やや重要
 3. ふつう
 4. あまり重要でない
 5. 重要でない


(5) 交通との連携

- ◆ 駐車場、駐輪場
- ◆ 松阪駅・バスターミナルとの一体的な動線

- 
1. 重要
 2. やや重要
 3. ふつう
 4. あまり重要でない
 5. 重要でない

(6) 商店街等との連携

- ◆ 商店街PRの場（商店街情報提供場所、セレクトショップ、松阪ブランドショップなど）

- 
1. 重要
 2. やや重要
 3. ふつう
 4. あまり重要でない
 5. 重要でない

問 16 上記以外に必要な条件（機能）はありますか。ご自由にご記入ください。

地域包括ケアシステムとそれを支える医療提供体制について

問 17 現在の医療制度においては、それぞれの病院が、高度急性期機能^{※2}、急性期機能^{※3}、回復期機能^{※4}、慢性期機能^{※5}といった機能を分担しています。これらの病院が地域で互いの役割を明確にし、地域全体で安心できる医療を提供しようとする動きが進められています。このことについて知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことはあるがよくわからない |
| 2. 知っている | 4. 聞いたこともなくわからない |

※2 高度急性期機能 ……救命救急や集中治療を必要とする患者に、高度で濃密な医療を提供。
 ※3 急性期機能 ……病状の早期安定化に向けて、検査や処置・手術などの医療を提供。
 ※4 回復期機能 ……急性期を経過した患者に、在宅復帰に向けた医療またはリハビリテーションを提供。
 ※5 慢性期機能 ……長期にわたり療養が必要な患者に、入院医療を提供。

問 18 「三重県地域医療構想」では、松阪区域において 75 歳以上の人口がピークとなる 2030 年頃の超高齢社会に向けて、病床のうち回復期機能（地域包括ケア病床^{※6}）の不足が見込まれています。このことについて知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. よく知っている | 3. 聞いたことはあるがよくわからない |
| 2. 知っている | 4. 聞いたこともなくわからない |

※6 地域包括ケア病床 ……急性期治療を終了し、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある方、在宅・施設療養中から緊急入院した方に対して、在宅復帰に向けて診療、看護、リハビリを行うこと等を目的とした病床です。

問 19 75 歳以上の人口がピークとなる 2030 年頃の超高齢社会に備え、松阪区域に不足すると見込まれている回復期機能（地域包括ケア病床^{※6}）を中心とする病院が必要だと思えますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 強くそう思う | 4. 全くそう思わない |
| 2. 少しそう思う | 5. わからない |
| 3. あまりそう思わない | |

COPD（慢性閉塞性肺疾患）に係る認知度について

問 20 あなたは COPD（慢性閉塞性肺疾患^{※7}）という病気を知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. どんな病気か知っている | 3. 知らない |
| 2. 聞いたことがあるが、内容までは知らない | |

※7 COPD（慢性閉塞性肺疾患） ……たばこの煙などの有害物質を吸い続けることで肺や気管支に慢性的な炎症を起こして、息切れや咳がひどくなり呼吸困難を招く進行性の病気。以前は、肺気腫や慢性気管支炎と呼ばれていました。

交通政策について

松阪市が運営するコミュニティ交通は、利用者数の減少による運賃等の収入減少に加え、バスの運転手不足や人件費の高騰により運行経費が増加していることで財政負担が大きく、大変厳しい状況にあります。

一方で、高齢者や運転免許証を持っていない人の買い物や通院等において、公共交通の重要性が高まっています。

問 21 あなたは移動手段に不便を感じていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 感じている | 2. 感じていない |
|----------|-----------|

問 22 あなたが普段お出かけする際の主な移動手段をお答えください。(○は3つまで)

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1. 自家用自動車 | 6. バス |
| 2. オートバイ | 7. タクシー |
| 3. 自転車 | 8. 家族による送迎 |
| 4. 徒歩 | 9. 友人や近隣住民による送迎 |
| 5. 鉄道 | 10. その他 () |

問 23 鈴の音バスなど市が運営するコミュニティバスの利用頻度をお答えください。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 週1回以上 | 4. 1年以上利用していない |
| 2. 月1回以上 | 5. 利用したことがない |
| 3. 1年に1回以上 | |

問 24 コミュニティバスは利用者数が減少し、運行経費のうち大半(1億円以上)を税金で賄われていますが、有用性や継続性などの観点から見直しが必要であると思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|----------|
| 1. 必要がある | 2. 必要がない |
|----------|----------|

【問 24 で「1. 必要がある」とご回答いただいた方にお聞きします。(問 25 のみ)】

問 25 コミュニティバスから転換を図るなら、どのような形で税金を投入することが望ましいと思いますか。(○は1つだけ)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 住民主体による移動支援(住民同士の協力によるお出かけ支援) |
| 2. タクシーの活用(デマンドタクシーの普及やタクシーチケットの導入など) |
| 3. 自転車の活用(シェアサイクルなど自転車の貸し出しサービス) |
| 4. その他 () |

認知症の取組について

問 26 認知症は誰もがなる可能性のある病気です。あなたは身近に認知症、認知症と疑われる方がいたら誰に相談されますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. かかりつけ医 | 5. 地域包括支援センター |
| 2. 家族 | 6. ケアマネジャー（介護支援専門員） |
| 3. 友人 | 7. その他（ ） |
| 4. 認知症の診断や相談ができる専門医療機関 | |

問 27 認知症は個人差がありますが、軽度・中度・重度と状態が進行していきます。認知症の進行により物事の判断ができなくなったときに利用できる「成年後見制度^{*8}」を知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 知っている | 3. 知らない |
| 2. 言葉は聞いたことがある | 4. その他（ ） |

^{*8}成年後見制度 ……………認知症や知的・精神障がいなどにより判断能力が不十分な人が、社会で不利益や被害を受けないようにするための制度で、本人に代わって預貯金の管理や医療・介護等の手続きを行うことなどです。

問 28 成年後見制度を利用するには、専門医による認知症の診断が必要ですが、その診断にかかる費用に公的な助成が必要だと思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------------|----------|
| 1. 必要である | 3. わからない |
| 2. 必要でない（個人が負担するべき） | |

成年後見サポートセンターとは、成年後見制度がどのような制度かを周知・啓発したり、自分で申立手続きを行うときに相談を受ける機関です。

問 29 認知症の人やひとり暮らしの高齢者が増えていくなか、成年後見制度の利用を進めるため、「成年後見サポートセンター」の設置を考えています。センターの設置についてどう思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|----------|
| 1. 必要である | 3. わからない |
| 2. 必要でない | |

松阪市では、認知症等で行方不明になる人を早期発見・保護するための登録制度と、緊急のメール配信を行うシステム「徘徊 SOS ネットワークまつさか」を行っています。現実にはそれだけでは防げない事故・トラブルが増えてきています。

問 30 認知症で判断能力のない人が事故を起こしたり他人に損害を与えた場合、家族に必ずしも監督義務や賠償責任があるわけではないという最高裁判所の判決が出ています。その場合、事故等により被害を受けた方の救済を誰がどのように行うのかという問題があります。そこで、認知症の人による事故・トラブルの補償をするために賠償保険へ加入する自治体ができています。市が賠償保険へ加入することについてどう思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|----------|
| 1. よいと思う | 3. わからない |
| 2. よいと思わない | |

企業誘致の推進について

問 31 若者の雇用の場の確保による大都市圏への流出防止、企業立地による税収の確保に向けて、新工場等の企業誘致・投資促進が重要ですが、現在市内の工業団地はほぼ完売しており、新たな産業用地の開発が必要となっています。今後の産業用地の開発について、あなたのお考えに近いものをお答えください。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1. 積極的に進めるべきである | 3. 進めるべきでない |
| 2. 慎重に進めるべきである | 4. 産業用地の開発場所が示されないと判断できない |

マイナンバーカードの認知度について

問 32 マイナンバーカードがあることを知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 33 全国のコンビニエンスストア等で、マイナンバーカードを使用して、住民票の写しなどの公的な証明書が毎日取得できることを知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 34 令和3年度からマイナンバーカードが健康保険証として利用ができることを知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 35 戸籍住民課が平日夜間に証明書発行窓口(午後8時まで)を開設していることを知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

ここからは、
**「松阪市男女共同参画プラン
 策定にかかる意識調査」**
 になります



松阪市では、男女共同参画社会の実現に向けて、様々な取り組みを行ってきました。この度、令和3年度から令和7年度までの「松阪市男女共同参画プラン」を策定するにあたり、市民の皆さまに家庭や地域など様々な場における意識や実態をお伺いしプラン策定等の基礎資料とさせていただきますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

男女共同参画の意識について

問 36 次のことばについて、お聞きします。①～⑤の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

	知っている	聞いたことがある	知らない
①男女共同参画	1	2	3
②固定的性別役割分担 ^{※9}	1	2	3
③女性活躍推進法	1	2	3
④ワーク・ライフ・バランス ^{※10}	1	2	3
⑤LGBT ^{※11}	1	2	3

※9 固定的性別役割分担……男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けることをいいます。

※10 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）……働くすべての方々が「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のこと。

※11 LGBT……レズビアン（Lesbian：女性同性愛者）、ゲイ（Gay：男性同性愛者）、バイセクシャル（Bisexual：両性愛者）、トランスジェンダー（Transgender：性同一性障害も含む、生まれたときに法律的／社会的に割り当てられた性別にとらわれない性別のあり方を持つ人）の頭文字をとった総称。性的マイノリティーとも。

問 37 あなたは、次にあげる分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。①～⑤の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

	男性のほうが優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	平等である	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性のほうが優遇されている	どちらともいえない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④地域社会（自治会や住民協議会などの地域活動の場）では	1	2	3	4	5	6
⑤社会通念、慣習、しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6

問 38 今後、社会のあらゆる分野で更に男女が平等になるために最も重要だと思うことは何ですか。（○は1つだけ）

1. 法律や制度の上で見直しを行い、女性差別につながるものを改めること
2. 女性・男性を取り巻くさまざまな偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること
3. 女性が経済力をつけたり、技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図ること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
5. 官公庁や企業などの管理職に、一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6. わからない
7. その他（具体的に： _____）

問 39 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。（○は1つだけ）

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

問 40 あなたの家庭では、次のことについて主にどなたが行っていますか。①～③の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

	主として男性	共同して分担	主として女性	その他	該当しない
①家事（炊事、洗濯、掃除など）	1	2	3	4	5
②育児（子どもの世話、しつけ、教育など）	1	2	3	4	5
③介護（介護の必要な親等の世話など）	1	2	3	4	5

問 41 学校教育で、男女平等意識の育成のために、必要だと思うことは何ですか。（○は2つまで）

1. 進路指導や職業教育について、男女を問わず生徒個人の希望や能力を重視して行う
2. 特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず生徒個人の希望と能力を重視する
3. 児童生徒に対し、人権や男女平等に関する授業を行う
4. 教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う
5. 保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行い、男女平等の意識を育成しやすい生活環境をつくる
6. 女性の校長や教頭を増やすことによって児童生徒の男女平等意識を醸成する
7. 今のままでよい
8. その他（具体的に： _____)

就労やワーク・ライフ・バランスについて

問 42 「仕事」と「生活」の調和を図るワーク・ライフ・バランスという考え方があります。あなたの思うような仕事と生活のバランスは実現できていますか。（○は1つだけ）

1. 実現できている
2. もっと仕事を優先したい
3. もっと家庭生活を優先したい
4. もっと個人の生活を優先したい
5. その他（具体的に： _____)

問 43 女性が職業を持つことについて、どう思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(○は1つだけ)

1. 結婚するまでは職業を持つ方がよい
2. 子どもができるまでは職業を持つ方がよい
3. 子どもができたら仕事を辞め、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
4. 子どもができてもずっと職業を持ち続ける方がよい
5. 女性は職業を持たない方がよい
6. その他(具体的に:)
7. わからない

問 44 女性が働き続けるためにはどのようなことが特に必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 職場における女性への差別的待遇をなくすこと
2. 女性への職業訓練、資格取得などの機会の充実
3. 保育園や介護施設及びサポート体制の充実
4. 仕事と家庭の両立を支援する制度の整備・普及
5. 男性の育児休業・介護休業の取得推進
6. 在宅勤務やフレックス・タイム制度、短時間勤務制度など柔軟な勤務形態の導入
7. 結婚、出産、子育て、介護のために退職した従業員の再雇用制度の充実
8. 女性が働き続けることに対する家族等の理解と協力
9. 女性自身の自覚と意欲の向上
10. 家事の分担などの固定的な性別役割分担意識の改革
11. その他(具体的に:)
12. わからない

問 45 男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するためには、何が必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 市民に対する意識啓発
2. 企業経営者に対する意識啓発
3. 先進的な取り組みをしている企業の事例の情報提供
4. 先進的な取り組みをしている企業の表彰
5. ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業への助成
6. 育児・介護休業の取得を促すための法制度の強化
7. 労働時間を縮減するための法制度の強化
8. 在宅勤務ができるような環境の整備
9. 保育サービスなどの子育て支援の充実
10. 介護サービスなどの充実
11. その他(具体的に:)
12. わからない

ドメスティック・バイオレンスについて

問 46 あなたはこれまでに配偶者や恋人など親しい関係にある人から次のようなことをされたことがありますか。①～④の項目について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

	あ る	な い
①身体的な暴力 なぐる、ける、物を投げつける、つきとばす、刃物でおどす等	1	2
②精神的な暴力・社会的な暴力 人格を否定するような暴言、見下した発言、長時間の無視、どなる、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等	1	2
③性的な暴力 相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要等	1	2
④経済的な暴力 生活費を入れない、外で働くことを妨害する、正当な理由なく仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等	1	2

【問 46 で 1 つでも「ある」とご回答いただいた方にお聞きます。(問 47 のみ)】

問 47 その後どこか(だれか)に相談しましたか。(○はいくつでも)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 友人・知人に相談した 2. 家族や親せきに相談した 3. 職場の同僚や上司に相談した 4. 警察、弁護士、家庭裁判所に相談した 5. 法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した 6. 公的な相談機関に相談した 7. 民間の相談機関に相談した 8. 医療関係者(医師、看護師等)に相談した 9. 学校関係者(教員、スクールカウンセラー等)に相談した 10. その他に相談した(具体的に： _____) 11. どこ(だれ)にも相談しなかった |
|---|

【問 47 で「11. どこ（だれ）にも相談しなかった」とご回答いただいた方にお聞きます。（問 48 のみ）】

問 48 相談しなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

1. どこ（だれ）に相談したらよいかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しされたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 相談した相手にいやなことを言われたり、不快な思いをさせられるかもしれないと思ったから
6. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7. 自分たち以外の人を巻き込みたくなかったから
8. 友人・知人などに知られると、これまで通りの付き合いができなくなると思ったから
9. そのことについて考えたくない、思い出したくなかったから
10. 自分にも悪いところがあると思ったから
11. 相手の行為は愛情表現だと思ったから
12. 相談するほどのことではないと思ったから
13. その他（具体的に： _____）

セクシュアル・ハラスメントについて

問 49 あなたはこれまでにセクシュアル・ハラスメントを受けたことがありますか。（○は 1 つだけ）

1. 何度も受けたことがある
2. 1、2度受けたことがある
3. 受けたことがない

【問 49 で「1. 何度も受けたことがある」「2. 1、2度受けたことがある」とご回答いただいた方にお聞きます。（問 50 のみ）】

問 50 その後どこか（だれか）に相談しましたか。（○はいくつでも）

1. 友人・知人に相談した
2. 家族や親せきに相談した
3. 職場の同僚や上司に相談した
4. 警察、弁護士、家庭裁判所に相談した
5. 法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した
6. 公的な相談機関に相談した
7. 民間の相談機関に相談した
8. 医療関係者（医師、看護師等）に相談した
9. その他に相談した（具体的に： _____）
10. どこ（だれ）にも相談しなかった

【問 50 で「10. どこ（だれ）にも相談しなかった」とご回答いただいた方にお聞きします。（問 51 のみ）】

問 51 相談しなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|---|---|
| 1. どこ（だれ）に相談したらよいか
わからなかったから | 5. 相談した相手にいやなことを言われ
たり、不快な思いをさせられるかも
しれないと思ったから |
| 2. 恥ずかしくてだれにも言えなかつた
から | 6. 自分たち以外の人を巻き込みたくなかつた
から |
| 3. 相談しても無駄だと思ったから | 7. そのことについて考えたくない、思い出し
たくなかつたから |
| 4. 相談したことがわかると、仕返しされ
たり、よけい不当な扱いを受ける
と思ったから | 8. 自分にも悪いところがあると思ったから |
| | 9. 相談するほどのことではないと思ったから |
| | 10. その他（具体的に： _____） |

政策・方針の場への男女共同参画について

問 52 「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や方針決定の場に女性の参画が少ない」とい
われていますが、その原因は何だと思えますか。（○は2つまで）

- | | |
|--|---------------------|
| 1. 家庭、職場、地域では性別による
役割分担や性差別の意識が強いため | 5. 女性に参画への支援が少ないため |
| 2. 男性優位の組織運営 | 6. 女性の積極性が不十分であるため |
| 3. 家庭の支援、協力が得られないため | 7. その他（具体的に： _____） |
| 4. 女性の能力向上を図るための機会が
不十分であるため | 8. わからない |

問 53 自治会や住民協議会など地域の団体の代表において女性が少ない原因は何だと思えますか。
（○は3つまで）

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1. 社会通念・しきたり・慣習から | 5. 女性を受け入れる環境づくりができてい
ないため |
| 2. 家族の理解が得られないため | 6. 地域において前例が無いため |
| 3. 家事・育児に忙しく、地域活動に
専念できないから | 7. 組織活動の経験が少ないため |
| 4. 女性が代表だと組織が運営できるか
不安であるため | 8. その他（具体的に： _____） |
| | 9. わからない |

問 54 地域活動における方針決定の場に女性が増えていくために効果的だと思うことは何ですか。
（○は2つまで）

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1. 女性のリーダー研修 | 5. 役職に占める女性の割合の目標値の設定 |
| 2. 男性の意識啓発のための研修 | 6. 男女共同参画を推進した団体、個人の表彰 |
| 3. 女性の意識啓発のための研修 | 7. 地域で活躍している女性についての広報 |
| 4. 地域で開催する男女共同参画につ
いての研修 | 8. その他（具体的に： _____） |

行政の取組について

問 55 男女共同参画社会を実現するために、今後、松阪市ではどのようなことに取り組んでいけばよいと思いますか。(○は3つまで)

1. 広報紙やパンフレット等で男女共同参画や男女の相互理解・協力についてのPR
2. 男女共同参画を推進するために、施策や制度の見直しを行う
3. 女性の政策・方針決定の場への積極的な参画や登用を進める
4. 学校教育や生涯教育の場における男女共同参画についての学習を充実する
5. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進する
6. 男女の生き方に関する情報提供や相談、教育、交流の機会などを充実する
7. 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う
8. 男女がともに能力を発揮できる機会や就労支援などを充実する
9. 能力発揮を支援するため相談体制を充実する
10. 保育や介護に関する施設やサービスを充実する
11. DVなどあらゆる暴力をなくすための教育、啓発を進める
12. マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント^{※12}をなくすための教育、啓発を進める
13. LGBTについて、正しい理解を深めるための教育、啓発を進める
14. 男女がそれぞれに応じた健康づくりに取り組める環境を充実する
15. 女性の視点を取り入れた被災者の支援など、男女共同参画の視点からの災害対策を推進する
16. その他（具体的に： _____)
17. 特にない
18. わからない

^{※12}パタニティ・ハラスメント……働く男性が、育児休業取得や育児のための短時間・フレックス勤務などを妨害されるなど、男性が育児参加する権利や機会を侵害する言動・嫌がらせを受けること。

最後に

市政に対するご意見などございましたら、ご自由にご記入ください。

同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、
2月21日(金)までに、郵便ポストに投函してください。

ご協力ありがとうございました。